第四章　悉皆調査

1　凡例

一　この一覧表（計一、一五〇件）は、悉皆調査（一次調査）において、調査員が調査・作成した調査票をもとに、必要に応じて事務局が文献調査等により対象の民俗芸能を追加し、調査委員の指導助言を得て整理したものである。なお、事務局が追加した内容で文献が明確なものについては、その出典を記載した。

二　この一覧表は、伝承地の各市町の文化財保護部局に依頼し、内容の確認を行った。

三　掲載対象の民俗芸能は、第一章2五の「調査対象の民俗芸能及び種類」（9頁）に該当するものとした。

四　「種別」は、「調査対象の民俗芸能及び種類」のとおり、広島県の民俗芸能の特色を考慮して設定した、①神楽、②獅子舞、③田楽、④風流踊、⑤祭礼風流、⑥舞台芸等、⑦その他の分類（テーマ）を記載した。複合的な要素で構成される民俗芸能については、該当すると考えられる分類（テーマ）を全て記載した。

五　「名称」「伝承組織」「伝承地」「伝承組織」「実施機会」「実施期日」「実施場所」「実施周期」は、調査票の表記を尊重したが、必要に応じて変更したものもある。「名称」欄は〈　〉に別称を、その他の項目欄は〈　〉に昔の情報を記載した。

六　「概要」は、調査票の「芸能の由来」「内容（行事次第）」「芸能の構成」「用具等」「演目（曲目）」「芸態等」の記載内容を事務局で要約し、必要に応じて修正・追記して作成した。

七　「実施状況」は、中断・廃絶により行われていないものを「中断」と表記し、聴取や文献等で中断時期の情報が得られたものは、その時期等も併記した。

八　「指定」は、令和七年十二月三十一日時点の文化財指定等の情報をもとに、次により記載した。

国：国指定重要無形民俗文化財
国選択：国選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
県：県指定無形民俗文化財
市：市指定無形民俗文化財
町：町指定無形民俗文化財
※　市指定・町指定には、無形文化財の種別で指定されている民俗芸能を含む。

2　悉皆調査一覧表

（1） 広島市

【調査地区1】 中区

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1	風流踊	河原町地蔵盆踊	広島市中区河原町、舟入中町東、舟入本町東	神崎学区、河原町町内会、河原町地蔵運営委員会	河原町地蔵尊夏季大祭	毎年盆過ぎの土曜日・日曜日〈ほぼ同じ〉	河原町地蔵堂、前面公園地	毎年	お盆の時期に地蔵堂前の道路の辻に櫓を立てて行う。安芸地方南部一帯の伝統的な踊りで、曲などは現代風に変容したが、「広島木遣り歌（伊勢音頭）」は古くから踊り継がれている。楽器は太鼓（長胴鋲留め）。地蔵堂は享保2年(1717)に建立され、移転や被爆倒壊を経て今に至る。		
2	風流踊 祭礼風流	江波の漕ぎ伝馬	広島市中区江波南1-20の地先	江波漕伝馬保存会	厳島神社管絃祭	旧暦6月16日・17日	初日：江波港から本川橋上流 翌日：厳島神社管絃祭に参加	毎年	厳島神社の管絃祭で、阿賀の船2艘とともに御座船を曳く役割を担う。起源は天明8年(1788)、元禄14年(1701)など諸説あるが、弘化年間(1844-48)頃に満足屋（森川調右衛門）の船を江波の漕ぎ伝馬が救助したという。菰樽に乗り調子を取る采振りと、太鼓、音頭出しの唄う伊勢音頭などの囃しに合わせて漕ぐ。厳島神社対岸の地御前神社に着くと、若衆が太鼓を担いで上陸し、「江波の盆踊」を奉納する。		市
3	祭礼風流	広島管絃祭 〈住吉祭、住吉さん、船渡御〉	広島市中区住吉町住吉神社	住吉神社	住吉祭	旧暦6月14日・15日	住吉神社、本川、元安川	毎年	300年の歴史がある住吉祭に、明治44年に船渡御が取り入れられ、広島管絃祭と呼ばれ定着した。本川・元安川で漕ぎ伝馬が御座船を曳く。大樽の上で采振りが采を振るい、14丁の漕ぎ手が音頭・掛け声と太鼓に合わせて櫂を漕ぐ。		
4	その他	舟入本町中の亥の子祭り	広島市中区舟入本町中	舟入本町中町内会	亥の子祭り	11月第2日曜日及びその前夜	舟入本町中集会所、町内	毎年	前夜に亥の子大明神の神事を行い、当日は赤鬼・青鬼の先導で、太鼓の囃子、五色の短冊を付けた笹竹とともに町内を練り歩き、亥の子唄とともに子供達が亥の子餅を搗く。神事の祭壇には鬼・お多福など様々な面を飾る。広島市内の旧来の亥の子の要素を多く残しているものと考えられる。		

【調査地区2】 東区

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
5	神楽	中山神楽	広島市東区中山	中山村上、中、下組の住民	稲生神社例祭	10月17日に近い日曜日の前夜〈旧9月29日〉	神社境内の神楽殿と仮設舞台（神楽殿は平成15年焼失）	毎年	十二神祇神楽。明治20年、戸坂村の片山関松より中山村上、中、下組の住民が神楽を伝習した。吹火・笠火・網火などの花火が演目の合間に揚げられた。所持演目は「神降し」「幣舞」「鯛釣り」「刀舞」「大鬼子鬼」「天の岩戸」「薙刀舞」「五郎立」「世鬼の舞（荒平）」「蛇体（八岐の大蛇）」「裁の舞」。	中断（昭30～）	
6	神楽	戸坂（へさか）神楽 〈三宅神社の神楽・戸坂十二神祇神楽〉	広島市東区戸坂	戸坂三宅神社神楽保存会	三宅神社の秋季大祭	10月17日に近い日曜日の前夜〈旧8月14日〉	三宅神社境内（昔は狐瓜木神社でも舞われていた。）	毎年	十二神祇神楽。明治10年、戸坂村の若連中が山県郡殿賀村と壬生村の舞を伝習したという。現在の演目は「煤掃き」「神降ろし」「刀舞」「長刀舞」「関（世鬼）」「大鬼小鬼」。吹火・笠火あり。		
7	獅子舞	稲生神社の獅子舞	広島市東区中山	中山郷土芸能保存会	稲生神社例祭	10月第3日曜日〈旧9月29日〉	神社境内、氏子全戸	毎年	稲生神社例祭の1週間前、氏子全戸を訪れる。獅子、太鼓、手すり（手打鉦）各役と太夫の計12、3人が組となり、氏子全7単位を各単位2組で廻る。以前は家に上がり舞っていたが、現在は玄関で舞う。		
8	獅子舞 祭礼風流 舞台芸等	通り御祭礼	広島市東区二葉の里広島東照宮ほか	広島東照宮	広島神輿行列通り御祭礼	10月10日	広島東照宮から饒津神社の間	不定期〈50年毎〉	徳川家康50回忌の寛文6年(1666)、「公儀の祭礼」として執り行われたのが始まり。50年毎行われてきたが文化12年(1815)の催行後一度途絶えた。平成27年に200年ぶりに正式復興の時は石引台花車、神輿、槍隊、弓隊、鉄砲隊、神馬、子供神輿等が練り歩いたほか、子供歌舞伎、麒麟獅子舞、雅楽演奏なども披露された。令和7年にも開催。		
9	風流踊	盆踊	広島市東区中山	中山郷土芸能保存会	中山町民盆踊り大会	8月第1土曜日	中山小学校グランド	毎年	踊り手は浴衣姿で両手に扇子を持ち、櫓を中心に輪になって踊る。手踊りあり。演目は「戦国中山盆踊り音頭」（現在は12番中8番を踊る）「鈴木主水　白糸口説」（現在は一部の歌詞を替えている）。		
10	風流踊	盆踊	広島市東区戸坂	戸坂学区社会福祉協議会（ふれあいサロン）・戸坂段物保存会	盆踊り大会	8月第1土曜日〈14日夕方から15・16日にかけ行われた。〉	戸坂小学校校庭	毎年	由来の詳細は不明。踊り手は浴衣姿で両手に扇子を持ち、櫓を中心に輪になって踊る。「鈴木主水白糸口説」「阿波の鳴門」「石童丸」「手踊り」「扇子踊り」「段物」。「段物」は明治時代に遡る。		
11	その他	亥の子	広島市東区中山	中山地区各町内会	亥の子まつり	11月第3日曜日〈11月亥の日〉	稲生神社、中山各地区	毎年	1週間か10日前に男の子（12歳くらい）のいる家を借り、3、4段の棚に御幣と亥の子石（亥の子餅）を飾る。日没後に稲生神社へ上がり、各家を搗いて廻り、最後は稲生神社前にて終わる。御幣を持つ子、鬼面（猿田彦の面か）を付けた子、亥の子石についた網を持つ子、太鼓・笛・手すり・高張提灯、弓張提灯を持つ子で構成。現在は昼に行われている。		
12	その他	亥の子	広島市東区戸坂	戸坂山根町内会、戸坂山崎町内会	亥の子祭	11月の亥の日〈11月亥の日〉	戸坂地区	毎年	亥の子神（田の神）に五穀豊穣を祈願し、併せて家内安全と子孫繁栄を願う行事。天狗の面を着けた子供が先導役となり、亥の子役の子供は着面に赤や青の衣装を着て、ササラを持って女児を追いかけた。現在は戸坂山根町内会、戸坂山崎町内会で行う。		

【調査地区3】 東区（旧安芸町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
13	風流踊	冠燈籠踊(きりこおどり)	広島市東区福田町神田神社	地域住民	神社の神事として、大正14年(1925)の拝殿再建以後3回奉納された	特別な時	神社境内	不定期	言い伝えによると、武田信玄と上杉謙信が信州川中島で合戦をした時、宮原城主・宮の原兵衛が部下を引き連れ武田方の応援に赴き戦勝した。その凱旋記念に踊ったのが始まりという。神社の神事として、大正14年の拝殿再建以後3回奉納された。	中断（昭7～）	
14	風流踊	盆踊	広島市東区福田	福田盆踊り保存会	自治会の盆踊り大会やイベント	お盆（イベントは不定期）	町内会が指定した場所（公園等）	不定期	永らく中断していたが平成12年に復活、81番続く「鈴木主水」は歌詞を現代風に改めて21番にまとめた。なお、中断前は「福田音頭」を踊っていたという。		
15	風流踊	馬木扇子踊	広島市東区馬木	馬木扇子踊保存会	地域の盆踊り、競演大会	8月12日	馬木第5公園	定期	盆踊。戦前の扇子踊は男性が女性に、女性が男性に扮するなど必ず変装をしていた。昭和3、4年頃、可部で開催された盆踊り競演大会に参加した。		

【調査地区4】 南区

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
16	神楽 その他	大河(おおこう)の鬼舞	広島市南区北大河町・南大河町	〈昔は地区内の講〉	亥の子祭り	11月・中亥の日〈旧暦10月亥の日〉	大河地区内		大河の亥の子祭りは文化年間始まったとされ、海苔の豊作を祈願し、亥の子神の渡御行列が習慣儀礼となった。明治期に十二神祇神楽を若者が舞うようになり、後に子供たちも扮装し、簡単な舞を亥の子祭りに取り入れたのが亥の子舞であり、大河では鬼舞と呼ばれる。亥の子祭りに先立ち、4～5日前から大鬼・小鬼ときずき大明神が勝負する舞など、様々な舞が行われた。平成年間に中断。	中断（平成期～）	
17	獅子舞	向洋(むかいなだ)本町の獅子舞	広島市南区向洋本町	向洋本町獅子舞保存会	大原神社の秋季例大祭の関連行事	10月第3日曜日とその前夜	広島市南区向洋本町周辺	毎年	江戸時代後期、大火事や疫病が多く起こったため疫払いとして始められたという。大原神社秋季大祭の前夜に4頭の獅子が提灯役と神社に行き、獅子舞を奉納。翌日の例祭では向洋本町の氏子各戸を廻り、太鼓・かね・笛の囃子で獅子舞を行い、その後再び神社で奉納する。		
18	獅子舞	邇保姫(にほひめ)神社の獅子舞	広島市南区西本浦町12-13	邇保姫神社および摂社氏子連中	邇保姫神社の10月29日直前の日曜日（旧暦10月29日）の秋季例大祭での関連行事	10月29日直前の日曜日（旧暦10月29日）の前10日間	広島市南区本浦地区周辺、似島	毎年	約三百数十年前に仁保島一帯に悪病が蔓延り、「獅子が悪霊を喰い祓い村人を救う」の言い伝えから獅子を神社に奉納したという。舞手2人（前後）・太鼓・笛などで構成し、氏子の家々を回って獅子舞を行う。「オカグラ」・「モトスケ」・「エビライ」という3つの舞を連続して舞い、鈴や御幣で家々を祓う。【詳細調査No.1】		市
19	風流踊	大河盆踊	広島市南区北大河町・南大河町	大河文化財保存会	盆踊	8月14日・15日〈8月14日～16日〉	樋の口広場（南大河町）〈戦前までは樋の口広場・地蔵寺境内〉	毎年	江戸期の寛永年間の念仏踊が起源とされ、寛保・宝暦年間に盆の供養踊と変化して仁保の各地で踊ったとされる。樋の口広場に大正期製作の二層の櫓を組み立て、輪になって踊る。主な曲（歌詞）は「ヤーレン節（大河音頭・東海道くどき）」「一つ拍子（鈴木主水白糸くどき）」。音頭本には前記のほか「加津良川お半長エ門くどき」「一の谷敦盛王くどき」「阿波の鳴門くどき」「俊徳丸くどき」「鈴木主水裏くどき」「佐倉宗五郎くどき」が掲載。楽器は太鼓。		

【調査地区5】 西区

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
20	神楽	古江神楽	広島市西区古江東町4-1古江神社	古江神楽保存会	新宮神社の秋季例祭	10月第3土曜日〈10月19日〉	新宮神社境内（公民館祭り、区民まつり等で頼まれたら実施）	定期	十二神祇神楽。演目次第は「御神祇」「すすはき」「胡子大黒」「天の岩戸」「三矢」「二刀」「長刀」「旗舞」「所望分」「浦島」「海女」「四天」「大江山」「荒平」。演目の間に花火あり。舞殿は組立式。		
21	神楽	井口(いのくち)神楽〈大歳神社の神楽〉	広島市西区井口大歳神社	井口地区民芸保存会　神楽部	大歳神社の秋季例祭	10月第3土曜日から日曜日にかけて行う〈10月18、19日に実施〉	大歳神社境内	毎年	十二神祇神楽。天明5年（1785）に疫病・飢饉が続き、疫病退散と五穀豊穣を祈って始まったという。吹火（花火）も慶応年間から始まったという。戦時中から昭和30年代まで中断、以後復活した。所持演目は「幣舞」「煤掃き」「荒神」「五刀」「狐」「八郎次」「所望分け」「合戦」「弓舞」「旗舞」「鏡起」「七刀」「胡子」「三宝荒神」「関（荒平）」「姫宮」「劔神刀」「大蛇」「王子（神納め）」。		
22	神楽	田方神楽	広島市西区田方一丁目	田方神楽保存会	氏神秋祭の当日	氏神秋祭の当日	不明	毎年	十二神祇神楽。昭和52年当時の所持演目は「反ばい」「煤掃き」「三天」「四天」「二刀」「幡舞」「王子」「合戦」「七郎八郎（当時中断中）」「薙刀」「狐舞（当時中断中）」「大鬼小鬼」「恵比須大黒」「五刀（当時中断中）」「荒平」「蛇退治（当時中断中）」「天の岩戸」（渡辺友千代『十二神祇神楽考』より）。	中断	

23	神楽	己斐神楽	広島市西区己斐	地域住民主体の組織か	現在は廃絶	〈旧暦9月19日氏神祭〉	旭山神社	不明	神職・山田家が氏神の奉仕をしており、江戸時代は神社の例祭で神楽を執行していた。昭和30年代に廃絶。演目などの詳細は不明。	中断（昭30年代～）	
24	風流踊	盆踊〈松阪くずし〉	広島市西区井口町正順寺	井口地区民芸保存会　神楽部	お盆	8月15日	井口小学校校庭	毎年	江戸時代末期、当地の住民が漁へ出かけ、台風に遭い避難した。その土地で行われていた盆踊を持ち帰って始めたという。輪を作り多人数で行う。井口音頭（松阪くずし）が古くから伝わり、「ヤートセ」の囃しで前後に船をこぐような動作がある。櫓の周りを反時計回りに踊る。楽器は太鼓。		

【調査地区6】 安佐南区（旧沼田町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
25	神楽	阿刀(あと)神楽〈阿刀十二神祇神楽〉	広島市安佐南区沼田町	阿刀神楽団	阿刀明神社、中ノ森八幡神社例祭の前夜祭（1年交替）	10月15日に近い日曜日の前夜	阿刀明神社：境内の仮設舞台、阿刀神楽伝承館（雨天日） 中ノ森八幡神社：境内の常設舞台	毎年	広島県南西部で伝承される十二神祇神楽。文化元年（1804）、周防国から移住した宇高宗助が、古くからこの地で舞われてきた神楽に柔術の形を取り入れ、現在の基本形となったと伝わる。現在、十二の演目で構成され、そのうち「将軍」という演目では神がかりが見られる。所持演目は「湯立舞」「鼓の口開け」「煤掃き」「神降ろし」「恵比寿」「荒神」「五刀」「天の岩戸」「所望分け（白湯、薙刀舞）」「八つ花」「世鬼の舞（荒平）」「将軍」など。【詳細調査No.2】		国選択・県
26	神楽	大塚(おおづか)神楽	広島市安佐南区沼田町大塚	大塚神楽団	宮ヶ瀬神社の秋祭り前夜祭	10月第1土曜日	宮ヶ瀬神社	毎年	十二神祇神楽。明治中期に組織が発足、中断後昭和40年に再興。現在は大塚神楽団によって伝承されている。所持演目は「すす払い」「神降し」「二刀」「四天（四刀）「長刀」「弓」「行灯」「狐」「鯛釣り」「大鬼小鬼」「関（荒平）」「所望分け」。		
27	神楽	下向(しもむかい)神楽	広島市安佐南区沼田町伴	下向神楽団	下向集落秋の大祭	11月の最初の土曜日	下向稲荷神社	毎年	十二神祇神楽。嘉永年間（1848-54）頃に始まったという。仮設舞殿を設営して演じられていたが、平成2年に神楽殿を新築した（平成25年に改修）。所持演目は「すす払い」「神降し」「二刀」「蛇切り」「旗舞」「太鼓かくし」「岩戸」「弓舞」「鯛釣り」「大鬼小鬼」「関（荒平）」「所務分け（三方の舞）（薙刀の舞）」。		
28	神楽	三城田(さんじょうだ)神楽	広島市安佐南区沼田町伴	三城田神楽団	岡崎神社例祭前夜祭	11月2日	岡崎神社	毎年	嘉永年間（1848-54）頃に若連中により始まったという。大正時代には三篠村新庄から流行の「関」を伝習した。十二神祇神楽を継承してきたが、平成14年からは新舞も取り入れ現在に至る。		
29	獅子舞	八面(やつもて)神社の獅子舞	広島市安佐南区伴西　幟城地区　八面神社ほか			〈夏の頃〉	幟城地区の各家々		夏の日盛りに、太鼓をかついで約百軒の家を廻って獅子舞を行った。笛太鼓で賑やかに台所から寝室までお祓いし、麦初穂を供えてもらったという。八面神社の年中行事として昭和初期まで行なわれた。	中断（昭初期～）	
30	田楽	花田植〈大田植〉	広島市安佐南区沼田町戸山	周辺農家	大田植	6月20日過ぎ〈毎年〉	地区単位で行う。	不定期	起源は不明。太鼓たたきが全体の指揮を取り、太鼓ふりは太鼓をもって踊る。牛は花鞍に幟を立て派手な紐をつける。田に到着後、飾牛には馬鍬を装着する。早乙女は囃子に合わせて唱和し、田植をする。	中断（昭58～）	
31	風流踊	盆踊	広島市安佐南区沼田町阿戸ほか	浄宗寺	阿戸盆踊り大会から浄宗寺盆踊りに変更	8月第1土曜日〈旧7月14日夜、15日夜〉	慈光保育園運動場	毎年	昭和20年代までは戸山全体で踊っていたが、現在は阿戸・上吉山・下吉山の各地区で行われる。現在の演目は「大正踊り」「田楽囃し」。かつては「鈴木主水」「えびやのじんくくどき」「おすぎくとき」「まおとこごろし」「まつさか」などの口説きがあった。		
32	風流踊	盆踊	広島市安佐南区沼田町大塚	大塚観音堂	お盆	〈毎年旧7月17日〉	大塚の観音さん（慈光寺・廃寺）	毎年	慈光寺跡に建てられた大塚観音堂での盆踊。この日は西瓜売りが来るため、この西瓜を買って食べるのが人々の楽しみであった。	中断	

【調査地区7】 安佐南区（旧祇園町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
33	神楽	西原上十二神祇神楽	広島市安佐南区西原六丁目	西原上十二神祇神楽保存会（昭和34年結成）	冬木神社秋祭前夜祭	10月第3土曜日〈毎年〉	冬木神社	2年毎	十二神祇神楽。安永7年（1778）に洪水、天明3～5年（1783-85）に飢饉、疫病など凶事が続いたため、悪疫退散と五穀豊穣祈願のために冬木神社に神楽を奉納したことが起源とされる。現在の演目は、「煤掃き」「神降ろし」「大鬼小鬼」「刀舞」「岩戸」「幡舞」「荒平」「鯛釣り」「薙刀舞」。		市
34	神楽	西山本十二神祇	広島市安佐南区西山本	西山本神楽保存会	平山八幡神社の秋祭	10月第2土曜日〈10月28日〉	平山八幡神社	毎年	太田川流域で演じられる十二神祇で、三百数十年前に始まったという。明治31年書写の神楽台本が現存する。仮設舞台で演じ、綱火を使用する。所持演目は「へんぱい」「すすはき」「四天」「弓」「鬼」「なぎなた」「せき」「笹」「三方」。		
35	風流踊	盆踊	広島市安佐南区西祇園地区	長束学区社会福祉協議会	長束夏祭り	8月第2土曜日〈毎年旧盆〉	長束小学校	定期	昭和10年頃青年団有志により、長束音頭を作り盆踊として踊ったといわれる。櫓を中心に輪になり、踊り手は団扇を持ち踊る。「長束音頭」「黒田節」「炭坑節」。子供の踊りもある。		

【調査地区8】 安佐南区（旧安古市町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
36	神楽	十二神祇の舞・亥の子舞・吹火	広島市安佐南区旧古市村内（東野1組、中筋2組、古市4組）	舞子連中や地域の子供	秋の氏神大祭・亥の子祭	秋の氏神大祭の夜・亥の子祭の夜〈毎年〉	氏神など	不明	明治時代から大正時代にかけて始まったという。当時の旧古市村では十二神祇の衣裳を子供たちが着用し、亥の子の日に地区内の家々廻ったり、舞を舞った。八塚、八幡、中、下各組で「湯立舞」「すす掃き」「兵舞」「刀舞」などの演目を所持し、その日は吹火や笠火などの煙火も実施した。	中断（昭45～）	
37	神楽	長楽寺神楽	広島市安佐南区長楽寺	長楽寺神楽団	秋の氏神大祭など	新宮神社秋祭の前夜祭（2年毎）	新宮神社	2年毎	十二神祇神楽。明治時代から大正時代にかけて始まったという。所持演目は「神降ろし」「すす払い」「旗舞い」「刀舞い」「大鬼小鬼」「天の岩戸」「世鬼の舞」「なぎなた舞い」「弓舞い」「しょもわけ」。「たいつり」という演目は廃絶した。吹き上げ、傘火や綱火などの花火も行われる。		
38	神楽	十二神祇の舞	広島市安佐南区上安		秋の氏神大祭など	秋の氏神大祭の夜〈毎年〉	氏神など		十二神祇神楽。明治時代から大正時代にかけて始まったという。吹き上げ、笠火も行われた。	中断	
39	神楽	十二神祇の舞	広島市安佐南区安東鯛之迫		秋の氏神大祭など	秋の氏神大祭の夜〈毎年〉	佐信神社		十二神祇神楽。明治時代から大正時代にかけて始まったという。吹き上げ、笠火も行われた。	中断	
40	獅子舞	萩原の獅子舞	広島市安佐南区安東萩原地区	萩原町内会、青年団	正月	1月3日〈毎年正月のみ〉	萩原地区、田中山神社境内、ひろしまフラワーフェスティバル、安公民館	毎年	正月3日、萩原地区内において「一人立ちの獅子」2体で祭り囃子に合わせて舞うが、秋季大祭やイベントでは当地の伝説をモチーフに創作した獅子舞を演じる。大太鼓と獅子頭1体は戦前からのものを現在も使用。楽器は大太鼓・小太鼓・笛。		
41	田楽	安の花田植	広島市安佐南区安	安の花田植実行委員会（安学区社会福祉協議会協賛）事務局・広島市安公民館	安の花田植	6月の第2日曜日〈毎年〉	〈昔は大字上安窪田など〉	不定期	200年前、上安村の庄屋・野村氏が大田植を行ったことが安の花田植の始まりといわれている。江戸時代（寛政年間）から約200年の間は盛んにおこなわれてきたが、昭和35年に長楽寺の観音田を最後に途絶える。平成18年に「安の花田植実行委員会」により再現される。早乙女60人、牛20頭、采振り20人、太鼓振り30人程度で構成され、「長節」「勇み節」の田植唄が伝わる。		
42	風流踊	盆踊	広島市安佐南区旧古市町内	各地区町内会	盆踊り大会	盆を中心として〈毎年〉	各鎮守の境内	毎年	起源は不明。一時中断後、昭和30年代各地区で復活した。安地区は扇子踊りのみ伝承している。昭和7～8年頃は古市では東京踊り、大町・中須は団物（他地方では段物の字を用いる）、安は扇子踊りに団物、川内は芸者踊りが流行したとある。		

【調査地区9】 安佐南区（旧佐東町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
43	神楽	岩谷(いわや)十二神祇神楽	広島市安佐南区緑井	岩谷神楽保存会	石屋神社秋祭前夜祭	10月〈3年毎の時期もあり〉	石屋神社	毎年または3年毎	十二神祇神楽。明治12年「大和荒前本」（大和流舞本の意）という神楽台本が現存する。所持演目は「煤掃き」「神降ろし」「大鬼小鬼」「刀舞」「岩戸」「旗舞」「荒平」。吹火、傘火の奉納あり。		
44	神楽	上温井神楽	広島市安佐南区川内	上温井神楽保存会（平成6年復活）	上温井八幡神社秋祭前夜祭	11月2日	上温井八幡神社	3年毎	十二神祇神楽。明治初期に発足。戦前は上温井、中温井、下温井の3つの組織があったが中断、平成6年に復活した上温井神楽保存会のみとなる。「煤掃き」「神降ろし」「幣舞」「刀舞」「恵比寿」「旗舞」「薙刀舞」「岩戸」「大鬼小鬼（きづき・しばろう）」「関の舞」。舞の演出に簡単な吹き上げ花火を行う。		
45	神楽その他	亥子舞	広島市安佐南区緑井・松原地区	松原地区の子供たち（大正2年当時）	胡子様のお祭りの日に亥子祭を実施	11月〈大正2年は11月20日〉	松原地区内	不明	起源は不明だが、大正2年の緑井松原では胡子様の祭で毎年十二神祇を奉納しないため、子供たちがその衣裳を着用し、周辺の家を廻っていたという。その時、鬼の姿など怪しげな姿をして、十二神祇の真似事をしていたと思われる。昭和55年頃、旧佐東町内の一部地区では、鬼面・鬼棒姿の鬼男を先立てた子供たちの一群が、通常の亥の子言葉を唱え、石を搗いたことが記録されている（『移民の経験記　上巻』、『佐東町史』）。		
46	風流踊	八木の大踊り五番六調子	広島市安佐南区八木	24、5歳の成人から10歳くらいの子供	式年の間隔は定まっていない、特別な催しとして	嘉永6年、大正6年の2回のみ（旧9月中旬）	光広神社	不定期	天文元年（1532）八木城主の命で阿生山の大蛇を退治した勇者を讃え、踊ったことに由来。光広神社神職が斎主となり、一代一度限り執行したとも伝わる。嘉永6年（1853）、大正6年に催行。若者組が大名行列をなし、露払い十数人が先導し馬に乗った大名や神官が続く。薙刀（女性）や槍10人。古老達が宰領杖を持ち、行列の脇につきそった。踊り子は300人、24～5歳から10歳くらいの子供まで、菅笠に花を挿し襷姿で進行した。	中断（大6～）	
47	風流踊	盆踊	広島市安佐南区旧佐東町各地	川内学区社会福祉協議会	川内盆踊り大会	8月第1土曜日〈8月14日夜、15日夜〉	川内小学校グランド	毎年	櫓に太鼓を置き、踊り手はその周りを輪になって踊る。「芸者踊り」「広島菜音頭」。昭和7～8年頃川内地区では芸者踊りが流行した（『安古市町誌』）。戦時中中断、昭和34年復活。梅林、緑井、八木学区においても、それぞれ8月第一土曜日に盆踊が行われている。		

48	風流踊	盆踊	広島市安佐南区緑井・松原地区	地域住民	お盆	8月16日	大正5年当時、宮原商店前の空き地	不定期	大正時代には盆踊が毎年は行われず、20年ぶりの盆踊は口説き・囃しに合わせて複数の所作を交えて踊る者、小芝居をする者、張り子の馬に跨がった熊谷直実と平敦盛の仮装で討ち合いをする者、着流しの侍、鳥追笠の舞妓、鐘を叩く黒衣の六部、仇討ち姿の者などがいたという。「口説く」というより「段物を語る」という認識が人々にあった。演目は「鈴木主水」「(熊谷直実と敦盛の段物)」「志賀団七」など。(『移民の経験記　上巻』)。		

【調査地区10】安佐北区(旧安佐町)

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
49	神楽	笹原神楽	広島市安佐北区安佐町鈴張東谷	東谷地区の住民による神楽組織	宮崎神社の秋祭前夜	11月3日宮崎神社例祭の前夜(旧暦9月9日の前夜)	宮崎神社	毎年	石見神楽を伝習し、宮崎神社秋季祭礼の前夜(ヨゴロ)に演じられていた。昭和11年8月が最後の奉納となった(『安佐町史』)。	中断(昭11～)	
50	獅子舞祭礼風流	養山八幡の吹囃子行事	広島市安佐北区安佐町小河内・養山八幡神社	養山八幡の吹囃子行事保存会	神社の秋祭	11月第1日曜日〈10月29日に固定〉	本殿のまわり	毎年	社伝によると、起源は文化8年(1811)、広島で買い求めた神輿を、村人が太鼓の囃子で盛大に養山八幡神社に迎えたことに始まるという。鉦・笛・太鼓・神輿・獅子等による神幸が行われる。花傘を据えた太鼓台に締太鼓2張を載せて子供達が叩き、屋台船も連なる。流鏑馬は現在ない。曲は「道中囃子」「宮太鼓」「神楽囃子」「参道下り」「備中囃子」「参道帰り」の6曲で、場面に応じて奏される。		市
51	田楽	小河内(おがわち)の田楽囃子	広島市安佐北区安佐町小河内	青年団		〈6月末←6月上旬から中旬〉	神社の神饌田	不明	地域の田植は楽とともに賑やかにするものであったが、昭和18年の段階では神饌田で青年団が田楽を演じるのみであった。衣裳は養山八幡神社の格納庫に現存している。平成10年前後から中断。	中断(平10頃～)	
52	田楽	鈴張の花田植	広島市安佐北区安佐町鈴張	安佐町鈴張東上花田植保存会	花田植	5月第4日曜日	鈴張地区の田	不明	鈴張地区には幕末以降の歌本が数点現存し、当時の歌は朝昼晩で区分されていた。また歌詞の内容も複数の系統が認められる(『安佐町史』)。①通行②参拝出迎え③半樹④忠臣蔵⑤参拝送り⑥道行きと一連の流れで、半樹と忠臣蔵の途中に田植歌があり、早乙女が入る。令和元年から中断。	中断(令1～)	
53	風流踊	太鼓おどり〈太鼓囃子〉	広島市安佐北区安佐町小河内	地域住民(詳細不明)	お盆	お盆	不明	不明	「庭入」「尾道」「牛若丸」「あげ」の4曲が演じられる(『安佐町史』)。	中断	
54	風流踊	大踊〈太鼓おどり〉	広島市安佐北区安佐町鈴張	地域住民(詳細不明)	お盆や花田植	お盆や田植の頃	花田植の場所など	不明	鎌倉時代から伝わる本村独特の踊りと言い伝えられている。「座めき」「ふみ」「ゆり」「ゆき」の4種、各12庭、計48庭で演じられていた。明治34年の「鈴張大踊歌」が現存する(『安佐町史』)。旧安佐町域では、田植を盛大に行い豊作を祈願するため、田植に直接関連しない大踊や南条踊などの芸能も演じていた。	中断	
55	風流踊	キリコ踊	広島市安佐北区安佐町飯室	地域住民(詳細不明)	豊年の年に限る	お盆の時期	不明	不定期	豊年の年に限り、盆踊で演じられる。頭に燈籠を戴き踊る。はじめに「庭しめし」を歌い、続いて「本うた」を歌う(『俚謡集』、『山の民謡・海の民謡』)。	中断	
56	舞台芸等	小河内昭和劇団	広島市安佐北区安佐町小河内	地域住民である劇団員	毎年の公演や老人ホームへの慰問、秋祭での奉納	上演は不定期	可笑屋、集会所など	不定期	昭和3年に素人芝居として始まったという。戦後のGHQ政策や昭和48年の太田川氾濫で幾度か中断した時期もあったが、昭和56年復活し現在に至る。「安珍清姫」「兄弟坂」など上演している。		

【調査地区11】安佐北区(旧可部町)

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
57	獅子舞	三入八幡神社の獅子舞〈頭舞〉	広島市安佐北区三入南　三入八幡神社	氏子	三入八幡神社の秋季祭礼	10月18、19日に近い土曜・日曜〈旧暦9月19日〉	三入八幡神社境内	定期	三入八幡神社の秋季祭礼において、三入八幡神社の氏子により神社境内で演じられる。笛と太鼓に合わせて、獅子が舞う。		
58	風流踊	桐原(とげ)盆踊	広島市安佐北区可部町桐原	桐原盆踊保存会	お盆	8月10日～15日の盆の日までに実施	三入小学校校庭〈桐原薬師〉	毎年	お盆に豊作祈願と住民の慰労を兼ねて、地域の団結を養い演じられてきた。地域住民により昭和50年に桐原盆踊保存会が結成された(『ひろしま文化帳』)。櫓を立て、提灯で飾る。楽器は太鼓。曲は「竹原おどり」「豊年おどり」「松坂」「翁おどり」が伝わる。	中断	
59	風流踊	盆踊〈熊谷踊り〉	広島市安佐北区大林	大林盆踊保存委員会	大林夏祭	8月上旬(山の日にする)〈8月14日〉	大林小学校校庭	不定期(山の日)	当地に逃れてきた河野水軍によって始められたという。櫓を組み、その周りを輪になって踊る。刀や長刀も使用する。太鼓2名、口説き3名、囃子2名。		
60	風流踊	花笠踊〈難城踊〉	広島市安佐北区可部町	不明	昭和8年、30年ぶりに演じられた	明治期まではお盆	詳細は不明	不定期	昭和8年、30年ぶりに「難城踊一名大花笠踊」として演じられた。広島県や山口県で演じられる南条踊の由来に基づくという。花笠を冠り、笠から放射する花のシデのようなものが地に至るほど長かったという(『郷土舞踊と盆踊』)。	中断	
61	祭礼風流	浜の明神祭〈チンチロビッツ、チンチリビツ、管絃舟〉	広島市安佐北区可部町　明神社	明神社祭の会実行委員会	明神祭の祭礼日	7月第4土曜日〈旧6月17日〉	神社の前の公園	毎年	浜の明神社は宮島の厳島大明神を勧請したもので、川舟業に従事する人々に信仰されている。管絃祭での神事の後、踊りを踊る。昔、この祭で池に舟を浮かべた時に鉦や三味線、笛の音が聞こえたことから、別名・チンチロビッツとも呼ばれる。		

【調査地区12】 安佐北区（旧高陽町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
62	神楽	小河原火舞	広島市安佐北区小河原町　松尾神社	小河原火舞保存会	松尾神社秋季例祭	10月20日に近い土曜日	松尾神社	毎年	十二神祇神楽。明治初期、高宮郡麻下（現小河原町麻下）の住民が沼田郡西原へ舞を習いに行き、現在に至る。所持演目は「神降ろし」「旗舞」「鯛つり」「幣舞」「刀舞」「大鬼小鬼」「薙刀舞」「岩戸（露払い・太鼓隠し・行燈・姫・お多福・大力男命）「煤掃き」「関舞（荒平の舞）」。演目の間に吹火を揚げる。		
63	神楽	諸木十二神祇神楽	広島市安佐北区落合南（旧高宮郡大字諸木）	諸木郷土芸能保存会	吉備津神社御祭礼の前夜	10月第4土曜日	大原山吉備津神社	毎年	十二神祇神楽。下駄の材料である杉、松などの買付のため現山県郡北広島町大朝へ出かけた際、十二神祇神楽を習って持ち帰ったことが起源という。①神降し舞②幣舞③刀舞④大鬼・中鬼・小鬼舞⑤芝郎・きずき舞⑥旗舞⑦露ばらいの舞い⑧こうせんかきの舞⑨岩戸舞⑩姫の舞⑪煤掃き舞⑫世鬼の舞。		市
64	神楽	亀崎神社神楽〈十二神祇、院内神楽〉	広島市安佐北区深川	亀崎神社神楽保存会	亀崎神社秋季例祭の前夜	10月第2土曜日〈10月24日〉	亀崎神社・境内舞殿	毎年	太田川流域で演じられる十二神祇で、煙火の演出がある。湯立で始まり荒平で舞い納める。現行の演目は「湯立舞」「神降し」「一本旗」「六本旗」「刀舞」「大鬼小鬼」「岩戸」「煤掃き」「荒平（世鬼）」。中断および廃絶演目は「太鼓隠し」「鯛釣り」「薙刀舞」「五郎立」「お狐」「幣舞」。楽は大太鼓、手打鉦、横笛。		
65	神楽	くむら神楽〈十二神祇〉	広島市安佐北区落合	くむら神楽保存会	眞亀山神社秋季例祭の前夜	10月29日に近い土曜日	眞亀山神社・境内常設舞台	毎年	太田川流域で演じられる十二神祇で、煙火の演出がある。神降ろしで始まり、関の舞で終わる。所持演目は「神降ろし」「幣舞」「刀舞」「岩戸」「すす掃き」「関の舞」。楽は大太鼓、手打鉦、横笛。		
66	神楽	岩上（いわのうえ）八幡神社神楽〈十二神祇〉	広島市安佐北区落合南	岩上八幡神社神楽保存会	岩上八幡神社秋季例祭の前夜	10月第4土曜日	岩上八幡神社・境内常設舞台	毎年	太田川流域で演じられる十二神祇。神降ろしで始まり、荒平で舞納める。演目の間に煙火奉納がある。所持演目は「神降し」「煤掃き」「幣舞」「刀舞」「鯛釣り」「六本旗」「大鬼小鬼」「薙刀舞」「岩戸」「荒平」。楽は大太鼓、横笛。		
67	神楽	上矢口十二神祇神楽	広島市安佐北区口田	上矢口郷土芸能保存会	新宮神社秋季例祭の前夜	10月第4土曜日	新宮神社・境内常設舞台	毎年	太田川流域で演じられる十二神祇。神降ろしで始まり、世鬼（荒平）で舞納める。世鬼の舞では、最初に衣裳の披露がある。所持演目は「煤掃き」「神降し」「三方」「大鬼小鬼」「旗舞」「天岩戸」「弓舞」「鯛釣り」「薙刀舞」「世鬼（荒平）」。廃絶・中断の演目は「四天」「七刀舞」「お狐」「五郎立」「大蛇」。楽は大太鼓、横笛。		
68	風流踊	盆踊〈はやりおどり・段物・手踊り〉	広島市安佐北区口田	上矢口郷土芸能保存会	口田学区盆踊りの夕べ、草谷山崎薬師堂地蔵祭り	お盆を中心とした7月、8月〈お盆の2、3日間〉	口田小学校校庭、草谷山崎薬師堂境内	定期	藩政期に流行した兵庫口説きを基に、口説きの内容を数段に分け、仮装して踊る。当地では昭和8年頃「はやりおどり」または「段物」と呼ばれた。段物は藩政期の播州で流行し、日本各地に広まったもので、浄瑠璃本を丸読みすることから起こった呼び名である。口田に近い太田川流域の地域でも昭和7、8年頃流行した。手踊りとドジョウすくいが習合した「手踊り」と呼ぶものも演じられる。		
69	風流踊	団もの・どじょうすくい	広島市安佐北区落合	地域住民	盆踊の時期	8月14日～16日頃	不明	定期	団もの（段物）とは芝居や歌舞伎などの一場面をヒントに振り付けされた踊りで、明治時代に安佐北区口田の矢口地区で始められたものが落合にも広まり、古くから行われていた手踊りを、楽しく賑やかにするために始められたという。どじょうすくいは大正期、矢口地区で始まった安来節を盆踊用にアレンジした踊りである。		
70	祭礼風流	狩留家（かるが）シャギリ	広島市安佐北区狩留家町	狩留家シャギリ保存振興会	盆踊の時期	盆踊の開催時	狩留家集会所、狩留家地区内の県道など	毎年	文政8年（1825）頃、物流の一大集積地・狩留家で余興として演じられたことが始まりという。浴衣姿で花笠を被る。飾り立てた花車（山車）を曳き、三味線・太鼓・鉦の囃子で曲に合わせて踊りながら練り歩く。曲は「三篠川」「湯坂川」「高鉢山」。		

【調査地区13】 安佐北区（旧白木町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
71	獅子舞	新宮神社の獅子舞〈おしっさん〉	広島市安佐北区白木町井原（新宮神社及び氏子域17地区）	新宮神社・各地区氏子	新宮神社の各地区訪問に合わせて	7月第1・第2日曜日	各地区の集会所等〈昔：地区の家々を回っていた〉	毎年	江戸時代より高田郡内で夏に広く行われていた獅子舞の影響があるとされ、半年の厄払い、豊作祈願、悪魔祓いの目的がある。新宮神社氏子域17地区の各集会所等において、神事の後、地区の氏子により獅子舞が奉納される。「立ち舞」「寝る舞」の舞い方があった。笛・太鼓の囃子で参拝者の頭や身体の痛い個所などを噛み、無病息災を祈願する。各地区の巡回後、新宮神社にて獅子頭を神前に据え、大祓詞を奏上し、参拝者名簿のお焚上げをして厄を祓う。古くから獅子舞に際して麦初穂をお供えする習慣があった。		
72	獅子舞	獅子舞	広島市安佐北区白木町井原地区甲田集落	甲田集落　自治会		7月第1・第2日曜日〈昔：6月末〉	甲田集会所〈昔は各家を巡回していた〉	毎年	午前中に地域の清掃活動を行った後、昼食をはさんで午後から集会所で獅子舞を舞う。獅子舞は地域住民が練習を行い実施する。上記「新宮神社の獅子舞」の実施地区の一つ。		
73	獅子舞 祭礼風流	宮崎神社の神儀	広島市安佐北区白木町志路・古屋・市川	宮崎神社氏子	宮崎神社例大祭	10月第3日曜日	神社境内・氏子域	毎年	宮崎神社例大祭に奉納される祭礼行列。猿田彦・獅子の先導で、当屋からの宮上がりには神饌を持つ所役が加わるほか、子供による太鼓打ちを伴う点に特徴がある。太鼓打ちと笛・手打鉦による囃子を特に「神儀」と称する。太鼓打ちは子供が務め、1台の太鼓を複数人で舞い打つ。		

74	獅子舞 祭礼風流	秋山八幡神社の神儀・柳	広島市安佐北区白木町秋山	中組、西組、東組各氏	秋山八幡神社例大祭	9月第2日曜日〈9月15日〉	神社境内・参道他	毎年	秋山八幡神社例大祭に江戸期以前から伝わる、中組・西組・東組の各当番組氏子により輪番で奉納される祭礼行列。猿田彦・獅子の先導で、当屋からの宮上がりには神饌を持つ所役が加わるほか、子供による太鼓打ち、「柳」と呼ばれる花鉾状のつくりものを伴う点に特徴がある。太鼓打ちは子供が務め、1台の太鼓を複数人で舞い打つ。柳は参拝者が持ち帰り、畑に挿しておくと作物がよく実るといわれる。		
75	獅子舞 祭礼風流	新宮神社のお供え行列・じんぎ〈笛太鼓行列〉	広島市安佐北区白木町井原	新宮神社氏子	新宮神社例大祭	10月第3日曜日	神社境内・氏子域	毎年	新宮神社例大祭に奉納される祭礼行列。猿田彦・獅子の先導で、宮上がりには神饌を持つ所役が加わるほか、子供による太鼓打ち、「じんぎ」と呼ばれる花鉾のつくりものを伴う点に特徴がある。太鼓打ちは子供が務め、1台の太鼓を複数人で舞い打つ。「じんぎ」は、祭りの終了後、参拝者が持ち帰る。		
76	田楽	大田植	広島市安佐北区白木町井原地区	地域やその周辺の住民	田植	5月～6月の田植時期	地区内当番家の水田	毎年	起源は不明だが、明治39年小田村下小原（現安芸高田市下小原）・矢木氏の名が書かれた歌本が現存する。その年の当番田で実施。早乙女、代掻き用の飾り牛が参加した。	中断（昭30代～）	
77	風流踊	井原地区の盆踊	広島市安佐北区白木町井原地区	青少年健全育成協議会	井原夏祭	8月お盆前後（14日～15日頃）	井原小学校校庭	毎年	戦前から実施されていたものと思われ、三つ拍子、四つ拍子、山崩しの調子で「井原音頭」「山崎サンザ」「清三お吉」を歌う。口説き1名、太鼓1名、囃子3～4名。櫓を立てる。		

【調査地区14】 安芸区（旧瀬野川町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
78	神楽	畑賀（はたか）神楽〈本郷神楽〉	広島市安芸区畑賀町	畑賀神楽保存会	中須賀神社秋祭	中須賀神社秋祭	中須賀神社	毎年	江戸後期から始まったといわれている。所持演目は「塵祓い」「弊舞」「刀舞」「旗舞」「薙刀舞」「連二刃」「天の磐戸」「一の牛若」「二の牛若（1）（2）」「三の牛若（橋弁慶）」「八岐の大蛇」「恵比寿舞」。廃絶した演目に「荒平大臣」がある。		
79	神楽	津村舞〈神楽、西条舞〉	広島市安芸区中野	詳細は不明	詳細は不明	10月第2日曜日の前日夜（宵宮）〈10月15日←旧8月15日〉	詳細不明	毎年	起源は不明だが、西条舞とも呼ばれていたことから、現東広島市西条から伝習したものではないかといわれている。「猿田彦の大神」という「キリキリ舞い」がある。「小夜の中山」「酒呑童子」なども演じられた。	中断（昭30代～）	
80	獅子舞	獅子舞	広島市安芸区畑賀町		中須賀神社秋祭	10月〈10月8日、9日両日の晩〉	安芸区畑賀町　中須賀神社、氏子の家々、秋祭の神幸	毎年	為角地区の氏子で演じられる。秋祭の前日、1日かけて町内の家々で家祓を行う。舞は「たちまい」「まいぎぬ」「ねこまい」で構成される。頭役は獅子頭に胴幕を着けて舞い、後幕役は幕に入らず裾を持つ。		
81	獅子舞	津村獅子舞〈獅子舞〉	広島市安芸区中野町津村		矢口神社秋祭	10月第2日曜日〈10月15日←旧8月15日〉	安芸区中野町　荒神社、津村地区・権現地区の一部	毎年	津村自治会館にて神事の後、荒神社前で獅子舞を奉納。その後、津村地区と権現地区の一部、計約200軒を訪問する。各戸とも神職の祈祷後に御幣が渡され、獅子舞を奉納して最後に当家・子供の頭を噛む。		
82	獅子舞 祭礼風流	ちょうさい	広島市安芸区中野矢口神社	不明	矢口神社秋季例大祭	10月第1日曜日〈10月15日←旧8月15日〉	詳細不明	毎年	相当昔に廃絶したため詳細不明。矢口神社の祭礼ではちょうさいの他、13日獅子舞、14日神楽、15日祭礼で競馬もあった（12、3頭）という（『瀬野川町史』）。現在ちょうさい・獅子舞もなく、神楽は他所から招聘する。	中断	
83	田楽	山王の大田〈大田植、囃し田〉	広島市安芸区中野東三丁目　山王地区	山王地区の農家	大田	地区の田植が済んだ泥落とし前	地主の田んぼ	不定期（地主の年祝い）	地区（迫と呼ぶ）の田植が済んだ泥落とし前に、地主の田で行われた。44、5頭の飾り牛が出る。周辺の瀬野、畑賀、志和からも牛が来て、他所から来た牛を一牛または先牛とした。一牛による代掻き、えぶりつきの田慣らし後、当屋での早乙女の田植踊りで始まる。早乙女による田植（真似）は夕方終了した。	中断（昭26～）	
84	風流踊	盆踊	広島市安芸区中野東六丁目　平原地区	若連中が主催し、中老をきもいりとして指示を仰いだ。	お盆	お盆〈毎年8月14日の晩、15日の晩〉	特定の個人宅	毎年	追善供養の踊り。木枠を組んで紙を貼った四角柱の「燈籠墓」を作り、側面と裏面に新仏の法名等を書く。「燈籠墓」を踊り場の一隅にしつらえ、線香を供え、僧が読経して盆踊が始まる。明治中期までは、若連中と新盆の家の者が寺に参った。平原地区下迫では、特定の個人宅が踊り場となった。家の門を入った右手に舞台のようなものを作り、音頭がその上で団扇を持ち、ねじり鉢巻姿で本を片手に持って口説いた。		
85	風流踊	盆踊	広島市安芸区畑賀町　為角地区	若連中が主催し、中老をきもいりとして指示を仰いだ。	お盆	お盆〈毎年8月14日の晩、15日の晩〉		毎年	追善供養の踊り。13日は迎え盆で、この日に平原地区同様の燈籠墓を製作し、当日は踊り場に燈籠墓を供える。女性は絣の服に、手に苗を持って踊った。「炭坑節」が昭和15年に加わるが、それ以外は口説きが基本。「鈴木主水橋本屋白糸くどき」「石堂丸」「石堂丸の刈萱道心」「佐倉宗五郎」「平井権八小紫」「中将姫雪責」「八百屋お七小姓吉三」「お染久松」「百万」「阿波の鳴門巡礼」。		
86	風流踊	盆踊	広島市安芸区　瀬野各地区	若連中が主催し、中老をきもいりとして指示を仰いだ。	お盆	お盆〈毎年8月14日の晩、15日の晩〉	寺社の境内（牛尾神社、浄行寺（のんの保育園））昭和30年代までは瀬野駅前	毎年	追善供養の踊り。旧字地区のほか団地でも開催。周辺地区同様の燈籠墓を作り、当日は踊り場に燈籠墓を供える。昭和30年代頃までは、瀬野駅前に赤い櫓を組んで盛大に開催された。		

87	祭礼風流	ちょうさい	広島市安芸区畑賀町　奥畑・本郷・為角各地区	奥畑・本郷・為角各地区の氏子	中須賀神社の秋祭	10月10日	中須賀神社周辺（馬場と山を一周する）	毎年	瀬戸内海沿岸部でみられる神輿渡御に伴う祭礼風流。氏子2地区から出されたちょうさいが激しく揉み、ぶつかり合う。子供4人がちょうさいに乗り、若連中が担ぐ。ちょうさいの大きさは2㎡、神輿型で、屋根の上に1mの鉾を立てる。中に太鼓を乗せる(『瀬野川町史』)。	中断（昭30代～）	
88	その他	亥の子	広島市安芸区　瀬野各地区	各町内会等	亥の子	11月〈旧10月亥の日〉	地区内各家の庭など	毎年	夕方から子供と若連中が各戸を廻って亥の子を祝う。2、3日前に祭壇を作る。祭壇には亥の子石、天狗面、鬼面を飾り、餅、酒、果物などを供え、当日は白い直垂の太夫と、赤・黒の鬼面をつけた鬼が一団に加わる。		
89	その他	亥の子	広島市安芸区畑賀町　為角地区	昔は地域の子供と若連中	亥の子	初亥の宵が多い	地区内各家の庭など	毎年	かつては次のような亥の子が行われていた。毎年各組で当屋が決まる。2、3日前に祭壇を作る。当日の夜は若連中が太鼓を担ぎ、提灯を提げて子供とともに廻る。家の庭で子供が庭で歌に合わせて石を搗く。子供を帰して、若連中で一杯飲んだ(『瀬野川町史』)。		

【調査地区15】 安芸区（旧熊野跡村）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
90	風流踊	盆踊〈阿戸踊〉	広島市安芸区阿戸町	阿戸盆踊り保存会	阿戸町納涼盆踊り大会	8月15日〈8月盆の晩〉	阿戸小中一貫教育校のグラウンド	毎年	明治期に始まったといわれ、現在は「国定忠治」などの口説きで6、7種類の踊りが演じられる。「きそん」は踊り手が2組に分かれ、問答形式で掛け合う内容となっており、どちらかの組が掛け合いの内容に窮すると、ワッと騒いで本来の踊りに入る。		
91	風流踊	雨乞踊り〈盆踊〉	広島市安芸区阿戸町	地域住民	雨乞い祈願	大干ばつの年など水不足の年など	小倉神社または小倉山	不定期	旧賀茂郡原村（現在の東広島市八本松町原）の小倉神社または小倉山へ参詣し、雨乞踊（盆踊）を踊る。雨が降ったら、願解きとして同様に踊る。踊りの内容は盆踊と同じという。		
92	祭礼風流	亀山八幡の祭りはやし行事	広島市安芸区阿戸町	亀山八幡の祭りはやし行事保存会	亀山八幡神社秋祭	10月第3日曜日〈旧暦9月19日〉	亀山八幡神社	毎年	起源は享保年間（1716-36）に遡及するという。阿戸町内にある三つの庭、上庭、中庭、下庭の各庭が飾り付けした傘袋を中心にして、鬼を先導役に、大人が横笛、子供が大太鼓、小太鼓、鉦などで曲を奏して奉納する。		市
93	舞台芸等	地芝居	広島市安芸区阿戸町	青年団	詳細は不明	詳細は不明	熊野跡公民館や仮設小屋	不定期	かつては旅芝居が小学校校庭の掛小屋で演じていたが、終戦後の昭和20～23年頃に青年団が師匠に芝居を習い、掛小屋や当時設置されていた熊野跡公民館で演じた。	中断	

【調査地区16】 安芸区（旧船越町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
94	獅子舞 祭礼風流	岩瀧神社秋祭（獅子舞・頂戴・鬼）	広島市安芸区船越町	頂載は西青年団、獅子舞・鬼は竹浦青年団	岩瀧神社秋祭	10月第3日曜日〈旧暦9月15日〉	岩瀧神社	毎年	起源は不明だが、享保13年（1728）船越八幡宮（現岩滝神社）において獅子舞神事執行の記録が現存する。花都・引地・西などの若い衆60人が頂載を担ぎ神社に向かう。現在は西青年団が頂載、竹浦青年団が獅子舞・鬼を出す。鬼はアカ、アオ、ヤマンの3体で獅子舞を先導しながら神社に上る。なお、竹浦地区の獅子舞は海田町へ伝わり根付いた。		
95	風流踊	盆踊	広島市安芸区船越町　花都・引地・西地区	若い者衆→日露戦争後に青年団	お盆	お盆の3日間	安芸区船越町　上記地区内に1箇所	毎年	午後7時30分頃から踊り手は櫓を中心に踊る。楽器は太鼓。「鈴木主水（くどき）」「俊徳丸（一つ拍子・きそん）」など。花都と引地、その他海田町の人たちは自分たちの地区が終了すると、西地区に駆け付けて翌朝5時まで踊る(『船越町史』)。		
96	その他	亥の子〈ケンカイノコ〉	広島市安芸区船越町　垰条、下条、上条地区	垰条、下条、上条地区の子供たちとその親	亥の子	11月頃の夕方〈旧10月初亥の日〉	安芸区船越町　町内	毎年	前夜に自分たちの範囲を定めるため「境をとる」亥の子搗きをする。当日の夕方から亥の子搗きを始めるが、他地区の亥の子搗きに遭遇すると「〇〇（地区の名前）、こらえてやろか」と太鼓を叩きながら喧嘩になり、袂に入れた石を投げ合う（石合戦する）(『船越町史』)。		

【調査地区17】 安芸区（旧矢野町）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
97	獅子舞	矢野の獅子舞	広島市安芸区矢野	獅子舞保存会	尾崎神社秋季大祭	10月「体育の日」前の日曜日〈10月10日に近い日曜日〉	尾崎神社境内	毎年	神社の夜頃祭前日未明から、神楽と獅子舞が神前で行われる。その後町役場、更に東迫で獅子舞を舞い始め、各戸を廻る。昭和40年中断、平成18年尾崎神社内で演じられ復活した。獅子頭3頭、二人立て、篠笛11名。復活後は、神社階段下の「昇段の舞」、登り切って「参道の舞」、社殿に到着して「奉納の舞」を演じる。その他「ねこ舞」もあったという。		
98	祭礼風流	矢野頂戴と鬼〈アゴ〉	広島市安芸区矢野	上組頂戴保存会	尾崎神社秋季大祭	10月「体育の日」前の日曜日〈10月10日に近い日曜日〉	姫宮神社を正午に出発、矢野川沿いの3.5kmを練り歩き、午後3時頃尾崎神社近くの本町商店街へ到着	毎年	起源は文化年間（1804-18）、町中の連中によって上方から移入され始まったという。本町商店街で若衆が大太鼓叩4名を肩車で負い宮入りする。その後頂戴に乗り御旅所である姫神社へ移動、鬼（「アゴ」という。）は先祓いを行う。戦前は6基を各地区の若者組が担ぎ、複数の囃子唄で練り歩いた。現在は上組の1基が出る。屋根付きで鉾や太鼓を乗せ、大棒13m2本・横棒2.5m14本で大勢で担ぐ。		

【調査地区18】 佐伯区(旧五日市町)

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
99	神楽	観音神楽	広島市佐伯区観音地区	観音神社伝統文化保存会　神楽の部	観音神社秋季例大祭神楽奉納	10月第2日曜の秋季例大祭前日の宵宮祭	観音神社境内の仮設舞台	毎年	十二神祇神楽。天保年間(1830-44)、佐伯郡山田村の社人・山田加賀守より地域住民が伝習したという。所持演目は「神おろし」「幣舞」「煤掃き」「二刀」「五刀」「弓舞」「薙刀舞」「鯛釣舞」「狐舞」「合戦」「所望分け」「鐘起き」「故事」「関(荒平)」「姫宮」「太鼓栓議」「大蛇」。		
100	神楽	五日市十二神祇神楽	広島市佐伯区五日市六丁目13-3・五日市八幡神社	五日市芸能保存会	五日市八幡神社例大祭	10月第2土曜日〈10月10日〉	五日市八幡神社境内の仮設舞台	毎年	十二神祇神楽。天保年間(1830-44)、佐伯郡山田村の社人・山田加賀守より地域住民が伝習したという。「揚下神楽団」から昭和45年(1970)五日市芸能保存会に改組した。所持演目は「へんばい」「清払い」「火舞」「旗舞」「弓舞」「長刀」「王子」「四天」「所望分」「二刀」「五刀」「つり」「合戦」「きずき」「鯛釣」「きつね」「たいこせんぎ」「関」「八岐大蛇」。		市
101	神楽	高井神楽	広島市佐伯区八幡東四丁目	高井神楽団	広島市佐伯区八幡三丁目に鎮座する八幡神社の例大祭	10月第2土曜日	八幡神社境内の神楽殿	毎年	昭和39年～平成8年中断。現在は芸北神楽を取り入れ活動している。所持演目は「神降し」「神迎え」「恵比寿」「鐘馗」「塵倫」「紅葉狩」「滝夜叉姫」「大江山」「土蜘蛛」「悪狐伝」「日本武尊」「戻り橋」「羅生門」「山姥」「八岐大蛇」「天の岩戸」。		
102	神楽	上河内神楽	広島市佐伯区五日市町上河内	上河内神楽団〈上河内舞子中〉	河内神社秋季例大祭宵宮(よごろ:前夜祭)	1年おき10月第2土曜日〈10月中の九日〉	河内神社境内仮設舞台	1年毎	十二神祇神楽。天保年間(1830-44)、佐伯郡山田村の社人・山田加賀守より地域住民が伝習したという。令和元年には「神降ろし」「御神託」「露払い」「へんばい」「二刀」「薙刀」「きつね舞」「歌舞」「四天王」「合戦」「王子」「関(荒平)」「鯛釣り」「つりざん」「八岐大蛇」「神もどき」が演じられた。		
103	神楽	石内神楽〈伊勢神楽十二神祇〉	広島市佐伯区五日市町石内	石内神楽団〈中組神楽団〉	臼山八幡神社秋季例大祭	10月第2土曜日〈臼山八幡神社秋季例大祭の宵宮(よごろ:前夜祭)〉	臼山八幡神社境内の仮設舞台	毎年	十二神祇神楽。天保年間(1830-44)、佐伯郡山田村の社人・山田加賀守より地域住民が伝習したという。所持演目は「神おろし」「煤払い」「旗舞」「あんどん」「二刀」「五刀」「薙刀舞」「四天王子」「つり舞」「八郎舞」「合戦」「狐舞」「あらひら」と、舞方が分からない9演目(「幣舞」「七刀」「三方こじ」「所望分け」「鯛釣」「王子」「蛇切素戔嗚尊」「姫宮素戔嗚尊」「神もどき」)の計22演目。演目の間に竹筒の吹火を上げる。		
104	神楽	下河内神楽	広島市佐伯区下河内	下河内神楽団	河内神社境内の仮設舞台	1年おき10月第2土曜日〈10月中の九日〉	河内神社境内の仮設舞台　その他神楽公演日公演会場	1年毎	天保年間に森岡泰次郎ほか数名が神職・山田加賀守より神楽の伝授を受け、影田多助・五十崎武助・二位保太郎・野田勘一の代へ伝え、下河内神楽団を結成。神降し・へんばい・つゆはらい・きつね舞・四天王子・長刀・えびす舞・阿羅比良の舞・つりざん・二刀・三刀・合戦・神もどきなどの十二神祇と、八岐大蛇・塵倫などの芸北神楽の演目を所持している。		
105	獅子舞	獅子舞	広島市佐伯区五日市町石内	湯戸芸能保存会		毎年1月第3・第4日曜日	湯戸町内会全世帯120軒余りの1軒1軒家の中または外を舞う	毎年	明治42年臼山八幡神社に合祀された社の獅子頭を使用し、当時の青年団が獅子舞を始めたという。昔は春夏年2回各戸を巡回していた。現在は正月に太鼓・笛・鉦の囃子とともに2日間かけて各戸を巡回し、座敷や玄関の回りを舞い、青笹を授けて無病息災を願う。		
106	獅子舞	獅子舞	広島市佐伯区観音地区	観音神社伝統文化保存会　獅子舞の部	観音神社節分祭	毎年2月第1土曜日	観音神社境内他	毎年	口伝によると250年前に疫病が流行った際に、疫病封じとして草津八幡神社・渋谷氏より伝わったという。永らく中断していたが、経験者の記憶を頼りに邇保姫神社の獅子舞に教えてもらいながら、平成15年に復活。「四方祓」が基本的な舞い方で、四方を祓って、鴨居に付いた厄を追い出し、噛んで外に放り投げる所作をする。		

【調査地区19】 旧湯来町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
107	神楽	水内(みのち)神楽	広島市佐伯区湯来町・水内和田郷一帯	水内神楽団	和田八幡宮、麦谷八幡宮	和田八幡宮と麦谷八幡宮の秋祭前夜、イベント	神社境内の拝殿	和田八幡宮と麦谷八幡宮で1年ごと	寛延3年(1750)、佐伯郡下村(現在の当地)の神職・佐々木宇太夫が山県郡上殿河内村・井仁大歳大明神で一夜神楽を奉納したことを示す記録や、天明2年(1782)編纂の神楽台本などが現存し、藩政期から神楽組織が活動していた。陰陽五行に基づく五王子の遺産分配をめぐる「五龍王」は古くから伝承される演目で、①皇子道行②八ツ花③白湯④五刀⑤皇子合戦の5場面で構成。「神楽－五龍王－」として県指定。		県
108	神楽	重光神楽〈白砂舞〉	広島市佐伯区湯来町白砂	重光神楽団	重光神社秋季例祭	重光神社秋季例祭の前夜19時から翌日2、3時まで	重光神社、個人宅(不定期)	毎年	白砂舞の系譜で、鹿之道神楽から伝習したという。所持演目は「湯立」「社水」「三鬼」「岩戸」「将軍」「御本社」など。「将軍」では神がかりがあり、舞手が白装束を着て、1時間か2時間ひとりで舞った。平成14年頃～中断。	中断(平14～)	
109	神楽	大森神楽	広島市佐伯区湯来町伏谷	大森神楽団	大森八幡神社秋季例祭の前夜、イベントなど		大森八幡神社	毎年	明治初期に白砂舞を伝習・継承していたが、昭和から平成になる頃に現安芸太田町筒賀の梶原神楽を移植、その後高田地方の新舞を伝習し現在に至る。十二神祇の所持演目は「湯立舞」「弓舞」「長刀」「恵比寿」「五刀」「社垂」「猿田彦」「御本社」「荒神」。		

110	神楽	鹿之道(かのち)神楽〈白砂舞〉	広島市佐伯区湯来町白砂	鹿之道神楽団	八幡宮秋祭の前夜など	10月第3週日曜の前夜〈八幡宮秋祭前夜と夏の放生会〉	八幡宮社殿など	毎年	寛政6年(1794)に佐伯郡大野村大頭神社の祭礼で花道を設置した舞台で十二の舞を奉納した記録がある。文化5年(1808)には白砂村・多田村の神職と氏子による神楽組織が大野村の漁祭で20演目奉納した記録が現存する。白砂舞の拠点で戦時中から昭和56、7年まで中断、「鹿之道神楽同好会」として改組し復活した。「湯立」で始まり、「将軍」で神がかりがある。「御本社」で神籤をする。平成16年～中断。	中断(平16～)	
111	神楽	本多田神楽〈多田舞〉	広島市佐伯区湯来町多田	本多田神楽団	八幡神社の秋祭前夜	八幡神社の秋祭前夜	八幡神社	毎年	白砂舞から分かれ、継承されてきた舞。表・裏の24の舞という認識があり、将軍舞は24の舞を舞いくずす舞といい、願い事がある時に一心に拝んだという。現在は廃絶。衣裳は広島県立歴史民俗資料館に、道具の一部は旧湯来町に寄贈。	中断	
112	神楽 獅子舞	打尾谷(うつおだに)神楽〈打尾谷舞〉	広島市佐伯区湯来町多田	打尾谷神楽団	打尾谷河内神社秋季例祭の前夜	打尾谷河内神社秋季例祭の前夜	打尾谷河内神社	毎年	元治元年(1864)に河内神社での神楽奉納に関する桟敷の記録が現存する。神楽団としては明治19年8月に伝習したというが、伝習先については白砂や本多田などの説がある。一連の神楽次第は「湯立」に始まり、途中に獅子舞を挟む。終盤「天大将軍」で演者に神がかりが起き、「神戻し」の舞をし、「御本社」で米占を行い神慮を問う。		
113	獅子舞	鹿之道の獅子舞	広島市佐伯区湯来町白砂	鹿之道青年団			鹿之道地区、桷地区、廿日市市佐伯町玖島地区、川上地区の各家	定期	由来は不明。演者は青年団で鹿之道地区、桷地区の他、隣接する廿日市市佐伯町玖島地区、川上地区の各家を巡行した。猿田彦が先導し家の中を祓い清め、獅子舞が舞ったのちに祝詞を奏上し、散米して拍手を打った。現在は行われていないが、獅子頭と胴幕は現存。	中断	
114	田楽	田楽	広島市佐伯区湯来町	湯来町田楽団、湯来東小学校田楽団	大花田植、田楽大会、湯来東小学校田楽フェスティバル	6月	湯来東小学校グランド・体育館、田楽大会会場など	毎年	明治6年に島根県益田地方から取り入れられ、その後年1回は村内で盛大に行われていたという。地域の田で演じる機会が減り消滅の危機を迎えたが、昭和60年に湯来東小学校田楽団が結成され、年長者の指導のもと保存継承されている。行事次第は、道行、さんばいの神迎え、苗取り、引き拍子、岩国錦帯橋、渡し拍子、さんばいの神送り、上り田。曲目は「引き拍子」「岩国錦帯橋」「渡し拍子」が伝わる。「胴」と呼ぶ大太鼓を膝前に担いで打つ。		

(2) 呉市

【調査地区20】 旧和庄町、宮原村、荘山田村、吉浦村、警固屋村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
115	獅子舞 祭礼風流	吉浦八幡神社秋祭(頂戴・ヤブ・お舟・獅子舞・推児の舞・俵神輿ほか)〈カニ祭り〉	呉市吉浦西城町	吉浦八幡神社氏子	吉浦八幡神社秋祭	10月第1日曜日を挟む3日間〈旧暦8月15日〉	呉市・吉浦八幡神社	毎年	地域の武将・野間氏を讃える祭りが起源といい、古くは当地でワタリガニがたくさん捕れたことから「カニ祭り」とも呼ばれるようになった。本祭の日は「宮上がり」「宮下がり」が行われ、頂戴を先頭に各自治会から山車(だんじり、昭和に始まる)や太鼓が出され、稚児や戦船、龍神神輿や俵神輿などが連なる。3日目は後日祭として「鬼回り」が行われ、ヤブと呼ばれる鬼が町内を徘徊する。獅子舞は2人立。		
116	獅子舞 祭礼風流	亀山神社秋祭(ヤブ・とんぼ・獅子舞・はやしほか)	呉市清水一丁目	亀山神社氏子	亀山神社秋祭	10月第2日曜日〈旧暦8月15日(～明治23年)→10月17日(～昭和42年)→10月10日(～平成11年)〉	呉市清水・亀山神社	毎年	藩政期は放生会でご神幸が行われていた。明治24年から秋祭に移行される。例大祭後の午後、ヤブ、とんぼと呼ばれる俵神輿、獅子が境内に到着し、ヤブとの俵もみが行われる。その後、ヤブの道案内により、大神輿、女神輿、囃子を引き連れ渡御が行われる。獅子舞は2人立。		
117	獅子舞 祭礼風流	鯛乃宮神社例大祭(ヤブ・とんぼ・獅子舞・はやしほか)	呉市西三津田	鯛乃宮神社氏子	鯛乃宮神社例大祭	11月3日〈旧暦9月16、17日〉	呉市西三津田・鯛乃宮神社	毎年	文亀年間(1501-04)、鯛乃宮神社の社殿が造営された時から始まるという。前夜祭(宵祭)では太鼓役やヤブが地区を練り歩き、本殿では巫女舞が奉納される。本祭当日は神事終了後、太鼓・笛・鉦とともに獅子舞、俵神輿(とんぼ)、稚児、ヤブ、天狗などが地区内を練り歩く。獅子舞は2人立。		
118	獅子舞 祭礼風流	貴船(龍王)神社例大祭	呉市西辰川二丁目	貴船神社氏子	貴船(龍王)神社例大祭	11月3日(もしくは前後の土日)	呉市西辰川・貴船(龍王)神社	毎年	延宝年間(1673-81)の干ばつ時、雨乞い祈願によって二河の滝壷から龍が現れて大雨を降らせた。その後、収穫時に祭りを行うようになったことが起源という。行列が神社に到着して俵の奉納が行われる時に、ヤブと俵の激しい揉み合い(俵もみ)がある。		
119	獅子舞 祭礼風流	宇佐神社秋季祭礼〈おでん祭り、喧嘩祭り〉	呉市警固屋四丁目	宇佐神社祭礼委員会	宇佐神社秋季祭礼	秋分の日(令和6年は9月14日前夜祭・宵の宮、9月15日大祭)〈旧暦8月17日〉	呉市警固屋・宇佐神社	毎年	前夜祭では獅子舞とヤブが地区を廻り、夜は子供相撲が行われる。本祭では行列で囃しながら練り歩き、神社の階段を上がる時にヤブと俵の激しい揉み合いがある。現在の祭りは明治時代にはすでに行われていたといい、大正期、祭の日に家庭でおでんを作っていたことから「おでん祭り」と呼ばれていた。		
120	風流踊	吉浦盆踊	呉市吉浦本町商店街とその周辺	吉浦盆踊り保存会	吉浦ふれあい盆踊りと土曜市	8月第2土曜日	吉浦商店街周辺の広場	毎年	吉浦地区に古くから伝わり、 年中行事として伝承されている。櫓を中心に、輪になって踊る。音頭くどき1名、大太鼓1名、踊り手は浴衣で踊る人が多い。現在は「吉浦音頭」「新吉浦音頭」で踊る。		
121	風流踊	川原石盆踊〈二川盆踊〉	呉市川原石	川原石地区まちづくり委員会、日赤川原石分団	川原石地区盆踊り大会	8月14日	川原石マリンパークおよび二川まちづくりセンター	毎年	戦前から二川盆踊と呼ばれ、川原石地区に伝わる。伝統の「川原石踊」を平成22年に復活させた。コロナ禍以降に盆踊り大会から夏祭りに行事形態が変わり、調査時点では盆踊を中断している。「川原石踊り」「呉音頭」「炭坑節」で踊る。	中断	

122	祭礼風流	平原神社例大祭	呉市平原町	平原神社氏子	平原神社例大祭	11月3日〈旧暦9月15日〉	呉市平原町・平原神社	毎年	起源は藩政期に遡及する。前夜祭では拝殿で巫女舞が行われる。本祭では朝から町回り、俵神輿、ヤブ、稚児、幟、太鼓などが地区を練り歩く。神社に到着し、俵の奉納が行われる。		

【調査地区21】 旧阿賀村、仁方村、広村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
123	神楽	戸田(とた)神楽	呉市仁方町　磯神社	戸田地区神楽保存会〈戸田神楽団〉	磯神社例大祭の前夜祭	10月第4週の磯神社例大祭前夜祭と当日	磯神社	毎年	江戸時代、大三島の大山祇神社で舞われていた神楽が伝わったといわれている。所持演目は「神歌」「神降し」「露払い」「岩戸」「あまつかね」「〆口」「薙刀」「二天」「たくさば」「小弓」「大祓い」「二刀」「おしき」「弓関」「神迎い」「異国」「四天」。【詳細調査No.3】		
124	神楽	小坪神楽	呉市広小坪一丁目	自治会、青年団	小坪八幡神社例大祭において奉納	10月第4週の小坪八幡神社前夜祭と当日〈10月20日に近い土日〉	小坪八幡神社	毎年	江戸時代、大三島の大山祇神社で舞われていた神楽が伝わったといわれている。所持演目は「神楽」「つゆはらい」「しめぐち」「岩戸」「神迎」「小弓」「大弓」「たくさ」「二天」「四天唱行」「四天四人舞」「扇子」「上二刀」「下二刀」「だいば」「恵美須」「住吉」「いこく」「神宮」。		市
125	神楽 獅子舞 その他	大歳神楽	呉市仁方大歳町20-37　大歳神社	大歳神楽保存会〈宮原神楽団〉	大歳神社例大祭前夜	10月第2週の大歳神社例大祭前夜と大祭当日、10月第1週八岩華神社前夜祭など〈10月18日夜〉	大歳神社	毎年	起源は江戸後期と考えられおり、明治36年に災害により衣裳や史資料が流出、この時書写した「神楽本帳」が現存する(『呉市の神楽』)。所持演目は「神おろし」「だいば」「つゆはらい」「しめぐち」「岩戸」「神向かい」「古弓」「大弓始」「二天」「四天幣」「おしき」「なぎなた」「胡子舞」「いこく」「新たく」「王子」と「しし」。途中、囃連中が伊勢音頭とともに短冊を奉納する。		
126	風流踊	仁方の櫂踊り	呉市仁方地区	仁方町大東自治会	八岩華神社例大祭	10月9～10日〈不定期〉	大東自治会館、町内数箇所、八岩華神社	3年毎	明治初期に高本庄助が伊勢方面で習得し、兄弟の秀助・作松と地元の有志らと踊り始めたのが始まり。両手に小さな櫂を持ち、「櫂踊り音頭」に合わせて踊る。		市
127	祭礼風流	阿賀のお漕船	呉市阿賀南四丁目延崎住吉神社	阿賀漁協、神田神社(延崎住吉神社)	宮島の厳島神社管絃祭	旧暦6月15日～18日	呉市阿賀、宮島周辺	毎年	元禄14年(1701)の宮島・厳島神社管絃祭で、風雨のため遭難した管絃船を江波の伝馬船と阿賀の鯛網船が救助した。このことから江波と阿賀から毎年の管絃祭に漕船を出すことになったという。漕船2艘、賄船含む先船3艘、水夫24名、采振4名(男子・4～7歳)、太鼓打ち2名、賄人5名で構成。		市
128	祭礼風流	神田神社例大祭の大太鼓奉納〈太鼓祭り〉	呉市阿賀町　神田神社	神田神社12迫の青年団など	神田神社例大祭	9月22日、23日	神田神社境内、氏子域	毎年	古記録から江戸初期の慶長年間に始まったと伝わる。阿賀町の12地区(迫という)の氏子が大太鼓を出し、神輿行列に供奉する。江戸時代中期以降、現在のような直径1m以上ある大太鼓が中心となった。太鼓を太い棒に掛け渡して大勢で担ぎ、笛の囃子や掛け声とともに非常に激しく叩く。		
129	祭礼風流	初崎神社例大祭の太鼓奉納	呉市広　初崎神社、横路・大広・古新開	広町西三郷(横路・大広・古新開)氏子	初崎神社例大祭	9月22日、23日	初崎神社境内、氏子域	毎年	広町西三郷(横路・大広・古新開)から太鼓を出して神輿行列に供奉する。太鼓打ちは子供が務め、12種類の笛曲の囃子に合わせて打ち分ける。太鼓の登宮と下宮は、二人の若衆が太鼓を担ぎ上げ、70余段の階段を上がり下りする。鬼棒を持ち、綱を身体に括りつけたヤブが先導する。		
130	祭礼風流	大歳神社例大祭の太鼓奉納	呉市広三芦　呉市広三芦　大歳神社(弁天神社)	大歳神社氏子	大歳神社例大祭	10月第3土曜日・日曜日	大歳神社境内、氏子域	毎年	大歳神社の例祭において、複数の太鼓を出して神輿行列に供奉する。初日の夜頃に船津神社から神霊を大歳神社に迎え、二日目に神輿とともに太鼓行列を組んで町内を練り歩き、船津神社に帰る。太鼓は太い棒に掛け渡して担ぎ、子供が太鼓を叩く。行列は2体のヤブ(赤鬼・青鬼)が先導し、自ら太鼓を叩くこともある。		

【調査地区22】 旧天応町、昭和村、郷原村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
131	風流踊	郷原盆踊	呉市郷原町	郷原盆踊保存会、郷原町まちづくり推進委員会	郷原町盆踊り大会	8月お盆の1日間	協働センター	毎年	起源は不明だが、文政2年(1819)郷原村「国郡志御用書上帖写」には旧暦7月13日夕刻より氏神や大きな家の庭などで若者たちが「手拍子躍」をしていた記述がある。現在は「炭坑節」などで踊る。		
132	祭礼風流	新堂平神社の奴踊り	呉市郷原町　新堂平神社	郷原まちづくり推進委員会と地域住民	新堂平神社例大祭	11月3日〈陰暦6月17日、9月9日〉	地区内及び神社参道・境内	毎年	文政2年(1819)「村書出帖」に「九月九日氏神祭礼に神輿御幸の行列として、簇、吹貫、獅子、挟箱、立傘、鳥毛、赤熊(中略)、奴は看板を着る仕馴なり」とある。神輿巡幸に従い、お旅所で奴踊りを行う。奴が歌う歌詞は、「朝の木段橋音頭」「振音頭」「宮の前」など場面に応じて11種類ある。		

133	祭礼風流	田中八幡神社例大祭（だんじり・ヤブほか）	呉市天応宮町	主に大浜、下西、大西地区の住民	田中八幡神社の例祭	10月第1 土・日	地区の御旅所（大浜第一公園など）、田中八幡神社	毎年	田中八幡神社の例祭ではだんじりや俵みこしのほか、呉の祭りに欠かせないヤブという鬼も登場する。だんじりは頂部に3枚の布団を重ねた形状で、大勢で担ぐ。お旅所では、ヤブとの俵揉みの最中に、神輿を垂直に立てる姿が見られる。		

【調査地区23】 音戸町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
134	風流踊	有清の盆踊	呉市音戸町有清池区	自治会	お盆	概ね8月14・15日	地区集会所	毎年	戦前から実施。櫓を組み、その周りを輪になって踊る。		
135	風流踊	先奥の盆踊	呉市音戸町先奥地区	自治会等	お盆	8月14～16日	説教場	毎年	戦前から実施。盆供養が最初に執り行われる。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり、「ヤーハトセー」と歌いながら「伊勢音頭」を踊る。その他の曲は「炭坑節」や古くから伝わるもの。		
136	風流踊	田原の盆踊	呉市音戸町田原地区	自治会等	お盆	8月13～15日	旧田原小学校	毎年	戦前から実施。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり踊る。曲は「伊勢音頭」や歌音頭など。		
137	風流踊	畑の盆踊	呉市音戸町畑地区	自治会	お盆	8月15日	民有地	定期	戦前から実施。櫓を組み、その周りを輪になって踊る。		
138	風流踊	波多見の盆踊	呉市音戸町波多見地区	自治会等	お盆	8月14～15日	コミュニティセンター	毎年	戦前から実施。盆供養が最初に執り行われる。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり、「ヤーハトセー」と歌いながら「伊勢音頭」を踊る。その他の曲は「炭坑節」や古くから伝わるもの。		
139	風流踊	早瀬の盆踊	呉市音戸町波多見地区早瀬地区	自治会等	お盆	8月15日	早瀬パブリックセンター広場	毎年	戦前から実施。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり踊る。曲は「供養音頭」など。		
140	風流踊	藤脇の盆踊	呉市音戸町藤脇地区	自治会等	お盆	8月14・15日	説教場	毎年	戦前から実施。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり踊る。「鈴木主水」「松坂節」などを口説く。		
141	風流踊	音戸の盆踊	呉市音戸町（坪井・引地・鰯浜自治会）	3地区の自治会	お盆	8月14・15日（旧：8月14～16日）	音戸大橋下広場	毎年	戦前から実施。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり踊る。「音戸港節」「炭坑節」「木山」「恋慕流」「木山」（木山で締めくくる）。昔は初盆の家に出向いて踊っていたが、今ではしないという。		
142	風流踊	渡子（とのこ）の盆踊	呉市音戸町渡子地区	自治会等	お盆	8月14・15日	旧小学校跡	毎年	戦前から実施。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり踊る。曲は「炭坑節」など。		
143	祭礼風流	音戸清盛祭の大名行列	呉市音戸町	伝承保存会など	音戸清盛祭	5年に一度の4月頃	音戸の瀬戸付近	5年毎	音戸の瀬戸を切り開いた平清盛公を偲んで踊られた念仏踊が発展し、天保の頃から格式がある大名行列となったと伝わる。瀬堀り、投げ奴、殿役・姫役・小姓役など総勢450人の行列が延々と続く。5年に1度春に催行される。		市

【調査地区24】 倉橋町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
144	獅子舞	灘の獅子舞	呉市倉橋町灘地区	自治会など	灘祭	11月第1日曜日	灘地区の山神神社境内	毎年	愛媛県の大山祇神社で行われていた獅子舞を、昭和10年村上徳エ門とその一族が当地区に取り入れた。村上一族は灘地区に石材の発掘生産のため移住して来た人たちという。獅子舞は二人立で、獅子止・鬼・ひょっとこが加わる。笛と太鼓のリズムで激しく舞う獅子を、獅子止役が仕留めて終わる。		
145	風流踊	本浦地区の盆踊	呉市倉橋町本浦（石原・小林・上河内・松原・才ノ木の各自治会）	各自治会など	お盆	8月14～16日	本浦地区内の5自治会指定地	毎年	本浦地区は5自治会があり、現在は8月14～16日に演じられる。音頭・踊りはほとんど共通している。「三太くどき」「志賀団七くどき」「お杉と和尚くどき」「お吉清三くどき」「お順平佐くどき」「海老屋が環七くどき」「鈴木主水橋本屋白糸くどき」「佐倉宗五郎くどき」「俊徳丸一代くどき」「石童丸と刈萱道心くどき」「平井権八小柴くどき」「お染久松くどき」「木山」など多くの口説きが残る。才ノ木地区は盂蘭盆がある。櫓を組み、その周りを踊り手が輪になり踊る。		
146	風流踊	西宇土の盆踊	呉市倉橋町西宇土地区	自治会	お盆	8月15日	旧小学校跡	毎年	戦前から実施。供養も兼ねたもので、櫓の周りを輪になり「伊勢音頭」「鈴木主水」「木山」などで踊る。		
147	風流踊	尾曽郷（おそごう）の盆踊	呉市倉橋町尾曽郷地区	自治会	お盆	8月15日	地区広場	毎年	戦前から実施。最初に初盆を迎える家に太鼓を打ちながら出向き、その場で踊る。その後、櫓の周りを輪になって「伊勢音頭」「長崎甚句」「花音頭」などで踊る。		
148	風流踊	宇和木の盆踊	呉市倉橋町宇和木地区	青年団など	お盆	8月13～15日	説教所	毎年	供養も兼ねたもので、櫓の周りを輪になり「木山」や昔からの音頭で踊る。		
149	風流踊	釣士田（りょうしだ）の盆踊	呉市倉橋町釣士田地区	自治会等	お盆	8月13日から15日（13日は予行演習）	説教場	毎年	概ね21～23時頃、櫓の周りを輪になり「ほめ口上」「伊勢音頭」などで踊る。15日は41歳の厄落としも兼ねる。		

150	風流踊	尾立(おたち)の盆踊	呉市倉橋町尾立地区	自治会等	お盆	8月15日	旧小学校跡地	毎年	櫓の周りを輪になり、昔から歌われる音頭で踊る。踊り手は手と足を使い踊る。		
151	風流踊	室尾の盆踊	呉市倉橋町室尾地区	青年団、自治会等	お盆	8月14～16日	旧小学校跡地	毎年	概ね19時頃から23時頃まで演じられる。最初は初盆を迎える家に提灯を掲げ、太鼓を打ちながら出向いて、その場で踊る。その後、櫓の周りを輪になり「室尾盆踊り音頭」「室尾大漁節」で踊る。		
152	風流踊	海越(かいごし)盆踊	呉市倉橋町海越地区	自治会	お盆	8月14日	地区の港広場	毎年	櫓の周りを輪になり、昔から歌われる音頭で踊る。踊り手は手と足を使い踊る。		
153	風流踊	鹿老渡(かろうと)の盆踊	呉市倉橋町鹿老渡地区	地区の住民	お盆	8月14～17日	地区内上浦港埋立地	毎年	櫓の周りを輪になって「伊勢音頭」で踊る。14日と17日は20～24時まで、15日と16日は朝まで踊る。初盆を迎える家に対して踊る。初盆の家では供物を盛大に飾る習わしがある。楽器は大太鼓で、古くは太鼓に合わせて三味線を弾いていた。		
154	風流踊	鹿島地区の盆踊	呉市倉橋町鹿島(鹿島上・鹿島中・鹿島下)地区	地区の住民	お盆	主に8月14日が中心	各自治会指定地	毎年	戦前から実施。中心の櫓に歌い手と囃子が集まり、踊り手がその周りに輪になって踊る。島民の先祖は明治期に本浦地区からの移住者であることから、踊りや音頭は本浦地区のものと類似する。		
155	風流踊	大迫の盆踊	呉市倉橋町大迫地区	自治会	お盆	8月14日	各自治会指定地	毎年	戦前から実施。中心の櫓に歌い手と囃子が集まり、踊り手がその周りに輪になって踊る。島民の先祖は明治期に室尾地区からの移住者であることから、踊りや音頭は室尾地区のものと類似する。		
156	風流踊	須川の盆踊	呉市倉橋町須川地区	地区の住民	お盆	8月14～15日	旧小学校跡	毎年	供養も兼ねたもので、櫓の周りを輪になり「高い山から」「花音頭」「海老屋甚句」「弓引き歌(鈴木主水)」「木山」などで踊る。		
157	祭礼風流	桂濱神社のだんじり	呉市倉橋町桂濱	自治会、神社氏子など	桂濱神社例大祭	9月中下旬の日曜日	桂濱	毎年	明治42年刊行の『倉橋島志』には、旧暦8月15日の例祭で神幸を行い、山車を曳くことが記述されている。神輿とだんじりの揉み合いが行われる。だんじりの中で太鼓を打ち、揉み合いの際には激しく打つ。		
158	祭礼風流	須川新宮社のだんじり	呉市倉橋町須川地区	自治会など	新宮社例大祭	10月上旬	須川地区	毎年	明治42年刊行の『倉橋島志』には、9月13日の秋季例祭で神幸を行い、山車を曳くことが記述されている。以前は神輿とだんじりの揉み合いが行われていたが、現在揉み合いはない。		
159	祭礼風流	山神社のだんじり	呉市倉橋町宇和木地区	青年団	山神社例大祭	10月上旬ごろ	境内地から地区内の河川	毎年	だんじりと神輿が神社から海岸に向かう途中、河川において揉み合う。海岸から帰る途中にも、再び河川で揉み合う。明治42年刊行『倉橋島志』には、「祭日には神輿に行幸山車の賑わいあり」と記述がある。		
160	祭礼風流	尾立の奴行列	呉市倉橋町尾立地区	自治会など	八剱神社例大祭	10月上旬	倉橋町尾立八剱神社境内と市中	毎年	奴に扮した行列が市中を練り歩き、神社に奉納する。奴は主に小学生が扮する。先頭では大竹筒が振り回され　後に竹筒を振り回す奴が続く(10人程度)。明治42年『倉橋島志』に「八剱神社の秋祭りに神輿の行幸ありて山車を出して奴行列をなして興を添ふ」とある。		
161	祭礼風流	室尾新宮社のだんじり	呉市倉橋町室尾地区	青年団など	新宮社例大祭	10月上旬	呉市倉橋町室尾新宮社境内など	毎年	当日の神幸の後、西と東のだんじり(布団屋根型)が激しく競い合う。明治42年『倉橋島志』に「秋祭当日には毎年山車2台を出して賑わいを添う」とある。		
162	祭礼風流	伊勢社のだんじり	呉市倉橋町鹿老渡地区	自治会	鹿老渡伊勢社例大祭	10月上中旬	神社境内地及び近くの浜辺	毎年	神輿とだんじりが浜辺付近にて揉み合う。乗り手は太鼓を打つ。明治42年『倉橋島志』には、「秋まつりには神輿の行幸を行い山車を曳きて余興を助る」とある。		

【調査地区25】 下蒲刈町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
163	風流踊	マイラ踊り〈マイラセ踊り〉	呉市下蒲刈町大地蔵地区	地蔵自治会	盆踊	8月14日(盆踊に合わせて実施)	大地蔵集会所　横広場	毎年	盆踊でマイラに花をつけた女性がそれを持って踊る。マイラとはイワシを船から陸に持ち運んだり、茹でたイワシを干す際に使用する竹製の道具。大地蔵でイワシ網が始められた戦後頃に始められたのではないかと考えられる。「御樽」「江州音頭替歌」「おつや口説」「継子三次」が伝わり、盆音頭引継・交代の口説きもある。		
164	風流踊	三之瀬盆踊	呉市下蒲刈町三之瀬	三之瀬自治会	お盆	8月14日～15日〈8月14日～16日〉	新丸谷桟橋	毎年	14日初盆法要として行われ、式典を経て初盆の踊りを行う。三之瀬地区独特の所作があり、グループで踊る。下記の扇子踊のうち盆の踊りを踊る場合もある。音頭口説きは櫓の上、太鼓は櫓の下で叩く。「鈴木主水」「下蒲刈島巡り」「国定忠治」などが伝わり、踊り始め・盆踊由来・踊り納めの口説きもある。		
165	風流踊	扇子踊	呉市下蒲刈町三之瀬	三之瀬自治会	三之瀬盆踊り大会	8月14日、15日(盆踊に合わせて実施)、その他イベント等	新丸谷桟橋	毎年	朝鮮通信使への饗応の踊りとして江戸時代に始まったという。口説きや曲目は三之瀬盆踊と同じであるが、扇子踊りには扇子を用いた独特の所作がある。		

166	祭礼風流	十七夜祭	呉市下蒲刈町三之瀬・森之奥厳嶋神社	三之瀬自治会	宮島嚴島神社管絃祭	旧暦6月17日（旧暦17日の潮の日に行うため開催日は毎年変わる）厳島神社管絃祭に合わせて行われる	三之瀬の瀬戸～蒲刈大橋～新丸谷港内～三之瀬港	毎年	夕刻ご神体を櫂伝馬船に移す神事の後、海上巡幸開始、出港の合図に太鼓を叩き、「ホーランエ」「ヨイショ」の掛け声で大櫂・櫂を漕ぐ。櫂伝馬船のスピードに応じて太鼓の叩き方を変える。櫂伝馬船（本船）は御神体を奉戴し、神職、漕ぎ手18名、船頭1名、太鼓打ち1名が乗る。地元漁師の御供船も出る。		
167	祭礼風流	森之奥厳嶋神社・鬼の棒舞	呉市下蒲刈町三之瀬・森之奥厳嶋神社	三之瀬自治会	森之奥厳嶋神社の例祭	10月12日に近い土日（三連休の週に行う）〈旧暦9月9日、旧暦9月12日（戦後）〉	下蒲刈町　三之瀬地区	毎年	前夜祭は神事と巫女舞があり、当日は祭典後に神幸と奴行列を行う。道行の最中は太鼓と横笛で楽を奏し、御旅所で鬼（「ガサ」といい、赤・青。赤青の3体）が棒舞を行う。棒舞は3基の太鼓の上にそれぞれ鬼が登り、一斉に棒舞を行う。		

【調査地区26】 蒲刈町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
168	神楽 獅子舞	宮盛（みやざかり）神楽	呉市蒲刈町宮盛	宮盛区まつり保存会	亀山八幡神社春祭と秋祭の前夜	4月第2土曜、9月最終土曜	亀山八幡神社	毎年	戦後一時途絶えていたが、保存会を結成し復興した。所持演目は「恵比須大明神縁起」「吉丸縁起」「提婆縁起」「獅子舞」。【詳細調査No.4】		
169	神楽 獅子舞	向神楽	呉市蒲刈町向	向区青年会	春日神社例祭の前夜	10月第2土曜日	春日神社	毎年	戦後途絶えていたが、昭和52年に神楽友の会を結成し復活した。所持演目は「御手草の舞」「恵比須大明神縁起」「提婆問答縁起」。「恵比須大明神縁起」の前には舁丁（輿守）による取っ組み合いが演じられる。かつては「獅子舞」も演じられた。		
170	風流踊	盆踊	呉市蒲刈町宮盛	宮盛区まちづくり協議会	お盆（宮盛区盆踊り大会）	8月14日、15日	旧宮盛小学校グランド	毎年	死者供養の行事として古くから行われている。中心の櫓に歌い手と囃子が集まり、踊り手がその周りに輪になって「阿波巡礼くどき」で踊る。		
171	風流踊	盆踊	呉市蒲刈町向	向区青年会	お盆（向区盆踊り大会）	8月14日　15日	春日神社	毎年	中心の櫓に歌い手と囃子が集まり、踊り手がその周りに輪になって「石童丸」「阿波の十郎兵衛くどき」「阿波巡礼くどき」で踊る。死者を供養する行事で古くから行われている。		
172	風流踊	盆踊	呉市蒲刈町大浦	大浦区まちづくり協議会	お盆（大浦区盆踊り大会）	8月14日　15日	旧大浦小学校グランド	毎年	中心の櫓に歌い手と囃子が集まり、踊り手がその周りに輪になって「石童丸苅萱くどき」「志賀団七くどき」で踊る。死者を供養する行事で古くから行われている。		
173	風流踊	盆踊	呉市蒲刈町田戸	田戸区老人クラブ	お盆（田戸区盆踊り大会）	8月14日　15日	呉農協蒲刈支店駐車場	毎年	中心の櫓に歌い手と囃子が集まり、踊り手がその周りに輪になって「石童丸苅萱くどき」で踊る。死者を供養する行事で古くから行われている。		

【調査地区27】 安浦町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
174	獅子舞 祭礼風流	勘定神社祭の大名行列・太鼓衆	呉市安浦町安登	安登地区住民	勘定神社の秋祭	10月第3日曜日〈旧暦9月18、19日〉	勘定神社・御旅所	毎年	鬼、笛役、随兵、獅子、ほら貝役、奴衆が神輿とともに神幸する。神社境内と御旅所では、氏子4地区から集まった大太鼓役と競演する。囃子は「祭りばやし」と「道中ばやし」の2曲あり、道中ばやしで大名行列が所作を行う。太鼓の打ち方は七五調で、打ち手が太鼓正面に向かって立ち、身振り手振りつけて叩く。		
175	獅子舞 祭礼風流	亀山八幡神社祭の大行列	呉市安浦町内海	神山神社氏子	神山神社の例祭	10月第3日曜日〈旧暦8月15日〉	亀山八幡神社や御旅所、その周辺	毎年	鎧兜に身を固めた随兵と、お供の奴が傘、山槍、毛槍などを持って、笛太鼓に合わせて踊りながら道中する。太鼓、獅子、鬼も加わる。道中で奴は山槍・毛槍を振ったり投げ渡したりする。かつては流鏑馬や随兵役の踊りも行われていた。		
176	風流踊	安登（あと）の盆踊	呉市安浦町安登	安登地区自治会	盆踊の行事として	8月13日、15日〈8月13日から16日〉	跡条の観音堂と奥条の自治会館広場	毎年	死者の霊を慰めるために行われ、僧を招いて盆供養を行った後に踊る。音頭・太鼓に合わせて「サンヨー踊り」を踊る。口説きは「鈴木主水」「八百屋お七」「阿波の鳴門」「佐倉惣五郎」。安浦町では、安登のほかに野呂地区の女子畑、赤向坂、中切で盆踊が続いている。		
177	風流踊 祭礼風流	神山神社大祭の櫂伝馬と舞	呉市安浦町三津口	神山神社の氏子	神山神社大祭	旧暦9月半ばの日曜日〈旧暦8月15日〉	三津口湾内	毎年	神山神社大祭での神事後、先導船・御座船・伝馬船が三津口湾を巡行する。櫂伝馬（2艘）が漕ぎ進むなか、太鼓に合わせて伝馬船の艫に2段重ねた樽上で、着飾った若者が櫂と剣を採り舞う。家内安全と豊作豊漁を祈願する。掛け声は「ホーホーエンヤ、ホーランエー、ヨイヤサーノサッサイ」。		
178	祭礼風流	柏島神社管絃祭	呉市安浦町三津口沖の柏島	神山神社の氏子	管絃祭、柏島大祭	6月第2日曜日〈旧暦5月11、12日〉	三津口沖（海上の船上）	毎年	瀬戸内三大管絃祭の一つに数えられる。大漁旗をなびかせ、華やかに飾られた曳き船、御座船、供船が柏島（三津口海岸沖合2kmの孤島）を廻り、湾内を航行する。御座船（管絃船）上では、笛と太鼓を演奏しながら航行する。家内安全と商工業の繁栄と、特に瀬戸内海を航行する船の災難防止と豊漁を祈願する。		

【調査地区28】 川尻町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
179	風流踊	盆踊	呉市川尻町	サンサ踊り保存会	川尻の盆踊り行事として	8月上旬〈8月12・13・14・15日その前後にも〉	川尻の西部3地区と「恵の海」(要介護施設)	毎年	旧暦7月15日、新仏の迫善供養として始まったという。手拭いを首にかけたり、ほおかぶりをして大勢が輪になり、太鼓とともに口説き音頭(「鈴木主水」「阿波の徳島十郎兵衛」「平井権八」など)、川尻サンサ音頭で踊る。かつては町内各地の寺の境内や広場、路上などで行い、若者は夜を徹して踊った。神仏供養をする人は白い着物を着て踊った。		
180	風流踊	小用の盆踊	呉市川尻町小用	川尻町小用地区自治会	お盆	8月14・15日〈8月13・14・15と8月25日〉	小用神社の広場	毎年	新盆を迎える家へ鉦・太鼓を叩きながら訪ねて念仏を唱えていたことに始まり、次第に地区の者が広場に集まって踊るようになったといわれる。15日僧の読経に始まり、新盆を迎えた家の人は灯篭を持ちよって会場を飾る。その周辺を住民が踊る。口説きは「阿波の鳴門巡礼口説き」「平井権八口説き」「村郷時次郎」。		
181	風流踊 祭礼風流	新宮神社のヤッコ踊り	呉市川尻町の盛郷	地区住民	川尻の秋祭	10月第3土曜日・日曜日〈旧暦9月8、9日〉	神社境内と路上、広場	毎年	奴は新宮神社へ向かう前に道中で踊り、到着後また踊りを奉納する。神事を終えて、大歳神社へ向かい境内で踊る。音頭出し3名、トコセ4名、台笠、立笠、大歳毛、毛槍、奴が一団となる。ヤッコ音頭に合わせて、ヤッコ踊り(ヤッコ手踊り、ヤッコ横踊り、ヤッコ毛槍踊り、トコセの手踊り、ヤッコ道中踊)を演じる。		
182	祭礼風流	大歳神社祭の笛太鼓競演	呉市川尻町東七丁目	大歳神社の氏子と小学校児童	川尻の秋祭	10月第3日曜日〈旧暦8月9日〉	大歳神社境内	毎年	江戸時代後期の国郡誌に笛太鼓行列の記事がある。神社で神事を終え、町と久筋の太鼓が社の周りを走って回る。その後、太鼓は上の境内で交互にまたは合同で笛に合わせて叩く。新宮神社の太鼓が到着すると、太鼓6台の共演となる。太鼓の曲目は「道中ばやし」「宮廻り」「地ばやし」「下がりは」「入りは」がある。		
183	祭礼風流	堀越祇園社祇園祭のだんじり	呉市川尻町町区	氏子・町内住民	八雲神社の祭(祇園さん)	7月20日前後の土日〈旧暦6月14日〉	川尻町旧県道東部	毎年	明治38年以降、旧来の神幸にだんじりが加わったとされる。太鼓とお伊勢音頭で囃しながら、だんじりを大綱で道中を曳き回す。だんじりの山車は前部に当年の干支が飾られ、台上に太鼓役と音頭取りが乗る。「堀越祇園社祇園祭」として呉市無形民俗文化財指定。【詳細調査No.5】		市
184	その他	虫送り	呉市川尻町	川尻町氏子総代会	虫送り	6月中旬〈7月中旬〉	川尻町の里道・農道	毎年	実盛人形と幟を掲げて太鼓を叩き、「さんねんもり　おくりとおせや　あとさかいでて　おくりとおせや　おくりとおせや　さんねんも一り」と呼びながら、新宮神社から大歳神社まで郷道、農道を歩く。道中を終えると実盛人形をかつては海に流し、現在は燃やす。虫送りの日、神札を昔は往還の村境に、現在は国道の東西町境に立てる。		

【調査地区29】 豊浜町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
185	神楽 その他	錦蓋(きんがい)の神楽〈みどりまつり・みどり神事・おみどり行事・折居行事〉	呉市豊浜町大浜	地域住民	みどりまつり(速津佐神社　秋祭)	10月17日	速津佐神社拝殿	定期	天蓋をミド、またはキンカイと呼び、神職による天蓋引きを神楽と呼んでいる。ミドをタユーサン(太夫さん)が上下に揺らし、参拝者の小学生が御幣を奪い取る。奪い取った御幣は田畑に埋めると、作物がよくできるといい、家の神棚に安置すると家族の平安をもたらすという。		
186	獅子舞	寝獅子	呉市豊浜町大浜	地域住民	みどりまつり(速津佐神社　秋祭)	10月16日、17日	速津佐神社	定期	二人立の獅子で大浜特有の獅子舞。獅子あやし役の「ヨシマル」が寝ている獅子の耳元でジャッチキ(竹と桐の木で作った楽器。ジャッチキジャッチキという音がする。)を鳴らし、獅子を起こそうとする。		
187	獅子舞 祭礼風流	室原神社大祭、えびす祭	呉市豊浜町豊島	地域住民	室原神社大祭・えびす祭	毎年9月第3土曜日と日曜日〈旧暦8月15日〉	室原神社、恵比寿神社	毎年	初日に室原神社例大祭、2日目にえびす祭りが行われる。いずれも神事の後、獅子舞、押し船、櫂伝馬が奉納される。祭礼行列は武具を持った奴が連なる。神輿を檜船に乗せて漕ぎ、島内の各地区を巡回する。獅子舞には二人立で、獅子あやしと呼ばれる鼻高も同行する。		
188	風流踊	斎島蛭児(いつきしまひるこ)神社の奴踊	呉市豊浜町斎島	地域住民	蛭児神社新嘗祭	蛭児神社虫送祭(旧暦1月14日)、蛭児神社新嘗祭(旧暦9月15日)	蛭児神社	毎年	蛭子神社の祭礼にあわせ、少年が奴に扮する。毛槍の代わりに、木の棒の先に棕櫚の毛の房を付けたものを使用している。「奴の振り出し」と「奴の振り込み」に口上がある。		
189	風流踊	内浦盆踊	呉市豊浜町内浦	地域住民	戦没者慰霊祭と盆踊の行事	8月14日　19時～	大日公園(内浦区内)	毎年	明治期には踊られていたという。戦没者慰霊碑前にて戦没者慰霊祭を実施後、盆踊を行う。		
190	風流踊	大浜盆踊	呉市豊浜町大浜	大浜自治会	お盆	8月14日	海浜公園内にある広場〈大浜小学校グラウンド〉	毎年	明治期には踊られていたという。ゆっくりなテンポで踊る。昔は仮装する人たちが踊っていた。		
191	風流踊	立花盆踊	呉市豊浜町立花	地域住民	お盆	お盆	詳細不明	毎年	明治期には踊られていたとのことだが詳細は不明。(『広島県の盆踊　概報』『広島県の民謡広島県民謡緊急調査報告書』)。		

192	風流踊	小野浦盆踊	呉市豊浜町小野浦	地域住民	お盆	8月15日	詳細不明	毎年	明治期には踊られていたという。県外出漁組は大量の幟を立てて盆に必ず帰村する習わしがあり、盆踊は供養と娯楽だけでなく再会を祝う場であった。中央に櫓を立てる。		
193	風流踊	山崎盆踊	呉市豊浜町山崎	山崎自治会	お盆	8月14日	集落内の空き地（以前は神社境内）	毎年	明治期に始まったという。中央に櫓を立て、四方には笹を飾る。花かけ音頭と太鼓に合わせて、櫓を中心として輪になって踊る。花かけ音頭は盆踊のみならず、寄付の披露にも使用される。		
194	祭礼風流	明神祭〈十七夜祭・管絃船ほか〉	呉市豊浜町山崎 貴布祢神社	地域住民	貴布祢神社明神祭（十七夜祭）	旧暦6月17日	貴布祢神社	毎年	宮島・厳島神社の管絃祭に関連し、管絃船の出航や夜に会場での灯籠流しが行われていた。現在は神事のみという。		
195	祭礼風流	内浦秋祭（櫂伝馬）	呉市豊浜町内浦	地域住民	日別神社例祭	10月第2日曜日	日別神社	毎年	神事の後、櫂伝馬が奉納される。櫂伝馬は飾り竹を据えた小型船2艘、漕ぎ手約20人。楽器は横笛など。		
196	祭礼風流	須佐神社の櫂伝馬	呉市豊浜町大浜	地域住民	須佐神社　例祭	5月22日〈5月25日〉	須佐神社-海上-速津佐神社	定期	起源は明らかでないが、稚児による御供行列、櫓回し、海上神幸、櫂伝馬で構成される海上渡御に伴う祭。櫓歌がある。		

【調査地区30】 豊町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
197	獅子舞 風流踊 祭礼風流	大長櫓祭	呉市豊町大長	大長祭礼団	宇津神社祭礼	9月最終日曜日〈旧暦8月15日〉	宇津神社とその周辺	毎年	宇津神社の海上渡御は享保年間(1716-36)に始まり、櫓廻しは明治10年から始まったとされ、同年に新居浜から櫓（太鼓台）を購入した記録が残る。櫓は高さ3m、総重量約2トン、四角の台座に太鼓を積み、金襴の刺繍を施した幕を張り、上部に7段の赤い布団を重ねる。子供8人ほど乗り込んで太鼓を叩く。昼間には町内5地区の担ぎ手たちが趣向を凝らした獅子舞や伊勢音頭による踊りを披露する。		
198	獅子舞 祭礼風流	篠原神社秋祭〈久比(くび)櫓祭・櫓回し〉	呉市豊町久比	地域住民	篠原神社秋季大祭	10月第1土曜日〈10月6日〉	篠原神社ほか	毎年	新生児の氏子入りを祝う「氏子祭り」を終えると、東西の総代宅から、頂部に布団を重ねた櫓の担ぎ手たちが伊勢音頭を歌いながら神社に向かう(「門出」)。神社到着後に「宮出し」が行われ、神輿が境内へと引き出される。その間境内では獅子舞が行われる。その後、町内への練り出しが行われ、夕方御輿をお旅所に安置し、神事を行う。再び櫓が町内へ練り出し、最後に神輿の「宮入れ」が行われる。櫓は昭和40年代に休止した。		
199	獅子舞 祭礼風流	沖友櫓祭	呉市豊町沖友	沖友祭礼団	沖友天満宮秋季大祭	9月の第1日曜日〈10月19日〉	沖友天満宮ほか	毎年	神社で宮出し神事が行われ、その後「ナク」と言われる独特の囃子歌が歌われる。櫓は頂部に布団を3段に重ね、下部に神輿のように2本の長い棒を渡して大人数で担ぐ。獅子舞は2人立、ハナと呼ばれる天狗がユーモラスな動きで獅子をあやす。青鬼の舞も行われる。		
200	風流踊	大長盆踊	呉市豊町大長	大長祭礼団	お盆	8月14日〈昭和30年代まで旧暦7月14日・15日〉	豊町大長　豊まちづくりセンター内ホール〈宇津神社参道前の札場〉	毎年	大長地区中心部、宇津神社参道前の「札場」と称する広場で、戦前から盛んに踊られている。櫓を中心に何重もの輪ができる。曲調は一つ調子（「チョイトセ　チョイセ」「ヤットセ　ヤートセ」）、口説きは昭和60年代初めの記録では「石童丸」「お七音頭」「甚九」「お杉音頭」「安鏡」「お塩亀松」「参座」「大名づくし」「和藤内」「阿波の海賊」などがある。		
201	風流踊	久比盆踊〈てしょう踊り〉	呉市豊町久比	久比自治会	お盆	8月14日〈昭和10年頃まで旧暦7月14～16日〉	久比公民館前広場〈昭和10年頃までは寺の境内〉	毎年	中央に櫓を立て、輪になって踊る。曲調は一つ調子、口説きは昭和60年代初めの記録では「山崎三佐」「お順平佐」「お汐亀松」「お民半造」「お亀倫平」「牡丹長者」「お梅源次」「十郎兵衛」「御生音頭」「法主落し」などがある。楽器は大太鼓のほか、小皿2枚をすり合わせる「てしょう」を用いる。		
202	風流踊	御手洗盆踊	呉市豊町御手洗	御手洗自治会	お盆	8月14日〈旧暦8月15日〉	御手洗集会所〈蛭子神社境内〉	毎年	藩政期、墓掃除をして15日の夜から6、7日間ほど蛭子神社の境内で盆踊を行っていたという。現在は中央に櫓を立て、輪になって踊る。口説きは「山崎三佐」「お汐亀松」「那須与一」「鈴木主水」「法主落し」。盆踊の時に波止から精霊船を流していたという。		
203	風流踊	沖友盆踊	呉市豊町沖友	沖友自治会	お盆	8月14日	詳細は不明	毎年	起源は不明。昭和15年頃は満月が出るのを待ち、盆踊をしていたという。盆の潮はちょうど大潮で、月も満ちている状態だという。当時は移設前の小学校が会場で、大潮のため盆踊の輪の中に潮が入ってきていたという(「広島県豊田郡豊町大崎下島方言の「潮」の語彙」、「広島県豊田郡豊町沖友方言の潮の満ち干に関する語彙」)。		
204	祭礼風流	御手洗櫓祭	呉市豊町御手洗	御手洗祭礼団	住吉神社・天満神社・恵美須神社合同の三社祭	7月第4土曜日〈旧暦6月4日、5日〉	御手洗地区全域、住吉神社前の海岸通り	毎年	元文5年(1740)に神輿の巡幸の記録があり、宝暦11年(1761)頃恵美須神社祭礼に伴う櫓の引き廻しが定着、以後徐々に祭礼が豪奢化したという。櫓は太鼓を積み、きらびやかな幕を張り飾りを付け、上部に5段の布団を重ねる。夜廻しでは飾りや幕を外し、櫓の周囲を笹で飾り付ける。櫓廻しは昼夜の2回、夜廻しでは櫓を地面に投げつけるように倒し、すぐ起こして担ぎ上げる動作を繰り返す。櫓が傾くたびに「一カケ、二カケ・・・」と参加者が唄う。		

（3） 竹原市

【調査地区31】 竹原町、下野町、小梨町、吉名町、高崎町、福田町、忠海町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
205	獅子舞	福田のししまい	竹原市福田町　稲生神社	福田の獅子舞保存会	稲生神社例大祭（10月第1土・日曜日）	10月第1日曜日	稲生神社　拝殿前広場	毎年	江戸時代中期、四国方面から能地村（現三原市幸崎能地）を経由し、伝来したといわれている。大太鼓4台を前面に置き、その年12歳となる男児4名（舞方）が大太鼓を打ちながら舞う。獅子2頭は舞方の後ろに並び、大太鼓・楽の囃子に合わせて舞う。太鼓の打ち方は「コシ」「シシキリ」など32通りが伝わる。はやし方は横笛3人、地太鼓・鉦・手拍子が各1名。		県
206	獅子舞 祭礼風流	ふとん太鼓	竹原市田ノ浦　礒宮八幡神社ほか	竹原商工会議所青年部	礒宮八幡神社秋の例大祭	9月中旬の日曜〈旧暦7月13・14日〉	礒宮八幡神社、町内一円	毎年	礒宮八幡神社の祭礼に奉納される、内部に太鼓・頂部にふとんを重ねた「ふとん太鼓」を練る行事。鬼や獅子などの先導で、太鼓で囃しながら、神社から町並み保存地区などの町内を巡行する。明治11年頃に祭礼にふとん太鼓が登場したとの説がある。太鼓の叩き手の子供が太鼓台に乗り込み、中に据えられた1台の太鼓を叩く。獅子は二人立。		
207	風流踊	二窓（ふたまど）の盆踊	竹原市忠海東町（二窓地区）	地区青年団	盆踊	8月盆	旧忠海東小学校校庭	毎年	二窓地域で400年以上前から続く、戦国武将・浦宗勝に由来するとされる盆踊。櫓の周りを反時計回りに動きながら踊る。歌詞（口説き）は「小栗判官（照手姫口説き）」など。始まりの口上がある。楽器は太鼓。		
208	風流踊 祭礼風流	住吉祭	竹原市本町三丁目住吉神社	複数の団体によって担われている	住吉祭	7月最終土・日曜日〈旧暦6月28・29日〉	住吉神社周辺（竹原やっさ踊り）、櫂伝馬（本川、住吉橋～新港橋間）	毎年	1日目は神事に続いて竹原やっさ踊りと櫂伝馬奉納、2日目は神輿陸上渡御が行われる。竹原やっさ踊りは本川沿岸に建てられた舞台前で団体ごとに踊り歩き、櫂伝馬は船頭1人、太鼓打ち1人、采振り1人、剣櫂1人、水主14人（左右各7人）で構成され、本川の住吉橋～新港橋間を航行する。昔は管絃船が海上渡御を行っていた。		
209	祭礼風流	忠海の祇園祭みこし行事〈祇園みこし〉	竹原市忠海町　祇園社（開発八幡神社境内社）ほか	忠海の祇園祭みこし行事保存会	忠海の祇園祭みこし行事保存会	7月第3日曜日〈7月14日〉	忠海開発八幡神社（祇園社）、築地神社、町内一円	毎年	祇園社の祭礼に奉納される行事で、江戸時代後期から続くといわれる。その年20歳になる若衆（男女）が中心となり、先輩の指導を受けながら太鼓打ち初め、神輿清掃、足洗い、七日祇園、祇園祭と行事を進める。当日は約600kgの神輿を、輿守（こす）さんが「堅廻し」「立てり担ぎ」「座り担ぎ」「とっちゃげ」などと呼ばれる古式に則った様々な廻し方で勇壮に担ぎ廻す。還御の際には輿娘が「祇園まつり歌」を歌う。楽器は太鼓、法螺貝。		県
210	その他	高崎神明祭	竹原市高崎町（高宮神社）	地区住民	高崎神明祭・龍神事・三度弓の祭事（ビシャ祭）	2月（旧暦1月14日に近い土・日曜日）〈旧暦1月14、15日〉	高崎城会館（神明祭）、高崎町内一帯（龍神事）、高宮神社境内（ビシャ祭）	毎年	祭は①神明起こし②龍神事③三度弓の祭事で構成される。龍神事は町内の男児10名が参加し、藁製の長さ約10mの龍を抱えて神明を廻った後、町内を西端から東端まで巡回する。その際、高宮神社総代・組長・当番及び祝事があった家や商売を行っている家々を廻る。		
211	その他	二窓の神明祭	竹原市忠海東町（二窓地区）	神明さんを継承する会〈小丸居神社奉賛会〉	神明祭	2月第2日曜日	旧忠海東小学校校庭	毎年	小早川隆景が朝鮮出兵時の戦勝祈願のため、櫓を作り神明を祀ったことに由来するとされ、特に二窓地区の神明さんは約400年続く火祭りとして継承されている。神明さんは高さ20mで、松丸太の芯柱に竹や常緑樹の枝葉や藁で形作り、「モチ」と呼ばれる大中小の円盤や色紙などで華やかに飾り付ける。20歳になる若者の太鼓の囃子で、大勢で神明を曳いて練り歩く芸態が見られる。最後に神明に点火し、燃やして（「はやす」という。）無病息災を願う。コロナ禍などで休止していたが、令和8年に6年ぶりに開催。		

【調査地区32】 東野町、新庄町、西野町、田万里町、仁賀町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
212	田楽	田植唄	竹原市東野町	地域住民	各自の田植が済み、地域の大田の田植をする時	各自の田植が済み、地域の大田の田植をする時	町内の大田など	定期	詳細は不明。田植唄の内容から大田での共同田植は行われていたと思われる。「田主様が有徳なればこそ、昼飯を出すとて田中へ仮家を立られた。仮家なれども銅かわらで葺れた」などと歌った。田植が済むと田休みとして一日休む。	中断	
213	風流踊	盆踊	竹原市東野町	地域住民	盆踊り大会など	お盆	町内	毎年	踊りの唄は大人向け・子供向けそれぞれあり、大人向けのものでは「二つ拍子（隆景公おどり）」「籾探し」などがある。「二つ拍子」は現在演じられている盆踊で最も多いテンポで、小早川隆景を讃した内容である。ヨイヤサノセーと囃す。「籾探し」という唄は米の収穫に関する内容だが、所作も上半身をかがけて、両手を前に出して左右に動かす。子供向けの唄は2曲あり、いずれも子供たちにお盆の意味を伝えるための詞章となっている。		
214	風流踊	荘野地区新盆供養盆踊	竹原市西野町・新庄町（荘野地区）	盆踊り保存会	荘野地区新盆供養盆踊り	8月13日の夕方～夜	荘野小学校校庭	毎年	物故者の供養を目的とする。櫓を立て、その前に供養棚を設ける。新盆供養法要の後、盆踊を行う。太鼓の音頭に合わせて口説く。踊り手は櫓の周りを反時計回りに動きながら踊る。郷土文化継承講座を通じて、盆踊の口説きや音頭、太鼓の後継者育成が行われているほか、小学校の総合学習において児童に盆踊りを伝承している。		

（4） 三原市

【調査地区33】 旧三原市域の一部（34～36以外）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
215	神楽 獅子舞	木原町の妙見(みょうけん)神楽	三原市木原町	妙見講	妙見祭	昭和52年は4月30日執行〈9月の妙見祭〉	妙見宿など	13年毎	三原地方の妙見神楽は妙見信仰に由来の独特のもので、3人の舞手がヘギ膳を持ち、花の本地・熊野の本地を語る「妙見舞」、妙見刀で米占を行う「妙見神託」、頭屋に張り渡した白布を潜る「神遊び」で構成される。13年に1度の式年で執行された。舞手は烏帽子に五色の星型を着けた。戦前は妙見講の頃に、妙見宿で神楽を舞うこともあった。	中断（昭50代～か）	
216	獅子舞	深町の獅子舞	三原市深町	地元住民、深小学校PTA、小学校5・6年生児童	干川神社の秋祭　他	〈干川神社の秋祭〉	干川神社　他	毎年	半田新左衛門が獅子頭と衣装を寄進し始まったという。獅子舞太鼓の演目には「道行」、「拝み」、「二継ぎ」、「三継ぎ」、「さんばそう」がある。戦後演者の高齢化により中断し、昭和56年に深小学校のPTAによって復活。現在は中断。	中断	
217	獅子舞 風流踊	光谷(みつだに)の獅子舞	三原市中之町光谷（現在の中之町三丁目）	光谷地区の住民	二十三夜、雨乞い	二十三夜（旧暦23日）	光谷地区内全域、雨乞いの時は龍王山	毎年（その他雨乞時）	二十三夜の獅子舞は土公神・カマド神（ロックウさん）と牛を祓うための舞として、光谷地区全戸を廻った。この日は道普請と獅子舞を行うことが、光谷地区のみの全体行事であった。雨乞いの際はチッコカンの行列に同行して、常永の龍王山頂で舞った。獅子舞の内容は、幸崎や八幡などと同様に伊勢太神楽に通じるとされ、獅子そぶきが付く。昭和40年代～中断。	中断（昭40代～）	
218	風流踊	やっさ踊り	三原市	①三原ヤッサ会 ②三原やっさ踊り保存会　③三原やっさ踊り振興協議会	三原やっさ祭り	8月第2土曜・日曜を中心に	JR三原駅周辺の館町、本町、城町一帯	毎年	由来はハイヤ節が北前船によって伝播した説、念仏踊の一種「ほとけ踊」を小早川隆景の三原城築城を祝って踊られた説など諸説あるものの、現在では三原市の一大観光行事として、各町内から歌い手と踊り手がそろいの衣装で街路を踊り歩く。盆踊として進行型で踊る点は県内でも数少ない事例である。楽器は三味線・太鼓・鉦、曲目は「三原やっさ節」。【詳細調査No.6】		
219	風流踊	小坂(おさか)チンコンカン踊り	三原市小坂町	小坂町内会文化部	新倉町牛神社（大須賀神社）の例祭日	8月14～16日（8月16日←旧7月16日）	三原市新倉一丁目　大須賀神社（通称　牛神社）	毎年	江戸時代の記録によると、小坂、荻路、沼田下の参加者が、牛馬の安全祈願のため新倉町の大須賀神社（通称牛神社）に幟1本と踊りを奉納したことが起源とされ、雨乞踊と習合し受け継がれている。大太鼓・小太鼓・鉦を踊りながら打ち鳴らし、小鬼2人が六尺棒で打ち合う芸態も見られる。【詳細調査No.7】		市
220	風流踊	沼田(ぬた)町ちんこんかん踊り（ちんこんかん）	三原市沼田町	沼田町ちんこんかん踊り保存会	新倉町牛神社（大須賀神社）の例祭日	8月16日	三原市新倉一丁目　大須賀神社（通称　牛神社）	毎年	破魔矢を持った大鬼1人と六尺棒を持った小鬼2人が、太鼓、小鼓、鉦に合わせて力強く踊る。天文年間に創建された牛神社に、後に雨乞いや虫よけの祈願も兼ねて踊りが奉納されたことに由来すると言い伝えられている。		県
221	風流踊	西野チンコンカン	三原市西野町	地域住民	新倉町牛神社（大須賀神社）の例祭日	8月14～16日（8月16日←旧7月16日）	新倉町牛神社（大須賀神社）とその周辺	毎年	大須賀神社（牛神社）へ奉納されてきた沼田ちんこんかんなどと同様に、当初は牛馬の安全祈願や雨乞いが起源とされる。江戸後期の記録から、西野村（現在の西野町、頼兼町、大畑町、駒ケ原町）が沼田下村（現在の沼田町、新倉町）とともに踊りを奉納していたことが分かる。昭和40年代頃～中断。	中断（昭40代～）	
222	風流踊	中之町王子社チッコカン	三原市中之町常永（現在の中之町七丁目）	地域住民	賀羅加波神社、王子社（牛神社）、龍王山山頂、糸碕神社、瀧宮神社	旧暦7月16日	主に賀羅加波神社。雨乞いの場合は、その後龍王山山頂へ移動する。	不定期（渇水の時）	雨乞踊が起源。当日、踊り手は朝8時頃に賀羅加波神社に集まり、揃って常永の龍王山頂に向かう。雨乞いの神事の後、山頂でまず3回踊る。龍王山頂でのチッコカンを含めた雨乞いの儀式が終わると、一同は山を下りる。その後踊り手たちは、村内各所で雨乞踊を続けた。現在は中断。	中断	
223	風流踊	登町チコカン	三原市登町	登町内にある4つの組（正時組、中組、タオ（峠）組、オゴシ組）の住民	虫送り、雨乞い	〈旧暦7月の不定日〉	登町地区各地、「虫送り」と呼ばれる山上	不明	町内の正時組、中組、タオ（峠）組、オゴシ組4組が一堂に会して行列を組み、チコカンを先頭に虫送りをした。同行する双照院の住職が読経し、それが終わると一同は「虫送ってとおりのオ」と大声で唱えた。最後は山上の「虫送り」と呼ばれる所まで来て、同様の行いを済ませて終了した。戦後中断。	中断（昭20以降～）	
224	風流踊	八ツ頭(やつがしら)チコカン踊り（田野浦地区）〈八ツ切り踊りチコカン〉	三原市田野浦町	八ツ頭チコカン踊り保存会（田野浦町内会）	新倉町牛神社（大須賀神社）の例祭日	8月16日	田野浦町内各地、新倉一丁目　大須賀神社（通称　牛神社）、明神町内各地	毎年	漁師や牛の安全祈願のため祀った金剛寺に踊りを奉納したことが由来とされる。金剛寺、田野浦の谷の各神社・祠、雙照院山門前などで踊る。新倉町の大須賀神社（牛神社）には、明神地区と1年おきに交代で奉納している。隊列順序は　幟、宰領、バチ、鉦、太鼓。		市
225	風流踊	八ツ頭チコカン踊り（明神地区）	三原市明神町	八ツ頭チコカン踊り保存会（明神町内会）	新倉町牛神社（大須賀神社）の例祭日	8月16日	明神町内各地、新倉一丁目　大須賀神社（通称　牛神社）	毎年	漁師や牛の安全祈願のため祀った金剛寺に踊りを奉納したことが由来とされる。明神地区内を廻って各所で踊る。新倉町の大須賀神社（牛神社）には、明神地区と1年おきに交代で奉納している。隊列順序は幟、宰領、バチ、鉦、太鼓。		市
226	風流踊	宗郷町(そうごうちょう)太鼓踊り〈三昧道踊り〉	三原市宗郷町	宗郷町太鼓踊り保存会	新倉町牛神社（大須賀神社）の例祭日	8月16日	新倉一丁目　大須賀神社（通称　牛神社）	毎年	江戸時代後期に木原地区から伝わったといわれている。太鼓打ちは大太鼓を肩から白いサラシで吊るし、脇腹に抱え持つ者3人を真ん中に配置し、各々が太鼓を上からバチで叩きつつ、三つ巴に交叉しながら力強く踊る。鉦打ち、小太鼓はその外側から囃したて、中の太鼓打ちを興奮状態に導いてゆく。こうした状態を「三昧どう」と呼ぶ。		市

227	風流踊	木原町太鼓踊り(赤石地区)	三原市木原町赤石(現在の木原一丁目、二丁目)	木原町太鼓踊り保存会	①木原小学校での町内合同体育祭②新倉町大須賀神社での合同奉納③町内行事④木原小学校の学習発表会	①5月②8月16日③10月第2日曜日④11月	①木原小学校②新倉町大須賀神社③亀石神社と町内14地点④木原小学校	毎年	江戸時代には木原、山中、東野、西野各村が協議し、各村が同日に雨乞踊と神事を執行していた。書出帳にみえる「雨乞い入相踊り」とはこのことである。先達、梵天振り、鉦、太鼓(大太鼓・小太鼓)により構成。前奏、行進、踊りの3つの場面でそれぞれ、太鼓、鉦の叩き方、掛け声が決まっている。		市
228	風流踊	木原町太鼓踊り(内畠地区)	三原市木原町内畠(現在の木原町三丁目、四丁目)	木原町太鼓踊り保存会	①木原小学校での町内合同体育祭②新倉町大須賀神社での合同奉納③町内行事④木原小学校の学習発表会	①5月②8月16日③10月第2日曜日④12月	①木原小学校②新倉町大須賀神社③厳島神社と町内各地点④木原小学校	毎年	江戸時代には木原、山中、東野、西野各村が協議し、各村が同日に雨乞踊と神事を執行していた。先達、梵天振り、鉦、太鼓(大太鼓)により構成。前奏、行進、踊りの3つの場面でそれぞれ、太鼓、鉦の叩き方、掛け声が決まっている。		市
229	風流踊	木原町太鼓踊り(福地地区)	三原市木原町福地(現在の木原町五丁目、六丁目)	木原町太鼓踊り保存会	①木原小学校での町内合同体育祭②新倉町大須賀神社での合同奉納③町内行事④木原小学校の学習発表会	①5月②8月16日③10月第2日曜日④13月	①木原小学校②新倉町大須賀神社③厳島神社と町内各地点④木原小学校	毎年	江戸時代には木原、山中、東野、西野各村が協議し、各村が同日に雨乞踊と神事を執行していた。先達、梵天振り、鉦、太鼓(大太鼓)により構成。前奏、行進、踊りの3つの場面でそれぞれ、太鼓、鉦の叩き方、掛け声が決まっている。		市
230	風流踊	深町太鼓踊り	三原市深町	深町太鼓踊り保存会(深町連合町内会文化部に加入)	①深小学校の体育祭②15日は町内巡行、16日は大須賀神社への奉納③干川八幡神社の秋祭	①5月②8月15日16日③10月17日	①深小学校②三原市新倉　大須賀神社(通称　牛神社)③三原市深町干川八幡神社	毎年	ゆっくりと鉦と大太鼓を打ちながら輪になり、徐々に調子を上げ、高調に達したとき「ヤッソレ」の掛け声とともにバチを突き出す。宮司役が踊りの由来などを語り、乱舞する。太鼓・鉦の打ち方に、道行(序・破)、宮入(破)、庭打(序・急・破)、乱舞(急)などがある。九州から都に向かう足利尊氏に、当地の住民が戦勝祈願し踊ったことに由来するとされる。	中断	市
231	祭礼風流	鯨島神社管絃祭	三原市木原町　大鯨島	岩子島民俗文化保存会	岩子島厳島神社の管絃祭	旧暦7月17日、18日	大鯨島周辺の海域と大鯨島島内	毎年	尾道市向島町の岩子島厳島神社の管絃祭の行事の中で、岩子島から無人島の大鯨島に3艘の船が着岸し、鯨島神社で神撰を供して神事を行い、笛「ドンチャン」を奏し、船が岩子島に戻っていた。現在は上陸せず、大鯨島付近の海上で提灯を調えて岩子島厳島神社に戻っている。【悉皆調査No.388、詳細調査No.10参照】		市
232	舞台芸等	深町歌舞伎芝居	三原市深町	中組の住民	干川神社の秋祭、尾道偕楽座での興行	秋の刈り入れ後	仮設の芝居小屋(現在の深小学校のそば)	毎年	深村は神楽や歌舞伎芝居の盛んな土地で、特に中組は歌舞伎芝居に力を注いでいた。明治33年には、因島重井から師匠を招いて地元若者が稽古し、「式三番叟」「曽我物語」「絵本太平記」「平仮名盛衰記」「鎌倉三代記」「菅原伝授手習鑑」「摂州阿漕浦」「傾城阿波鳴門」「仮名手本忠臣蔵」を上演し、干川八幡宮に奉納額が残る。その後近隣各地でも演じた。大正期に廃れる。	中断(大正期～)	

【調査地区34】 旧八幡村、高坂村、長谷村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
233	風流踊	美生(みのう)の行者祭り	三原市八幡町美生	美生盆踊り保存会	美生の行者祭り	毎年8月第1週の土曜日	美生の行者堂前(蓮台寺境内)	毎年	宝暦7年(1757)に建立された修験道(里修験)の行者堂(蓮台寺境内)に由来する踊り。①二つ拍子②三つ拍子③熊谷音頭④扇子踊り⑤弓引き音頭⑥六つ拍子⑦伊勢音頭の7曲。約100本の行者祭幟を掲げ、櫓の周りを輪になって踊る。なお、この行者祭りの踊りとは別に、8月14日に蓮台寺境内で先祖供養・初盆供養の盆踊が行われる。		
234	風流踊	八幡の盆踊	三原市八幡町5地区(垣内・簗・野串、美生、本庄)	八幡町各地区盆踊り保存会	盆踊り行事	毎年8月14日	三原市八幡町各地区	毎年	先祖供養と初盆供養のための盆踊。櫓の周りに輪になって踊る(手踊り・扇子踊り)。①二つ拍子②三つ拍子③熊谷音頭④扇子踊り⑤弓引き音頭⑥六つ拍子⑦伊勢音頭の7曲。		
235	風流踊	御調八幡宮の花おどり	三原市八幡町本庄	花おどり保存会	御調八幡宮例祭の時	御調八幡宮例祭	御調八幡宮	不定期	御調八幡宮氏子5地区が交代で奉納する踊り。鬼を先頭にして武者行列を組み、道中を囃して神社に至り、踊り手は円輪となって、大太鼓・小太鼓・笛・鉦の囃子で踊る。獅子舞は二人立て獅子あやしが付き、前立が後立の肩に乗って傘を持って舞うなど太神楽系の芸態が見られる。近年では平成27年、令和6年に開催。		県
236	風流踊	おぎろ盆踊	三原市長谷町	長谷町盆踊り保存会	長谷町の盆踊り行事	8月13日	三原市人権センター広場(三原市長谷町)	毎年	盆踊の前に初盆の位牌を並べた祭壇を作り、耽源寺と教園寺の住職による読経を行う。役員等の挨拶の後、踊りが始まる。演目は「回りおどり」「熊谷踊り」「扇子踊り」「伊勢音頭」。中心に櫓を立てる。		

【調査地区35】 旧沼田東村、沼田西村、小泉村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
237	神楽 祭礼風流	本市の祇園祭〈沼田神社祇園祭〉	三原市沼田東町本市	本市伝統文化保存会	沼田神社祇園祭（昔は牛頭天王祇園祭→淳田祇園宮祇園祭→淳田宮祇園祭）	7月第1日曜日（7日祇園祭、神幸祭）・7月第2日曜日（本祇園祭、還幸祭）〈旧暦6月7日より14日まで〉	沼田神社境内⇔七宝厳島神社（渡御先）境内への道中及び本市のお旅所（上胡社と市胡社）への道中	毎年	鳳輦による神幸に山車が加わる。山車の上に宮太鼓2台（2名）、6本調子6穴篠笛（4～6名）の演奏者を乗せる。山車は前上に乗馬侍姿人形、後上に旗持侍人形を飾る。笛太鼓による「祇園祭ばやし」は山車の動作に合わせて3種類ある。本祇園祭の当日、沼田神社本殿で行われる悪魔祓いの神楽は、昔は地域住民が舞っていた（現在は世羅郡から招聘）。		市
238	風流踊	盆踊	三原市沼田東町内の各地区	本市伝統文化保存会他	盆供養踊りの行事	8月13～15日の内1日〈旧盆〉	寺院境内、地域公民館他	毎年	盆の時期に行われる先祖供養・初盆供養に由来し、戦前から旧盆の期間中、寺の境内や尋常小学校等で盛んに踊られていた。「廻りの踊り」「熊谷踊り」「扇子の踊り」「手拭い踊り」などを踊る。口説きは段物や入れ節で構成される。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。		

【調査地区36】 旧須波村、幸崎村、鷲浦村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
239	神楽 獅子舞	妙見祭（妙剣祭）の獅子舞	三原市幸崎久和喜（旧幸崎町久和喜）	妙見祭り保存会	妙見祭	正月の14日・15日頃	三原市幸崎久和喜	4年毎	隣組2組が4年毎に当番となり、当番の一戸が神楽太夫の宿（妙剣宿）となる。前夜と当日の2回神楽を行うが、神楽の最中に獅子舞一行は妙剣宿に到着する。獅子が到着すると神楽人は舞を中断し、獅子は剣と鈴を持ってセエゴシという舞を始める。獅子舞の演目は、道触（道行）獅子舞・神楽舞（セエゴン・三番叟・牡丹獅子・祇園獅子・玉獅子）があった。昭和40年以降中断。	中断（昭40～）	
240	神楽 獅子舞	須波皇后八幡神社の猿田彦の舞・獅子舞	三原市須波西（旧須波西町）	ふるさと創生須波会	須波コミセン祭り、須波海浜公園海開き、須波皇后八幡例大祭	9月最終日曜日の前夜	神社境内の特設舞台	毎年	須波神楽は一時途絶えていたが、平成19年に三原市大和町・大草神楽の指導者の指導により復活。備後神楽の系統で、所持演目は「座清米」「清めの相舞」「猿田彦悪魔祓い」。楽器は太鼓・笛・手拍子。獅子舞奉納もある。		
241	獅子舞 祭礼風流	能地春祭のふとんだんじり〈獅子太鼓〉	三原市幸崎能地（旧幸崎町能地）	常磐神社総代会	別名「ふとんだんじり」「浜の祭り」	3月第3土・日曜日	常磐神社を出発。幸崎神社（東の祭）。夜は老婆（うばく）社。翌日常常磐神社（西の祭）へと進む。	毎年	能地の春祭は、旧暦正月24日までに家船が必ず帰港しなければならないことに因み、船留祭と呼ばれ旧暦正月27日に行われた。上に赤い布団を飾るだんじり4基が出て練り歩く。要所で化粧して着飾った子供が「神童」として太鼓を打ち、その周りを獅子が舞う（獅子太鼓）。獅子太鼓の打ち方は38様ある。若者たちはだんじりを担ぎ上げたり、時にだんじり同士を激しくぶつかり合わせたりする。		県
242	風流踊	幸崎久和喜盆踊	三原市幸崎久和喜（旧幸崎町久和喜）	幸崎久和喜町内会	お盆	8月15日	さざなみ学校体育館	毎年	江戸時代には既に行われていたとされる。櫓を組み、4本の竹を立てて提灯を付ける。太鼓に合わせて踊り手は櫓の周りに輪になって踊る。口説きは「巡礼口説き」「鈴木主水橋本屋白糸」「お吉清三」「お染久松」「八百屋お七と吉三」「石童丸」「入れ節」「二番口説き」。		
243	風流踊	盆踊	三原市鷲浦町佐木地区、向田地区、須ノ上地区	各地区の伝統文化保存	お盆	新暦8月14日	各地区にかつてあった小学生の校庭	定期	佐木島では、8月13日夕刻各地で合同慰霊祭（佐木、須ノ上地区は仏式、向田地区は神式）を行い、過去1年に物故者のいる親族は必ず参加する。14日は各区ごとに午後7～10時頃まで盆踊を踊る。かつては青年団が主催し15日までの3日間踊っていたが、現在は地域住民による組織が主催し一日のみとなった。櫓の周りを太鼓の音頭で輪になって踊る。		
244	風流踊	須波西盆踊	三原市須波西（旧須波西町）	須波西盆踊り保存会	お盆	8月14日	四ツ堂の広場	毎年	元は各自の家ごとで踊っていたが、大正時代から四ツ堂広場の一箇所で踊るようになった。櫓を立て、大太鼓の音頭で輪になって踊る。口説きは「巡礼口説き」「鈴木主水橋本屋白糸」「お染久松」「八百屋お七と吉三」「石堂丸」「入れ節」。		
245	風流踊	須波盆踊	三原市須波（旧須波町）	須波盆踊り保存会	お盆	8月15日	須波小学校校庭	毎年	昭和25年以前は初盆の家を廻っていたという。以後町内会主催となり、公民館及び校庭などで踊られるようになった。櫓を立て、大太鼓の音頭で輪になって踊る。「巡礼口説き」「鈴木主水橋本屋白糸」「お吉清三」「お染久松」「八百屋お七と吉三」「石堂丸」「入れ節」「四番口説き」で踊る。		
246	風流踊	須波皇后八幡神社の笠踊り・太鼓踊り	三原市須波西（旧須波西町）	ふるさと創生須波会	須波皇后八幡神社の秋の例大祭など	9月最終日曜日の前夜	神社や慰問先（老人ホーム）	不定期	起源は藩政期、村に疫病が流行った後に須波踊りを奉納したことによるという。戦前は2年毎に奉納されていたが戦後まもなく途絶え、平成12～13年に復活、その後再度中断。獅子舞などの合間に花笠を付けた女性が「笠踊り」、次に男性が「太鼓踊り」をする。笠踊りは10名前後、太鼓踊りは8名前後の構成。	中断（平22～）	
247	祭礼風流	祇園祭	三原市幸崎久和喜（旧幸崎町久和喜）	幸崎久和喜町内会	祇園祭	7月の第1日曜日	神社から宿託宅・町内会長宅・宮総代宅の3軒を回る。	毎年	本来神輿は権現神輿、子供神輿、チョッサ神輿の3台であるが、現在チョッサ神輿は出していない。「チョッサやれやれ」の掛け声とともに宿・町内会・宮総代の3軒を回る。昔は数年おきに屋台を出し、化粧をした子供が屋台上で太鼓を叩きながら道中を練ったという（『思い出のふるさと 九十二の老翁書き残す』S56）。		

248	祭礼風流	管絃祭〈十七夜〉	三原市幸崎久和喜（旧幸崎町久和喜）	幸崎久和喜町内会	管絃祭	宮島の管絃祭に合わせて7月頃	久和喜の海岸	毎年	岩奈岐神社で長さ5、6mの麦藁船を作り、7、8段のロープをって300近くの提灯を付ける。その船を20～30人の青年団で担ぎ、海に沈める（後に燃やす）。女性たちは踊りを踊る。昭和47年頃から中断。	中断（昭47頃～）	
249	祭礼風流	祇園祭	三原市須波（旧須波町）	須波神輿会	中須賀神社（通称：権現様）の祭	7月20日前後〈旧6月9日（御旅所）と15日（各戸）〉	町内の氏子各戸	毎年	神輿は江戸時代からあったと伝わる。乗り子が太鼓を叩き、「チョッサじゃ」の掛け声とともに町内を3台の御輿（権現神輿、チョッサ神輿、子供神輿）が練り歩く。権現神輿とチョッサ神輿が、「チョッサじゃ」の掛け声とともに激しくぶつかり合い最高潮に達する。神輿巡幸は平成30年から中断。	中断（平30～）	
250	祭礼風流	祇園祭	三原市須波西（旧須波西町）	須波西町内会	須波皇后八幡神社の祇園祭	7月の第1土曜日前日祭、第1日曜日が当日祭	須波西町内会内	毎年	神輿は江戸時代からあったと伝わる。乗り子が太鼓を叩き、「チョッサじゃ」の掛け声とともに町内を3台の御輿（権現神輿、チョッサ神輿、子供神輿）が練り歩く。権現神輿とチョッサ神輿が、「チョッサじゃ」の掛け声とともに激しくぶつかり合い最高潮に達する。昔は青年団が主体、現在は町内会が主体で担ぐ。		
251	祭礼風流	だんじり	三原市鷲浦町須ノ上地区、向田地区	2区の氏子有志による伝統文化保存会	向田八幡神社と須ノ上の恵美須神社の例大祭	10月向田八幡神社と須ノ上の恵美須神社の例大祭	向田地区、須ノ上地区	毎年	4人の乗り子（子供）と太鼓を乗せただんじりが神輿とともに町内を練る。担い手は70歳未満の氏子で、近年は伝統文化保存会が結成された。なお、須ノ上の恵美須神社には江戸時代の墨書銘が記されただんじりが保管されている。だんじりは屋根付きで、台車に乗せて担ぎ棒を大勢で支えながら練る。		
252	祭礼風流その他	神明祭〈デコ〉	三原市幸崎本町（幸崎町本町）	常磐神社総代会	神明祭	3月第3土・日曜日浜の祭りより2週間前	一丁目から四丁目の当屋〈くじ引きで当屋を決める〉	毎年	起源は江戸中期といわれている。一～四丁目の各当屋に干支にちなんだものやその年を風刺するような人形（デコ）を飾り、紅白餅や神酒を供える。翌日磯で神明の飾り・デコ・餅を焼く。この餅は食べずに箱に納め、風邪の時に削って食べる。太鼓と笛で囃す。		市

【調査地区37】 大和町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
253	神楽	大草神楽〈大和の神楽〉	三原市大和町大草	大草神楽保存会	大草八幡神社秋の例大祭当日	11月3日	大草八幡神社神楽殿、近隣神社、その他イベント	定期	備後神楽（豊田流）。江戸時代末は神職が舞っていたが、明治初年の神職神楽禁止令により本手または神楽太夫、玄人、プロとよばれる神楽人に伝授された。所持演目は「清女」「四神舞」「神舞（座清女）」「猿田彦（悪魔祓い）」「岩戸開き」「国譲り」「三恵比寿」「三韓征伐」「熊襲」「東夷征伐」「八重垣」「油屋忠兵衛」「播州皿屋敷」「安珍清姫（娘道成寺）」「身売り（竹生島縁起）」「松江騒動」「鬼神お松」「山猫小六」「志賀団七」「大江山」「五行祭」など。昭和40年に大草神楽保存会発足。「大和の神楽」として三原市指定。		市
254	神楽	萩原神楽〈大和の神楽〉	三原市大和町萩原	萩原神楽保存会	市岡八幡神社秋の例大祭	11月第1土曜日・日曜日〈11月2・3日〉	市岡八幡神社舞殿（神楽殿）、近隣神社、その他イベント	定期	備後神楽。江戸時代末は神職が継承。所持演目は「清めの舞」「四人舞」「中央舞」「神舞」「悪魔祓い」「岩戸開き」「国譲り」「三恵比寿」「三韓征伐」「熊襲」「東夷征伐」「八重垣」「油屋忠兵衛」「播州皿屋敷」「安珍清姫（娘道成寺）」「身売り（竹生島縁起）」「松江騒動」「鬼神お松」「山猫小六」「志賀団七」「大江山」「五行祭」。昭和47年萩原神楽保存会が結成。「大和の神楽」として三原市指定。		市
255	神楽	和木神楽〈大和の神楽〉	三原市大和町和木	和木神楽保存会	和木氏八幡神社前夜祭並びに秋の例大祭当日	11月2日前夜祭・3日例大祭当日	和木氏八幡神社神楽殿、近隣神社、その他イベント	定期	備後神楽（豊田流）。江戸時代末は神職が継承。所持演目は「浄め」（2人）「四人舞」（4人）「座浄め」（1人）「悪魔祓」（1人）「八重垣」（大蛇最大4頭）「桝屋お蓮」「松竹梅」「鬼神お松」「油屋忠兵衛」「播州皿屋敷」「安珍清姫（娘道成寺）」「山猫小六」など15演目のほか「五行祭」。昭和32年頃、和木神楽保存会発足。「大和の神楽」として三原市指定。	中断（平27～）	市
256	神楽	大具神楽〈大和の神楽〉	三原市大和町大具	大具神楽保存会	大具八幡神社秋の例大祭	11月12日18時その年の当屋宅、13日12時神楽殿	大具1・2・3区のその年の当屋宅、大具八幡神社神楽殿、三原・東広島を含めた近隣神社、イベント	定期	備後神楽（豊田流）。江戸時代末は神職が継承。所持演目は「清米」（2人）「四人舞」（東西南北4人）「座浄め」（2人）「悪魔祓い」（猿田彦・1人）「大蛇」「三恵比寿」「油屋忠兵衛」「播州皿屋敷」「安珍清姫（娘道成寺）」「山猫小六」「鬼捕り」「松竹梅」のほか「五行祭」。昭和30年代中頃、大具神楽保存会発足。「大和の神楽」として三原市指定。		市
257	獅子舞祭礼風流	神儀	三原市大和町大具	大具八幡神社と氏子	大具八幡神社秋の例大祭当日	11月13日　午前	大具八幡神社とその年の御旅所との往復途上	毎年	大具八幡神社秋季例祭の神輿神幸・還御にて、道切役の猿田彦（着面で太刀を持つ）、毛槍持、幟持、杖持、槍持などの各役などが大名行列に模し、獅子や瓢化者、楽人とともに賑やかに練り歩く。当地では御旅所を珍地処原といい、猿田彦が奉納する舞を「珍地処舞」といった。楽器は太鼓・笛・鉦。昭和60年頃を最後に中断。	中断（昭60頃～）	
258	風流踊	萩原盆踊り大会	三原市大和町萩原	教専寺総代会、以前は青年会	盆法要	8月13日	教専寺境内	定期	法要で正信偈を読経後、午後8時頃から「三角踊り」（足を三角に運ぶ）「やんさ踊り」「扇子踊り」「四拍子（よつびょうし）」「炭坑節（初めと終わりに）」で踊る。昔は浴衣、鳥追笠、仮面もあった。櫓の周りを輪になって太鼓の音頭で踊る。扇子踊・炭坑節は戦後に加わった。		
259	風流踊	上徳良盆踊	三原市大和町上徳良	上徳良盆踊り夏祭り実行委員会	上徳良盆踊り夏祭り	8月14日	照明寺境内	定期	17時半から22時まで「手ぬぐい踊り（阿波の鳴門の調べ）」「扇子踊り（熊谷音頭・扇子1本、鈴木主水の調べ・扇子2本）」「三角踊り（春徳丸の調べ・口説き）」「炭坑節」などで踊る。演目は近隣のものと共通点が多いが、所作は異なる部分が多い。櫓の周りを輪になって太鼓の音頭で踊る。炭坑節は戦後に加わった。		

260	風流踊	大草の盆踊	三原市大和町大草	大草自治振興会夏祭り大会	大草自治振興会夏祭り大会	8月13日	大草公民館駐車場	定期	昭和40年代中頃、大草地域全体の盆踊り大会を開催する機運が高まり、上福田集落の演目やその口説き、所作を基に再編。「棲真寺縁起」「熊谷踊り」「更生踊り」「豊年踊り」「復興踊り」「大和ふるさと音頭」。過去1年間の物故者へ黙祷の後、櫓の周りを輪になって太鼓の音頭で盆踊を行う。		
261	風流踊	大具盆踊	三原市大和町大具	大具地区社会福祉協議会、以前は大具盆踊保存会	盆法要	8月13日	円光寺境内	定期	法要の後、盆踊りを行う。櫓の周りを輪になって太鼓の音頭に合わせて踊る。演目は「伊勢音頭」「三角踊り(足の運びが三角)」「やんさ踊り」「扇子踊り(熊谷踊り)」「手ぬぐい踊り」。		
262	風流踊	和木盆踊り大会	三原市大和町和木、箱川	和木青年会	お盆	8月13日	和木交差点近く商工会駐車場	定期	起源は不明だが、戦後は和木青年会と商工会の共催で催行。昭和49年に一時中断、昭和56年に復興し現在に至る。「伊勢音頭」「三角踊り」「熊谷踊り(扇子踊り)」「手ぬぐい踊り」があり、昭和の終わり頃に創作された「和木音頭」をトリに踊る。櫓の周りを輪になって太鼓の音頭に合わせて踊る。		
263	風流踊	野呂池観音堂の念仏踊	野呂山北側の三原市大和町椋梨と南側の東広島市河内町小田	椋梨地区住民と明円寺、小田地区住民と浄蓮寺	野呂池観音堂の祭、お盆	〈4月25日、8月16日〉	三原市大和町椋梨と東広島市河内町小田の境界、野呂山尾根上にある下野呂池阿弥陀堂(野呂池観音堂)前	毎年	毎年4月25日の野呂池観音堂の祭において、法要・僧侶の読経の後、椋梨村と小田村の地域住民で念仏踊を踊った。また、8月16日の夜にも両村から男女が観音堂に登ってきて掛踊りが踊られたという。昭和30年代中頃中断、平成13年に祭のみ復活した。	中断(昭30代半ば～)	
264	風流踊	椋梨盆踊	三原市大和町椋梨	椋梨地区社会福祉協議会	盆法要	8月13日	明円寺境内	定期	戦前から行われてきたと考えられる。昭和30年から中断し、同45年に復活。盆法要の後、盆踊りを行う。櫓の周りを輪になって踊る。現在踊られている伝統的な曲には「竹原音頭」「さんこ踊り」「熊谷踊り(扇子踊り)」があり、ほかに「伊勢音頭」「三角踊り」「やんさ踊り」「北山踊り」「手ぬぐい踊り」が伝わる。囃子は太鼓。曲や口説き、所作には近隣の大具盆踊の影響がある。		
265	祭礼風流	神殿入り(こうどなり)	三原市大和町萩原	神社総代会	市岡八幡神社宵祭	11月第1土曜日〈11月2日〉	大和町萩原(城山下から市岡八幡神社まで約1km)	定期	献灯祭ともいわれる。萩原地域5地区が城山下に集合し、午後10時に地区毎に出発する。先頭は竹をコの字に括り、提灯を4つ下げた御神灯を2人で掲げる。神輿、御神灯を手にした各氏子はそれに続く。山車が先導する。山車には神輿と太鼓、横笛、鉦の楽者が乗り、楽を奏する。神社では宮司が神楽殿の前で迎える。		
266	祭礼風流	神殿入り	三原市大和町下徳良	神社総代会	亀山神社例大祭の前夜祭	10月第4土曜日	大和町下徳良(各地区集合場所から亀山神社までの間)	定期	下徳良地域のうち7地区によって催行。平成10年代初め頃から、先頭を花車が先導し、御神灯を手にした各氏子はそれに続く。花車には太鼓、横笛、鉦の楽者が乗り、楽を奏する。神社では宮司が鳥居の前で迎え、お祓いをうける。なお、参着地区順は年替りである。		
267	祭礼風流	神殿入り	三原市大和町上徳良	神社総代会	八和田(やわた)神社秋の例大祭の前夜祭	10月最終の土曜日若しくは11月第1土曜日	大和町上徳良(集合場所から八和田神社までの間)	定期	上徳良地域のうち2地区によって催行。各地区で集合の後、神社に21時参着、御神灯を掲げて1列で進む。花車が先導し、御神灯を手にした各氏子はそれに続く。花車には太鼓、横笛、鉦の楽者が乗り、楽を奏する。		

【調査地区38】 本郷町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
268	神楽	豊田神楽(備後神楽)	三原市本郷町						備後神楽。時期は不明だが戦前には衰退し、大和町などから団体を招いた。		
269	神楽 祭礼風流	橘神社秋祭の神楽	三原市本郷町本郷	橘神社	橘神社の秋祭	10月第1日曜日	橘神社	定期	以前は10月4日(前夜祭・ヨゴロ)、5日(大祭)で秋祭が執行されていた。ヨゴロには沼田川周辺の神楽団が五行祭や八岐の大蛇などの狂言舞を演じた。昭和5、6年頃の大祭では120貫の大だんじりが曳かれた(『本郷町史』)。神輿は過去は3基、現在は2基が出る。		
270	風流踊	松原盆踊	三原市本郷町南方	町内会	お盆		松原桃源会館		町内会が主催し催行される(『広島県の盆踊(概報)』)。	中断	
271	風流踊	本郷盆踊	三原市本郷北		お盆	8月第1土曜日	本郷人権文化センター	毎年	本郷分館が主催し催行する(『広島県の盆踊(概報)』)。		
272	風流踊	平坂盆踊	三原市本郷町船木		お盆	8月	平坂集会所	定期	町内会が主催し催行する(『広島県の盆踊(概報)』)。新型コロナ禍以降中断。	中断	
273	風流踊	蟇沼(ひきぬま)盆踊	三原市本郷町南方		お盆				町内会が主催し催行する(『広島県の盆踊(概報)』)。	中断	
274	風流踊	日名内(ひなない)盆踊	三原市本郷町南方		お盆	8月			町内会が主催し催行する(『広島県の盆踊(概報)』)。	中断	
275	風流踊	中筋盆踊	三原市本郷町船木		お盆	8月			「籾さがし」という曲で踊った。楽は大太鼓と鉦(『広島県の民謡　広島県民謡緊急芸能調査報告書』)。現在は中筋地区では行わず、船木コミュニティセンターで一部を実施。		

276	風流踊	河内谷盆踊	三原市本郷町船木		お盆				町内会が主催し催行する(『広島県の盆踊(概報)』)。	中断	
277	風流踊	北方盆踊	三原市本郷町上北方	北方町内会連合会	北方地区夏まつり	8月13日	北方コミュニティセンター	定期	以前は北方分館(『広島県の盆踊(概報)』)、現在は北方町内会連合会が主催し催行する。櫓を立て、輪になって踊る。楽器は太鼓。		
278	風流踊	川西盆踊	三原市本郷町船木	川西の有志	慰霊祭	毎年8月14日	川西上集会所	毎年	川西ふるさと育成会が主催し催行する。慰霊祭の後、盆踊りを行う。「鈴木主水」「橋本屋白糸(扇子の踊り)」「阿波の鳴門巡礼」「石童丸(てぬぐいを用いる)」「八百屋お七と吉三」「お監亀松大工殺し」で踊る。櫓を立てる。楽器は太鼓。		
279	風流踊	尾原盆踊	三原市本郷町南方		お盆				町内会が主催し催行する(『広島県の盆踊(概報)』より)。新型コロナ禍以降中断。	中断	
280	祭礼風流	祇園さん	三原市本郷町船木	ヘキレキ神社の氏子(船木の6地区が当番で執行)	ヘキレキ神社の秋祭	7月第1日曜日	船木町内	定期	6地区が順番に当番を務める。神輿は午前中当番地区、午後他地区を廻る。鬼が紅白棒で、子供を驚かして元気づける。ヘキレキ神社では10月第3日曜日には秋祭が行われ、稚児行列があり、神楽は県北の団体を招く。新型コロナ禍以降中断。	中断	
281	その他	船木の虫送り	三原市本郷町船木	姥ケ原町内会	虫送り	7月	三原市本郷町船木姥ケ原地区	定期	町内の大人・子供が参加。奥の祖原に集合し、竹筒に火を付けて太鼓を響かせながら、町内入り口の鬼の釜と呼ばれる場所まで歩く。そこで竹筒を燃やし、火が消える頃に当番宅にて飲食し語り合う(『本郷町史』)。用具・楽器は、松明、太鼓、鉦。西日本豪雨災害以降中断。	中断(平30～)	

【調査地区39】 久井町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
282	神楽	久井神楽	三原市久井町羽倉	久井町神楽保存会	神社祭礼ほか		神社神楽殿ほか		備後神楽の系統。江戸時代前期から伝承されてきたと伝わる。久井八か村の総鎮守である稲生神社をはじめ、地域の貞清神社や卯ノ宮神社、荒神社の式年祭、個人宅などで実施。会員高齢化のため活動は現在休止している。	中断	市
283	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉	三原市久井町下津地区・久井稲生神社	久井稲生神社ぎおん祭執行総代会	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社・摂社八重垣神社	毎年	氏子7地区が年番で、境内4箇所において雨乞いと豊作を祈願し、鉦や大太鼓、緩やかな拍子の歌に合せて杖踊りやぎおん踊り、獅子舞を奉納する。起源は大永4年(1524)、高根山城主・山名氏が神社参詣した際に領民が奉納したことに因むという。		県
284	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉(下津地区)	三原市久井町下津地区・久井稲生神社	下津自治区	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社、下津八幡神社	毎年	由来などは「稲生神社ぎおん祭のおどり」を参照。一団の構成は杖踊り12名程度・ぎおん踊り15名程度・獅子舞8名程度。所持演目は「花のおどり」「鶴のおどり」「地王おどり」。		県
285	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉(黒郷地区)	三原市久井町黒郷地区・久井稲生神社	黒郷自治会	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社、黒郷貴船神社	毎年	由来などは「稲生神社ぎおん祭のおどり」を参照。一団の構成はぎおん踊り15名程度・獅子舞8名程度。所持演目は「姫御おどり」「いさごおどり」「天竺おどり」「花のおどり」「つぼねおどり」。		県
286	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉(泉地区)	三原市久井町泉地区・久井稲生神社	泉自治区	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社、泉八幡宮	毎年	由来などは「稲生神社ぎおん祭のおどり」を参照。一団の構成はぎおん踊り15名程度・獅子舞8名程度。所持演目は「みちびきおどり」「なぞかけおどり」「しのびおどり」「花のおどり」「竜王おどり」。		県
287	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉(和草地区)	三原市久井町和草地区・久井稲生神社	和草自治区	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社、法泉寺	毎年	由来などは「稲生神社ぎおん祭のおどり」を参照。一団の構成はぎおん踊り15名程度・獅子舞8名程度。所持演目は「花のおどり」「姫御おどり」。		県
288	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉(江木地区)	三原市久井町江木地区・久井稲生神社	江木自治区	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社、江木艮神社	毎年	由来などは「稲生神社ぎおん祭のおどり」を参照。一団の構成は杖踊り12名程度・ぎおん踊り15名程度・獅子舞8名程度。所持演目は「ざんざれおどり」「花のおどり」「五色おどり」「いさごおどり」。		県
289	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉(莇原(あぞうばら)地区)	三原市久井町莇原地区・久井稲生神社	莇原自治区	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社、莇原八幡神社、莇原高杉神社	毎年	由来などは「稲生神社ぎおん祭のおどり」を参照。一団の構成はぎおん踊り15名程度・獅子舞8名程度。所持演目は「花のおどり」「姫御おどり」「いさごおどり」「五色おどり」。		県
290	獅子舞 風流踊 祭礼風流	稲生神社ぎおん祭のおどり〈ぎおんさん〉(吉田地区)	三原市久井町吉田地区・久井稲生神社	吉田自治区	久井稲生神社ぎおん祭	7月15日に近い日曜日	久井稲生神社、吉田天満宮	毎年	由来などは「稲生神社ぎおん祭のおどり」を参照。一団の構成はぎおん踊り15名程度・獅子舞8名程度。所持演目は「ざんざれおどり」「いさごおどり」「姫御おどり」。		県
291	風流踊	坂井原盆踊	三原市久井町坂井原	坂井原盆踊り保存会	坂井原地区夏祭	8月13日前後の土曜日〈毎年8月13日〉	三原市久井認定こども園	不定期	当地の盆踊は初盆供養として、坂井原龍見寺の境内や初盆宅の庭で供養の最後に踊ったという。6部構成で櫓を中心に踊りながら4列で入場、四つ巴・井桁状で進み1つの大きな円から再び4列となり退場する。「平和踊り」「月見踊り」「坂井原踊り」「末広踊り」「大仙踊り」「伊勢踊り」。それぞれ踊り方は異なり、「いとまごい」の口説きで切り替える。		
292	舞台芸等	村芝居	三原市久井町江木	詳細は不明	秋	豊作の年	収穫後の畑など	不定期	村芝居は豊年の時、畑地に小屋掛で行ったという。大正時代からは劇場で行われた(『広島県文化財調査報告　第5集』)。	中断	

（5） 尾道市

【調査地区40】 旧尾道市域の一部（41～43以外）

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
293	風流踊	栗原鉦太鼓踊	尾道市栗原町　栗原烏須井八幡神社	栗原町内の7町内会	盆鉦太鼓踊り	8月15日	栗原八幡神社境内	毎年	7町内会が担い手となる。踊りながら栗原小学校に集合し、隣接の烏須井八幡神社で奉納される。曲は「道行」「打上」「入鼓」「庭打」。楽器は鉦、小鉦、太鼓。雨乞い踊りとして約400年前から始まったとされ、一時途絶えていたが復活した。		
294	風流踊	慰霊祭盆踊〈地蔵祭〉	尾道市東久保町西郷寺		お盆の地蔵祭		西郷寺	毎年	10年以上前に廃絶。現在は施餓鬼供養のみ行われる。	中断	
295	風流踊	慰霊祭盆踊	尾道市大宮	町内会	お盆			毎年	10年以上前に廃絶。現在は施餓鬼供養のみ行われる。	中断	
296	風流踊	太鼓おどり〈吉和太鼓おどり〉	尾道市吉和西元町	吉和太鼓踊り保存会	8月での行事に合わせて	8月18日・19日〈旧暦7月18日（毎年）〉	浄土寺境内、市内本通り商店街、吉和地区	2年毎	赤鬼・青鬼が随行する船「観音丸」を先頭に、オウド（太鼓）・カンコ（小太鼓）が鉦に合わせ舞う。足利尊氏の戦勝祝いに尊氏の要請に従った当地の漁師たちが踊ったとする説、疫病が収まり、浄土寺の十一面観音に感謝の踊りを奉納したとする説など、由来は諸説ある。		県
297	風流踊	尾崎盆踊	尾道市尾崎本町	町内会	盆踊り行事	8月15日夜	尾道漁協駐車場	毎年	市内5ケ寺（浄土寺・正念寺・海龍寺・海徳寺・海福寺）の僧侶を招き、新仏の供養を行う。初盆の家は提灯を用意する。その後、口説きや民謡で踊る。口説きの内容は漁業にかかるものが多い。		
298	風流踊	手踊り	尾道市栗原町						詳細は不明。	中断	
299	風流踊	盆踊	尾道市西久保町浄泉寺	子供会					詳細は不明。	中断	
300	風流踊	盆踊	尾道市天満町						天満三区町内会が主催。平成24～25年から夏祭りに実施。平成30年の西日本豪雨やコロナ禍により休止。		
301	風流踊	盆踊	尾道市三軒家町	三北町内会、若宮町内会					詳細は不明、平成24～25年以前から中断。	中断	
302	風流踊	八朔盆踊	尾道市西久保町				正念寺		詳細は不明。	中断	
303	風流踊	正念寺の踊念仏	尾道市西久保町正念寺	檀信徒、「尾道時宗プロジェクト」の協力者	踊念仏	3月（永大経会）、8月（八朔施餓鬼）	正念寺本堂	定期	時宗寺院である正念寺の宗教行事として行われる、時宗の祖・一遍上人に由来する踊り。皆で念仏を唱えながら、浄衣を着た5人の女性が太鼓に合わせ、鉦をたたきながら反時計まわりに踊りながら回る。長らく途絶えていたが、平成初期に復活した。		
304	風流踊	吉浦盆踊〈吉浦地踊〉	尾道市吉浦町	吉浦町内会	お盆	8月14日又は15日夜		毎年	吉和地区内のうち、吉浦町のみ単独で実施。かつて口説きも行われていたが、現在は流行歌で踊る。		
305	風流踊	吉和盆踊〈ばんば踊〉	尾道市吉和地区	町内会	お盆	8月15日夜	吉和小学校校庭	毎年	神仏供養を目的とする盆踊。旧町各集落で行われていたが、昭和30年頃西元町、東元町、正徳町（旧漁師町）が合同で開催したことから、以後合同で開催・継承されている。新仏のある家は遺影と位牌を持参する。供養行事に続いて盆踊をする。「鈴木主人橋本屋白糸」を一ツ拍子、二ツ拍子　三ツ拍子、四ツ拍子の順にテンポを変えながら口説く。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。		
306	風流踊	久山田の鉦太鼓踊り	尾道市久山田町	久山田町郷土芸能保存会	旧盆	8月14日〈8月15日、栗原地区と日程が重なるため変更となった〉	久山田公民館～久山田八幡神社	毎年	雨乞い祈祷により雨に恵まれ、そのお礼に鉦や太鼓を鳴らし踊ったのが始まりという。江戸時代末期製作の太鼓が現存する。戦後中断していたが、昭和52年に復活。楽器は鉦、小鉦、太鼓。道中、神社境内などの場面に応じて、「道行」「打上」「入鼓」「庭打」を演じる。行列の先導は馬簾状の「纏（まとい）」を持つ。		
307	風流踊	慰霊祭盆踊	尾道市久保町	共楽会					盆踊は10年以上前に中断。現在は施餓鬼供養のみ行われる。		
308	祭礼風流その他	ベッチャー祭	尾道市東土堂町	ベッチャー祭り保存会	ベッチャー祭り	11月3日	吉備津彦神社、市内	毎年	文化4年（1807）疫病が流行し、町奉行・樺山治右衛門が各神社に平癒祈願を命じ、満願の日に神輿を担いで練り歩いたのが始まりという。面を付けた「ベタ（部悪）」・「ソバ」・「ショーキー（鍾馗）」が棒やササラ竹（祝棒）を持ち、子供を突いたり、叩いたりする。叩かれた子供は一年中病気にならない（風邪をひかない）という。		市

【調査地区41】 旧美ノ郷村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
309	獅子舞	猪子迫(いのこざこ)大獅子舞〈いのこのししまい〉	尾道市美ノ郷町猪子迫	猪子迫町内会(猪子迫大獅子舞保存会)	地域の祭り、祝い事の行事	しまなみ海道開通行事の演舞が最後となる	地域の祭り、祝い事の行事に協賛するので特定はない	昔:不定期	六柱神社の裏山に猪が現れるようになり、村人たちはその猪を六柱権現の使いと信じて獅子頭を奉納したことが始まりと言い伝えられている。獅子の胴幕には10名前後の大人数が入り、大太鼓4名、腰鼓童子3名、銅鈸子童子9名、笛童女5名(＋男子1名)、ササラを持つ道化役2名など総勢50名ほどで一団が構成される。舞の種類は「道行」「庭入り」「宮参り」「打締」がある。境内の宮参りでは三段の継獅子となり、口上が書かれた幕を口から垂らして万歳を呼びかける。	中断(平12～)	市
310	風流踊	鉦太鼓踊り	尾道市美ノ郷町三成	大迫・才原・下猪子迫・白江町の各町内会	三成八幡神社秋季大祭	10月第3日曜日　隔年毎〈8月の盆〉	尾道市美ノ郷町三成　三成八幡神社境内	1年毎	鉦に明治・大正の銘が見られ、近代には既に行われていたことがうかがえる。鉦・打ち込み鉦は輪になり、内側に太鼓、かんこが陣取り、鬼がリード役となり、瓢げたひょっとこが笑いを誘う。曲は「道行」「打ち込み」「なで踊り」「打ち上げ」。なで踊りでは、ゆったりしたリズムで、口説き(しどろまどろ・そよりの唄)と打ち込み鉦、横笛が入る。		

【調査地区42】 旧木ノ庄村、原田村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
311	獅子舞	獅子舞	尾道市原田町梶山田	地元住民	榲原八幡宮秋季大祭の前夜祭ほか	10月～11月	榲原八幡宮の境内、梶山田の3地域(下組、上小味・下小味、上組)	定期	3体の獅子が各々獅子頭を豪快に振りながら舞い、最後は屈強な大人3人が2段組みを作り立ち上げる。県内でも珍しい継獅子である。獅子は口から口上が書き込まれた垂れ幕を垂らし、周囲が暴れる獅子を取り押さえ舞い終える。舞は「道行」「獅子舞」「打ち締め」を演じる。【詳細調査No.8】		
312	風流踊	小味(こみ)の花おどり	尾道市原田町梶山田、摩訶衍寺	小味花踊り保存会	十一面観音本開帳・半開帳の日など	秘仏である十一面観音本開帳の日(33年に一度)、半開帳の日(17年に一度)	摩訶衍寺の境内ほか。各種イベント主催者の要請を受けて上演することがある。	定期	摩訶衍寺の秘仏・十一面観音の開帳の際に奉納される。花をつけた笠をかぶった数十人の踊り子がかん鼓、鉦(チャンギリ)、笛にあわせて踊る。雨乞踊の「花の踊り」、凱旋踊の「糸屋踊り」と「薩摩踊り」がある。「糸屋踊り」は太鼓20張を主体にしたもの。		県
313	風流踊	鉦太鼓踊り	尾道市原田町梶山田	地元住民	榲原八幡宮秋季大祭の前夜祭	榲原八幡宮の秋の大祭の前夜祭の一行事として、梶山田の3地域(下組、上小味・下小味、上組)の秋の地域行事として	榲原八幡宮の境内、梶山田の3地域(下組、上小味・下小味、上組)	定期	杉原氏が武勲により足利尊氏から木梨庄13ケ村を賜った際、住民たちが祝いで鉦太鼓踊りを奉納したことが始まりという。20人前後の踊り手が大きな太鼓を抱えて輪になり、輪の外側に配置される3～4個の大きな鉦の音に合わせて、足を上げて飛び跳ねながら踊る。踊りは「庭入り」「なぜ踊り」「せぐり」「三ツ拍子」があり、なぜ踊りでは歌詞を伴う。【詳細調査No.8】		
314	風流踊	小原(おばら)盆踊り大会	尾道市原田町小原	地元住民	お盆	8月14日・15日、小原の5地域(下組、中組、西組、上組、枝組)の地域行事として行う	小原コミュニィーセンターの広場	毎年	先祖供養。年により異なるが、50人から60人程度の行列で二重、三重の輪を形成して踊る。「小原音頭」「炭坑節」や流行歌が使用される。		
315	風流踊	梶山田盆踊り大会	尾道市原田町梶山田	地元住民	お盆	8月半ば	梶山田の3地域(下組、上小味・下小味、上組)	毎年	先祖供養。年により異なるが、30人から40人程度の行列で二重、三重の輪を形成して踊る。「尾道音頭」「尾道三下がり」「炭坑節」や流行歌が使用される。下組では、盆踊のほか獅子舞と鉦太鼓踊りも行う。		
316	風流踊	木ノ庄の鉦太鼓おどり	尾道市木ノ庄町幣高八幡神社	木ノ庄東地区民芸保存会	幣高八幡神社秋の大祭	10月第3日曜日	幣高八幡神社境内	毎年	杉原氏が武勲により足利尊氏から木梨庄13ケ村を賜った際、住民たちが祝いで鉦太鼓踊りを奉納したことが始まりという。「道行」「なぜ」「ぬけ」で踊りが構成される。一組の大鉦と大太鼓を中心に、鬼やチャリなどの道化、笛とカンコ、大太鼓、大鉦という順で囲み、踊りの輪は四重・五重にもなる。		県

【調査地区43】 旧高須村、山波村、西村、百島村、浦崎村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
317	神楽	浦崎神楽	尾道市浦崎町	浦崎神楽連絡協議会	浦崎住吉神社秋季例大祭	毎年10月第2土曜日など	浦崎住吉神社及び町内各区神社、施設	毎年	10月第2土曜日、地域内の神楽団が一同に住吉神社に会して行われる。浦崎町の上組・下組・海老・高尾・灘・新田・戸崎・満越の各区に神楽保存会があり、分担して12演目が奉納される。所持演目は「悪魔祓い」「長隋師」「巻物」「姫梶」「皇子王子」「玉取公」「牛若丸」「万古大王」「紅葉狩り」「八重垣」「剣舞」「王子」「五穀」「盆舞」など。各地区でも氏神の秋祭等で奉納される。【詳細調査No.9】		
318	神楽	百島神楽	尾道市百島町	百島神楽団	百島八幡神社、貴船神社、厳島明神社の秋季例大祭	毎年10月第3日曜日	百島八幡神社、貴船神社、厳島明神社	毎年	本村・泊・福田各地区の神社で奉納される。浦崎より伝播したといい、明治期にはすでに演じられていたという。所持演目は「悪魔祓い」「玉取」「剣舞」「やほよれん狐の舞」「天神地祇」など20演目。現在は「悪魔祓い」「手洗石」「大江山寿天童子」「剣舞」「五穀明神」「八重垣」「皇子の舞」などが演じられている。		
319	神楽	太田神楽	尾道市高須町字太田	太田神楽保存会	神社秋季例大祭	10月第3日曜日	諏訪加茂神社	毎年	明治中期、有志によって舞われていたと伝えられる。大正10年に書きまとめられた台本が現存する。所持演目は「悪魔祓い」「神殿の鎮(かどのしずめ)」「社水」などの神儀舞や「大江山」「淡海公」「伊吹山」「牛若丸」「四本舞」「八重垣」など。戦後しばらく中断していたが、昭和57年に復活。		
320	神楽	山波(さんば)神楽	尾道市山波町	山波神楽団(山波民俗行事保存会)	山波艮神社例祭	10月第3日曜日・前夜	艮神社境内の仮設舞台	定期	明治初め、神楽太夫から荒神神楽として村人が受け継いできたという。所持演目は所持演目は「悪魔祓い」「玉取」「剣舞」「やほよれん狐の舞」「天神地祇」など約20演目。現在は「悪魔祓い」「手洗石」「大江山寿天童子」「剣舞」「五穀明神」「八重垣」「皇子の舞」などが演じられている。		市
321	風流踊	浦崎町盆踊	尾道市浦崎町	各町内会	お盆	毎年8月	浦崎町内各地区	毎年	踊り方や拍子には一つ拍子、二つ拍子、三つ拍子、四つ拍子、みずほ踊りがあり、音頭に合わせて手振り足踏み、美しく面白く跳ね踊る。口説き、音頭は「男女物語」「鈴木主水」「石童丸」「俊徳丸」「巡礼おつる」「阿波の十郎兵衛」「八百屋お七」「平井権八」など。		
322	風流踊	提灯祭りの盆踊	尾道市高須町		献灯祭「どんかん祭り」	9月敬老の日前夜祭〈中庸／9月15日前夜〉	高須八幡神社境内	毎年	神社勧請を祝って奉納されたといわれているが、詳細は不明。40～50年前までは神輿が一団を先導していたという。行燈を持ち、境内に入り、3周宮巡りをする。楽器は鉦・太鼓。芸態は福山市本郷町のひんよう踊に類似する。		
323	風流踊	盆踊	尾道市山波町	専唱寺、山波体育協会	山波盆踊の行事	8月14日夜	尾道市山波公民館(昔:尾道造船所構内)	定期	元々当地で演じられていた口説きや踊りを青年団が担い手となり、継承してきた。二ッ拍子「山崎サンダー」、三ッ拍子「尾道心中」、四ッ拍子「鈴木主水」を公民館で踊る。かつては漁協や造船所などでも踊った。		
324	その他	艮神社の餅搗神事	尾道市山波町	山波町民俗芸能保存会	山波艮神社秋季例大祭宵祭	毎年10月第3土曜日	尾道市山波町	毎年	吉備津彦命が山波の浜に降り立った際に村人が餅を搗いて捧げたのが起源と伝わる。戦前までは頭屋の家の中で行われた。海水で身を清めた若者が木臼を杉の丸太で担ぎ、木遣音頭や伊勢音頭で囃しながら頭屋へ運んでいたという。神社境内では、6～10名程度ずつ大臼の周囲を廻りながら長さ150cm程度の「サスリ」と呼ばれる手杵で「エト、エト、トエサ」と掛け声勇ましく餅をつく。		市
325	その他	山波とんど	尾道市山波町	山波町神明行事保存会	神明祭	毎年1月第2日曜日	尾道市山波小学校グランド、町内一円	毎年	神明の石台には「神明祭」と記されている。組み上げたとんどを土台に乗せ、数十人で神輿のように担ぎ上げる。干支にちなんだ作り物を製作し、太鼓で調子を取り、大勢で囃し唄を歌いながら、時にとんど同士をぶつけ合ったり、上下に揺らしたりして会場を練り歩く。地面に降ろされたとんどは門松や正月の注連縄とともに燃やされる。		
326	その他	百島お弓神事	尾道市百島町	島内の福田、本村、泊の住民	現在はお弓神事のみだが、かつては湯立も行われていた。	毎年1月第3日曜日〈1月14日〉	百島八幡神社	毎年	起源は嘉吉の乱で逃亡していた赤松満祐とその一族七人が百島に住み着き、追手を迎え撃つため弓の稽古をしたのが始まりという。60cmほどの丸い的には中央にかわらけが吊るされている。射者は15名、太鼓の合図により、各30本ほど矢を放つ。		市

【調査地区44】 向東町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
327	神楽	歌神楽	尾道市向東町歌	個人	向東八幡宮例大祭の芸能祭	旧暦8月13日	向東八幡宮境内	毎年	伊勢神楽の系統という。舞手1名、太鼓1名、チャンギリ1名で構成。演目は「悪魔払い」「剣舞」。	中断(平29頃～)	
328	風流踊	盆踊	尾道市向東町歌	地区住民	お盆	8月(1月遅れの盆前後)	歌漁港網揚げ場	毎年	新仏供養。「向島音頭」「正調三下がり」「四つ拍子」などを踊る。「四つ拍子」は現在も口説きに合わせて、囃しながら踊る。		

329	風流踊	盆踊	尾道市向東町古江浜	地区住民	盆踊り行事	旧盆前後	新仏のある家やムカワリ(一周忌)が済んでいない家の前庭、金比羅社境内など	毎年	新仏のある家やムカワリ(一周忌)が済んでいない家は当屋とも呼ばれ、接待する。口説きは「鈴木主水」「俊徳丸一代」「お夏清十郎」「石童丸と苅萱道心」「えびや甚九」「兄妹心中」「ひめ落し」。佳境に入ると「踊りが弾んだ」「仏が喜んだ」などの言葉が人々の間で交わされた。(『むかしの古江浜　尾道市向東町古江浜の郷土史』より)		
330	風流踊	地踊り	尾道市向東町古江浜	地区住民	御堂荒神社例祭	旧暦9月27日	古江浜地区一帯	毎年	当日午前に数珠繰り(「ひゃくまんべえ」という)を行い、午後から地踊りが出発。太鼓役、鉦役、笛役の総勢20名ほどが荒神社の参道を登る。境内に入ると、飾り撥を振り上げ「ヤーハーハッコリャミ、ヤ、ヨイトマコサノサイ、ヤ、コリャセー」と木遣り音頭に合わせて踊りながら太鼓を打つ。太鼓踊りの系譜。(『むかしの古江浜　尾道市向東町古江浜の郷土史』より)		

【調査地区45】因島

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
331	神楽	中庄(なかのしょう)神楽〈中庄十二神祇神楽〉	尾道市因島中庄町	中庄十二神祇神楽保存会	中庄八幡神社秋の例大祭、春祭り芸能奉賛会	4月第3日曜日、10月第2土曜日、〈4月15日、10月15日〉	中庄八幡神社　神楽殿	毎年	起源は不明だが、安政7年(1860)の神楽目録を昭和3年に舞子が書き写したものが現存する。所持演目は「御神殿入(御先祓)」「場堅」「弓関」「大刀司」「一番舞」「手水」「林気」「鞭舞」「四天皇」「手草」「注連口」「神迎」「行」「造花」「蛭子」「天磐戸開」「剱舞(四方堅)」「夜覇餓岐」「小弓狩」「降平」「天孫降臨」「柴」「仁天」「弓関」「三韓御退治」「皇子」「舞上」。		県
332	神楽	田熊神代神楽	尾道市因島田熊町	田熊神代神楽保存会	亀甲山田熊八幡神社例大祭	10月の第2日曜日の水曜日～日曜日〈10月18日までの5日間〉	東浜明神社お旅所(本町区)、箱崎浜おとぐい石(土生町箱崎区)、田熊八幡神社神楽殿	毎年	明治初期、山中村(現三原市中之町)加羅賀波神社の神職より伝授されたという。所持演目は「悪魔払い」「神迎いの舞」「祈敷の舞」「小弓の舞」「二天舞」「四天舞」「剣舞」「天の岩戸舞」「八重垣」「王子舞」「恵比須舞」「両刀舞」「弓関」。楽器は太鼓、笛(神楽笛)、手打鉦。田熊八幡神社での奉納では、四方に笹竹を立てた仮設舞台で演じる。		市
333	風流踊	大浜盆踊〈盆踊〉	尾道市因島大浜町	現在は各種団体による盆踊り実行委員会	大浜町盆踊り行事	8月13日　15日　18日	見性寺→旧大浜小学校→元大浜農協の裏の広場	毎年	先祖供養。町民が所属する各団体が参加し、「俊徳丸」を踊る。楽器は太鼓。		
334	風流踊	重井盆踊	尾道市因島重井町	重井町女性の会	お盆	8月13、14、15日	小学校校庭〈三地区(東・西・中)の新盆の家の前〉	毎年	昭和30年頃までは新盆の家の前で行い、現在は町内全体で小学校校庭で実施。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。昔は3地区それぞれ新盆の家の前で太鼓を叩いて地歌で踊っていた。		
335	風流踊	外浦法楽(とのうらほうらく)〈法楽〉	尾道市因島外浦町	外浦町町内会	お盆	8月15日	外浦町町内、艮神社境内	2年毎	村上水軍の出陣や凱旋で踊られていたものが、盆に疫病流行などで亡くなった方の死者供養でも踊ったという。艮神社で祈祷後一踊りし、その後町内を巡行する。幟や刀を持ち、白に統一された衣装に笠をかぶる。楽器は鉦・太鼓。囃子のテンポが速い場面では、踊り手は円陣を作って駆け足で回りながら踊る。		
336	風流踊	山の神仮装盆踊	尾道市因島田熊町西区字山の神	山の神講から青年団となり、現在は田熊町西区町内会	山の神仮装盆踊の行事	8月末の土曜日午後7時～9時	尾道市因島田熊町西区内　山の神社境内	毎年	昭和15年頃から山の神社で口説きで踊っていたという。元々の担い手は山の神講中で、その後青年団、現在は町内会である。仮装になったのは昭和22年頃から。曲は「きそん節」「田熊八景」「一つ拍子」「入れ節」。楽器は太鼓。中央に櫓を立てる。	中断(平30～)	
337	風流踊	田熊の盆踊	尾道市因島田熊町	地域住民	新仏供養	8月13日～20日〈中断中伝承者無〉	各地域の家、広場	毎年	新仏供養の盆踊。新盆の家で太鼓を打ち始まり、歌立てを中心に輪になって踊る。仮装の人もいる。曲は「石堂丸」「阿波十郎浜衛」「鈴木主水」「いらはくどき」の他、地元の唄である「出来屋の重太」「水軍のほまれ」「田熊八景」等。昭和50年頃に中断。	中断(昭50頃～)	
338	風流踊	箱崎の盆踊	尾道市因島土生町箱崎区	箱崎地区の世話人、有志、漁業組合	お盆	新暦8月13日14日15日18日送り盆	恵比須神社境内	毎年	昔は13日仏踊り、14日綱引き踊り、15日恵比須踊り(仮装)、18日送り盆で、石童丸・鈴木主水などで踊っていた。平成に入り炭坑節などで踊る。新盆の家は位牌を背負って踊る。櫓を立て、太鼓の音頭で輪になって踊る。		
339	風流踊	椋浦の法楽おどり〈法楽踊り〉	尾道市因島椋浦町	椋浦法楽踊り保存会(町内会)	お盆	8月16日	艮神社、町内各域、浜辺	毎年	南北朝時代に海賊衆が出入陣で踊ったといわれている。浴衣、鉢巻、手甲・脚絆姿に、刀・扇子を持った若者が、幡を中心に輪になり、太鼓・鉦の囃子で「ナムアミダーボ」と唱え、「とんだ、とんだ」の掛け声で飛び跳ねながら踊る。艮神社で祈祷・演舞の後、町内を巡幸。海岸広場に出て演舞を行う。早鉦・早太鼓を打つときは早く円をまわり、鳴りが緩やかの時はゆっくり回る。		県
340	風流踊	新盆精霊会踊・盂蘭盆踊	尾道市因島三庄町	千守会、三庄区町会	新仏供養	8月13日、15日、18日送り盆	明治中期頃より観音寺、善徳寺、明徳寺境内。大正・昭和初期は新盆の家宅前。その後各区広場。	毎年	文化・文政の頃、久比玄白と岡本聖賢という2人の修験者が曲を広めたという。曲は「遊戯唄」「家庭唄」「山林唄」「海湖唄」「仕事唄」「街道唄」「祝賀唄」「祭礼唄」「遊戯唄」「わらべ唄」「山田の露」「八百屋お七」「お杉和尚」「三田くどき」「石童丸」。		

341	祭礼風流	大浜厳島神社管絃祭〈管絃祭〉	尾道市因島大浜町	大浜厳島神社	管絃祭	7月下旬の日曜日〈旧暦6月17日〉	元大浜農協裏の広場、八重子島	毎年	管絃船に厳島神社大神の分霊を乗せて沖合を遂行し、八重子島に上陸し島で祭典を挙行する。船は提灯で大文字を作る。鉦・太鼓・チャンギリ(手打鉦)に合わせて、「かあげんじゃ、かあげんじゃ、かあげんぶねにゃ　だいのじじゃ」という掛け声で囃す。		
342	祭礼風流	重井厳島神社の明神祭〈明神さん〉	尾道市因島重井町	重井町神社総代会	明神祭	7月第3土曜日〈旧暦6月17日に近い金曜日〉	重井厳島神社境内、重井東港、西港、西港広場	毎年	宮島の管絃祭に倣って始まったとされ、神輿を御座船に奉戴し、海上渡御が行われる。重井厳島神社を神輿が出発して東港へ行き、東港より御座船に乗って西港まで「お渡り」をし、西港広場で神輿を担ぎ「お入り」で神社に戻る。太鼓・笛・鉦で囃す。		
343	祭礼風流	管絃祭・十七夜祭〈十七夜〉	尾道市因島中庄町徳永区	中庄町　徳永区民会	中庄厳島神社(明神さん)夏祭	7月第3もしくは第4土曜日〈旧暦6月17日〉	神社境内、徳永区入川、中土堤、徳永区内	毎年	宮島の管絃祭に倣って始まったという。午前中は大人神輿と子供神輿が徳永区内を巡行し、最後は入川中土堤にある御旅所に到着する。昔は鉦・太鼓の囃子で御座船による海上渡御や、神輿を海や川に落として清める神輿洗いが行われた。		
344	祭礼風流	大山神社曳舟神事	尾道市因島土生町	大山神社曳舟神事保存会	大山神社秋祭	10月第3日曜日〈旧暦6月6日～7日〉	箱崎区恵比須神社、大山神社	毎年	豊漁を祈願する神事。箱崎地区の人々が舟を担いで大山神社の石段を登り、境内まで引き上げる。重い舟を担いで石段を登る際には、担ぎ手は呼吸を合わせなければならないが、それを「音頭とり」が太鼓にあわせて、独特の節回しで皆の呼吸をあわせる。町内巡行の際には、大漁を祈願するお囃子を歌いながら廻る。		市
345	祭礼風流	土生(はぶ)の秋祭・だんじり〈だんじり〉	尾道市因島土生町	祭礼世話人会	大山神社秋の例大祭	10月第3土・日〈旧暦8月6日～7日〉	大山神社	毎年	海組・陸組の2台のだんじりが出る。御輿の宮入ではだんじりが囃す。また、雁木神事(船を雁木にかける)の後に、「ホーランエンエ」の音頭を取りながらだんじりを担いで神社の石段を登る。お祓いを受け、境内を担ぎ手が練り回す。だんじりは屋形形式。楽器は太鼓。かつては曳舟行事であった。		
346	祭礼風流その他	神明祭〈神明さん〉	尾道市因島大浜町	神明祭実行委員会(区長会)	神明祭	2月第1日曜日〈1月15日〉	大浜町内、大浜公民館前の広場	毎年	小早川隆景が文禄の役の際に天照大神を祀り戦勝祈願したことに由来するという。大浜町内4つの組がそれぞれ山車を組み上げ、伊勢節にあわせて町内を練り歩き、広場に集合してお練りと力比べの押し合い等を行う。山車は神を迎える方向を示す五色の布や松竹梅等で飾り、基盤には天照大神を示す「大神宮」の文字を書く。		

【調査地区46】 瀬戸田町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
347	神楽	名荷(みょうが)神楽	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神楽団	名荷神社境内社・生石神社(荒神社)の例大祭	4月の第1日曜日〈旧暦3月3日〉	名荷神社境内	毎年	名荷神社境内社・生石神社で当屋行事、御宮渡り行事の後に舞われる。所持演目は「手草」「注連口」「神迎」「悪魔拂」「岩戸」「三宝荒神御縄」「折敷舞」「剣舞」「小弓刈」「四天」「両刀」「異国」「仁天」「八重垣」「王子」。「三宝荒神御縄」という神託儀式が次第の中に置かれ、藁人形に酒を飲ませ、神慮をうかがった後、一本の縄にして鱗打ちをする。明治初年までは4年に一度の託宣をともなう式年神楽であった。		県
348	風流踊	ぞめき踊り	尾道市瀬戸田町瀬戸田	地域住民	盆踊の後	旧暦7月13日から16日	未詳	定期	弘化年間、当地を訪れていた徳本上人が浅瀬の埋立工事に動員するため、鉦や太鼓を叩いて「出てこい」「いこうや」と町内を歩き回ったことが始まりという。演目は「瀬戸田出てこい囃子と太鼓」「瀬戸田ぞめき唄」。昔は盆踊後、瀬戸田の各組から太鼓、半鐘、鉦、ブリキ、空き缶その他高い音の出るものを持ち寄って叩き、調子に合わせて「出てこい、出てこい」と囃しながら長蛇の列をなして叩き踊ったという。	中断	
349	風流踊	高根(こうね)踊	尾道市瀬戸田町高根	地区有志、新仏の檀家	盆踊	8月14日〈旧盆(戦前)〉	長全寺境内	毎年	新盆法要後、四隅に竹を立てた櫓を中心に踊り手が輪になって踊る。口説きは「鈴木主水」「おしお亀松」「円上寺お杉」「石童丸」「海老屋の甚句」。楽器は太鼓。		
350	風流踊	地蔵院精霊会の盆踊	尾道市瀬戸田町地蔵院	地元有志	お盆	8月14日・旧暦7月23日頃	地蔵院境内(8月14日)　瀬戸田港前広場(旧暦7月23日)	定期	隅に竹を立てた櫓を中心に踊り手が輪になって手踊りを踊る。衣装は自由(浴衣など)。口説きは「海老屋の甚句」「石童丸」「鈴木主水」。楽器は太鼓。踊りがたけなわになった頃に滑稽な「とんさく」を入れ、「千秋楽」で締めくくる。		
351	風流踊	盆踊	尾道市瀬戸田町荻	盆踊り保存会	お盆	8月14日	光福寺境内	定期	「おきざ」に太鼓を据える。櫓を中心に踊り手が輪になって踊る。衣装は自由(浴衣など)。踊り手は新盆の親族や檀家など。口説きは「鈴木主水」「那須の与市」「円上寺お杉」「石童丸」。囃子、口説きは一人で七句を三節歌うが、一節は前の人が歌った三節目を繰り返す。三つ拍子踊りが現在も伝承されている。踊りの始まりに「さんまいどう」という太鼓の叩き方がある。踊りがたけなわになった頃に滑稽な「とんさく」を入れ、「千秋楽」で締めくくる。		
352	風流踊	盆踊	尾道市瀬戸田町宮原	新仏の家族及び保存会	新仏供養	8月14日	宝福院境内	定期	「おきざ」に太鼓を据える。櫓を中心に踊り手が輪になって踊る。衣装は自由(浴衣など)。踊り手は新盆の親族など。口説きは「鈴木主水」「那須の与市」「円上寺お杉」「石童丸」「山田の露」。口説きは一人で七句を三節歌うが、一節は前の人が歌った三節目を繰り返す。三つ拍子踊りが現在も伝承されている。踊りの始まりに「さんまいどう」という太鼓の叩き方がある。踊りがたけなわになった頃に滑稽な「とんさく」を入れ、「千秋楽」で締めくくる。		

353	風流踊	盆踊	尾道市瀬戸田町円林寺、法然寺	地域住民	お盆	お盆	円林寺と法然寺の境内	定期	詳細は不明。昭和50年頃に中断したと伝わる。	中断（昭50頃ヵ～）	
354	風流踊	盆踊	尾道市瀬戸田町瀬戸田	檀家	新仏供養	7月24日	法然寺境内	定期	初盆の法要後、床几の周りに輪になって踊る（手踊り）。踊り手は初盆の遺族・女性会・檀家。口説きは「鈴木主水」「石童丸」「海老屋の甚句」。口説きは一人で七句を三節歌うが、一節は前の人が歌った三節目を繰り返す。踊りがたけなわになった頃に滑稽な「とんさく」を入れ、「千秋楽」で締めくくる。		
355	風流踊	盆踊〈名荷踊り〉	尾道市瀬戸田町名荷	名荷盆踊り保存会	お盆	8月14日	名荷コミュニティグラウンド（旧名荷小学校校庭）	定期	櫓の周りを輪になり、手踊りで踊る。踊り手は新盆の親族・檀家の人々で、歌い手・囃子方は櫓に上がる。曲は「那須の与一」「石童丸」。楽器は太鼓。秋祭りでも使用する天秤6基を出す。踊りがたけなわになった頃に滑稽な「とんさく」を入れ、「千秋楽」で締めくくる。		
356	風流踊	盆踊	尾道市瀬戸田町林	盆踊り保存会	お盆	8月13日	吉祥寺境内〈昔：穀神社〉	定期	櫓の周りを輪になって踊る。踊り手は多数・さまざまで、扮装も自由である。曲は「鈴木主水」「山崎三太」。口説きは一人で七句を三節歌うが、一節は前の人が歌った三節目を繰り返す。		
357	風流踊 祭礼風流	宮原厳島神社の管絃祭	尾道市瀬戸田町宮原	宮原地区の住民	管絃祭	旧暦6月17日	生口島南岸の沖合	定期	新盆の家が灯篭を流す。鳥居前から灯篭が遠く離れたころ、管絃船が港に着き、神事を行う。終わると楽を奏しながら港に帰っていく。厳島神社境内に人の輪ができ、奉納踊り（盆踊）が始まる。楽器は横笛、太鼓、鉦、チャンギリ。現在は十七夜祭の神事のみ執り行われる。		
358	祭礼風流	管絃祭〈ホーランエンヤ〉	尾道市瀬戸田町高根　厳島神社	高根八幡神社管弦祭奉仕団	管絃祭	旧暦6月17日	瀬戸田水道	定期	寛文年間、高根八幡神社境内の楠を宮島の大鳥居造営の際に伐出した関係で、宮島の管絃祭に合わせて行われるようになったという。御座船（親船）による海上渡御がある。船から「ホーエンヤ」の掛け声と鉦太鼓にあわせ、「ホーランエー、ヨイヤサノサッサ」と掛け声を返し、櫂で漕いで親船を引く。親船には頭と鉦のほか10人位、櫂伝馬には漕ぎ手のほか舵持ち、綱とり、太鼓などが乗る。		

【調査地区47】 御調町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
359	神楽	御調（みつぎ）神楽〈神楽〉	尾道市御調町	御調神楽保存会（県指定団体）、綾目神楽保存会	御調町とその周辺の例大祭など	神社の祭礼日（多くは10月頃）など	御調町近隣各地の神社	毎年	備後神楽の系統を汲み、語りや神歌が多い。舞の動きは概して少ないが、時折「キリキリ舞」と呼ばれる激しい回転動作を伴う。所持演目「手草舞（清めの舞）」「悪魔払（場払い）」「三胡子」「折敷舞」が県指定、その他「神舞」「猿田彦の舞」「四神舞」「剣舞」「造花引き」（以上、儀式舞）、「八重垣」「東夷征伐」「八幡能」「右作」「山鳥」（以上、能舞）、「五行祭」などがある。舞殿には切飾りを施した天蓋を吊り千道を引く。		県
360	獅子舞 風流踊	花のおどり	尾道市御調町津蟹・植野・福井（旧今津野村の一部）	地域住民	御調八幡宮祭礼		三原市八幡町　御調八幡宮		当地は三原市八幡町・御調八幡宮の氏子域に当たるため、「花のおどり」を伝えている。概要は御調八幡宮の花のおどり（調査地区34）と同様。近年は花のおどりは御調八幡宮への奉納に参加しておらず、津蟹・植野・福井地区では、御調町内の他地区と同様の鉦太鼓おどり（みあがりおどり）が中心となっている。		
361	獅子舞 風流踊	みあがりおどり〈太鼓おどり・鉦太鼓おどり〉	尾道市御調町　町内全域	みあがりおどり保存会	高御調八幡神社例祭、盆踊、町内各神社等の祭礼、学校行事など	9月第2日曜日、盆の8月14日ほか〈旧暦7月17日ほか〉	高御調八幡神社境内ほか	毎年	安永2年（1773）の銘が入った鉦や天保13年（1842）の「書出帳」に雨乞いを目的とした鉦太鼓踊の記述がある。太鼓も安政5年（1858）に製作されたものが現存する。各集落のリーダー格の太鼓打ちを「カシラ」と称する。各地域の宮等で演じる場合は、太鼓は4～6人程度と小規模であり、旧小学校区で行われる盆踊では太鼓20人・鉦7個程度が出る。終盤の「はね拍子」「てんね拍子」で大きく飛び跳ねる動作が特徴的。今田地区では先導役として獅子舞がある（かつては、菅野・市にも獅子舞あり。）。		県
362	獅子舞 風流踊	みあがりおどり〈太鼓おどり・鉦太鼓おどり〉	尾道市御調町菅野地区（旧菅野村）	みあがりおどり保存会、菅野地区住民	盆踊、菅野地区各神社等の祭礼、高御調八幡神社例祭など	8月14日ほか	公民館、神社境内ほか	毎年または2年毎	盆踊（隔年開催）や地域内各神社等の例祭などで演じられる。高御調八幡神社の大規模な行事では、菅野地区を含む町内全域から奉納する。昔は獅子舞があったが、現在は途絶えている。衣裳は浴衣の着流しが一般的。		県
363	獅子舞 風流踊	みあがりおどり〈太鼓おどり・鉦太鼓おどり〉	尾道市御調町今田地区（旧今津野村の一部）	みあがりおどり保存会、今田地区住民	盆踊、今田地区各神社等の祭礼、高御調八幡神社例祭など	8月14日ほか	公民館、神社境内ほか	毎年	御調町内では今田地区のみ、みあがりおどりを「鉦太鼓おどり」と称する。盆踊や地域内各神社等の例祭などで演じられる。高御調八幡神社の大規模な行事では、今田地区を含む町内全域から奉納する。獅子舞の先導があり、「獅子そぶき」（ひょっとこ）が道びきを行い、獅子が続く。その後、獅子舞が演じられ、続いて鉦太鼓おどりが奉納される。		県
364	獅子舞 風流踊	市（いち）盆踊	尾道市御調町市地区	市地区盆踊実行委員会	お盆	8月14日	御調中央小学校グランド	毎年	起源は不明だが、大正時代には既に行われていたという。櫓の周りを輪になって踊る。手踊り・くどき、みあがりおどり（本庭）の順に行われるほか、獅子舞も演じられる。手踊りでは口説きに合わせて団扇や扇を用いる。「二ツ拍子」「三ツ拍子（鈴木主水）」「六ツ拍子」「まねき踊り（賽の河原）」「熊谷踊り」「伊勢音頭」が演じられる。楽器は太鼓。		

365	獅子舞 風流踊	菅野盆踊	尾道市御調町菅野地区	菅野地区	お盆	2年毎の8月14日〈以前は毎年〉	旧菅野小学校グランド	2年毎	起源は不明だが、大正時代には既に行われていたという。櫓の周りを輪になって踊る。先にみあがりおどり、次いで手踊りに移るが「二ツ拍子」の始めに庭借りの口説きがある。手踊りは「二つ拍子」「三つ拍子(鈴木主水)」。かつては獅子も出ていた。		
366	獅子舞 風流踊	今津野盆踊	尾道市御調町今津野地区	実行委員会	お盆	8月14日	旧今津野小学校グランド	毎年	起源は不明だが、大正時代には既に行われていたという。櫓の周りを輪になって時計回りに踊る。鉦太鼓おどり、手踊の順に行われる。曲は「二つ拍子(今津野くどき)」「三つ拍子(庄屋仁蔵)」「扇子踊り(石童丸)」「熊谷踊り(敦盛さん)(扇子を持つ)」。獅子舞も演じられる。楽器は太鼓。		
367	獅子舞 風流踊	みあがりおどり(みあがりおどり、太鼓おどり・鉦太鼓おどり)	尾道市御調町・市地区(旧市村)	みあがりおどり保存会、市地区住民	盆踊、市地区内各神社等の祭礼、高御調八幡神社例祭など	8月14日ほか	公民館、神社境内ほか	毎年	天保13年(1842)の「書出帳」に、高御調八幡神社に鉦太鼓踊を奉納する村として市の花尻村(現在の大字花尻)が挙がっている。地域の宮等で演じる場合は太鼓は4～6人程度と小規模であり、旧小学校区で行われる盆踊では太鼓20人・鉦7個程度が出る。昔は獅子舞があったが、現在は途絶えている。衣裳は浴衣の着流しが一般的。		県
368	獅子舞 風流踊 祭礼風流	今田天満宮の舟みこし〈舟かき〉	尾道市御調町今田	今田天満宮氏子	今田天満宮金毘羅社祭礼	7月初め	今田天満宮境内	毎年	起源は不明だが、昔、麦初穂を讃岐の金刀比羅宮へ一晩かけて伝馬船で運び、分霊を頂いて圓光寺に祀ったとの言い伝えがある。舟には提灯で飾り、舟の中央部に竹で帆柱を立てる。神事後に猿田彦・獅子そぶき(ひょっとこ)・獅子を先導に、掛け声とともに舟みこしで境内を3周する。その後、境内で猿田彦が幣舞、刀舞、三番叟を一連で舞って場を清め、続いて獅子が「立舞」をしながら、参拝者の身体の一部を噛んで邪気払いを行う。最後に豊作祈願の鉦太鼓踊を行う。		
369	風流踊	みあがりおどり(太鼓おどり・鉦太鼓おどり)	尾道市御調町河内地区(旧河内村)	みあがりおどり保存会、河内地区住民	高御調八幡神社例祭、盆踊、河内地区内各神社等の祭礼など	9月第2日曜日、盆の8月14日ほか〈旧暦7月17日ほか〉	高御調八幡神社境内ほか	毎年	天保13年(1842)の「書出帳」に、高御調八幡神社に鉦太鼓踊を奉納する5か村として、河内の丸河南村・丸門田村・大田村(現在の大字丸河南・丸門田・大田)が挙げられており、丸河南村近辺を中心に伝来したという。宮上がりの道中は「道引拍子」を奏する。曲調は、「よいころべえ」「しかんがん」「どんどんかー」「どんどんどんかー」「どんかーどんかー」「天竺」「にまいどう」「さんまいどう」「どんどんかー」「どんどんどんかー」「片拍子」「はね拍子」「てんね拍子」の13調が伝わる。		県
370	風流踊	みあがりおどり〈太鼓おどり・鉦太鼓おどり〉	尾道市御調町上川辺地区(旧上川辺村)	みあがりおどり保存会、上川辺地区住民	盆踊、上川辺地区内各神社等の祭礼、高御調八幡神社例祭など	8月14日ほか	公民館、神社境内ほか	毎年	盆踊や地域内各神社等の祭礼(金毘羅講、天神講、観音講など)で演じる。高御調八幡神社の大規模な行事では、上川辺地区を含む町内全域から奉納する。昔は獅子舞があったが、現在は途絶えている。衣裳は浴衣の着流しが一般的。		県
371	風流踊	みあがりおどり〈太鼓おどり・鉦太鼓おどり〉	尾道市御調町綾目地区(旧奥村)	みあがりおどり保存会、綾目地区住民	盆踊、綾目地区各神社等の祭礼、高御調八幡神社例祭など	8月14日ほか	公民館、神社境内ほか	毎年	盆踊や地域内各神社等の祭礼で演じる。高御調八幡神社の大規模な行事では、綾目地区を含む町内全域から奉納する。衣裳は浴衣の着流しが一般的。		県
372	風流踊	みあがりおどり〈太鼓おどり・鉦太鼓おどり〉	尾道市御調町大和地区(旧諸田村の一部)	みあがりおどり保存会、大和地区住民	盆踊、大和地区各神社等の祭礼、高御調八幡神社例祭など	8月14日ほか	公民館、神社境内ほか	毎年	盆踊や地域内各神社等の祭礼で演じる。高御調八幡神社の大規模な行事では、大和地区を含む町内全域から奉納する。衣裳は浴衣の着流しが一般的。		県
373	風流踊	上川辺盆踊	尾道市御調町上川辺地区	上川辺地区みあがりおどり保存会	お盆	8月14日	旧上川辺小学校グランド	毎年	起源は不明だが、大正時代には既に行われていたという。櫓の周りを輪になって踊る。先にみあがりおどり(本庭)、次いで手踊りに移る。手踊りは「二つ拍子」「三つ拍子」「六つ拍子」。そして、みあがりおどり(据え打ち、打ち別れ)で終わる。手踊りでは口説きに合わせて団扇や扇を用いる。		
374	風流踊	河内(かわち)盆踊	尾道市御調町河内地区	実行委員会	河内地区盆踊大会	8月14日	御調西小学校グランド	毎年	起源は不明だが、大正時代には既に行われていたという。櫓の周りを輪になって踊る。みあがりおどり(かさ揃え・本庭)、手踊、御調音頭、みあがりおどり(打ち別れ、かさやぶちともいう)の順に行われる。曲は「二つ拍子」「三つ拍子」「熊谷踊り(扇子)」。「二ツ拍子」の始めに庭借りの口説きがあり、口説きに割り込むときに入れ拍子を唄う。楽器は太鼓。みあがりおどりでは、頭が輪の中心で合図し、太鼓を抱えた踊り手が一斉に踊る。		
375	風流踊	綾目盆踊	尾道市御調町綾目地区	綾目地区盆踊実行委員会	お盆	8月14日	旧綾目小学校グランド	毎年	起源は不明だが、大正時代には既に行われていたという。櫓の周りを輪になって時計回りに踊る。みあがりおどり(傘揃い・本庭)、手踊の順に行われる。曲は「二つ拍子」「三つ拍子」「六つ拍子」。楽器は太鼓。		
376	風流踊	大和(やまと)盆踊	尾道市御調町大和地区	芸能保存会	お盆	8月14日	旧大和小学校グランド	毎年	起源は不明だが、大正時代には既に行われていたという。櫓の周りを輪になって時計回りに踊る。みあがりおどり(傘揃い)、手踊(二つ拍子、いきいきみつぎなど)、みあがりおどり(本庭。なぜ踊りは現在は行っていない。)の順に行われる。曲は「二つ拍子」「三つ拍子」。楽器は太鼓(長胴の鋲留め太鼓)。衣裳は浴衣が多い。演目により扇子・団扇を持つ。楽器は太鼓。		

377	舞台芸等	地芝居	尾道市御調町河内地区	地域住民<昔：青年団>	河内公民館まつり	6月末	河内公民館	毎年	御調町内では、戦前から青年団を中心として地芝居が行われており、神社祭礼などで披露されていた。戦後姿を消していったが、河内地区では昭和40年代初め頃から再び青年団を中心に芝居を行った。一時中断したが、約10年前に復活。現在も公民館まつりにおいて「国定忠治」などが演じられている。		

【調査地区48】 向島町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
378	風流踊	盆踊	尾道市向島町津部田	地域住民有志	お盆	旧盆	津部田コミュニティーセンター	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」の他、二つ拍子を太鼓と口説き「佛踊り口説き」「俊徳丸」で踊る。「四つ拍子」は口説きに合わせて、囃しながら踊る。		
379	風流踊	盆踊	尾道市向島町江奥	地域住民(保存会的存在あり)	お盆	8月15日	江奥コミュニティーセンター横の広場(令和2年時。その後広場に住宅が建築されたため、以降場所変更となる)	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」「炭坑節」の他、二つ拍子の口説きがある。楽器は太鼓。		
380	風流踊	盆踊	尾道市向島町兼吉	地域住民	お盆	旧盆	尾道市向島町商店街1番街駐車場	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」「炭坑節」等の他、口説きがある。楽器は太鼓。		
381	風流踊	盆踊	尾道市向島町田尻(小歌島地区・土井地区)	地域住民有志	お盆	旧盆	各地区の駐車場など広場	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」「炭坑節」の他、口説きがある。楽器は太鼓。		
382	風流踊	盆踊	尾道市向島町中富浜	地域住民	お盆	1月遅れの盆	中富浜コミュニティーセンター	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」「炭坑節」の他、二つ拍子の口説きがある。楽器は太鼓。		
383	風流踊	宇立(うだつ)地蔵盆踊	尾道市向島町宇立	地域住民	お盆	8月15日	宇立公民館(コミュニティーセンター)	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」などや、四つ拍子の口説きがある。楽器は太鼓。		
384	風流踊	有井地蔵盆踊	尾道市向島町有道(有井地区)	地域住民	お盆	8月14日	有道ふれあいセンター(尾道市向島町有道)	定期	新盆(新仏)供養。「向島音頭」の他、三つ拍子の口説き「傘づくし」「俊徳丸」がある。楽器は太鼓。		
385	風流踊	盆踊	尾道市向島町岩子島	地域住民・老人会の役員	盆踊りの行事	8月16日	旧岩子島小学校跡地	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」の他、三つ拍子の口説き「小庭」「大庭」「打ち込み」がある。楽器は太鼓(昔は笛・鉦も使用)。		
386	風流踊	余崎盆踊<立花盆踊>	尾道市向島町立花	盆踊保存会	お盆	8月13日	立花運動公園(尾道市向島町立花)	毎年	新盆(新仏)供養。「向島音頭」などの他、二つ拍子の口説きがある。楽器は太鼓。		
387	祭礼風流	干汐(ひしお)厳島神社管絃祭巡幸	尾道市向島町干汐厳島神社	子供会・干汐地区役員	管絃祭(曳船)	宮島厳島神社管絃祭実施日近くの土曜日	尾道市向島町干汐地区海岸の道一帯	毎年	正徳3年(1713)頃より始まったという。舟一艘を小さな台車にのせ、太鼓・鉦(鉦は現在は廃止)の囃子に合わせて「チョウラク　チョウラク」と曳き歩く。他の一艘は宮においておく。現在は、一隻を神社で組み立てて祭る。昭和35年、現在のような道路での巡行に改変した。		
388	祭礼風流	岩子島(いわしじま)厳島神社管絃祭	尾道市向島町岩子島1944	岩子島民俗伝統保存会	管絃祭	旧6月17日	尾道市向島町岩子島厳島神社及び岩子島海水浴場跡地	毎年	夕刻、宮の浦より船を出し、大鯨島の神社で神事を行う。花火の合図で祭提船、漕船、天嬪をのせた御座船が管絃の音とともに戻り、大鳥居前で三回大きく回って着岸する。船中での神事後、天嬪が陸に上がり、荒れながら社殿を三周して船に帰る。船はまた三周して神事を終える。管絃の曲目はドンチャン・切り替え・ヂャンギリ・笙の笛・天びん太鼓など。【詳細調査No.10】		市
389	祭礼風流	住吉祭の曳船(おしふね)	尾道市向島町五島神社	津部田伝統保存会	住吉祭	7月26日	五島神社	毎年	若連中が各地区から、大提灯20張・ほおずき提灯50張を飾った曳船を出す。3艘がそろったところで、宮上がりする。かつては海の行事であったが、陸上がりした。紅葉狩、九紋龍、干珠満珠の各天嬪を納める箱には嘉永6年(1853)の銘がある。曳船は平成27年～中断。	中断(平27～)	市
390	その他	天神祭の催物	尾道市向島町8232	宇立天満宮と地域住民	天神祭	旧6月24～25日	尾道市向島町宇立天満宮	毎年	往古より夏祭は、氏子中の人々によって、人形飾り・習字・図画・老人会の工芸品等の展覧会が開催され、一晩中賑わう。天神祭は旧6月24日～25日であり、24日の宵宮祭が賑やかである。		市

（6） 福山市

【調査地区49】 旧福山市域の一部、引野村、深安町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
391	獅子舞祭礼風流	神森神社神輿	福山市坪生町	神森神社総代会	神森神社秋の大祭	神森神社秋の大祭（体育の日）	神森神社お旅所（天神社、厳島神社）	毎年	神森神社秋の大祭での神幸。神輿は2基、大太鼓を叩きながら巡行する。鬼（猿田彦・青い面）や獅子なども同行する。神輿を担ぐ唄がある。地域の5組が輪番で当番組となり、大当、小当などが行列に加わる。		
392	風流踊	蔵王はね踊り	福山市蔵王町（南蔵王町）	蔵王はね踊り保存会（本部役員・7支部）	蔵王八幡神社秋季大祭ほか	10月第3日曜日〈旧暦8月15日→10月20日〉	蔵王八幡神社及び町内当番家・迎当番家と神輿休憩場所（9箇所）	定期（1年毎）、不定期（依頼の時）	起源は龍王山での雨乞いといわれ、18世紀末か19世紀にはすでに演じられていたという。神社に向かう道中と神社の境内など9箇所で踊る。楽は鉦と太鼓（大胴・諫鼓）。演目は「道行き」「宮巡り」「せぐり」「打ち込み」。		県
393	風流踊	鍛冶屋はねおどり	福山市春日町浦上	鍛冶屋はねおどり保存会	浦上八幡神社秋季例大祭	毎年10月第1土曜の夜、日曜日〈浦上八幡神社例大祭の日〉	浦上八幡神社、春日町内全域	毎年	起源は江戸中期、米の豊作と虫駆除を祈願するため奉納したという。浦上八幡神社と春日町内で2日間演じられる。楽は大太鼓、中太鼓、小太鼓、鉦を用いて3構成の内容で演じる。2日目は一の馬場～三の馬場～春日町内を巡り、八幡神社に戻る。		
394	風流踊	吉田のはね踊り	福山市春日町六丁目	吉田はね踊り保存会	吉田厳島神社秋季例大祭	10月第1日曜日	神社から旅所4箇所の内3箇所巡行	毎年	五穀豊穣を祈願し、吉田厳島神社秋季例大祭で演じられる。扇子を採物とし、楽は大胴、軽鼓、鉦を用いる。鬼も登場する。現在は中断。	中断（平20～）	
395	風流踊	坪生（つぼう）はね踊り	福山市坪生町（東池町町内会）	坪生はね踊り保存会	坪生秋季大祭前夜	10月第2月曜日（大祭前夜）	神森神社、当番家	定期	神森神社秋季例祭の前夜に演じられる。東池町内会館から出発し、途中当番家を訪ね奉納。その後、夜8時頃に神森神社境内にて奉納する。襷に鉢巻姿の踊り手は20名前後で、大胴・中胴・鉦・軽鼓の楽器で、円を描きながら踊る。その円の中央では扇子と梵天を手にした4体の鬼が踊る。「なぜ」の最中にはね踊り唄を歌う。		
396	風流踊	はね踊り	福山市幕山台（旧幕山地区）	幕山天神社	幕山天神社秋祭		祭り当番家、御旅所、神社	毎年	五穀豊穣、疫病退散、家内安全を願い、幕山天神社秋祭で演じられる。猿田彦、赤鬼、白鬼と踊り手（軽鼓、太鼓、鉦各3）が町内各所ではね踊りを奉納する。		
397	風流踊	はね踊り	福山市大門町津之下	〈西組の心等社〉	春日神社（天神社）の祭、艮神社小祭り	春日神社（天神社）・艮神社の祭礼日	神社と当番家他	定期・不定期	起源は今から2～300年前に沼隈郡田尻村から深津郡津之下村西組に伝わったという。春日神社や艮神社の例祭時、豊作祈願で踊る。踊り手と赤鬼、青鬼が神社や当番家などで演じた。現在は中断している。	中断（平4～）	
398	風流踊祭礼風流	蔵王八幡神社神輿	福山市蔵王町宮の前2906、福山市蔵王町五丁目22	蔵王八幡神社	蔵王八幡神社秋季大祭	10月第3日曜日〈旧暦8月15日→10月20日〉	蔵王八幡神社、蔵王町、南蔵王町	1年毎	蔵王八幡神社秋季大祭のご神幸。はね踊りも付随する。宮司、総代、世話方、本当番家世話方、迎当番家世話方、はね踊り保存会、町連、子供会、交通安全自治会が列を成す。昭和31年以降の市村時代には、日の丸扇子の前踊り、はね踊り、神輿3基（前体・中体・後体）の順に巡幸した。		
399	風流踊祭礼風流	春日神社例大祭	福山市能島二丁目	春日神社、総代、氏子	春日神社例大祭	10月第1日曜日（御神輿巡行）	春日神社および能島町内	毎年	能島町内を廻る春日神社例大祭の神輿巡幸では、踊り手が同行し、大和踊りを演じる。		
400	風流踊祭礼風流	千歳楽（せんだいろく）	福山市大門町津之下の春日神社（大門四丁目12）	せんだいろく保存会（和合社）	春日神社秋季例祭	10月の第2日曜日〈10月10日〉	春日神社と町内	毎年	太鼓を載せたふとん神輿のことを「千歳楽」と呼び、大人5、60名が担ぎ、神事の後、祭りの歌に合わせて町内を練り歩く。当番家も回り、当番家の前では、踊り（大和踊・備中踊・大黒踊）と歌を演じる。乗り子は小学校中学年の2名。明治期は若連中によって演じられていたが、一時期（明治11年）千歳楽からはね踊りに賑やかしが変わったという。		
401	祭礼風流	浦上千歳楽	福山市春日町浦上（旧深津郡浦上村）	春日千歳楽保存会	浦上八幡神社秋季例大祭	10月第1日曜日〈10月13日〉	浦上八幡神社及び浦上地区全域	毎年	浦上八幡神社秋季例大祭の神輿渡御に「千歳楽」と呼ばれる太鼓台が1台が随行する。神社から御旅所まで、音頭取りが太鼓を叩いて唄い、舁き手が合いの手を入れて囃しながら太鼓台を担いで歩き、御旅所に着くと太鼓台を担ぎ上げて、廻しなどの動作をする。		
402	祭礼風流	宇山八幡神社神輿	福山市春日町宇山	宇山町内会、神社役員	宇山八幡神社秋季例祭	10月第1日曜日	宇山八幡神社、旅所2箇所（上組・下組）	毎年	宇山八幡神社秋季例祭でのご神幸。車に神輿と大太鼓を別々に乗せて、太鼓の囃子で神社から御旅所、町内と巡行する。昭和中頃まで例祭で神楽もあった。		
403	祭礼風流	引野天神社神輿	福山市引野町北	引野天神社	天神社例祭	10月初旬	引野学区、長浜学区、緑岡学区、引野天神社	毎年	天神社例祭の神幸。引野天神社から引野学区、長浜学区、緑丘学区の3学区を神輿2基が巡行する。かつては踊りも奉納していた。別途大神輿が1基あり。		
404	祭礼風流	八幡神社神輿〈はちまんさん〉	福山市大門町535-1	五ヶ宮八幡神社	神幸祭（みゆきさい）、お旅所祭	9月下旬～10月上旬	神社周辺	毎年	五ヶ宮八幡神社神幸祭での神輿渡御。神輿を神社拝殿で清め祓った後、宮巡りを3回行い下山する。		

405	祭礼風流	金蘭社千歳楽	福山市大門町野々浜南側の厳島神社	金蘭社	厳島神社千歳楽奉納前夜祭での素人のど自慢大会、千歳楽奉納、御神輿巡行	10月第2週土・日、正月元旦	厳島神社、野々浜南側町内	毎年	明治8年、坂本竹次郎が私財を投じて千歳楽を新調して始まったという。千歳楽では歌取や担ぎ手による唄がある。町内在住・出身で18歳以上の男性氏子で組織する金蘭社が千歳楽の担い手となっている。		
406	祭礼風流	厳島神社子供神輿〈厳島さん、おきのみや〉	福山市大門町四丁目156	厳島神社	厳島神社例大祭	体育の日の前の日曜日〈10月10日〉	野々浜地区内	毎年	厳島神社の例祭において、子供神輿4基を各地区の子供たちが担ぎ、町内を練り歩く。		

【調査地区50】 旧福山市域の一部、市村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
407	風流踊	二上りおどり	福山市内中心街(旧城下一円)	福山古典芸能保存会	福山夏まつりなど	8月13日14日〈8月13、14、15日〉	市内中心の商店街及び寺	定期	三味線や尺八、鼓、胡弓の音色に合わせて、男女が四つ竹を鳴らしながら、町内を踊る。この四ッ竹は昭和3年以降に団扇から変更した。男性は法被にねじり鉢巻、尻ばしょりと白足袋、女性は浴衣の裾を絡げ、編笠や手拭いで顔を隠した扮装で踊る。県内では数少ない行進型で街を流す盆踊。		県
408	風流踊	山手のはねおどり	福山市山手町	山手町はねおどり保存会	山手八幡神社秋祭	10月第2土曜(前夜祭)、日曜日(本祭)	山手八幡神社及び6支部(矢田、泉、前奥、江良坊、小田、杢原)	定期	起源は不明、山手八幡神社秋祭で演じられる。江戸後期の文献史料や従来の太鼓の墨書銘から、江戸中期までには雨乞や虫送りとして始まったと考えられるが、後に秋祭りで演じられるようになった。大太鼓が内側、小太鼓が外側にそれぞれ円状に配列して太鼓を打ち、円の外側の中鉦、小鉦各役が鉦を叩く。太鼓を抱えて打つ曲、据打ちが各4曲ある。		
409	風流踊	郷分(ごうぶん)のはねおどり	福山市郷分町(草木・境・石原横路地区)	草木町内会保存会	郷分八幡神社秋祭	10月(旧暦8月15日)	郷分八幡神社及び草木奈良神社、境天神社、石原日和神社	定期	郷分八幡神社秋祭で演じられる。楽は「参詣度(さんまいど)」「セグリ」「打ち込み」「宮廻り」で構成され、宮巡りの後は神輿渡御の先導役として、町内各所で踊る。小学生～中高生約15人と大人約20人が演じ、鉦3人、大太鼓3～4人、小太鼓10数人で構成。		
410	祭礼風流	深津大名行列	福山市東深津町、王子町	深津時代行列保存会	塩崎神社秋祭	10月中旬の秋祭	深津小学校区の13町内会を巡回	定期	水野勝成の深津新田開拓成功を祝い、塩崎神社内にあった行列の装備一式が深津村に払い下げられたことから始まったという。侍や奴、腰元の仮装で行列を成し、「ひんよう一ひん、ひんよう一や、さのさ」と声を掛けながら、毛槍踊りなどを披露する。一団は7、80名ほどになる。		
411	その他	福山とんど	旧福山市中心街(現笠岡町、城見町、室町、船町、吉津町、今町、大黒町など)	福山とんど祭り実行委員会	福山とんど祭り	正月14日または15日頃	福山中央公園～久松通り～船町通り～本通り～東小学校庭及び旭小校庭	毎年	元和8年(1622)、水野勝成の築城を祝い、深津村で当時行われていた「とんど」を城下の人々が竹の頂に色々と飾りをつけて担ぎ、城下を練りまわったのが慣例になったという。「とんど音頭」を歌いながら大人子供がとんどを曳いて練り歩き、その後小学校校庭で燃やす。「とんど」の台は竹(真竹)、稲藁、杉の葉、荒縄で作る。		

【調査地区51】 旧千田村、御幸村、加茂町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
412	風流踊	向東はね踊り〈千田はね踊り〉	福山市千田町向東地区	向東はね踊り同好会	千田八幡神社例大祭の前夜祭	10月の第2日曜日の前日(土曜日)	千田八幡神社を中心に宇山八幡神社及び千田地区	1年毎と千田文化祭の時	戦前は向東・大迫・小土井の各地区が道具を所有し例大祭に奉納していたが、戦後途絶えた。昭和56年に復活。「道びき」「せぐり」「宮巡り」「はね踊り」「はね落とし〈メーヘヘヘヘー〉」「はね落とし〈ヨイヨイヨイ〉」の6つの踊りから構成される。踊り、鳴りもの、掛け声が一体となった芸能で、例大祭の一つの行事となっている。約30人で演じる。楽器・用具は、大胴(大太鼓)、諫鼓(カンコ・小太鼓)、鉦、提灯(大・小)。		
413	風流踊	はね踊り	福山市加茂町下加茂地区	倉神社神社総代の下に、各地区ごとのはね踊り責任者(年番)5名を置く	倉神社例大祭の前夜祭	10月の第2日曜日前日の土曜日(倉神社前夜祭)	5つの地区(猪子、上組、中組、下組、大町)の決められた場所及び倉神社境内	1年毎	5つの地区(猪子、上組、中組、下組、大町)から各々出発し、道中で奉納しながら神社に集う。境内では5地区全体で踊りを奉納する。直径30～37㎝の締太鼓を持って叩きながら、円を描くように踊り手が跳ねる。鉦(3種類)と大太鼓(円の中心に据え置き)で拍子を取る。例大祭の日には、猪子の江木神社と下組の丑寅神社で小祭りが行われ、それぞれの組がはね踊りを奉納している。		
414	風流踊	千塚(ちづか)おどり	福山市千田町千田学区	千塚おどり保存会	学区文化祭、学区の盆踊行事	学区の文化祭、盆踊行事東部市民センター、福山ばら祭等で呼ばれて実施	千田小学校校庭、体育館等	1年毎、イベントなどは不定期	大正15年頃、群馬県足利地方から抜き染めの指導に来ていた人々が、千田地区二ツ川、小土井の青年に「群馬八木節」を教えたのが始まりという。楽は大太鼓、小太鼓、樽太鼓、鉦(棒状の金属部分を叩く)で囃し、唄もつく。踊り手は法被、ねじり鉢巻、日傘、花笠の扮装で踊る。		

415	風流踊	はね踊り	福山市加茂町芦原の賀茂神社及び粟根地区、芦原地区、中野地区	粟根会、芦原会、中野会と地域ごとに3つの組織がある。	賀茂神社例大祭の前夜祭	10月第3日曜日の前日土曜日	3つの地区(粟根、芦原、中野)の数箇所を回って、最後に賀茂神社の境内で3地区合同で奉納する。	1年毎	粟根、芦原、中野地区から各々出発し、道中踊りを奉納しながら、加茂神社に到着する。祓いの後、各地区の代表が踊りを奉納し、最後に総勢150名の合同はね踊りを演じる。締太鼓を叩き拍子を吟じながら、円を描くようにはねる数十人の踊り手と、鉦(3種類)と大太鼓(円の中心に据え置き)で拍子を取る鳴りものからなる。道歩きで入場、5種類のはね踊りを2回ずつ跳ねて退場。境内では、これを入れ替わりで踊る。		

【調査地区52】 旧津之郷村、瀬戸村、赤坂村、熊野村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
416	神楽	早戸下組神楽	福山市赤坂町大字早戸下組	早戸下組神楽保存会	艮神社の前夜祭	10月〈10月第3土曜日〉	神社境内の仮設舞台	毎年	沼隈郡瀬戸村の神職・貫井氏より神楽を伝授され、早戸下組神楽連中を結成。明治14年に初舞台を踏む。戦時中一時中断、戦後復活するも昭和38年中断。昭和56年早戸下組神楽保存会に改組し、今日に至る。所持演目は「引鬼(紅白)」「清め」「鹿島明神」「玉取」「天孫」「牛若丸」「八重垣」「王事」など。楽器は大太鼓、横笛、ちゃんぎり(手摺鉦)。		
417	神楽	猪之子(いのこ)神楽	福山市瀬戸町猪之子地区	猪之子神楽保存会	春の発表会、福井八幡神社前夜祭、王子神社例祭など	4月第3日曜日、8月末の土曜日、10月第2日曜日	猪之子町内会館、福井八幡神社境内、枠田会館、猪之子会館	毎年	今から約180年前に当地に沼隈町山南の水落神楽が伝わり、始まったという。所持演目は「神降し」「悪魔払い」「伊吹山」「牛若丸」「提姿受け」「玉取り」「王子」「折敷舞」など。鬼姫や提婆の役は着面舞。楽器は大太鼓・横笛・手打鉦。		
418	神楽	赤坂・中組の神楽	福山市赤坂町中組	中組神楽保存会	竈神社の式年祭(寅年と申年)		赤坂荒神社	6年毎(寅年と申年)	尾道方面の流れを汲む伊勢系の神楽という。赤坂荒神社の式年祭(寅年・申年)に神楽を奉納する。団員は70代が中心。100年前の奉納幕を今も使用している。所持演目は「一番鬼」「神殿」「榊の舞」「神下大臣」「盆舞」「五穀の舞」。		
419	風流踊	盆踊〈精霊踊・招霊踊〉	福山市赤坂町	赤坂学区連合町内会	赤坂町夏祭	8月14日〈旧7月15日〉	赤坂小学校校庭	毎年	櫓を中心に四隅に竹を立て、提灯をつける。二重の輪になって「大和踊り」「扇子踊り」「手拭踊り」、口説は「鈴木主水」「石童丸」などで踊る。楽器は大太鼓。音頭取りは番傘を持つ。	中断(平23頃～)	
420	風流踊	熊野町のハネ踊〈ハネ、沼隈踊〉	福山市熊野町	ハネ踊り保存会	小学校の学習発表会、敬老会の日	現在は小学校の学習発表会、敬老会の日〈門八幡神社の祭日〉	熊野小学校	毎年	別名、沼隈踊という。「渡り打ち」で神社に向かい、境内では「勢揃い」「せぐり打ち」「参詣度」「宮参り」を打ち、社殿を1回または3回廻る。次に、円陣を作り、鬼棒と悪魔祓いの団扇を持った「鬼」が中央でハネ唄をうたい、鳴物は周囲で跳ねる。「きく打ち」で鬼頭が口上を述べると、鬼は扇を広げて跳ね上がりながら踊る。最後は「打ち別れ」で終わる。楽器は太胴(大太鼓)、入鼓(小太鼓)、鉦各1名。		
421	風流踊	夕倉・小森はねおどり	福山市津之郷町夕倉地区、小森地区	夕倉、小森両自治会	三島明神社の祭礼(前夜祭と本祭)	10月第2土日曜日〈10月5日〉	三島明神社の境内と夕倉地区小森地区それぞれ5箇所	毎年	大太鼓(おおどう)1名、入鼓(いりこ)1名、鉦1名を1組とし、計4組で踊る。交代で演じるため総勢2、30名となる。前夜祭では神社で踊り、「宮めぐり」(奥の社を3周)、「曲打ち」(静かに踊り始め、徐々に動きを激しくし、一息入れて境内で輪になって踊る)を行う。例祭当日は神社境内で踊った後、神幸に同行し、5箇所で踊る。		
422	風流踊	盆踊	福山市瀬戸町	瀬戸町自治会連合会	瀬戸町の夏祭	8月の第1土曜日〈旧7月15日〉	瀬戸小学校校庭	毎年	中心の櫓に音頭取りと太鼓打ちが上がり、踊り手はその周りに輪になる。踊り手は団扇を持つ。大国踊りは男女一組になって踊る。曲目は「大和踊り」「備中踊り」「大国踊り」、口説きは「鈴木主水」「八百屋お七」「国定忠治」が伝わる。		
423	風流踊	胴鉦踊(どうかねおどり)〈はね踊り〉	福山市赤坂町近江谷	近江谷胴鉦踊保存会	虫送り神事(平成3年復活)	6月第3日曜日	生田神社、赤坂八幡神社の境内と平実盛塚前	毎年	全国各地に流通した江戸神田鍛冶町の鋳物師・西村和泉守の銘入り鉦が現存する。生田神社と赤坂八幡神社で奉納し、御幣を実盛塚へ納める。音頭取り1、中踊り数名、大胴(大太鼓)1、入鼓(小太鼓)1、鉦1からなる組を「から」といい、5からで構成される。曲は、「渡り拍子」「さんようれー」「めーへへ」「よいこらべー」がある。		
424	風流踊	花踊り〈ひんよう踊り、キリコ踊り〉	福山市赤坂町竹之下、上組地区	赤坂町竹之下町内会、上組町内会の2町内会をあわせた近江谷地区の住民	赤坂八幡神社の例祭の前夜祭	9月第4日曜日の前日〈9月14日〉	生田神社境内、赤坂八幡神社境内	毎年	太鼓打ち(小学生の男子3名)が、腰に小太鼓を着けて環列に加わり拍子を取る。四つ柱(大人4名)は梵天を持って立ち、輪の内側にも梵天を持って踊る者もいる。その他、音頭とり、キリコを頭にした小学生も加わる。花踊謡は5番まである。		
425	風流踊	津之郷惣堂ひんよう踊り〈花踊り〉	福山市津之郷本谷上、本谷下、坂部	津之郷惣堂ひんよう踊り保存会	津之郷町の秋祭	10月第2日曜日の前日〈10月5日〉	惣堂神社境内、坂部稲荷神社、三島明神社境内	毎年	起源は明らかではないが、寛政6年(1794)に土屋半兵衛が隣接する村々から習い広めたと伝わる。弓張提灯を中心にして、梵天持ち、太鼓打ち、音頭取り、拍子取り、キリコを頭に冠る子供たちが輪を作り踊る。ゆったりとした音頭、緩やかな動きの素朴な踊りを繰り返す。「ヒンヨーサー」の合いの手が入る。【詳細調査No.11】		市

【調査地区53】 旧福山市域の一部、水呑村、鞆村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
426	神楽	走島の神楽	福山市走島町	郷土芸能保存会(守る会)	荒神社・村上神社祭礼	10月14日頃の土・日曜日〈旧暦9月14日～16日〉	荒神社、村上神社境内	毎年	明治18～20年に鞆町・田尻町より伝わった神楽だという。荒神社秋祭に奉納される。「悪魔祓い」の口上を述べる。	中断(平27～)	

427	神楽	備後田尻荒神神楽〈式年大神楽〉	福山市田尻町本郷荒神社	備後荒神神楽田尻保存会	荒神社式年例祭(寅・午・戌の年)の式年大神楽	11月第3日曜日〈寅・午・戌の年の晩秋〉	現在は高島小学校体育館。昔は本郷荒神神社境内に仮設舞台を設営していた。	4年毎	寛政6年(1794)以降の覚書が残る。備後地方南部の荒神神楽。4年ごと、荒神社の式年に当たる年(寅・午・戌)の晩秋に舞われる。所持演目は「悪魔祓い」「天神の臣」「岩戸の舞」「日本武尊」「剣舞」「ニニギの舞」「スサノオの命」「皇子」など15演目。楽人は大胴(大太鼓)2名、鉦1名。板の方形舞台に柱を建て、天蓋を設ける。神歌が美しく、舞や衣装に古型を伝える。		県
428	風流踊	盆踊〈新仏供養〉	福山市鞆町平　淀姫神社	平盆おどり音頭保存会	盂蘭盆(新仏供養)	8月14日〈旧暦の盆の3日間〉	淀姫神社境内・平二丁目町内会館広場・平三丁目町内会館広場(会場は輪番制)	毎年	新仏の位牌を祭壇に祀り、供養行事が行われ、その後祭壇広場で3地区の住民が踊る。櫓の周りで二重・三重の輪になって踊る。口説き「鈴木婦人」「小源の芝居」「十五娘の仇討ち」等。楽器は太鼓。全員浴衣を着用。昔は盆の3日間踊り明かしたという。		
429	風流踊	盆踊〈新仏供養〉	福山市走島町	夏祭り実行委員会	盂蘭盆	8月13日〈旧暦7月13～15日〉	旧走島小学校校庭	毎年	昔は新仏の家の前で踊られたが昭和35年頃から小学校校庭でまとまって踊るようになった。夜7時頃より新仏供養の法要読経があり、その後盆踊を踊る。走島独特の口説きがある。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。衣装は浴衣。		
430	風流踊	はねおどり	福山市田尻町　田尻八幡神社	田尻芸能保存会	八幡神社例大祭(10月第1日曜日)	7月第1日曜日午前金崎荒神社、午後田尻八幡神社、10月第1日曜日	田尻八幡神社境内、金崎荒神社境内、高島小学校校庭	毎年	太鼓・鉦の三体と鬼が先導し、囃しながら数組が列を作り神社へ参拝し、大地を踏みしめ、悪霊退散を願って踊る。演目は①早打ち(出発)②道ゆき(宿→神社)③せぐり(神前での揃い打ち)④役鬼によるお払い・祈願・鬼踊り⑤参詣度⑥はね歌踊り⑦口上⑧中踊り⑩ばねこみ(なで)⑪道ゆき(神社→宿)。構成は鬼頭1、役鬼2、平鬼多数。楽器は大胴・入れ鼓・鉦(3人1組)、歌頭(はねおどり歌をうたう)。		県
431	風流踊	鞆の浦アイヤ節〈俄踊り〉	福山市鞆町	鞆の浦アイヤ節保存会	観光鯛網、鞆の浦弁天島花火大会、渡守神社秋祭、その他各種行事	随時	福山市鞆町内、各種行事開催場所	不定期(各種行事の時)	北前船の寄港により伝わった踊り。前方に揃いの着物に菅笠姿の女性、続く鉢巻の男性が三味線(後方)のお囃子に合わせて踊る。中村家文書・天保9年(1838)の内容に「俄踊り」に関する記述がある。		
432	祭礼風流	だんじり	福山市走島町	地域住民	馬節句	廃絶〈旧暦8月1日〉	走島町内	毎年	明治20年頃、鞆より伝わったものだという。旧暦8月1日(八朔)、だんじりに乗り太鼓を叩き音頭をとり、町内を回る。だんじりは5、6台あり、太鼓を乗せ、網で曳き、舵棒で向きを変えたという。男子の家では張子の馬を飾り　餅をついて祝う。現在は中断(中断年代は不明)。	中断	
433	祭礼風流	神輿廻し	福山市走島町	太鼓保存会と走島氏子総代	氏神祭	9月14日から15日に近い土・日曜	八幡神社、荒神社、島内ら一円	毎年	9月14日の宵宮で本殿前で火が焚かれ、その周りで神輿が廻される。120kgある神輿を3人で8拍子の太鼓に合わせ、火を中心に約1時間、神輿回しを行う。9月15日は神輿を村上神社に運び、氏子総代・青年団が担ぎ、総代・網元・当家など巡幸する。		
434	祭礼風流	八朔の馬出し	福山市鞆町	八朔の馬出し実行委員会	鞆の津八朔の馬出し	旧暦8月朔日に近い9月初旬の日曜日〈旧暦8月朔日〉	沼名前神社前～安国寺・(旧)原町地区・(旧)鍛冶町地区・(旧)石井町地区～鞆こども園	毎年	子供の健やかな成長を願う行事。文化15年(1818)の「風俗御問状答書」に記録がある。馬の模型を台車に乗せ、笹を立て飾り付ける。引き手が太鼓に合わせて囃し、馬の台に取り付けた綱を老若男女の町民が引く。自作の馬を引く参加者も多い。曲に定型はないが、伊勢音頭や秋祭の短歌などを歌う。太鼓の調子は秋祭に準じる。		
435	祭礼風流	チョウサイ	福山市鞆町の沼名前神社	沼名前神社祭事運営委員会	渡守神社　秋祭	旧暦8月11日に近い3日間(連休日)〈旧暦8月11日より3日間〉	鞆の浦旧七町(江之浦・西・道越・関・石井・鍛治(含む祇園)・原)	毎年	文化年中(1804-18)に波戸工事落成式時から始まり、当時の棟梁・松右衛門が囃子の節を付けたといわれている。チョウサイ(神輿太鼓)は渡守神社例祭の神輿渡御の後に行われる。三段の布団様の飾りを天井に付け、内部に太鼓を据えて子供が乗る。引き手が長唄を歌うと、それに合わせて乗り子は太鼓を叩く。太鼓の叩き方は、長唄・短歌に合わせて変化する。長唄・短歌は旧七町毎に歌詞が異なる。		
436	舞台芸等	村芝居	福山市走島町	買芝居のため、役者は島外の人々	祭礼の時など	廃絶〈神社祭礼の時〉	島の空き地に小屋を建てる	不定期	大正時代末期から始まったという。当地の地芝居ではなく、芝居小屋に他所から役者を招いて楽しんだという。	中断(戦中～)	

【調査地区54】 旧松永市

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
437	神楽	本郷神楽	福山市本郷町	本郷町無形民俗文化財保存会	本郷八幡神社七年式例祭(丑年・未年)、本郷町文化芸能祭	丑年・未年の5月(七年式)、毎年11月(文化芸能祭)、3年毎の9月(旧8月15日の八幡神社秋祭)	市原地区の広場(空き地)の仮設舞台(神楽殿)、小学校(文化芸能祭)	毎年、3年毎、7年毎など	文化15年(1818)の「御問状答書」に「百年以上前は夜神楽なりし」とあり、歴史は江戸中期まで遡ると考えられる。備後地方南部の荒神神楽。行事以外は式年(丑年・未年の5月)に演じられる。所持演目は「場払」「神迎」「巻物(神降)」「鹿島立ち」「親家大臣」「玉取りの命」「牛若丸」「(皇子)小碓の命」「四本舞」「瓊々杵の命」「盆舞」「天の岩戸」「剣舞」「王子」「八重垣」(『本郷神楽』より)。		県

438	神楽	神楽	福山市神村町	松本芸能保存会	武内神社祭礼、荒神社七年大祭	10月第3土曜日、七年神楽は第3日曜日	荒神社、武内神社、地区の家々	毎年・7年毎	備後地方南部の荒神神楽。荒神社の式年神楽では所持演目の他、「俵廻し」が行われる。俵廻しは前回～今回の式年祭の間に生まれた子供の親が俵を作り、その俵を最初は太夫、続いて舞手が持って舞う。その後親に返される。所持演目は「悪魔祓い」「神降ろし」「田村将軍」「瓊瓊杵尊」「牛若丸」「皇子」など。		
439	神楽	野島(のじま)神楽	福山市金江町野島	野島神楽保存会	10月第2土日の例祭および7年毎の式年祭、歳旦祭など	例祭、式年祭の前夜	厳島神社(二宮神社)および八幡神社	毎年	備後地方南部の神楽。前の式年祭以後に男児が生まれた家では、舞場の神棚へ小さな米俵と鏡餅を供える。所持演目は「鬼」「田草」「鈴鹿山」「牛若丸」「盆舞」「棚下」「岩戸」「新ヶ大臣」「鎮西八郎」「天津児弥ね」「王治大子」「ににぎの尊」「剣舞」「四本舞」「神棚鎮め」「王子」。		
440	神楽	藤江神楽	福山市藤江町	藤江町一・二番組神楽保存同好会、三番組自治会	太田神社例祭	10月15日に近い土曜日	太田神社、柳見堂荒神社(式年)	毎年	尾道市浦崎町から伝承したという。例年は太田神社の例祭に一・二番組神楽保存同好会と三番組自治会が輪番で奉納する。演目は「悪魔祓」「田草の舞」「鬼舞」「神殿鎮」「牛若丸」「素戔嗚尊」「天岩戸」「伊吹山」「剣舞」「神殿入」。昔の担い手は、若連中、青年団、消防団と移り、現在は同好会となっている。		
441	神楽 風流踊	柳津(やないづ)神楽・胴鉦(どうかね)	福山市柳津町5地区	柳津神楽(銅鉦)保存会	神楽は橘神社の秋祭、銅鉦はお盆	銅鉦は8月15日、神楽は10月第3土曜日	橘神社	毎年	慶長元年(1596)、柳津を中心にコレラが流行したため、剣大明神(橘神社)に祈願し、願解きとして銅鉦踊と砂場式をしたことが始まりという。神楽については「鬼舞」「神殿鎮(こうどのしずめ)」「神殿入」「天磐戸」「五穀」「牛若丸」「四本舞」「棚降造花舞」「剱舞」「王子」が演じられる。神楽は中、西、東、市場、灘の5組で年毎に輪番で奉納し、6年に1回は全地区により奉納される。		
442	風流踊	ひんよう踊〈花踊〉	福山市本郷町	本郷町無形民俗文化財保存会	二宮神社祭礼、本郷文化芸能祭、本郷八幡神社例大祭祭礼	毎年10月中旬二宮神社、3年毎9月中旬本郷八幡神社、毎年11月第1日曜・本郷小学校	二宮神社境内　本郷小学校(文化芸能祭)、本郷八幡神社境内	毎年・3年毎など	豊年を感謝する意味を持ち、当地の神社祭礼で氏子によって演じられる。文化年間(1804-18)の「福山志料」「御問状答書」で「花踊」として確認できる。男性は梵天を上下に振ったり、頭上で回しながら踊る。女性は灯籠を廻したり捧げたりする。約30種類の曲目があり、現在は「みちびき」に続いて「館」「長者踊」「鐘寿踊」「天王寺踊(むすび)」の順に踊る。		県
443	風流踊	ひんよう踊〈火踊〉	福山市神村町	神村学区郷土芸能保存会	旧暦8月15日の八幡神社例大祭	9月第3土・日曜日(旧8月15日)	神村八幡神社境内	毎年	中心に踊り子(28名位)、太鼓役、はやし手数名が踊り、その周りを小学生約15名位がキリコを持って囲み、キリコを上げ下げして踊る。踊りは「御庭踊」「尾瀬葉踊」「青葉踊」「浜の踊」「豊後の踊」「金山踊」「銅鐘踊」がある。内側の輪の中踊は竹の先に御幣を付けた「ボンデン」をもって音頭を取りながら踊る。		
444	風流踊	ひんよう踊〈火踊〉	福山市神村町	神村学区郷土芸能保存会(6区と10区)	受持神社(黄幡神社)例大祭	10月第3土・日曜日(旧9月15日)	受持神社(黄幡神社)境内及び隣接小学校グランド(神村小学校)	毎年	ひんよう踊発祥の地は神村、本郷、赤坂など諸説ある。ひんよう踊は6区の住民、胴鉦踊りは10区の住民がそれぞれ担い手となっている。受持神社(黄幡神社)例大祭で奉納される。踊りは「御庭踊」「尾瀬葉踊」「青葉踊」「浜の踊」「豊後の踊」「金山踊」「銅鐘踊」がある。		
445	風流踊	銅鐘踊〈胴鉦踊、虫送り、太鼓踊り〉	福山市神村町	神村学区郷土芸能保存会	神村八幡神社蝗除祭	6月下旬の土曜日(6月29日)	神村八幡神社境内	毎年	虫送りと台風・水害除け・五穀豊穣の祈願踊り。現在は10地区の自治会が参加している。大太鼓(1名)、小太鼓(2名)、鉦(2名)を1グループとする。弓張提灯を先頭に笹竹を持ち、鉦・太鼓を鳴らし、各地区の神社で虫送りの踊りを奉納しながら神村八幡神社に集まり祈願する。祈願後再び虫送りの踊りをする。		
446	風流踊	金江銅鉦	福山市金江町平田	金江銅鉦保存会	6月第3日曜日	虫送りの時期	旧JA金江支店広場	毎年	稲祈祷や虫送りで奉納されており、住職の豊作読経後、金江川の水路沿いでカヤの葉が飾り付けられた6本の青竹を海に流す。楽器は大太鼓、入鼓、鉦。		
447	祭礼風流	潮崎神社例祭の山車(だんじり)	福山市松永町　潮崎神社及び氏子域	実行委員会、各町内青年団ほか	潮崎神社例大祭	10月第2土曜日・日曜日	潮崎神社境内～町内	毎年	潮崎神社の例大祭に、氏子域である下之町・上之町・濱見町・栄町・西町・徳島町・南松永町の7地区から、趣向を凝らした山車(「だんじり」と呼ぶ。)を出し、2基の神輿とともに町内を練る。山車は屋根・車輪の付いた大型もので、人形などの作り物や提灯などで飾り付け、太鼓・笛・鉦の囃子と掛け声や伊勢音頭に合わせて曳き廻す。山車を激しく地面に打ち付ける「ゴザレ」の所作もある。		
448	祭礼風流	橘神社例祭の山車	福山市柳津町　橘神社及び氏子域	各自治会	橘神社例大祭	10月第3土曜日・日曜日	橘神社～町内	毎年	橘神社の例大祭に、氏子域である中、西、東、市場、灘の5地区から、趣向を凝らした山車(「だんじり」と呼ぶ。)を出し、神輿とともに町内を練る。山車は屋根・車輪の付いた大型もので、人形などの作り物や提灯などで飾り付け、太鼓・鉦の囃子と掛け声や伊勢音頭に合わせて曳き廻す。		
449	祭礼風流	本郷八幡神社例祭のだんじり	福山市本郷町　本郷八幡神社及び氏子域	氏子域各組	本郷八幡神社例大祭	9月第3日曜日	本郷八幡神社～氏子域	3年毎	本郷八幡神社の例大祭に、氏子域である納屋組、市原組、荒木組、立神組、尾越組、御領組の6地区から、趣向を凝らしただんじりを出し、町内や境内を練る。だんじりは屋根・車輪の付いた大型のもので、人形などの作り物や提灯などで飾り付け、太鼓・鉦の囃子と伊勢音頭に合わせて曳き廻す。宮上がりの際、参道の最後にある石段にだんじりを何度も激しくぶつけながら、担ぎ上げて境内に入る。		

【調査地区55】 旧芦田町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
450	獅子舞	柞磨(たるま)の継獅子舞	福山市芦田町柞磨柞磨八幡神社	柞磨八幡神社継獅子舞保存会	柞磨八幡神社秋季例祭	10月第2日曜日	柞磨八幡神社	隔年	正保元年(1644)に始まったと伝わり、天保8年(1837)の年紀が入った獅子頭が3代目として伝えられている。胴布に氏子数十人が入り、ほかの氏子は胴布を翻しながら動きをつける。2度目に本殿に上がる際、猿田彦役が獅子に刀を銜えさせ、獅子頭役は人垣を上り継獅子を演じる。これを上り獅子といい、一舞したところで刀を神職に渡す。歯打ちはなく、花笠姿の稚児が鉦(チャンギリ)を鳴らす。		市

【調査地区56】 神辺町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
451	神楽	備中神楽北山社	福山市神辺町上御領	備中神楽北山社	上御領上組荒神社式年祭	7年ごとの荒神楽や個人の慶事	上御領上組荒神社	7年毎	昔から上御領の地域では備中神楽の神楽太夫を多く輩出していた。「榊舞」「岩戸開き」「大蛇退治」の演目を所持する。荒神社の式年祭や個人の慶事などで演じられる。		
452	風流踊	三谷のはね踊り	福山市神辺町三谷	三谷町内会	安那神社秋季例祭	10月第1土曜日・日曜日	安那神社	毎年	三谷にはね踊りが伝来したのは元和年間(1615-24)だという。明治中期、上三谷には開盟社、下三谷には総盟社という若衆組があり、はね踊りの違いから両社間で喧嘩になることがあった。そこで、神石郡坂瀬川村のはね踊りを伝習し、大正4年頃から同じはね踊りを踊るようになったという。大太鼓1つに4人の跳ね子で1つの組を作り、大小の鉦や露払いの鬼、担ぎ手などともに道行し、境内などで踊る。鉦・太鼓の調子は18番まである。		
453	風流踊	神辺二上り踊り	福山市神辺町川北・川南	神辺二上り保存会	天別豊姫神社秋の大祭	10月第4日曜日	県社天別豊姫神社の境内、各種イベント	定期	15世紀半ば頃に神辺城改築の完成を祝って城下で踊ったのがその始まりと伝えられる。三味線の曲を基調にし、鉢巻または頬かむり姿の男性と編笠を被った女性が練り踊ったもの。唄はない。基本的には進行型で踊る。三味線の調絃法から本調子・三下り・二上りの3つの踊りに分けられる。手振りで表現する素朴な踊りである。		市
454	風流踊	御領はねおどり	福山市神辺町上御領	御領はねおどり保存会	上御領八幡神社の祭礼、金光教芸備教会の春・秋の大祭	上御領八幡神社の祭礼、金光教芸備教会の春・秋の大祭	上御領八幡神社境内、金光教芸備教会境内	毎年	上御領八幡神社の祭典では、上御領上組・中組・下組の3町内会が合同で行う。扇子を持った鬼(猿田彦面)が中央で囃し立て、鉦に合わせて踊り子が太鼓を打ち鳴らしながら跳ね踊る勇壮な踊りである。演目は「道歩き」「宮あかり」「ドンカカ」「ジャンジャコサッサー」「カネノ輪」「ヨイコラサッサー」「サアシャードサッサー」。		市
455	風流踊	盆踊	福山市神辺町東中条・西中条	中条民謡保存会	夏祭	8月第1土曜日	中条小学校運動場	毎年	安永年間(1772-81)以前から踊られていたようである。櫓の上に音頭取りと太鼓奏者が上がり、周りに踊り手が二重円を作って踊る。最盛時には三重円いっぱいとなった。古くから伝わる演目は、「二つ拍子」「扇子踊り」「大黒踊り」「梅ケ枝踊り」「ひょろりん踊り」がある。楽器は太鼓。		
456	風流踊	盆踊〈張田盆踊〉	福山市神辺町上御領上組町内会	張田盆踊有志会	お盆	〈盆供養として行っていた〉	神辺町上御領町内会運動場	毎年	慶安5年(1652)、福山城主・水野勝成が亡くなった時に供養として盆踊をしたのが起源だという。「大和踊り」「梅がや踊り」「大国踊り」「松山踊り」「扇子踊り」「二つ拍子」「三つ拍子」を踊る。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。令和元年から中断。	中断(令1～)	
457	祭礼風流	中条八幡神社神儀〈はねをあげる〉	福山市神辺町東中条・西中条	8町内会	中条八幡神社祭礼	毎年10月15日に近い日曜日〈10月12日(口明)10月14日(前夜祭)10月15日(例祭日)〉	中条八幡神社馬場、神社境内	毎年	明治初年、東中条の奥野大吉が神石郡坂瀬川村の神儀を移入したという。口明(例祭日の3日前の夜)、前夜祭、例祭日の朝に神社前・馬場で鉦(ソーワン、中ワン、チンチン鉦)・締太鼓を打ち鳴らし、本殿へ一礼して境内で鉦・締太鼓を打ち鳴らす。総勢200名ほどで演じる。曲は二上りと1～6番。鉦の音は後になるほど早くなる。		

【調査地区57】 旧加茂町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
458	神楽	七谷(ななだに)神楽	福山市山野町七谷松尾谷	進栄社	荒神祭、椙宮八幡神社秋の大祭	七谷松尾谷地区の荒神祭の前夜、椙宮八幡神社10月第2日曜日〈10月17日〉	荒神社境内、椙宮八幡神社境内	定期	備中神楽。江戸末期、松井伝次郎が備中国後月郡青野村の三宅玉緒から伝習、持ち帰ったのが始まりという。所持演目は「榊舞」「白蓋」「導きの舞」「猿田彦の舞」「岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」「五行の舞」「剣舞」「盆舞」。五行の舞の途中に、余興として剣舞や盆舞を行う。舞殿に白蓋を飾る。	中断	

459	祭礼風流	原谷神儀	福山市山野町山野原谷	青年団(指導は踊りの詳しい者数名で)	秋祭(秋の大祭)	岩屋権現秋祭10月19日(現在11月3日)	岩屋権現(多祁伊奈太伎佐耶布都神社・たけいなだきさやふつじんじゃ)本殿前	毎年	明治初期、神石郡新免村出身の渡辺四平が伝えたといわれる。祭礼当日、大当番宅、鳥居原で踊った後、神社本殿を3周し踊る。曲は神儀譜が10番まである。衣装は上は襦袢、下は袴姿で頭には烏帽子を被る。構成は総代、大当番、猿田彦、ボンデン、吹き流し、獅子、チンチン鉦、大鉦(ソウアン)、太鼓、踊り子(1カラ4人×3カラ、小学4～6年生男子)。鉦に合わせ、前後・左右に移動し、時には跳ねながら踊る。	中断(昭50年代半～)	
460	祭礼風流	山野神儀	福山市山野町山野	山野神儀保存会	高尾艮神社・椙宮八幡神社の秋の大祭	高尾艮神社大祭11月23日、椙宮八幡神社10月第2日曜日	高尾艮神社境内、椙宮八幡神社境内	毎年	江戸末期、宮光助、藤井柳作両氏が備中国後月郡東三原村へ山仕事に行った際に神儀を伝習し、持ち帰ったことが始まりという。鉦に合わせ、地面に据えた太鼓を1カラ4人で叩きながら、前後左右に飛び跳ね、時にバイを空中高く投げ上げ受け止めながら踊る。これを「ハネ」という。構成は猿田彦、代表、幟、幣、ボンデン、吹き流し、獅子、チンチン鉦、大鉦、神儀踊り子(3カラ、小学4年生以上の男子)など。	中断(平21～)	
461	祭礼風流	七谷松尾谷神儀	福山市山野町山野七谷、松尾谷(現在山野町)	共進社、後に七谷松尾谷神儀保存会	椙宮八幡神社の祭、秋の荒神祭、水車と語りん祭など	(七谷松尾谷)秋の荒神祭、(椙宮八幡)現在10月第2日曜日	七谷松尾谷荒神社境内、村社椙宮八幡神社境内など	毎年	起源は定かでないが、明治13年安那郡御領周辺から古老が習得し、七谷、松尾谷の荒神社に奉納したのが始まりという。祭り当日家々を廻りながら荒神社の境内で踊る。椙宮八幡神社に奉納する時は本殿を3周して踊る。構成は、大総代、4組代表、猿田彦、幟、ボンデン、吹き流し、チンチン鉦、大鉦(ソウアン)、獅子、踊り子。踊り子は締太鼓を持って踊りながら打つ。		
462	祭礼風流	芋原地下(いもばらじげ)神祇	福山市加茂町北山芋原	昔は地区内。再興後は神祇委員会を組織し、指導・伝承に当たる。団長は委員長が務める。	地下の荒神祭、村社龍田神社秋の大祭	10月第2日曜日	地下の荒神社境内、龍田神社境内	毎年	起源は不明。一時中断したが、現福山市蔵王の神祇を移植し復活したともいわれている。芋原の新宮境内で練習がてら踊り、その後龍田神社へ移動する。神社境内広場で3周、本殿を3周する。神事後、外の本殿横で踊る。構成は、団長、副団長、鉦、カンコ(小太鼓)、オオドウ(大太鼓)。踊り子は小学4年生以上の男子で、1列になり前や横に向きを変えながら踊る。	中断(平成～)	

【調査地区58】 旧駅家町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
463	獅子舞祭礼風流	神殿入(こうどのいり)〈宮入〉	福山市駅家町向永谷1105	高倉神社氏子	例年祭前夜祭	10月第2土曜日	高倉神社	毎年	午後6時に各自提灯を持って鳥居前に集合し、鉦を打ちながら石段を上る。本殿前の鐘楼台に鉦を置き、5人が太鼓を3曲打つ。そして、子供育成会により獅子舞(先頭を男児が榊に取り付けた御幣を持ち、女児2人が獅子頭を被る)を奉納し、その後神事が行われる。		
464	風流踊	ふるさと踊	福山市駅家町　駅家東学区	ふるさとおどり駅家東保存会	①(駅家東)学区盆踊り大会 ②サッサカ	①8月第1土曜日　②8月第3土曜日	①駅家北小学校グラウンド　②駅家小学校グラウンド	毎年	盆踊。「うめがえ」「やまと」「(福山)せんす」「大黒」「うつし」の5曲が伝承されている。以前には「ひょろりん」「炭坑節」「村々つくし」などもあった。昔は、音頭取りが笠をもって唄い、太鼓打ちがそれに合わせ、櫓のまわりの人々が囃子ながら団扇を持って踊っていた。		
465	風流踊	跳踊(はねおどり)	福山市駅家町万能倉	万能倉跳踊保存会	素盞嗚神社(通称:石神神社)例祭	10月第3金曜日・土曜日	素盞嗚神社と万能倉地域	毎年	五穀豊穣、風水害・害虫・干魃除けの踊り。初日に素盞嗚神社で神事後に奉納し、翌日は午後に神社と氏子域の数箇所で踊る。太鼓打ち、鉦打ち総勢10名前後の氏子一団で踊る。太鼓は大太鼓と小太鼓の2種類を使用。		
466	風流踊	跳踊	福山市駅家町万能倉	万能倉跳踊保存会	八幡神社例祭	10月第3土曜日・日曜日	八幡神社と万能倉地域	毎年	五穀豊穣、風水害・害虫・干魃除けの踊り。初日に八幡神社で神事後に奉納し、翌日は午前中に神社と氏子域の数箇所で踊る。太鼓打ち、鉦打ち総勢10名前後の氏子一団で踊る。太鼓は大太鼓と小太鼓の2種類を使用。		
467	祭礼風流	御輿神祇	福山市駅家町向永谷	高倉神社氏子	例年祭	10月第2日曜日	高倉神社から向永谷地域	毎年	神輿渡御では打ち鳴らす鉦とともに地区を巡る。御輿担ぎでの歌や鉦の曲が伝承されている。鉦を打ち鳴らしながら各家に居られる氏子に御輿が近づいていることを知らせ、5箇所の御旅所ではそれぞれの小地域の氏子が御霊と御輿の担ぎ手を接待する。	中断(令2～)	

【調査地区59】 内海町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
468	風流踊	盆踊	福山市内海町	各地区自治会	盆踊り大会	8月13日	うつみ市民交流センター、公民館敷地内、寺院境内、個人敷地内	毎年	口説き「鈴木主水」「八百屋お七」「石童丸」「伊予の松山心中」「尾道心中」「巡礼お鶴」「四つ星」などが伝承されている。戦前は娯楽も少ないため、3日間夜明け近くまで踊られていたようである。櫓を中心に輪になって踊る。楽器は太鼓と鉦。櫓には新霊の氏名を貼り、四方に提灯を吊り下げる。		
469	祭礼風流	横島八幡神社大祭(チョウサ・だんじり)	福山市内海町横島	内海町横島地区自治会	横島八幡神社秋祭	10月第1日曜日	町内各地区(御旅所)を巡行	毎年	大坂の祭りを真似たという言い伝えがある。以前は3日間町内を練り歩いた。チョウサは神輿の露払いとなり、だんじりと神輿が御旅所と町内を巡行する。チョウサには太鼓と化粧・赤烏帽子姿の稚児4人が乗り、だんじりには水色頭巾をかぶり扇子を持つ音頭取りの女児3人と太鼓、鉦の囃し方が乗る。チョウサの音頭は「天下、泰平、国家、安全」(四拍子)で、「一の声は、打ちたる太鼓、マカショウ、マカショウ」(二拍子)で太鼓を打ち始め、巡行が始まる。御旅所では山車の唄、伊勢音頭「四つ星」を唄う。		

470	祭礼風流舞台芸等	山王さんの秋祭(だんじり)	福山市内海町西部地区	内海町西部地区自治会	山王神社の秋祭	10月第1土曜日、日曜日	日枝神社境内、山車は町内を巡回	毎年	藩政期、西九州地方まで捕鯨に出かけた若者の帰宅を祝うため、祭礼が盛大になったという。化粧した稚児10名程度が乗っただんじりを20～30人で曳き、太鼓、鉦で囃す。伊勢音頭、山車唄とともに町内の御旅所を練り歩く。その後を神輿が続く。かつては、境内に芝居小屋があり、田舎芝居を楽しんだ。	中断(昭30～)	

【調査地区60】 沼隈町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
471	神楽	神楽(菅田神楽・大富神楽・水落神楽・菅野神楽・東組神楽・本谷神楽・岡田神楽)	福山市沼隈町	沼隈神楽保存会、各地区神楽団・同好会	町内各神社の秋祭	秋の例祭及び式年祭に引き続き奉納される。神楽は夜半に至る。	各神社の神楽殿	毎年および7年毎	備後地方南部の神楽。明治中期、常石の神職・村上朝生が地元住民に神楽指導し、水落・東組に神楽組織が誕生。その後周辺に拡まった。所持演目は「宿赤鬼・宿白鬼」「宮赤鬼・宮白鬼」「社水」「巻物」「玉取り」「牛若丸」「剣舞」「岩戸の舞」「伊吹山」「五行抄」。楽器は横笛、太鼓、チャンギリ。紅白の鬼が悪魔祓をし、「礼」という神事ののちに数演目の能舞を演じる。令和5年秋までに本項の神楽団が全て解散した。	中断(令5～)	
472	神楽	沼隈神楽〈林崎神楽〉	福山市沼隈町草深	沼隈神楽保存後援会〈林崎神楽団〉	未定	亀山八幡神社の秋祭	亀山八幡神社の秋祭、草深荒神社荒神祭(七年神楽)など	令和6年復活	備後地方南部の神楽。江戸時代に能登原で本谷神楽が演じられていたが中断、明治に入り常石の神職・村上朝生が本谷神楽を基に新たに神楽を創作し、常石東組と水落で演じられるようになった。その後水落神楽は林崎、山南両地区で演じられていたが廃絶し、岡田神楽同好会として継承した。令和6年に同好会の会員によって沼隈神楽団が復活した。演目は「宮赤鬼」「宮白鬼」「社水」「巻物」「牛若丸」「剣舞」「伊吹山」。舞場は横4尺5寸、縦5尺の舞舞台を2枚使用する。		
473	神楽	能登原神楽	福山市沼隈町能登原(立河内以東の地区)	＜地域住民＞	能登原八幡神社例祭	10月	能登原八幡神社	毎年	備後地方南部の神楽。明治2年銘のある上組若連中奉納の箱天秤と、神楽面15体が現存する。大正期までは地元民による神楽が奉納されていた。現在、奉納神楽は他地域から招聘している。	中断(大正～)	
474	風流踊	はねおどり〈沼隈踊〉	福山市沼隈町山南学区(水呑町、田尻町、熊野町)	はねおどり保存会	夏祭および臨時〈雨乞い、虫送り、夏祭等神事の前、はねおどり大会〉	8月第1土曜日夏祭に奉納〈雨乞い、虫送り、夏祭等神事の前に踊る〉	延広八幡宮、高籠神社、艮神社、龍王神社および小学校校庭	毎年	「鬼」と称する歌い手若干名と、大胴(大太鼓)、入れ鼓(小太鼓)、鉦の4種で1組となる。鬼は団扇と色紙飾りを付けた鬼棒を持って先頭に立ち、大胴は片手に提げ、入れ鼓は首に掛けて胸のあたりに括り、両手に撥を持つ。鉦は左手に持つ。音頭取り(鬼頭)はその中央に立ち、日の丸の扇を両手に翳し、「エー、エー、オー、サー、まいろう」と始めると、楽器はそれに和して「ヤーサー、まいろう」と応じて囃しつつ、ともに踊る。使用する鉦の1つに享保15年(1730)の銘がある。		県
475	風流踊	平家谷の盆踊〈スボカズキ〉	福山市沼隈町横倉	住民グループ	民俗芸能のイベントなど	不定期〈8月14日〉	小宰相庵(横倉)	不定期	平家との関わりを疑われないため藁スボを被り、顔を隠して踊るという。手は藁スボを支えるため使えないので、足が主体の踊りである。囃子唄は平家物語の一節である。古来から横倉谷地区の盆踊として踊られている。平成初期に一時中断したが、名残りを引き継いで近年復活した。		
476	風流踊	盆踊	福山市沼隈町山南	各自治会〈青年団〉	お盆	旧盆の夜間	善徳寺・南光房	毎年	明治期に一時衰退したが、明治末期から大正期にかけて青年団の発展に伴い盛んとなる。「一つ拍子」「二つ拍子」「三つ拍子」「四つ拍子」「よい品」などの音頭に合わせて、手振り足踏みをして面白く踊る。口説きは「小栗判官」「石堂丸」「俊徳丸」「阿波の十郎兵衛」「鈴木主水」など。		
477	その他	お弓	福山市沼隈町能登原	〈本谷、鞆路、下組、立河内地区の住民で20歳以上の妻帯者〉	能登原八幡神社の正月行事	1月3日〈正月7日の朝〉	能登原八幡神社お弓場	毎年	その年の吉相を占う正月行事。昔は地域から2人が選ばれ、大晦日の晩から八幡神社にこもり、7日間能登原7社の巡拝や神事の所作、弓の練習を行い、正月7日に奉納した。三つ又に径尺5寸の的を懸け、12間離れた場所に砂を盛る。神職が天に向け矢を射る。射手は裃の袖を脱いで一矢を放つ。続いて後弓が放つ。次に矢取りが矢を拾う。これを8回ほど繰り返す。現在は1月3日に実施。		
478	その他	能登原とんど〈左義長〉	福山市沼隈町能登原	能登原とんど保存会	毎年1月のとんど行事、イベント	1月第2日曜日〈小正月〉	旧能登原小学校グランド(コロナ禍は各自治会内)	毎年	とんどは巨竿4本を四角錐状に立てて注連縄や藁で飾り、その頂部に常緑樹を大皿状とした「三蓋」を据え、先端に笹竹1本を立てて五色の短冊などで飾る。大人十数人で担ぎ、倒れないように子供たちが手綱を引く。櫓の太鼓を叩きながら「そりゃ、とんどじゃヨイ」の掛け声で地区内を練り歩き、家の前では的を母屋に向け、無病息災と家内安全を願い囃す。各地区の6基のとんどが小学校に集まり、出来栄えを競ってぶつけ合いが始まる。その後、一斉に燃やす。		市
479	その他	亥の子	福山市沼隈町(上山南・下山南・能登原・常石・草深地域)	各子供会〈少年団〉	秋の亥の子行事	11月最初の土曜日〈旧暦10月初の亥の日〉	各個人宅	毎年	イノシシの多産にあやかる豊作に感謝した年中行事。家業の繁栄、家内安全、無病息災を祈る。5歳から15歳の男の子が、夕方から「亥の子神さんを祝うてつかあしゃあ」と家々の庭先に酒をかけて清め、菊の花と柚子を置く。亥の子歌にあわせ亥の子石で搗き、祝儀をもらう。沼隈町の亥の子唄は、大国さん系、祝う系、なりゃこそ系などがある。		

【調査地区61】 新市町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
480	神楽	備後府中荒神神楽	府中市及び福山市新市町	備後神楽府中保存会	式年祭	7年毎の荒神社の式年祭にあたる年の晩秋から初春	荒神社の社殿及びその他の神社	7年毎	藩政期は神職神楽であったが、明治初年に地域の若者たちに伝授されたという。所持演目は「手草舞」「剣舞」「折敷舞」「悪魔払い」「造花」「竜神舞」「布の舞」「焼石神事」。焼石神事は斎火のなかで焼いた石を素手で割って神慮を問う儀式で、福山市駅家町、新市町藤尾、尾道市美ノ郷町白江など一部でしか執り行われない。荒神社の拝殿に白蓋を吊り、方9尺の踏板を敷設して舞う。		県
481	風流踊	常金丸の盆踊	福山市新市町金丸	福山市新市町常金丸学区盆踊り保存会	常金丸夏まつり	8月第1日曜日	常金中学校(常金丸小学校)	毎年	戦前には常金丸の各地で行われていた。盆踊の参加者が少なくなったため、統一して行われるようになった。曲は、「うつし」「二つ拍子」「三つ拍子」「こうのしま」「手拭おどり」が記録されている(『盆踊歌(芦品郡新市町常金丸)』)。口説きは「枕詞」「清三口説き」「八百屋お七」「西院河原地蔵和讃」「お糸哀話」「巡礼口説き」「鈴木主水」など。櫓の周りに輪になって踊る。楽器は太鼓。なお、学区内の各所(楢原神社、西福寺、光明寺、砂原観音堂、真宮神社)においても、8月中～下旬に別途盆踊が行われる。		
482	風流踊	真宮神社地蔵盆の盆踊	福山市新市町常(中組)	常地区中組盆踊り保存会	真宮神社の地蔵盆の宵祭	8月第4土曜日〈旧暦7月24日〉	真宮神社境内　地蔵堂前	毎年	真宮神社の地蔵盆宵祭で先祖供養の仏事として踊り継がれ、一説には室町時代から伝わるとされる。昼間に法要を行い、夜に盆踊を行う。曲は「二つ拍子」「三つ拍子」「うつし」「神島」「手拭い」「くまがい」「一つ拍子」の7種類。文句(歌詞)の題材は、「賽の河原」「心中物」など。櫓を中心に輪になって踊る。楽器は太鼓。口説きの始めに「枕詞」という即興的な歌詞が入る。「くまがい」は太鼓を櫓から下ろし、踊り手は太鼓の周りを輪になって男女ペアで踊る。		
483	風流踊	網引地区の盆踊	福山市新市町宮内	網引学区盆踊保存会	あびき夏祭り	8月14日夜	網引小学校	毎年	戦前から踊られており、昭和初期には父石町から新市町金丸に踊りが伝わり、以後盛んになったという。「二つ拍子」「幸の島踊り」「うつし」「手拭い踊り」「熊谷節」の5曲を所持している。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。		
484	風流踊	近県盆踊大会	福山市新市町新市	近隣の青年団(主催は新市町)	大会開催時	8月(盆)	新市小学校	定期	当時は青年団が実質的大会を運営し、町主催で盆踊り大会を開催していた。県内外からの参加者があった。	中断(昭35～)	
485	祭礼風流	神儀	福山市新市町藤尾	厳島神社	厳島神社例祭	6月17日	厳島神社(通称門木宮島さん)	毎年	藤尾の厳島神社の例祭で神儀が奉納されていたというが、詳細は不明。	中断	
486	祭礼風流その他	雨乞祭・神儀	福山市新市町藤尾	高靏神社	高靏神社例大祭	7月最後の日曜日〈6月24日〉	高靏神社内の「一の降」	毎年	雨乞神事と神儀奉納が行われる。神石高原町父木野の一団による打入で始まり、地区内の神儀団が続く。並行して、神社から1km離れた一の降という場所で雨乞神事が行われる。地区の神儀団は、4地区が年ごとの輪番で奉納する。		
487	その他	幟入れ〈柳幟〉	福山市新市町常	真宮神社	真宮神社の幟入祭	9月10日に近い日曜日〈9月10日〉	新市町常の志和井・砂原・平田の街路、間宮神社	毎年	明治4年に郡内にコレラが発生した際、「霊験があったら柳幟を作って神社に奉納する」と立願したところ、氏子に一人も患者が出ることはなかったことに由来する。志和井・砂原・平田の三地区が、それぞれ「柳幟」を作って鉦や太鼓で賑々しく練り歩き、最後に神社に集合して打ち上げを行う。柳幟は長さ3～4mの竹の薄片を作って五色の色紙を短冊に切り貼り付け、薄片の一端を芯木に差し込み柳の枝が垂れ下がったように整える。		

(7) 府中市

【調査地区62】 旧府中市

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
488	神楽	備後府中荒神神楽〈荒神舞・里神楽〉	府中市一帯とその周辺	備後神楽府中保存会	荒神祭	不定〈旧暦10月・11月が多い、日は定めず〉	荒神社(小祠が多い)や当番の家	多くが7年毎	7年に一度の式年祭で演じられる。日取りが決まると神殿を設営し、3間ほどの長さの藁蛇を製作する。当日は当家で「悪魔払い」「座祓」を舞い、神殿入りをする。神殿では「十二番の舞」(神楽歌を歌いながら、清め→神迎→神集→礼舞→神役舞 の順で舞う)を舞った後、造化の神事、「剣舞」「手草」を演じる。藁で作った大蛇と問答の舞があり、藁蛇を神殿に入れ、更に輪にし祠の下に置く。その他、王子舞も演じられる。		県
489	獅子舞	名字(みょうじ)の獅子舞〈名字の継獅子〉	府中市栗柄町名字(芦田郡栗柄村、芦品郡栗生村)	名字獅子舞保存会	市内外の神社建替等の祝い事、イベントなど〈南宮神社虫送り〉	不定〈不定〉	不定 。近隣神社、南宮神社(虫送り時)など	不定期	起源は不明。胴衣の中に8～10人が入る巨大な獅子舞で、舞手が組んだ櫓上に獅子頭を持った前立が登り、高さ3.5mに及ぶ継獅子が最大の見せ場。猿田彦が悪魔払いをしながら先導し、鉦・太鼓の拍子に合わせて獅子も舞いながら神前に向かう(「道中舞」)。神前で獅子は拍子に合わせ「おがみ舞」「寝獅子舞」「起き獅子舞」「継ぎ獅子舞」を舞い、「巻きあげ獅子舞」で終わる。		
490	獅子舞風流踊	諸毛(もろけ)の太鼓踊〈諸毛八幡神社の本神祇〉	府中市諸毛町	諸毛八幡神社の氏子(10数組)	諸毛八幡神社の夏季大祭	7月最終の日曜日〈新暦8月1日〉	府中市諸毛町の八幡神社、艮神社、天神社(通称「妙見社」)	毎年	最初に八幡社で「カシラ太鼓迎え」という太鼓引き渡しの儀礼がある。一連の流れは「道引き」「二拍子」「なぜ(撫)踊り」「二枚胴」「三枚胴」「ヨイヨイサッサ」「打ちどめ」で、最後にカシラ(宰領とも呼ばれる。胴取役。特定の家が世襲)1人が神前で太鼓踊りを奉納する。各組、太鼓2張と鉦1個を持ち、悪魔祓いの獅子が先導する。		

491	獅子舞 風流踊	久佐(くさ)の太鼓踊	府中市久佐町(芦田郡久佐村、芦品郡河佐村大字久佐)	久佐町内の5組	8月第1日曜日〈新暦8月0日〉	8月第1日曜日〈新暦8月1日〉	久佐小学校(現廃校)校庭、久佐八幡神社、金比羅石灯籠前。約20年前までは龍王神社(楢崎城跡に鎮座)、安全寺でも演じられた。	毎年	出発地での神事後、一庭を打つ。獅子の先導で「獅子拍子」を打ちながら神社石段を上がり、本殿を3周する。神事後、神社での打ち納めを行い、芦田川沿いの金比羅石灯籠の所で一庭を打つ。曲目は「道引き」「チャチャチャドンドンドン」「ソーレ」「ホイチッチ」「ジュジュサン」があり、昔は途中で「なれ踊り」「雨もらい歌」が入った。曲調は終わりになるにつれて速くなり、「ジュジュサン」では輪が崩れ、太鼓を抱えたまま走り回る。組ごとに太鼓、鉦、カンコを持つ。		
492	風流踊	父石(ちいし)の盆踊〈父石踊り〉	府中市父石町(芦田郡父石村、芦品郡岩谷村大字父石)	戦後間もなくは父石楽踊会。後、改称し父石踊り保存会となる。現在は解散。	お盆	8月14日〈 新暦8月14日〉	府中市父石町、現町民広場。その前は公民館。更に昔は艮神社。	毎年	当地を統治していた和智氏の供養として、江戸時代(嘉永期という説もある)始まったという。「父石音頭」「楽踊音頭」「松山くずし」「流れ音頭」「まねき踊り」など地元の曲と、二ツ拍子「阿波鳴門」、三ツ拍子「鈴木主水」、神島踊り「賽の河原」、扇まわし「石童丸」、六ツ拍子「豆拍子」などを踊る。鉦太鼓踊に続いて盆踊が踊られ、再び鉦太鼓踊で締める。		
493	風流踊	虫送り	府中市栗柄町・用土町(芦田郡栗柄村・用土は土生村の一部。芦品郡栗生村)	栗柄・用土町を9つの組に分けそれぞれ練習	虫送り	7月第1日曜日〈特定せず村中の田植が終わった頃〉	府中市栗柄町・用土町内の辻々、及び 南宮神社、芦田川に架かる扇橋(＝旧村境)付近	毎年	各組が鉦と太鼓を打ちながら神社に向かい、神職による祈祷の後、村境にあたる芦田川畔で村内の害虫を集めた笹を川に流す。鉦・太鼓、笹の葉とそれに付ける短冊には、虫除け祈願の呪文が書かれている。曲目は「呼出」「道中」「辻」「獅子の子拍子揃えて」「ドンカカオカカデ」「エンエンボーヤ」「カンザガザザ」「十二夜」「打上げ」の10曲。文化15年(1818)『村方風俗書上帳』には6月朔日に虫祈祷を行う記述がみられる。		
494	風流踊	龍王社の雨乞祭〈じおうさんの祭り〉	府中市三郎丸町(御調郡三郎丸村、御調郡上川辺村大字三郎丸)	三郎丸太鼓踊りに同じ	雨乞祭	7月第3か第4日曜日〈 8月1日(新暦)〉	府中市三郎丸町の龍王社(通称:じおうさん)	毎年	天神社夏祭りでの鉦太鼓踊のうち、最初の「みちびき」を省略した内容で奉納する。瀧の真上に大岩(岩盤)があり、その上で踊る。かつて極端に雨が少ない年には、龍王社のご神体(石)を滝壺に漬けることがあったという。楽器は太鼓、鉦、諫鼓。曲順は「庭入り」「二拍子」「三拍子」「六拍子」「二枚胴」「三枚胴」「二枚胴」「六拍子」「六拍子の跳ね」「打ちどめ」。		
495	風流踊	三郎丸の盆踊	府中市三郎丸町(御調郡三郎丸村、御調郡上川辺村大字三郎丸)	特にないが町内会が練習日などを設定	お盆	8月13日夜〈8月13日(新暦)〉	三郎丸町民グランド	毎年	太鼓踊とともに演じられる。順序は「太鼓踊り」「盆踊り」「太鼓踊り」の順。口説き・演目は「八百屋お七(扇子踊り)」「お吉清三(三拍子)」「石堂丸(二拍子、扇子踊り)」「鈴木主水(三拍子)」「熊谷踊り」「豆拍子(六拍子)」。楽器は太鼓踊で使う鉦・太鼓・諫鼓。		
496	風流踊 祭礼風流	清瀧(せいりゅう)神社秋祭	府中市鵜飼町(芦田郡広谷村の一部)	町内会	清瀧神社秋祭	10月第3土・日曜日〈不明〉	清瀧神社、鵜飼町内諸所	毎年	起源は不明だが、廃絶した虫送りの鉦太鼓踊を継承しているという。本祭日の神輿巡幸に、太鼓や鉦の演者が連なる。「ゴーザレ」「ヨーイヨーイ」「ドンカーオカカヤ」「十二夜」「獅子拍子」を繰り返し演じる。大人太鼓10張、子供太鼓20張、鉦3個で構成。御旅所での神事後、輪になって鉦太鼓踊を演じる。		
497	風流踊 祭礼風流	稲月神社秋祭	府中市広谷町(芦田郡広谷村)	有志による同好会や町内会(小学生にも教える)	稲月神社秋祭	10月第3土・日曜日〈不明〉	府中市広谷町の稲月神社、広谷町内諸所	毎年	戦前も演じられていたが中断。戦後に現福山市駅家町服部地区・八幡神社で演じられていたものを伝習した。神輿渡御に太鼓21張、鉦3個の囃しが連なる。踊り手が輪になり、太鼓を打ちながら前後に動く。不空数の撥廻しも見せ場である。道行は「ドンカカ」、踊り場では「ゴザレ」「コロリンコロリン」「チャンチャンコロリン」「ドンカカ」「トントントントントントントン」「ジャンガラガッチャ」の6曲を繰り返す。		
498	風流踊 祭礼風流	三郎丸の太鼓踊	府中市三郎丸町(御調郡三郎丸村、御調郡上川辺村大字三郎丸)	戦後から近年までは青年団(近年青年団解散)。現在は消防団メンバー、町内会	天満宮(天神さん)の夏祭	7月後半の土曜日(府中市全体の市民夏祭と重ならないよう、年度初めに決める)〈新暦7月25日〉	天神社。20年程前までは天神社を勧請したという家で踊った後、天神社に移動していた。終戦直後までは、神嘗祭の日に御調町神の神田神社でも(御調川北側の村々が参集)演じられた。	毎年	夕方、カシラ(頭)による太鼓の掛け声とともに「道引き」で始まる。神社到着後は本殿を三周し、「本庭」を踊る。最後は「打ちどめ」で終わり、この一連の流れを「一庭打つ」という。楽器は太鼓、鉦、諫鼓。曲順は「道びき」「庭入り」「二拍子」「三拍子(中落とし)」「六拍子」「二枚胴」「三枚胴」「二枚胴」「三拍子」「六拍子」「六拍子の跳ね」「打ちどめ」。終わりになるにつれてテンポが早くなり、動きも激しくなる。		
499	祭礼風流	府川天満宮夏祭	府中市府川町(芦田郡府川村、芦品郡国府村大字府川)	中断した頃は青年団。現在は府川町内会	府川天満宮の祭	7月第3土・日曜日(2日間)〈7月25日(新暦)〉	府中市府川町の天満宮(通称 ″天神さん〃)、お旅所である二宮神社、及び府川町内	毎年	文化15年(1818)『(府川村)御問状書上』に、旧暦6月25日の天満宮祭礼神輿渡御において鉦・太鼓で囃したとある。鉦太鼓踊を神輿随行前に天神社で奉納する。その後の神輿渡御に太鼓10張、鉦4個などが随行する。前段は通しで「ヨイヨイココロベ」、後段は「ハー」「ドンカカオカカ」「カンザザオザザ」「シシノコビョウシソロエテ」の4部で構成される。		
500	祭礼風流	甘南備(かんなび)神社秋祭	府中市出口町川上町(芦田郡出口村川上町、芦品郡出口町、芦品郡府中町大字出口)	川上町内会	甘南備神社秋祭	10月第2日曜日〈10月15日(新暦)〉	甘南備神社、川上町内諸所	毎年	神輿渡御に太鼓(4張)・鉦(2個)の囃子も同行する。曲は巡行中に「道行き」、広場や神社では全8曲ある。太鼓は鋲留め長胴太鼓を使用し、太鼓を打つ時に踊りなどはない。鉦10人、神輿16人の一行となるが、 現在神輿は軽トラックに乗せて移動する。		

501	祭礼風流	テンテコテー	府中市荒谷町の一部(2地区)と、木野山町の一部(2地区)、計4地区	高木神社の氏子4地区	高木神社(妙見社)の秋祭	10月15日前後の日曜日〈11月初めの午(ウマ)の日〉	府中市荒谷町･木野山町境に鎮座する高木神社(通称:妙見さん)、至近の山田神社	毎年	伝承では江戸初期に始まったという。先打ち、馬に乗る殿役、シシ切り、ナギナタ使い、ヤリ持ち、ホコ持ち奴、小姓などが行進して妙見社に向かう。「ヤグラ」と呼ぶ車両に載せた太鼓や鉦を打ち鳴らす囃し手も随行し、総勢60人ほどになる。神前で五穀豊作を感謝し、奉納後は氏子4地区を練り歩く。何十年も前から中断。	中断	
502	祭礼風流	本山太鼓〈獅子の小拍子〉	府中市本山町(芦田郡本山村、芦品郡広谷村大字本山)	本山町内有志で結成した「継承する会」会員約50人	日吉神社秋祭	10月第2または第3土･日曜日	府中市本山町の日吉神社(毎年の秋祭)、青目寺(17年ごとの本尊開帳法要)、本山町見晴団地の納涼祭(盆。毎年上演するわけではない)。昔は〝雨喜び〟でも打っていた。	毎年	鉦や太鼓の打ち手が神輿巡幸に同行して演じられる。起源は不明だが、廃絶した「虫送り」の鉦太鼓を使い、鉦太鼓の囃子のみが残った。楽器は締太鼓、鉦。曲目は、道中は「ゴザレ」、踊り場では「獅子の小拍子揃えて～」の声で始まり、「カンカンカン」「ヨヤヨヤ」「カンカンカンサッサなど10曲程度を演じる。		

【調査地区63】 旧協和村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
503	獅子舞 祭礼風流	行縢(むかばき)の神儀	府中市行縢町	行縢の上･下両地区の住民	行縢八幡神社大祭	10月第2日曜日	道中、神社の境内、御旅所	毎年	行縢の上･下両地域で古くから行われてきた。各地区で神儀の行列を組み、太鼓を先頭に宮上がりをする。神社での神事の後、神輿渡御に随い、御旅所で神儀を奉納する。大幣、道切(鼻高面)、獅子、鉾、幟、弓、さくら、やなぎ、太鼓8人、鉦2人の順で列をなす。「道引き」「宮巡り」「獅子拍子」を演じる。		
504	獅子舞 祭礼風流	斗升(とます)の神儀	府中市斗升町	町内住民	斗升六社神社	10月第3日曜日	町内道中、神社境内	毎年	蔭地･日南両地区によって神社の祭礼で奉納される。大幣、幟、獅子、神儀打ち(子供･大人)、鉦などで構成。神儀打は頭にシャグマを被り、下駄･足袋･和服の扮装で手にバイ(撥)を持つ。獅子は赤色の獅子頭、黒の胴幕。猿田彦は色々の面を着ける。楽器は大太鼓、大鉦。		
505	風流踊	阿字太鼓踊	府中市阿字町	阿字太鼓踊り保存会	坂根地蔵祭、府中学びフェスタ、協和公民館祭、阿字自然薯祭	5月、10月、11月、12月	府中市阿字町、木野山町、府中市学びフェスタ会場	毎年	かつて町内各地でも虫送りを行っており、その時に演じられた太鼓踊。「道引き」「宮巡り」「虫送り」「ドンカッカ」「サ･サア参ろうや」「十三夜」「打ち上げ」の7曲が演じられる。太鼓数十、鉦1、幟2～3で構成。		
506	風流踊	盆踊	府中市木野山町	協和地区の青年団→各町内会	第二木野山町盆踊り大会	8月12～14日の1日	旧北小学校グランド	毎年	戦前から組の集会所で踊られたと伝わる。櫓を中心に輪になって踊る。古くから伝わる曲は「北海盆唄」「二拍子」「手やんさ」「扇やんさ」「熊がい」「手ぬぐい踊り」など。楽器は太鼓。		
507	風流踊	阿字町の盆踊	府中市阿字町	阿字町内会民芸部	お盆	8月14日	阿字町スポーツグランド	毎年	櫓を組み、竹を立てる。中心の櫓に歌い手と太鼓方が上がり、踊り手はその周りに輪になって、「炭坑節」「阿字音頭」「二つ拍子踊り」「手やんさ踊り」「扇やんさ」「くまがい」「手ぬぐい踊り」を踊る。手踊りが基本である。楽器は太鼓。		
508	祭礼風流	木野山の神儀	府中市木野山町(旧芦品郡大正村)	木野山町市場、戸羽、横谷、角目の4組	愛宕神社例大祭	10月第2日曜日	それぞれの道中、グランド、愛宕神社境内	毎年	豊作を祝い、木野山4地区によって奉納。各地区の山車が町内を曳き回った後、大正グランドに集合して神儀を行う。大頭取(チンチン鉦を打つ)、幟、獅子、山車(桜2組･柳2組)、神儀打(太鼓打)などで構成。神儀は4人打ち。演目は「道引き」「宮巡り」「虫送り」「ドンカッカ」「サ･サア参ろうや」「十三夜」「打ち上げ」。獅子は一人立で頭を左右上下に振り、時には高く掲げる所作をして、行列の位置を離れない。	中断(平20～)	

【調査地区64】 上下町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
509	神楽	弓神楽〈家祈祷、弓祈祷、神弓祭、内神楽〉	府中市上下町	弓神楽保存会(備後弓神楽保存会･井永弓神楽保存会)	土公祭、宅神祭、地域共同の荒神祭	随時	願主の家の奥座敷(床の間)	不定期(依頼のあった時)	主座の1人が神座に就いて弓を打ちながら祭文を誦み、脇座の銅拍子役と笛役が祭文に合わせて打ち鳴らす。祭儀の基本は、「打立て」「神迎え」「土公祭文」「手草祭文」「御神楽」「打ち上げ」。祭場に注連縄を張り、神号軸、神饌、弓、青茣蓙、揺輪、茣蓙藁、玉米、御座紙、切り飾り、王子旗、弓矢、弓房、注連の子、神籠･平幣･冠幣･土公幣･かきつけ幣･清目幣･巻幣などを調える。かつては祭文の掛け合いが行われていたが、現在では祭文の掛け合いができる人物がいないため、神歌を一緒に歌うように変更された。【詳細調査No.12】		国選択･県

510	神楽	井永神楽	府中市上下町井永	元井永神楽保存会(現在は活動休止中)	放生会の前夜祭、例大祭前夜祭	9月14日、11月2日(年2回)〈旧暦8月15日前日(放生会) 旧暦10月14日前日(例大祭)〉	井永八幡神社(拝殿)など	毎年 ・神楽公演依頼時	備後神楽。世羅の備後神楽の系統を受け継いでいるとされる。語りの詞章・神歌(神楽歌)が多い。後半独楽のよう舞うので「キリキリ舞」ともいわれる。所持演目は「二人舞」「四人舞」「神舞」「悪魔祓い」(以上、神事式)、「八重垣」「こけら祓い」「手草」「剣舞」「造花引(造花舞)」「綱舞」など。楽器は太鼓、笛、手拍子。	中断(平22頃～)	市
511	神楽	上下神楽	府中市上下町上下	上下神楽保存会(現在は活動休止中	荒神祭の前夜など	不定期	上下八幡神社	不定期	備後神楽。語りの詞章・神歌(神楽歌)が多い。役同士での掛け合いや、観客に対してのアプローチで場を沸かせる。後半独楽のよう舞うので「キリキリ舞」ともいわれる。所持演目は「二人舞」「神舞」「場祓い」「五行祭」(以上、神事舞)、「八重垣」「大国舞」「伊吹山悪蛇退治」など。		市
512	神楽	小塚(おづか)神楽	府中市上下町小塚	小塚神楽保存会	小塚八幡神社秋祭(秋と夏の祭を合わせて行っているため)	10月第1土曜・随時(4年に一度の10月2日)	小塚八幡神社	4年毎・新入団員加入時・お宮の修繕の時など	備後神楽。由来は未詳だが、所伝では300年前から続いているとされる。語りの詞章・神歌(神楽歌)が多い。後半独楽のよう舞うので「キリキリ舞」ともいわれる。所持演目は「神迎え」「連舞(つれまい)」「神舞」「悪魔祓い」(以上、神事式)、「八重垣」「大国舞」「大和尊命」など。かつては「大森彦七」という演目も所持していた。楽器は太鼓、笛、手拍子。戦後頃に中断し、昭和50年に復活。		
513	神楽	矢野神楽	府中市上下町矢野	矢野神楽保存会	秋祭(前夜祭)	10月第3土曜日	矢野八幡神社(神楽殿)、公演依頼のある各神社や公民館など	毎年・神楽公演依頼の時	備後神楽。江戸時代から農民の娯楽として演じられたと伝えられている。語りの神楽で、後半独楽のよう舞うので「キリキリ舞」ともいわれる。所持演目は「清めの舞」「四人舞」「二人舞」「猿田彦(悪魔祓い)」(以上、神事式)、「八重垣」「綱舞」など。楽器は太鼓、笛、手拍子。		
514	田楽	牛供養田植	府中市上下町	牛馬商、農家		〈毎年4月24日〉	特定の供養田		上下町域にも大山智明大権現を勧請し、村氏神の境内に大山社を祀っている。荒かきを済ませ、注連を張り、供養田の傍に供養棚(大山小屋)という高座を左右に設けるなどし、神仏混交の供養行事を経て、田植に移る。「田の神迎え」「大山唄」「おなり迎え」「十七ナガレ」「田の神送り」「洗い川」などの田植唄を歌う。代かき牛(牝牛)、サゲ(大太鼓)、本サゲ、早乙女(三把)3人、早乙女(たすき掛け)、早乙女頭などで構成。	中断(戦後頃～)	
515	獅子舞 風流踊	小堀(こおり)のコキリコ〈小切子、木切子、呼霧降、呼霧洪〉	府中市上下町小堀	地域住民	旱魃時など	再現のため昭和54年に演じたのが最後〈旱魃時〉	八幡宮、善応寺、竜王社、氏神社	不定期	起源は雨乞い踊りで、旱魃の時にしばしば踊られていた。現存する台本から、少なくとも天保10年(1839)には行われていたと考えられる。庭借り、獅子、太鼓・太鼓打ち、唐団扇、中踊り20人以上、花踊り40人以上、新発地2人など大人数で構成。道中は拍子木を打って進み、巡り先ごとに一踊りして氏神社に帰り着く。中年層の中踊りは竹の子笠に羽織・袴姿で踊る。頭踊りは一対の手拍ではやしながら踊り、花踊りでは15歳以下の者が花笠を被る。「イタチ踊り」「龍王踊り」など10種以上の踊りがある。昭和54年、加茂神社の祭礼に際してコキリコ踊が再現された。	中断(昭54～)	
516	獅子舞 祭礼風流	小塚の神儀	府中市上下町小塚	上組・下組	小塚の秋祭	10月第1日曜日	小塚八幡神社	毎年	神石郡から伝播したという。小塚地区の上組と下組それぞれ神楽(しんがく)組がある。大宰領・宰領・道切・獅子・裏打(太鼓打ち)・大胴打ち ・太鼓かつぎ・鉦かつぎ・笛吹きで構成。当日は参道で両組が合流し、宮入りする。左巡りして拝殿前に両組並び立って念入りに庭打ちをする。祭典後、神輿に同行し御旅所で庭打ちする。還御の際は拝殿前における庭打ちで打ち上げとなる。曲目は「たなんのだんご」「さいじょかき」「はかづき」など20種以上がある。		
517	獅子舞 祭礼風流	井永八幡神社祭礼行事:神儀〈井永の神儀〉	府中市上下町井永	井永氏子会	祭礼の前夜祭(11月3日)	毎年11月3日	井永八幡神社など	毎年	一番組は拍子(庭打ち)、二番組は大神楽、三番組しゃぎりを演じる。行列の構成は、道切り(猿田彦)、獅子、太鼓、鉦、屋台(以上、一番組)、太夫、太鼓、銅拍子、笛、屋台、花鉾(以上、二番組)、太鼓、鉦、大鉦、屋台、花鉾(以上、三番組)。神輿渡御には神輿3基(一の御前、中の御前、三の御前)、大麻、奉幣、白幣・青幣、宮司・祭員、社名旗、錦旗、神饌が加わる。寛政10年(1798)の執行記録がある。神輿渡御に伴う。		市
518	獅子舞 祭礼風流	矢野の神儀	府中市上下町矢野	矢野神儀団	小童祇園祭	7月第3日曜日	須佐神社(三次市甲奴町小童)	毎年	現存する古文書によれば、天和3年(1683)郷組が人形を立てた屋形(だんじり)を組み、はやして進む風流を始めたとあり、現在の形式に整ったのは文政元年(1818)頃といわれている。神儀組は一番片屋組、二番宇根組、三番郷組(上郷・下郷)、四番芦尾組の4組で、毎年7月第3日曜日の三次市甲奴町小童の須佐神社の祇園祭に出仕する。各組概ね、監督・幟持ち・獅子舞・太鼓(子供)・鉦・屋形の順に進む。郷組はこれらに加えて唐団扇役・槍役・先箱役・大傘役・鳥毛役・羽熊役が先頭に立ち、獅子舞役・笛吹き・手拍手・ほら貝吹きが続く。各組、伝承された拍子を打ち、太鼓の飛打ち、舞打ち、回り打ちなどが見られる。		県
519	風流踊	盆踊	府中市上下町矢多田	矢多田を発展させる会	お盆、旧暦の八朔	8月15日、8月31日〈盆と旧歴の八朔〉	八幡神社、実相寺	毎年	神社の広場中央に足場を組み、音取り(口説き)が傘をさして歌う。その近くで太鼓役・笛役が歌に合わせて囃す。周りでは踊り手が団扇を用いて手拍子し、合いの手を入れるように掛け声を上げながら円を描くように踊る。「熊谷直実」などの口説きが伝わる。	中断	
520	祭礼風流	こうどのいり〈水永の神殿入り〉	府中市上下町水永	地元住民	水永大歳神社の祭のなかでの当屋祭(前夜祭)	10月第2土曜など〈旧10月15日〉	大歳神社	毎年	元々は井永八幡神社で拝礼(神殿入り)を行っていたが、約100年前に水永大歳神社を分祀し始まった。前夜の当屋祭では、かつては「手草」「悪魔祓」の神楽を行い、行列で神殿入りを行った。夜6時から7時にかけて、当屋より神儀の打込みがあり、祭典後神輿一体が観音堂脇の御旅所に渡御する。宮司及び当屋(祭の責任者3軒)から竿提灯を出し、太鼓・鉦・提灯、大提灯などを使用し、道中を囃しながら進む。		

521	祭礼風流	井永八幡神社祭礼行事：神殿入り(こうどのいり)〈井永の神殿入り、こうどなり〉	府中市上下町井永	井永神儀保存会	7月土用五郎の夏祭の前夜祭、放生祭(9月14日)、祭礼の前夜祭(11月3日)	7月土用五郎(土用の5日目)、9月14日、毎年11月3日〈毎年11月3日、7月土用五郎(土用の5日目)、9月14日〉	井永八幡神社	毎年	大提灯を先頭にして竿頭提灯を連ね、太鼓と銅拍子(カネ)、笛で囃しながら道中を進む。神儀組は地区内で3組あり、各組の神儀宿から出発する。大提灯(各組から一つ)、竿頭提灯、太鼓、銅拍子(カネ)、笛などで構成。神殿入り特有の楽で進む。神社参道入口に勢揃いして宮入りする。宮の境内に居て太鼓を据えてひとしきり庭打ちをする。かつては祭り船も曳いていたが、若者不足でできなくなった。		市

(8) 三次市

【調査地区65】 旧三次町、十日市町、河内村、八次村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
522	風流踊	盆踊	三次市畠敷町	下畠敷町内会	お盆	詳細は不明	詳細は不明	毎年	廃絶後50年以上を経過しており、詳細不明。 楽器は太鼓を使用し、伊勢音頭の「四ツ拍子」に分類される(『広島県の盆踊』)。	中断(昭40代初～)	
523	祭礼風流	管絃祭〈おかげんさん〉	三次市十日市町厳島神社	三次市十日市町八幡神社	現在管絃祭は三次きんさい祭りと一体化	7月下旬の土、日曜〈旧暦6月16日、17日〉	三次市十日市町厳島神社及びその周辺	毎年	廿日市市にある厳島神社の管絃祭に倣った祭礼で、三次市十日市町八幡神社の氏子たちにより、十日市の厳島神社とその周辺で執り行われた。午後7時から神社での神事後、馬洗川に浮かべた2隻の川舟を横に連結して造った御座舟に宮司などが乗船し、馬洗川河畔に残る旧社地の岩場上に設置された御鎮燈まで進み、反転して船着き場へ戻り、この行程を三度繰り返して御座船巡幸は終了する。伴舟も川舟2隻を横に連ねて屋台を組む。楽器は太鼓と笛。		

【調査地区66】 旧粟屋村、酒屋村、青河村、川地村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
524	神楽	志賀(しが)神社の六神儀	三次市下志和地町	当屋の者が任意で行う。当屋によって若干形態が異なる。	志賀神社の秋季例大祭	10月第3日曜日の前夜	志賀神社境内の舞殿	毎年	三次市下志和地町の志賀神社で毎年の秋季例大祭に同社の氏子によって奉納される。天正年間に伝えられたとされる口伝はあるが、江戸時代前半期に現行の形で成立したと思われる。舞人は鈴、幣、刀、弓、棒などの採物を持ち、楽は大太鼓、手打鉦。演目は一番舞・二番舞・悪魔払い・サンバ(三番叟)・鬼退治(十良節)・豆まきで、1～3名の舞手による。儀式舞や三番叟など出雲神楽の影響を受けている特徴がみられる。【詳細調査No.13】		市
525	獅子舞祭礼風流	志賀神社の楽打ち	三次市上志和地町・下志和地町	志賀神社氏子当屋4組の年番で担う	志賀神社の秋季例大祭	10月第3日曜日	当屋、志賀神社境内、御旅所ほか	毎年	志賀神社秋季例大祭に奉納される。前日には「花揃い」(総仕上げ)を行い、当日は当屋である金御幣宅を出発して宮上がりし社殿を一周、境内で楽打ちと獅子舞を奉納。その後御旅に随い、御旅所の祭礼原で獅子太夫による四方祓い、楽打ち、獅子舞を奉納。行列の構成は悪魔祓い(鼻高面)、獅子、獅子太夫、団扇切り、楽打ち(太鼓打ち・太鼓担ぎ、鉦)など。太鼓打ち・鉦打ちは子供が務める。楽器は長胴鋲留め太鼓、鉦。1人の子供が1台の太鼓を打つ。拍子は練りの「道行」「宮入り」、据え打ちでは「とび打ち」など5曲程度ある。獅子舞は二人立で、獅子あやし「団扇切り」とともに舞う。		
526	田楽	田楽〈模擬大花田植、大仙供養花田植〉	三次市粟屋町、青河町、酒屋町、川地町	地域住民、後に各地で組織が結成(粟屋田楽団、志和地郷土芸能保存振興会など)	大会や花田植	6月から7月	小学校の校庭や河川敷、田園など	不定期	大正元年に高田郡甲立町下川原で開催された「模擬大花田植競技会」に当地の田楽団が出場。大正中期には各村で花田植が、昭和8年には三次商工会主催・第一回大花田植大会が開催された。花田植は牛100～200頭(うち飾牛15～30頭)、早乙女200名、太鼓役(鼓打ち)100～150名の規模となる。泥落としの意味を兼ねた大田植が、大会などの催しによって技を競い合い披露する傾向が強まった。楽器は締太鼓(大小ある地域もある)、鉦、笛、ささら。	中断	
527	風流踊	源光寺の盆踊	三次市西酒屋町	地域住民	源光寺の盆踊り行事	8月15日夜	三次市西酒屋町源光寺内	毎年	毎年8月15日の夜に三次市西酒屋町の源光寺で行われる。由来は定かでないが、戦前には行われており、一時中断したのち、戦後に復活した。複数人が交代で「盂蘭盆くどき」など5～6の口説きを唄い、浴衣等を着た100名程度が踊る。		
528	風流踊	盆踊	三次市奥志和地町	志和地郷土芸能保存振興会	盆踊り行事	お盆		毎年	起源や詳細などは不明だが、「三ッ拍子(お艶くどき)」「かんな引き(安珍くどき)」「祇園ばやし(鈴木主水)」「志和地音頭(おくまくどき)」「石州くどき(大内くどき)」の口説きで踊る。		

【調査地区67】 旧和田村、神杉村、田幸村、川西村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
529	神楽	三若神楽	三次市三若町	三若神楽団	三若厳島神社秋季例大祭における前夜祭	〈11月2日〉	三若厳島神社	毎年	昭和28年頃から、三若厳島神社秋季例大祭前夜祭に奉納。備後神楽の三谿神楽から習得した舞で、太鼓・笛に合わせ、神降ろし・悪魔祓いなどの神事舞、大仙の能・荒神の能・滝夜叉などの能舞を演じる。楽器は太鼓、笛、手拍子。平成25年から中断。「大仙の能」「荒神の能」は三次市指定無形民俗文化財であったが、令和7年指定解除。	中断（平25～）	
530	獅子舞祭礼風流	知波夜比古(ちはやひこ)神社の神儀	三次市高杉町	知波夜比古神社総代	知波夜比古神社秋季例大祭	10月第1日曜日	神社境内、御旅所道中	毎年	知波夜比古神社氏子を中心に伝承され、同社の秋季例大祭に奉納される。神社での祭典後、境内でざい振りの囃子に合わせ3～4譜神儀打ち行い、神輿を先頭に総代長・宰領頭・獅子舞・猿田彦・鉾持ち・太鼓と鉦の胴打ちなど総勢80人程度が御旅所に向けて出発し、御旅所でも神儀を奉納する。神儀打ちは一つの太鼓を一人で打つ。神儀拍子は「切り上げ」「道行き」「宮参り」「神殿前」「神殿廻り」など場面等に応じた17曲が伝わる。		
531	田楽	神杉大田植	三次市高杉町	神杉地区自治会連合会・神杉大田植実行委員会	神杉大田植	6月第2日曜日	神杉小学校東側圃場	毎年	神杉では古くから大田植が行われ昭和44年まで続いていた。一時中断後、平成18年に約60年前に地域で行われていた様子を再現して復活。飾り牛による代掻き、サンバイおろし神事・三把苗の投入後、田植を行う。サゲが音頭を取り、正対する早乙女が田植歌を歌い、後方に下がりながら苗を植える。田植の種類は「綱植え田植」「定規植え田植」「ババひき田植」「モンデン田植」がある。楽器は太鼓（短胴鋲留め）、鉦（摺り鉦・撞木）、ササラ。		
532	風流踊	盆踊	三次市糸井町　全域	糸井盆踊り保存会	糸井町夏祭	8月14日夕方	三次市糸井町　照善坊の境内において	毎年	盆踊は江戸時代から糸井町内の寺院境内や辻堂の広場で行われていた。現在は毎年8月14日の夕方に町内照善坊の境内で行われ、先祖への感謝や万霊の供養などを目的として、扇子を採り太鼓に合わせ「三ツ拍子」「お盆の踊り」「屏風山おろし」「松山くずし」「三ツ振り拍子」の5演目が踊られる。		
533	風流踊	浄見寺盆踊	三次市高杉・江田川之内地区	浄見寺盆踊り保存会	浄見寺の盆踊り行事	8月14日〈8月14日、15日、16日〉	寺院前の広場（昔は寺の境内で開催）	毎年	毎年8月14日に浄見寺前の広場で行われるが、かつては8月14日から三夜連続で行われていた。中央の櫓に太鼓と歌い手が上がり、踊り手は手踊りや扇子を採って櫓の周りを左回りに踊る。曲目は「三つ拍子」「石州踊り」「盆會の踊り」「法輪踊り(扇子踊り)」「親鸞音頭」「三つ拍子(帰りの踊り)」で、以前は「おけさ盆踊り」や「七つ拍子」もあった。		
534	風流踊	善徳寺の盆踊	三次市廻神町	仏教婦人会　壮年会　青年会	お盆	8月14日	善徳寺境内	毎年	三次市廻神町の善徳寺境内で踊られる盆踊で、大正末期頃に始まったとされ、櫓を中心に、太鼓と二人の歌い手による口説きに合わせ、浴衣姿で手ぬぐいを持った約30人の踊り手が五穀豊穣や健康を願って左回りに踊る。曲目は「伊勢音頭」「三拍子（2種類）」「七拍子」「やんこら」「親鸞音頭」など。楽器は太鼓。		
535	祭礼風流	神殿入り(こうどなり)	三次市有原町	若衆	有原天満宮秋季大祭	10月スポーツの日の前の土曜日〈戦前は10月19日〉	三次市有原天満宮（天満神社）	定期	昭和10年の有原天満宮神殿の建立に伴って始まったもので、戦前は10月19日に地元4地区の氏子たちが太鼓の拍子に合わせて「奉」「川」の字や、鳥居・山形の形を現した灯篭をもって道行きを行う。戦中から中断していたが、昭和57年に鳥居を作り替えたのをきっかけに復活し、スポーツの日の前夜に開催されている。		

【調査地区68】 甲奴町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
536	神楽	宇賀(うが)神楽	三次市甲奴町宇賀	宇賀神楽団	宇賀八幡神社例祭　他	11月第2日曜日　他〈旧暦9月15日〉	神社境内の神楽伝　他	毎年、催事時	宇賀八幡神社例祭や地域の神社で奉納。備後神楽の系統で、天蓋を吊り、楽に合わせ、1～4名の舞手が舞う。演目は「神降ろし」「悪魔祓い」（以上、神事舞）、「恵比寿」「素戔嗚」「山猫お六」「升屋お蓮」（以上、能舞）など。語りと舞を中心とした旧態を伝える神楽である。		市
537	神楽	甲奴(こうぬ)神楽	三次市甲奴町本郷	甲奴神楽団	本郷亀山八幡神社　例祭他	11月第1日曜日他〈11月14・15日〉	神社境内の神楽殿　他	毎年、催事の時	本郷亀山八幡神社例祭や地域の神社で奉納。備後神楽の系統で、1～5名で舞う。「神降ろし」「悪魔祓い」（以上、神事舞）、「恵比寿」「八岐大蛇」「滝夜叉姫」（以上、能舞）などの所持演目から3～6演目奉納。天蓋は吊るさず、語りと舞を中心とした旧態を伝える神楽である。		市
538	獅子舞祭礼風流	小童(ひち)神儀・獅子舞ほか	三次市甲奴町小童	小童神儀団	須佐神社　①例大祭②例祭	①須佐神社例大祭の第3日　7月　②須佐神社　例祭11月第二日曜日〈①旧暦6月16日　②旧暦9月9日〉	神社境内　御旅所	定期	須佐神社の毎年7月の例大祭（祇園祭）、11月の例祭で、小童神儀団によって奉納される。江戸時代中期に神儀打込みの記録がある。例大祭では、春日井・頼藤・市場・塩貝の4組により、御旅所（武塔神社）・須佐神社境内へ道切・獅子舞・鉦・太鼓・山車の行列で神儀が奉納される。神儀には口唱歌があり、市場では「しゃぎり」「てんとう」「さんまいどう」「しゃんに」の4曲が伝わる。【詳細調査No.14参照】		
539	風流踊	宇賀盆踊	三次市甲奴町宇賀	宇賀地区夏祭り実行委員会	宇賀地区夏祭り	8月中旬	旧宇賀小学校校庭	毎年	戦前から伝わり、現在は毎年8月中旬の宇賀地区夏祭りで踊る。現在は地域の住民が輪になって「炭鉱節」などを踊る。昔の町内の盆踊では、櫓を立て、音頭取りが傘を差し、「鈴木主水」「石童丸」などの長い語り物の口説きを唄った（情報サイト「てくてくこうぬ」より）。		

540	風流踊	甲奴町盆踊	三次市甲奴町	三次市広域商工会甲奴支所青年部会	甲奴町夏祭り	8月中旬	甲奴小学校　校庭	毎年	戦前から伝わり、毎年、8月中旬の三次市広域商工会・甲奴支所青年部主催の夏祭で行われる。現在は地域の住民が輪になって「炭坑節」などを踊る。昔の町内の盆踊では、櫓を立て、音頭取りが傘を差し、「鈴木主水」「石童丸」などの長い語り物の口説きを唄った（情報サイト「てくてくこうぬ」より）。		
541	祭礼風流	塩貝(しょうがい)八王子社大神楽極打太鼓	三次市甲奴町小童4723　塩貝神社（八王子社）	塩貝八王子社大神楽極打太鼓保存会	須佐神社例大祭	須佐神社例大祭の第3日〈旧暦6月16日〉	神社境内　御旅所	毎年	小童神儀の構成要素の一つ。須佐神社例大祭（祇園祭）の第3日に、塩貝組によって神社境内と御旅所で奉納される。江戸中期に神儀打ち込みとしての記録がある。府中市上下町矢野の矢野神儀大神楽と類似する。踊りや軽業的な所作を取り入れ、太鼓・篠笛・鉦の伴奏に合わせて、台に乗った太鼓2張を2名1組で踊り打つ。【詳細調査No.14「小童神儀」参照】		市
542	祭礼風流	神殿入(こうどのいり)	三次市甲奴町小童須佐神社	須佐神社奉賛会（小童地区の郷の氏子）〈昔：本郷・西野の氏子〉	須佐神社例大祭	須佐神社例大祭の第2日	神社境内　御旅所	定期	須佐神社例大祭（祇園祭）第二日に、神社境内と御旅所で奉納される。氏子は提灯を持ち御旅所の武塔神社の鳥居前に集合して同社境内に入り、祭典が終了すると須佐神社境内まで移動する。昔は高張提灯を掲げ、太鼓による囃子を伴っていた。		

【調査地区69】 旧君田村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
543	神楽	茂田(もだ)神楽	三次市君田町	君田町茂田神楽団	秋祭り、君田近郷神楽大会（9月第1土曜日）、各種イベント	年中	三次市君田町内外の神社舞殿他	毎年・不定期（祭・イベントの時）	石見神楽。江戸時代末期に石見の阿須那方面から伝わったとされる。祭礼では「神降ろし」「天岩戸開き」「八岐大蛇」の順で舞う。天蓋を吊り、床は畳敷き。舞人は鈴・幣・笹・刀・弓矢などの採物を持って舞う。神は素面で他は着面。楽器は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。元は旧舞であるが、最近はテンポが速い新舞を舞う。「神降ろし」「鐘馗」「天の岩戸」「八幡」「恵比寿」「塵輪」「葛城山」「大江山」「日本武尊」「戻り橋」「滝夜叉姫」「紅葉狩り」「山姥」「八岐大蛇」など18演目を有する。		市
544	獅子舞 祭礼風流	楽打ち	三次市君田町藤兼		秋季大祭	11月3日	三次市君田町藤兼　大歳神社及び氏子域	毎年	毎年、11月3日に藤兼大歳神社の秋季大祭で実施。露払い・獅子舞に続いて、法被姿のサイ振りを先頭に、7人の大人が背負った胴長太鼓を打つ7人の子供と、鉦叩きが行列を組んで進む。獅子は行列の中で楽打ちに合わせて舞う。		
545	獅子舞 祭礼風流	楽打ち	三次市君田町石原	石原区子供会	石原荒神社秋の大祭	10月第2日曜日〈6月10日と10月〉	石原荒神社	毎年	毎年、10月第2日曜日石原荒神社秋の大祭で実施。五穀豊穣・家内安全・氏子の平安を祈り、鉦・笛に合わせて太鼓を舞い打つ。行列の構成は、露払い、獅子、鉦打ち、楽打ち（太鼓打ち）。楽打ちの曲は、場面に応じた12曲が伝わる。獅子は行列の中で楽打ちに合わせて舞う。		
546	獅子舞 祭礼風流	楽打ち	三次市君田町東入君	東入君区	八幡神社　秋季大祭	11月上旬	三次市君田町東入君　八幡神社境内及び街路	毎年	毎年11月上旬に行われる八幡神社秋季大祭で、地域の人々によって同社境内及び街路で行われる。太鼓・笛・鉦による1名の〆打ちと12名の児童の楽打ちが奉納される。		
547	獅子舞 祭礼風流	楽打ち	三次市君田町泉吉田	泉吉田区	八幡神社秋季大祭	11月第1日曜日	三次市君田町泉吉田　八幡神社	毎年	11月第1日曜日に泉吉田の八幡神社秋季大祭で実施していたが、現在中断中。獅子は行列の中で楽打ちに合わせて舞っていた。	中断	
548	獅子舞 祭礼風流	楽打ち	三次市君田町西入君	西入君区、子供会	秋季大祭	10月第2土曜日〈10月12日〉	三次市君田町西入君　聖神社	毎年	毎年、10月第2土曜日に西入君聖神社の秋季大祭で実施。構成は、大太鼓、しょうばん（鉦）、笛、太鼓12（打ち手：子供、太鼓負い：大人各12名）、神輿2台、露払い、獅子舞、獅子起こし、獅子尾振り、才領。法被に鉢巻・脚絆姿の子供や大人たちの太鼓・鉦・笛の楽打ちに合わせ、獅子は行列の中で楽打ちに合わせて舞うほか、獅子起こしや獅子尾振りが奉納される。		
549	獅子舞 祭礼風流	楽打ち	三次市君田町櫃田	杵築神社氏子	櫃田杵築秋季大祭	10月第3日曜日〈10月14日〉	三次市君田町櫃田　杵築神社（御神体は大国主命）境内及び街路	毎年	櫃田の杵築神社秋季大祭で同社氏子により境内から街路で実施。露払い・獅子舞・鉦打ち・横笛に、大サイ振り、太鼓負い、打ち手、銅拍子、サイ振りが1組の楽打ちの行列となって続き、最大7組で行う。打ち手は子供で、花笠に浴衣姿で歩く。楽器は締太鼓、鉦。行列の中で楽打ちに合わせて獅子が舞う。		
550	獅子舞 祭礼風流	楽打ち	三次市君田町茂田	茂田須佐神社氏子	茂田須佐神社の秋季大祭	10月7日	三次市君田町茂田　須佐神社	毎年	毎年、茂田須佐神社の秋季大祭で奉納されていたが、現在中断中。	中断	
551	田楽	田楽	三次市君田町櫃田	櫃田ふるさと保存会			三次市君田町櫃田	不定期	櫃田ふるさと保存会によって実施される花田植。歌い手1人・囃子方1人、長胴の締太鼓を打つ踊り手数人、早乙女十数人で行う。踊り手は、太鼓を前に抱えるようにし吊るし、両手のバイで打つ。現在中断中。	中断	
552	田楽	花田植	三次市君田町石原				三次市君田町石原	不定期	石原地区に古くから伝わっていたとされる。歌い手1、囃子方3、踊り手数人、早乙女30、苗さげ4、綱引き3、太鼓12、鉦1、苗渡し6、総勢70人程度で行っていた。楽器は締太鼓（長胴・枠無し）、鉦。田植唄5曲が伝わる。近年では令和元年春に実施。	中断	
553	風流踊	盆踊	三次市君田町櫃田	櫃田区	ひつた納涼祭	8月14日	三次市君田町櫃田　納涼祭会場	毎年	しばらく途絶えていたが、昭和51年にひつた納涼祭での盆踊として復活。櫓を組み提灯を提げ、歌い手1人・囃し方1人・踊り手数十人で、団扇を採り、炭坑節・宮島さんなど音響機器による一般的な曲に合わせて踊る。		

554	風流踊	盆踊り岩吉(いわきち)	三次市君田町東入君	東入君区	お盆	8月中旬	三次市君田町東入君　JA三次集出荷場	毎年	毎年8月中旬に地域の人々が納涼祭の盆踊として実施。歌い手1名・囃子方2名・数十人の踊り手が団扇を手に採り、櫓を中心に輪になって古くから伝わる「岩吉」や、新たに加わった「炭坑節」を踊る。「盆踊り岩吉」が三次市無形民俗文化財。		市
555	風流踊	盆踊	三次市君田町西入君	西入君区	納涼祭	8月中旬	三次市君田町西入君　善照寺	毎年	毎年、8月中旬に西入君の善照寺の境内で納涼盆踊り行事として行われる。櫓を組み提灯を設置し、現在では数十人がカラオケの楽曲に合わせて踊る。古くから伝わる盆踊歌があったが、分からなくなっている。		
556	風流踊	盆踊	三次市君田町藤兼	藤兼区	納涼祭	8月中旬	三次市君田町藤兼　藤兼集会所	隔年	隔年で、8月中旬に藤兼集会所での納涼祭の盆踊として開催。地域の数十人がうちわを手に採り輪になって炭坑節などに合わせて踊る。		
557	風流踊	盆踊	三次市君田町石原	石原区	納涼祭	8月14日	三次市君田町石原　荒神社〈昔は教念寺〉	毎年	毎年、8月14日の納涼祭で開催。かつては教念寺で踊られていたが廃寺となり、現在では石原荒神社で帰ってくる霊を慰めるために踊られる。櫓を組み、歌い手3人・囃し方2人で口説き「岩吉」や炭坑節などの曲に合わせ、浴衣姿の30～40人の踊り手が踊る。楽器は太鼓。		
558	祭礼風流	虫送り神事	三次市君田町西入君　聖神社	西入君区、子供育成会	夏の小祭り	7月上旬	三次市君田町西入君　聖神社～区境	毎年	毎年、7月上旬に西入君で夏の小祭りとして開催。戦中以降途絶えていた行事を昭和63年に復活。神職に虫送りの祈祷をしてもらった笹を子供が担ぎ太鼓をたたきながら村境の川に流す。斎藤実盛の人形を先頭に、10人くらいが害虫退散の短冊(幟)を結んだ笹を持って並び、大太鼓に合わせて虫送りの歌をはやしながら原区との境の川まで練り歩く。		

【調査地区70】 旧布野村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
559	神楽	布野(ふの)神楽	三次市布野町下布野	布野神楽団	知波夜比売神社秋季大祭の前夜祭	毎年10月10日に近い土曜日の夜〈10月9日の夜〉	知波夜比売神社他	毎年	阿須那系の石見神楽。明治20年に、神職が舞っていた神楽を下布野地域の有志が受け継ぎ、布野神楽を継承している。天蓋を吊り、床は畳敷き。舞人は刀・弓矢・鈴・幣・笹・幣・桶などの採物を持って素面で舞う。楽器は、大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。6調子の旧舞で、「神降ろし」「八幡」「天の岩戸」は必ず舞い、他に「鍾馗」「恵比寿」「塵輪」「天神」「貴布禰」「八岐大蛇」などを舞う。「天岩戸」は三次市指定無形民俗文化財。		市
560	神楽	横谷神楽	三次市布野町横谷	須佐神社氏子	須佐神社秋季大祭の前夜祭	10月16日に近いの土曜日の夜〈10月16日夜〉	横谷ふるさとセンター体育館	毎年	発祥は未詳。大太鼓・小太鼓・笛・鉦の楽で、舞人は演目により4～6名。天蓋を吊るし、床は畳敷、舞人は刀や弓矢、鈴、笹、幣、桶を採り、素面で舞う。昭和60年に横谷神楽団が結成され、創作神楽「比熊山」等を演じる。		
561	獅子舞 祭礼風流	奥の迫天満宮の獅子舞と楽打ち	三次市布野町上布野	奥の迫天満宮氏子	奥の迫天満宮の秋季大祭	10月中下旬、布野町横谷の須佐神社秋季大祭の次の日曜日	奥の迫天満宮境内及び布野町上布野奥の迫地域内(梶川宅～奥の迫天満宮まで)	毎年	布野町奥の迫天満宮の氏子による行事で、戦前から行われていたとされるが現在中断中。10月中旬の奥の迫天満宮秋季大祭の次の日曜日に、同社境内や奥の迫地域で開催され、露払い(猿田彦か)を先頭に、二人で舞う獅子・囃子の子供・十数名から数十名の花笠を付けた楽打ち(締太鼓)が行列になって歩く。獅子は道行では行列の中で舞いながら進み、天満宮境内で獅子起こしを行う。	中断(昭60～)	
562	獅子舞 祭礼風流	須佐神社獅子舞と楽打ち	三次市布野町横谷	須佐神社氏子	須佐神社秋季大祭	10月15または16日の直近の日曜日〈10月16日〉	須佐神社及びその周辺	毎年	戦前からあったという。須佐神社秋季大祭に、同社境内と周辺で露払い(猿田彦か)・3体の獅子・十数人から数十人の花笠を付け浴衣姿の楽打ちが「道行き」に合わせて須佐神社に向かい、疲れて寝た獅子を神が起こしたのち、楽打ちの演奏が行われて終了する。獅子は一体を二人で舞い、道行きの道中で沿道の人に噛みついたりしながら舞う。楽器は楽打ちの締太鼓のほか、チャンチキ(手打鉦)、小太鼓、ショウゴ、鐘撞、ささら、笛など。楽囃は須佐神社祭礼楽打ち。		
563	獅子舞 祭礼風流	知波夜比売(ちはやひめ)神社獅子舞と楽打ち	三次市布野町下布野	知波夜比売神社氏子	知波夜比売神社秋季大祭	毎年10月10日に近い日曜日〈10月10日〉	知波夜比売神社及び布野町上布野、布野町下布野	毎年	戦前からあったという。知波夜比売神社秋季大祭に奉納する。露払い(猿田彦か)・獅子・楽打ちが行列となり、上布野・下布野からそれぞれ神社に向けて出発し、神社に到着すると境内を2周して中央に至り、雌雄一対の獅子の獅子起こし行う。楽器は楽打ちの締太鼓のほか、ショウゴなど。楽囃は、知波夜姫神社奉納楽打ち。		
564	風流踊	福泉坊盆踊	三次市布野町上布野　福泉坊	不明	お盆	〈8月15日の夜〉	福泉坊　境内	毎年	50年以上前に途絶えた、布野町福泉坊境内で行われていた盆踊。8月15日の夜、「いろは口説き」「鈴木主水口説」を歌う。口説を中心に踊り手が輪になって踊る。	中断(昭45以前～)	
565	風流踊	真光寺盆踊	三次市布野町戸河内	真光寺門信徒、戸河内一心会(現在は存在なし)	お盆	〈8月16日の夜〉	真光寺境内　戸河内老人集会所前広場	毎年	約40年前に途絶えた、布野町真光寺門徒や地域の人々によって行われていた盆踊。8月16日の夜境内や集会所に集まり、ステージ上で「鈴木主水口説」「巡礼お鶴口説」などの口説に合わせ、踊り手が輪になって踊る。曲目は6曲程度あったという。	中断(昭55頃～)	
566	風流踊	松雲寺盆踊	三次市布野町上布野	地区住民	お盆	〈8月21日の夜〉	松雲寺境内	毎年	50年以上前に途絶えた、布野町松雲寺境内で行われていた盆踊。8月21日の夜、口説きを中心に踊り手が輪になって踊る。	中断(昭45以前～)	

【調査地区71】 旧作木村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
567	神楽	伊賀和志(いかわし)神楽	三次市作木町伊賀和志	伊賀和志神楽団	秋祭奉納他	10月10日前後の土曜日の夜〈旧暦10月7日の夜→体育の日の前々日の夜〉	伊賀和志天満宮（地元秋祭）	毎年	阿須那地方から石見神楽が伝わったもので、明治時代には大畠神楽から岡三淵神楽となり、その後伊賀和志神楽の名称になったといわれる。以前は、祭礼の後夜通し奉納上演していた。天蓋を吊って三方に幕を張り、楽に合わせて演目ごとに1～8名の舞手が舞う。「神降ろし」「鈴合わせ」「御崎」の神事舞や「天岩戸」「鍾馗」「大江山」などの能舞など17演目を舞う。「鈴合わせ」は8つの舞からなり俗に「やよし」といい、広島県無形民俗文化財。「神降ろし」「天の岩戸開き」は三次市無形民俗文化財。		県・市
568	獅子舞祭礼風流	伊賀和志天満宮の楽打ち	三次市作木町伊賀和志	楽打ち保存会	伊賀和志天満宮の秋祭	10月10日前後の日曜日〈旧暦10月7日→体育の日の前日〉	伊賀和志天満宮	毎年	戦前から継承される。秋祭の二日目大津地区と伊賀和志地区を道行きに合わせて練り歩き、天満宮に到着後社の周りを1周し楽を打ったのち、大踊りの終わりを待って境内を降り奉納を終える。浴衣・白足袋・草履姿で、大太鼓を付けた胴頭の采配で楽打ちを進行し、後ろに杖を持った天狗（猿田彦か）・獅子舞・小学生による手打ち鉦・小太鼓、さらに桐胴太鼓を付けた中学生以上が続き、列の横では宰領がササラを打って誘導。楽は「道ゆき」「宮めぐり」「庭入り」「門がかり」（上がり）「門がかり」（下がり）。		
569	獅子舞祭礼風流	大山迦具(おおやまかぐ)神社の社切(しゃぎり)	三次市作木町大山	社切保存会	秋祭（継続している）	現在は行っていない〈10月10日→10月第1土曜の翌日〉	大山迦具神社	定期	戦前から継承されていたが、平成28年頃から中断中。迦具神社の御神体を乗せた神輿を「社切」を打ちながら地域内の大山神社まで行幸し、途中浄円寺を経由して迦具神社の戻り御神体を奉納する。行幸は鉦が先導し、薙刀を持つ天狗（猿田彦か）が露払いをして獅子舞・神輿・太鼓が続く。楽器は手打鉦、桶胴太鼓、打ち鉦。楽は「道行」「小社切」「ごんげん社切」「大社切」「重ね」「打ち切り」。	中断（平28頃～）	
570	獅子舞祭礼風流	香淀迦具(こうよどかぐ)神社の楽打ち	三次市作木町香淀	郷土の伝統行事を引き継ぐ会	秋祭（継続している）	現在は行っていない〈11月3日の日中〉	香淀迦具神社		戦前から継承され、戦後一時の中断を経て昭和47年に復活したが、10年以上前から中断中。祭りの2日目の午後に香淀集会所を出発して迦具神社の境内に上がり、祭典ののち楽打ちして終了。行幸はササラを持った宰領が先導し、猿田彦・獅子舞・太鼓が続き、周辺に補佐の宰領・横笛・鉦が同行する。楽は「遊行」「庭入り」「庭内一番～庭内六番」「打切」など。猿田彦が口上を述べて獅子を起こし「庭入り」で神社の境内に上が回る。	中断（平成期～）	
571	獅子舞祭礼風流	森山天満宮の楽打ち	三次市作木町森山	森山天満宮総代会	森山天満宮の秋祭	現在は行っていない〈11月3日の日中〉	森山天満宮	毎年	戦前から継承されていたが、現在中断中。秋祭の二日目の午後西保田地区の民家から同社の境内まで練り歩き、祭典後に楽を打って終了。ササラを打つ宰領を先頭に猿田彦・獅子舞・杖使い・児童の小太鼓が並び、その後ろに桶胴太鼓を打つ中学生以上が並んで進行。境内に上がる前に猿田彦が口上を述べて獅子を起こす。楽は約10種類。	中断（平22頃～）	
572	獅子舞祭礼風流	上作木八幡神社の楽打ち	三次市作木町上作木	上作木八幡神社総代会	秋祭	11月3日の午後	上作木八幡神社	毎年	戦前から継承される。以前は上作木・下作木の民家から、現在は上作木の集会所から行列が出発し、神社の祭典後境内に上がり、社の周りを3周する。その後神輿の奉納を済ませ楽を打つ。行幸はササラを持った宰領が先導し、猿田彦・枝使い・獅子舞・太鼓、小学生までの子供による鉦、中学生以上の桐胴太鼓が続き、周辺を補佐の誘導・横笛・鉦が同行。楽は「頭歌」「遊行」「宮上り」「神楽」「祇園囃子」など。猿田彦が口上を述べて獅子を起こし、「宮上り」で境内に入る。		
573	獅子舞祭礼風流	門田迦具(もんでかぐ)神社の楽打ち	三次市作木町門田	地区住民	秋祭（継続している）	現在は行っていない〈祭り2日目〉	門田迦具神社	定期	作木町門田の迦具神社の秋祭に開催されていたが、昭和18年に廃絶。	中断（昭18頃～）	
574	田楽	花田植〈大山供養〉	三次市作木町森山	森山郷土芸能愛好会（20年くらい前に解散した）	昭和20年代までは記念行事などに地主の協力を得て行われてきたが以後途絶え、昭和51年に一度復活した。	現在は行っていない〈6月〉	昭和51年には元作木町第三小学校グラウンド（三次市作木町森山西）を使用	不定期	昭和20年代まで実施されたが、以後は途絶えた。昭和51年に一度だけ復活。花田植を作木地方では「大山供養」と言い、地域の共同体が田の神「さんばい」にお礼をする行事であった。漆塗りの花鞍を乗せ旗を立てた十数頭から3、40頭の牛を手綱さばきで誘導して代掻きさせ、ササラを持ったサゲの音頭と太鼓・鉦・笛の囃子に合わせて歌い手が「大歌」「やんはれ」を歌い、赤襦袢と絣に赤襷をかけて着飾った数十名の早乙女たちがした歌を唱和しながら田植を行う。	中断（昭52～）	
575	風流踊	盆踊	三次市作木町大山	浄円寺盆踊り保存会	盆踊り行事	8月15日の夜〈旧暦7月15日〉	用池山　浄円寺（浄土真宗本願寺派）	毎年	毎年、8月15日（旧暦7月15日）の夜に浄円寺盆踊り保存会によって開催。境内に提灯を渡した櫓を組み、4、5人の歌い手の口説きに合わせて団扇を採る踊り手が櫓の周りを回りながら踊る。「とうじょう踊り」「三ッ拍子くどき」「かぞえくどき」「はんや踊」「あせえ踊」が伝わる。		
576	風流踊	盆踊	三次市作木町門田	門田区	盆踊り行事	8月14日の夜〈旧暦7月15日〉	門田老人集会所、門田コミュニティ広場	毎年	毎年、8月14日（旧暦7月15日）の夜、門田老人集会所・コミュニティ一広場に四方に提灯を渡した櫓を組み、2、3人の歌い手の「出雲甚句」「忠臣蔵」などの口説きや、「炭坑節」「作木音頭」に合わせて団扇を採る踊り手が櫓の周りを回りながら踊る。浄円寺で開催されていた盆踊から分かれたもの。		

577	風流踊	盆踊	三次市作木町香淀	垰下(たおしも)区	盆踊り行事	8月14日の夜〈旧暦7月15日〉	垰下集会所	毎年	毎年、8月14日(旧暦7月15日)の夜に峠下集会所に提灯を渡した櫓を組み、歌い手の「三ツ拍子口説」「はんや踊」「あせえ踊」などに合わせて団扇を採る踊り手が櫓の周りを回りながら踊り、「作木音頭」を踊って終了。踊り手の入場の際は、笛・打ち鉦・拍子木による道行の演奏に合わせて櫓の周りに輪を作る。浄円寺で開催されていた盆踊から分かれたもの。		
578	風流踊	盆踊	三次市作木町西野		盆踊り行事	8月14日の夜〈旧暦7月15日〉	西野多目的集会所	2年毎	8月14日(旧暦7月15日)の夜に西野多目的集会所で開催。当地区では歌い手が途切れたため、古くから受け継いだ口説は行っておらず、現在は戦後の演歌等で踊る。なお、当区の盆踊は上作木区へと伝わっており、現在、上作木区では「海辺踊り」「山ずくし」で踊っている。東光坊(下作木)の境内で開催されていた盆踊から分かれたもの。		
579	風流踊	盆踊	三次市作木町上作木	上作木区	盆踊り行事	8月14日の夜〈旧暦7月15日〉	上作木構造改善センター	毎年	毎年、8月14日(旧暦7月15日)の夜に上作木構造改善センターで、提灯を渡した櫓を組み、歌い手の「山くずし」「海辺踊り」に合わせて、浴衣姿で団扇を採る踊り手が櫓の周りを回りながら踊り、「作木音頭」を踊って終了。海辺踊りの口説きは「お吉清三」「石童丸」。東光坊(下作木)の境内で開催されていた盆踊から分かれたもの。		
580	風流踊	盆踊	三次市作木町下作木	下作木上区	納涼大会	8月15日の夜〈旧暦7月15日〉	下作木構造改善センター	2年毎	毎年、8月15日(旧暦7月15日)の夜に下作木構造改善センターで、四方に提灯を渡し紅白の幕を巻いた櫓を組み、歌い手の「海辺踊り」「山くずし」の合わせて団扇を採る踊り手が櫓の周りを回りながら踊る。海辺踊りの口説きは「お吉清三」「石童丸」、山くずしの口説きは「鈴木主水」「参三」。前口上や傘更りの口上がある。東光坊(下作木)の境内で開催されていた盆踊から分かれたもの。		
581	風流踊	盆踊	三次市作木町伊賀和志	伊賀和志区	夏祭	8月14日の夜〈旧暦7月15日〉	作木郷土芸能伝承館、いかわし広場	毎年	毎年、8月14日(旧暦7月15日)の夜に作木郷土芸能伝承館・いかわし広場で、提灯を渡した櫓を組み、歌い手の「ぱんば」「山づくし(白糸口説)」に合わせて団扇を採る踊り手が櫓の周りを回りながら踊る。昭和50年頃までは蓮光寺で開催されていた。		
582	風流踊	盆踊	三次市作木町森山	森山区	森山ゆかた祭り	8月14日あるいは15日の夜〈旧暦7月15日〉	森山集会所	毎年	毎年、8月14日(旧暦7月15日)の夜に森山集会所で森山ゆかた祭りとして開催。歌い手の「巡礼口説」「数え口説」「心中口説」「忠三口説」「佐兵衛口説」の口説に合わせて団扇を採って踊る。昭和50年頃までは正住寺で開催され、道行の歌に合わせて踊り手が入場していた。		
583	風流踊 祭礼風流	伊賀和志天満宮の大踊り	三次市作木町伊賀和志	楽打ち保存会	秋祭	10月10日前後の日曜日〈旧暦10月8日→体育の日の前日〉	伊賀和志天満宮	毎年	毎年、10月10日ころの日曜日に、作木町伊賀和志の天満宮の秋祭に開催。昭和初期以降一時中断していたが、昭和50年の三江線全線開通を記念する行事として復活した。まつりの二日目に神社境内で大太鼓による大踊りを踊った後に楽に戻り打ち鉦・歌い手による「百姓わかさ」「三艘姫ご」に合わせ中学生以上の腰に桶胴太鼓を付けた浴衣・花笠姿の舞手が舞う。		

【調査地区72】 吉舎町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
584	神楽	三谿(みたに)神楽	三次市吉舎町八幡地区	八幡民芸振興会(現在は解散)	辻八幡神社など	神社の秋祭	神社境内	毎年	吉舎町の辻八幡神社などで奉納されていた備後神楽の一つ。楽は太鼓・笛・鉦で、舞い手は5人。神降ろしの神事舞は四人が四神にあやかる四つの方角を舞った後、もう一人の舞手が中央に出て神を勧請する。楽器は太鼓、笛、摺鉦(手拍子)。現在は中断。四神舞は旧吉舎町無形民俗文化財。	中断	
585	祭礼風流	辻八幡神社神殿入(こうどなり、こうぞのり)	三次市吉舎町辻	辻八幡神社　神殿入り保存会	辻八幡神社秋の例大祭前夜祭	10月	地区内　神社参道及び境内	毎年	天明の飢饉をきっかけに始まったと伝わる。辻八幡神社秋の例大祭の前夜、午後9時に家から灯篭を提げた竹竿(木枠)を持ち組ごとに太鼓や鐘を鳴らしながら参道に続く宮平橋に集合。午後10時に神主を先頭に橋を渡り献灯行列を作って神社に向かう。総代や氏子代表などが待つ境内に入る。用具は灯篭(各戸1竿)、楽器は太鼓・鉦・笛。		県

【調査地区73】 三良坂町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
586	神楽	三谿(みたに)神楽	三次市三良坂町灰塚	灰塚神楽団	宗像神社秋季例大祭(前夜祭・本祭)	11月9日の前夜と当日	宗像神社など	不定期	備後神楽系の神楽で、かつては灰塚地区の矢田・湯谷・大谷・灰塚地区の各神社で五穀豊穣を祈念し感謝するものとして秋季例大祭で奉納されていた。祭り前夜は夜神楽「清めの舞」「莫莚舞」「猿田彦」に始まり、神職の祝詞に続いて「八岐大蛇」などの能舞が奉納された。当日は昼神楽「五行祭」が奉納された。楽は大太鼓・鈴・横笛・銅拍子で、演目ごとに1～8名が舞う。特徴として謡があり節目に和歌を詠う。		
587	神楽	弓神楽〈神弓祭〉	三次市三良坂町田利	八幡神社	年賀の神弓祭、家祭り	1月および不定期	当舞の家(当屋)、家祭りとして依頼のあった家など	毎年、不定期	年始に当たり八幡神社の神職が当家で奉納した弓神楽。弓の弦を打ち鳴らしながら祝詞を唱え、年賀の厄払いや、家内安全、牛馬繁栄、五穀豊穣などを祈願した。早朝から家の清浄な部屋の四方に七五三(注連縄)を張り、干道を飾り、床に幣を立てて諸神を勧請する。さらに八足机の上に五色の幣を立て、供物を供え、夜になるまで祭文を唱え祈願した。昭和30年代中頃に廃絶。	中断(昭30年半～)	

588	田楽	沖江田楽	三次市三良坂町三良坂沖江	三良坂町郷土芸能保存会（沖江田楽）	みらさか小学校学習発表会、三良坂文化祭、みよし伝統文化・芸能フェスティバル、その他	10月、11月、2月、6月（他に行事などがあればその時期に合わせて）	みらさか小学校、三良坂コミュニティセンター、みよし市民ホールきりり、他（保存会は各地の田圃等において）	毎年、不定期	明治時代中頃に始まった花田植で、西国巡礼も途中三良坂の沖江に立ち寄った虎御前が家臣の供養のため早乙女となり田植歌を歌ったのが始まりという言い伝えがある。五穀豊穣や牛馬の安全供養を祈願する田植踊りで、田の前に神仏習合の供養棚を設け、飾り牛を先頭に、胴太鼓・小太鼓・鉦やささらの田楽囃子に合わせ、絣の着物に手甲・脚絆・菅笠姿の早乙女が苗を植える。拍子は「サゴエ拍子」「サンバイ拍子」。【詳細調査No.15】		市
589	風流踊	盆踊	三次市三良坂町仁賀、灰塚地区（三良坂、田利地区でも以前は行なわれていた）	各自治振興区〈各地区の青年団〉。	夏祭、盆踊大会	8月13～16日	各支所駐車場など	毎年	戦前から伝わり、昭和30年代は盂蘭盆会の行事として8月13～16日に三良坂の各自治振興区で開催。三良坂地区では川施餓鬼供養として行われたこともある。歌い手・囃し方が乗る櫓の周りを、素手や扇子を採った踊り手が輪になって踊る。二つ拍子・三つ拍子・七つ拍子で楽器は太鼓のみ。		

【調査地区74】 三和町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
590	獅子舞	大力谷(だいりきだに)八幡宮の獅子舞	三次市三和町　大力谷八幡宮	氏子の当番組の者で担う	大力谷八幡宮秋の例大祭	毎年10月の第3日曜日	大力谷八幡宮の境内	毎年	毎年10月の第3日曜日に大力谷八幡宮の例大祭で同社の境内で奉納される。境内から御旅所までの道中を獅子舞と魔除けの舞が行われる。二人立の獅子舞。元亀2年（1571）銘がある獅子頭が現存する。		
591	田楽	信原(のんばら)田楽大花田植え	三次市三和町下板木信原地区一帯	下板木コミュニティー〈信原田楽保存会〉	信原田楽大花田植え	毎年5月最後の日曜日	三和町下板木地区の水田圃場	毎年	幕末から明治の頃に現在の北広島町の千代田などの田植唄（山形節・土師節）を取り入れ、下板木地区に伝承される田楽。神事に続き2、3頭の飾り牛による代掻き・柄ぶり作業が行われ、浴衣・船頭鉢姿の太鼓と絣・菅笠姿の30名の早乙女が圃場に入る。音頭2名、囃子は大太鼓・小太鼓・鉦・笛の4・5名、柄ぶり方・苗運び8～12名、綱引き2名。田植唄は「兎の歌」「東の山音頭」「17がや－音頭」「ないじゃい節」「敦盛さん」。		
592	風流踊	盆踊	三次市三和町下板木地区	下板木コミュニティー	盆祭り	毎年8月14日夕刻	下板木コミュニティーのグランド	毎年	毎年8月14日に下板木コミュニティーにより開催される。発祥は定かではないが戦後公民館活動としてその後現在の体制に引き継がれた。太鼓と歌い手が乗る櫓の周りを踊り手が輪になって踊る。歌は「皮切り音頭」「石堂丸」「手拭い音頭」「ヤンサ」「七つ拍子」「三和町音頭」。		
593	風流踊	光永寺の盆踊	三次市三和町敷名・上壱地区	三和町公民館敷名分館	お盆	現在は途絶えている	敷名コミュニティセンター	毎年	約20年前まで敷名コミュニティーセンターで開催されたが、現在は途絶えている。	中断（平17頃～）	
594	祭礼風流	神殿入り(こうどなり)	三次市三和町羽出庭　御霊神社	御霊神社の氏子	御霊神社の秋季例祭（前夜祭）	毎年11月2日の前夜祭	下板木は下堤から、下羽出庭は明正寺から山型の万燈を御霊神社に奉納する。	毎年	毎年11月2日の夜御霊神社の氏子により同社の神事として奉納される。発祥については明らかではない。夕刻に下板木と下羽出庭両地区から蝋燭を担いで神社に向かい献灯する。万燈は四角な板の四隅に竹ひごを立てて障子紙を巻いた行灯状のものを、十字に組んだ竹か棒に取り付けたもので、元はいろいろな形や文字を模っていた。		
595	祭礼風流	神殿入り(こうどなり)	三次市三和町　大力谷八幡宮	各地の氏子において伝承されている。	大力谷八幡宮秋の例大祭前夜祭	毎年10月の第3土曜日夕刻（秋の例大祭前夜祭）	大力谷、成広谷、羽出庭、上板木から万燈神社下鳥居の所に集まり、神社に奉納	毎年	毎年10月第3土曜日の夕刻に、大力谷・成広谷・羽出庭・上板木の氏子によって、万燈神社に奉納される。地元では江戸時代の終わりに始まったと言われる。夕刻に4地区から万燈を担いで、煙火の合図で行列をなして鳥居のところに集まり、当番地区を先頭に神社に奉納する。万燈は四角な板の四隅に竹ひごを立てて障子紙を巻いた行灯状のものを、十字に組んだ竹か棒に取り付けたもので、元はいろいろな形や文字を模っていた。		

（9） 庄原市

【調査地区75】 旧庄原町、高村、本田村、敷信村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
596	神楽	三上神楽	庄原市一円（旧三上郡、恵蘇郡の一部）	三上神楽保存会（広島県神社庁庄原支部神職）	神社の例祭、前夜祭、各種祈願・感謝祭、神社社殿落成の祝慶、遷宮祭、宮司交代時など	庄原市内各神社(50社)の例祭日の前夜…定期（近年上演が減少）、33年、13年、7年毎の年番など	旧庄原市内及び口和町の神社50社	式年、不定期など	旧三上郡・恵蘇郡の一部、22社の神職のみで演じられる神楽。年番神楽と式年での神楽がある。所持演目は「打立」「指紙」「手草」「舞の一」「魔駈」「御座」「奉幣祝詞」「御神」「荒神」「天之岩戸」「八戸」「恵比寿」など。舞殿には造蓋（ぞうかん）を吊り、その周囲には千道・気形を垂らす。「舞の一」までの舞は素面で舞う。楽器は大太鼓、小太鼓、龍笛、手拍子。		県

597	獅子舞 祭礼風流	西原八幡神社神儀	庄原市板橋町	西原八幡神社氏子の青壮年有志	西原八幡神社例大祭	新暦9月の最終日曜日〈旧暦8月15日〉	神社境内と御旅所（平成7年より道中は取り止め、神社境内に集合）	毎年	祭礼道具の年代から、江戸中期に遡るとされる。道中では「道行」、神社や御旅所では「西城頭」「高砂」「鶯」「円胴柄」「四十二」「大武士」などを演じる。猿田彦、獅子舞、大頭取（采振り）、小頭（采振り）、笛役、鉦叩き、締音頭、鎧・兜を着用した舞い打ちの児童、手拍子の児童で構成される。獅子舞は二人立で、神社・御旅所では舞い打つ太鼓の周りを回りながら舞う。		市
598	獅子舞 祭礼風流	宗造(そうぞう)神社・諏訪神社の神儀	庄原市高門町	宗造神社氏子役員が班を編成し、輪番制で担当	諏訪神社例大祭、宗造神社例大祭	諏訪神社：10月第3土曜日、宗造神社：同月第3日曜日〈諏訪神社：10月7日、宗造神社：10月8日〉	各神社の境内	毎年	当屋へ神儀配役者が勢揃いし、数種の拍子（演目）を舞い打ちする。神社・御旅所で数種の拍子を舞い打ちする。構成は、露払い（猿田彦）、獅子、当屋、采振り、舞打ち（児童）、太鼓頭打ち、鉦打ちなど。道中は「道行」を打つ。神社・御旅所、荒神では「高砂」「西城頭」「鶯」「四十二」「大陣かけ」「大武士」を舞い打ち、それに合わせて露払いと獅子による舞も行われる。		
599	獅子舞 祭礼風流	峰八幡神社の神儀	庄原市峰田町	峰田神祇組合（平成21年設立）と複数の総代	峰八幡神社例大祭	10月第1日曜日〈10月5日〉	集会所（昔は当屋）、道中、神社境内、御旅所	毎年	神儀配役者が勢揃いし、神社へ道行する。道行の途中数箇所と、神社・御旅所で拍子打ちを行う。行列の構成は、大旗、吹き流し、鳥羽槍・毛槍・薙刀、采、猿田彦、獅子、太鼓、鉦など。拍子打ちでは「四十二」「霧島」「甲斐付け」「備中肴」「円胴柄」「大武士」「高砂」「西城頭」「コッテ一掛け」「鶯」「カラカラ十二」「ザギボシ」「新団子」から数演目を打つ。		
600	風流踊	古限講(こきりこう)〈古切講〉	庄原市本村町	本村こきり講保存会（昭和61年再設立）	本小学校運動会（昭和61年から平成18年までの間、毎年1回上演）	平成19年以降上演なし〈大旱魃時〉	昔は蘇羅比古神社境内、昭和61年から平成18年まで本小学校グラウンド	不定期（大旱魃の時）・定期（運動会）	寛文3年（1663）に大干ばつがあり、同市西城町大屋より雨乞い祈願の歌と踊り「古限講」を伝習したという。大旱魃の時、紋付袴姿でデンバチ笠を被り、月貞寺から蘇羅比古神社まで、音頭頭・庭借り口上・音頭脇・采振り・太鼓打ち・拍子組・日輪背負い・月輪背負いと続く行列を成し、太鼓・手拍子を打ち鳴らして行進する。神社では神職による祓と僧侶による読経の後、輪踊りする。曲は第1番「社殿懸り」～第10番「月若」まであり、「御門懸り」「川端」で踊る。寛文3年、文化10年（1813）、明治5年、大正2年、同12年に実施。戦後は途絶えていたが、昭和61年から平成18年まで本小学校で伝承活動を行い、運動会で歌と踊りを披露した。	中断（平19～）	市
601	風流踊	盆踊〈供養踊り〉	庄原市大久保町・西地区	大久保西盆踊り保存会（平成11年頃設立）	初盆などの盆供養行事	8月14日〈8月14日〉	初盆を迎える家の庭先、大久保西集会所（初盆を迎える家がない場合）	毎年	初盆を迎える家の庭先に集合し、仏壇に一同合掌礼拝・焼香し、盆踊の由来を語る。その後踊り手が庭先で輪になり、口説き（歌い手）唄に合わせて、手拍子を打ちながら踊る。伝承の口説きは8種類。近年は「うら盆口説き」「大久保村口説き」「新山くずし」「高い山」「八百屋お七」の5種を唄う。		
602	風流踊 その他	雨乞い	庄原市峰田町	地域住民や仲蔵寺住職、神職	雨乞い	昭和14年が最後〈大旱魃の時〉	峰田町字日雨孫周辺、本村川筋「牛拳岩」（はなぐりいわ）周辺、青嶽山の山中	不定期（大旱魃の時）	牛拳岩付近の河原の岸壁に祀るジオウサン（竜王神）において、仲蔵寺住職や神職が祈祷する。住民は鉦・太鼓の拍子に合わせ、繰り返し口上「雨をたもれジオウサン、竜が天に昇るよう」を唱える。河原では千把火を焚き、仲蔵寺の梵鐘を日雨孫周辺の淵に沈めて雨を祈る。藁製の雨乞い竜を青嶽山の大木に巻きつける。数え歌の口説きで雨乞い踊りを行う。	中断（昭15～）	
603	その他	虫送り	庄原市峰田町	地域住民と神職	虫送り	昭和11、2年頃まで実施〈毎年6月15日頃〉	村（集落）境2地点の範囲内の圃場（稲を植えた田圃）	毎年	集落の上の端に集落代表の成人男子、集落内の男児、神官が集合し、神事の後、太鼓を叩きながら、行列で集落境まで「何々送るか・・・」「稲の虫を送るよお・・・」と歌いながら歩く。村境（虫送り場）で神職が祈祷し、御幣を立てておく。青竹は川に流す。	中断（昭13頃～）	

【調査地区76】 旧山内東村、山内西村、山内北村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
604	田楽	北地区の田植	庄原市山内町	地区住民	田植の時期	6月（現在は行われていない）	北地区内の各集落	毎年	「さげ」が畦で太鼓を打ち田植歌をうたい、「早乙女」と歌の応答をしながらの作業となる。この集団を結（ゆい）という。戦時中は出征などにより村の働き手が少なくなったため、協力・共同の意味合いが強くなっていった。太鼓打ちの技法は、約700年前に大山神社の社人より伝えられたという。昭和30年代廃絶。	中断（昭30代～）	
605	田楽	東地区の田植〈牛供養花田植〉	庄原市山内町	庄原実業高等学校の生徒	学園祭	6月（現在は行われていない）	旧山内東村域	毎年	「さげ」が畦で太鼓を打ち田植歌をうたい、「早乙女」と歌の応答をしながらの作業となる。この集団を結（ゆい）という。戦時中は出征などにより村の働き手が少なくなったため、協力・共同の意味合いが強くなっていった。太鼓打ちの技法は、約700年前に大山神社の社人より伝えられたという。昭和30年代廃絶。現在、庄原実業高等学校で伝承活動が行われている。	中断（昭30代～）	市
606	田楽	山内(やまのうち)地区の田植	庄原市山内町の各集落	地区住民	田植の時期	6月（現在は行われていない）	集落内の田	毎年	「さげ」が畦で太鼓を打ち田植歌をうたい、「早乙女」と歌の応答をしながらの作業となる。この集団を結（ゆい）という。戦時中は出征などにより村の働き手が少なくなったため、協力・共同の意味合いが強くなっていった。太鼓打ちの技法は、約700年前に大山神社の社人より伝えられたという。昭和30年代廃絶。	中断（昭30代～）	
607	風流踊	北地区の盆踊	庄原市山内町旧山内北村域	北地区青年団、集落単位の青年会	盆踊大会	盆（8月15日）	直近では川北小学校グランド	毎年	櫓を中心に踊っていたが、詳細は不明。	中断（昭60頃～）	

608	風流踊	東地区の盆踊	庄原市山内町旧山内東村域	東地区青年会（東自治振興区）	盆踊大会	盆（8月15日）	東小学校グランド→最終は東自治振興センター駐車場	毎年	詳細や起源などは不明だが、伝承活動や記録保存のために「東地区盆踊指導」と題したDVDを製作した。	中断	
609	風流踊	山内地区の盆踊	庄原市山内町・山内小学校周辺集落	山内地区青年会	盆踊大会	盆（8月15日）	山内小学校グランド	毎年	小学校校庭で櫓を中心に歌と踊りで演じていた。歌の詳細は不明。昭和60年頃から中断している。	中断（昭60頃～）	
610	風流踊	水越地区の盆踊	庄原市水越町	旧水越小学校PTA	盆踊大会	盆（8月15日）	旧水越小学校グランド	毎年	戦後、水越小学校区住民の親睦を深める意味からも盆踊り大会が開催されたという。櫓を中心に踊っていた。昭和60年頃から中断。	中断（昭60頃～）	
611	舞台芸等	北地区の狂言・村芝居	庄原市山内町	青年会（青年団）及び有志	地域の催し、興行など	現在では行われていない	倉庫、仮小屋、学校の講堂	不定期	戦前から昭和30年代半ばにかけて、北地区内の単一または複合集落で狂言（村芝居）を演じる集団が組織された。戦後は青年団が担い手となり、村の娯楽と興行収入を目的として演じた。演目は時代物が多く、任侠物が人気だったという。衣裳も自作や地域間で貸し借りしていた。	中断（昭30代～）	
612	舞台芸等	東地区の狂言・村芝居	庄原市山内町	青年会（青年団）及び有志	地域の催し、興行など	現在では行われていない	倉庫、仮小屋、学校の講堂	不定期	戦前から昭和30年代半ばにかけて、東地区内の単一または複合集落で狂言（村芝居）を演じる集団が組織された。戦後は青年団が担い手となり、村の娯楽と興行収入を目的として演じた。演目は時代物が多く、任侠物が人気だったという。衣裳も自作や地域間で貸し借りしていた。	中断（昭30代～）	
613	舞台芸等	西地区の狂言・村芝居	庄原市山内町	青年会（青年団）及び有志	地域の催し、興行など	現在では行われていない〈不定期〉	倉庫、仮小屋、学校の講堂	不定期	戦前から昭和30年代半ばにかけて、西地区内の単一または複合集落で狂言（村芝居）を演じる集団が組織された。戦後は青年団が担い手となり、村の娯楽と興行収入を目的として演じた。演目は時代物が多く、任侠物が人気だったという。衣裳も自作や地域間で貸し借りしていた。	中断（昭30代～）	
614	その他	日吉(ひよし)神社の早駆馬	庄原市山内町・日吉神社	総代会、氏子衆	日吉神社祭礼（別称：山王まち）	4月第3日曜日〈4月20日〉	日吉神社及び周辺	毎年	起源は戦国末期、山内首藤氏の戦勝報告という。早馬（午前10時頃）は浅黄の裃に鉢巻をした騎手、晩馬（午後2時頃）長襦袢に鉢巻・手甲・脚絆・襟掛けの騎手が乗馬し、参道から境内に駆け込む。それぞれ3頭登場する。		

【調査地区77】 総領町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
615	神楽	神楽	庄原市総領町	総領町神楽同好会	氏神の例祭や各荒神祭	11月から12月	境内（拝殿）、民家	毎年（宮神楽）、2、3年に一度（荒神神楽）	旧総領町内の氏神例祭や各地区の荒神祭で演じられた。8月14日に行う神楽を宮神楽、2、3年に一度の神楽を荒神神楽という。所持演目は「清め乃舞（二人舞）」「四人舞」「悪魔祓い」。楽器は太鼓、笛、鉦、手拍子（ちゃっぱ）。平成10年頃廃絶。	中断（平10頃～）	
616	獅子舞祭礼風流	意賀美(おかみ)神社神祇	庄原市総領町五箇	意賀美神社神祇講	北五箇の秋祭、領家八幡神社秋季例大祭	10月9日（はつくんち）〈旧暦11月9日〉	境内・当屋	毎年	神祇の一団は行列順に、宰領1、猿田彦1、獅子1頭、大胴打8程度の4の倍数、太鼓打4程度、鉦打1、笛1で構成され、約40名に及ぶ。神社境内・御旅所で神祇を打つ。大胴打は頭に尾長鶏の羽のシャグマを被り、友禅の下着に布製の鎧・大口を着る。所持する楽は「短い切上」「長い切上」「道行」「宮廻り」「御たび」「御たび帰り」「小侍」「掛侍」「本神楽」「神楽」「霧島」「備中坂」「八人舞」「新神楽（おくまい）」「旧神楽」。	中断（平1頃～）	
617	獅子舞祭礼風流	亀谷神祇	庄原市総領町亀谷	亀谷神祇講	領家八幡神社の秋季祭礼	10月第2日曜日〈重陽の節句〉	境内・地域	毎年	戦時中以降中断したが、昭和44年に現神石高原町相渡の神祇を取り入れ復活。宰領が神祇の祭礼を取り仕切り、行列は宰領、猿田彦、獅子、笛、太鼓、大胴打ち、鉦、副宰領の順で総勢60名程度で構成。道行の数箇所、神社境内・御旅所で大胴打ちの踊りがある。楽は「道行」「サカナカ」「カンカケ」「ホンダンドー」「デンゴーガシラ」「チンカケゴツトイー」「ところ拍子」「きりあげ」「しんがく」「ひとつばい」「二つばい」「三つばい」「上ばい」。		
618	獅子舞祭礼風流	黒目神祇	庄原市総領町黒目	黒目神祇講	旧暦9月9日（重陽の節句）の祭前日夜（はつくんち）	10月第3日曜日〈重陽の節句〉	境内・地域内	毎年	黒目八幡神社の秋季祭礼に奉納。行列は宰領、猿田彦、獅子、笛、太鼓、大胴打ち、鉦、副宰領の順で総勢30名程度の一行となる。道行の各集落の神社・祠、黒目八幡神社境内・御旅所で神祇を打つ。大胴打ちは4人で一つの太鼓を囲んで踊り打つ。楽は「短い切上」「長い切上」「道行」「宮廻り」「御たび」「御たび帰り」「小侍」「掛侍」「本神楽」「神楽」「霧島」「備中坂」「八人舞」「新神楽」「旧神楽」。		
619	田楽	田楽	庄原市総領町（町内各地域）	地域住民	田植	6月から	水田	毎年	総領町の田楽の由来は不明だが、供養田植とほぼ同様であったと推測される。代掻き、苗とり、田植のなかで「朝唄」「田の神」「三杯さん」「大山」「田主」「月唄」「春三月」「夏三月」「恋唄」「小栗判官文の唄」「日暮れ」「さざえ田植唄」「大仙小唄」「昼間唄」が唱われた。現在、田楽は行われていないが、田植唄は伝承されている。田楽に用いられた飾り鞍や太鼓が残る。	中断	

620	風流踊	盆踊	庄原市総領町木屋土師地区	地域住民	お盆	8月13日から16日のうち	境内・広場・新盆の家	毎年	広場中央に精霊棚又は櫓を設け、周囲を輪になって踊る。曲は「ひとつ拍子」「ふたつ拍子」「ゆのう」「さんざ」「四つ拍子」「六つ拍子」「松山踊り(扇子踊り)」。楽器は太鼓。灰塚ダムの建設に伴い、土師集落全体が水没地となったために廃絶。	中断(平5頃～)	
621	祭礼風流	木屋神祇	庄原市総領町木屋	木屋神祇講	木屋須賀神社の例祭	7月14日	境内・当屋	毎年	非常に多くの楽を有する神祇の一団であったが、灰塚ダム建設に伴い、木屋地区全体の住民も減少したため中断。当屋より出発し「切り上げ」「ウグイスの谷渡り」「山伏」「肴」「霧島」「道行」、鳥居前に到着し「打込み」「大ザムライ」「小ザムライ」「カケザムライ」「オケコザムライ」、渡り殿にて「エンドウガラー」「コツテイカケ」「メヨウゴン」「カツコウセウトウ」「最上ガシラ」「十二」「帰り調」、拝殿前庭にて「四十二」「コジツカケ」「ズデド」「カンカケカイツケ」。楽器は太鼓・鉦。	中断(平5頃～)	
622	その他	稲草八幡神社祇園祭のケンカ神輿〈おごれんさん〉	庄原市総領町稲草・下市地区	稲草八幡神社氏子	祇園祭(通称・おごれんさん)	7月14日	下市地区	毎年	稲草八幡神社祇園祭はけんか神輿をぶつけ合うことから、「怒る」の訛りから「おごれんさん」とも呼ばれる。神輿は男性神輿と女性神輿の2体が登場し、御旅所から還御する間に2体の神輿をぶつけ合う。	中断(平1頃～)	

【調査地区78】 西城町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
623	神楽	比婆荒神神楽	庄原市西城町・東城町	比婆荒神神楽保存会(国指定団体)、西城町神楽愛好会	各名に祀る本山三宝荒神の祭(式年)	33年、13年、7年などの式年	当屋宅、神殿、公民館や体育館	式年	荒神を共同で祀る「名(みょう)」により、本山三宝荒神の神々に対し、式年で大規模に神楽が演じられる。戸宇神社の神職・朽木家所蔵、慶安4年(1651)の神楽能本が現存。当屋の庭に湯釜を据え、神事後、近くの荒神さんから神霊を迎える。この後、七座神事(打立て・曲舞・指神・榊舞・猿田彦舞・ござ舞・神迎え)、土公神遊び・神殿移り・白蓋引き・能舞(岩戸・国譲り・八重垣など)が舞われる。王子舞、神懸りと託宣、竜押しの後、最大の特徴である「荒神納め」が始まる。この後荒神送りなどが行われ、恵比須の舟遊びで終わりとなる。鎮魂の要素を残す特色があるといわれている。		国
624	神楽 その他	神弓祭(じんきゅうさい)〈鳴弦神事式・神事〉	庄原市西城町	西城地区神職会	各名の新春の祭、荒神祭	年末12月から2月頃まで	昭和末頃までは主に民家、以降は主に地域の集会所	定期	当屋に神殿を設け、注連飾りした千道を引き、祭壇の中央に斗枡を据えて神座とし、その前方の揺輪に弓を結んで弓座とする。弓座の後方に太鼓・笛・手拍子の諸役が座り、斎主は二本の打竹で七尺五寸の弓を打ち鳴らしながら祭文を奏上する。祭儀は「勧請祝詞」「諸神遊び」「荒神遊び」「土公神遊び」「結願神送り」「恵比須遊び」「打ち上げ」の七座の神事で構成され、2～4名の神職で行われる。		県
625	獅子舞 祭礼風流	中野八幡神社の神儀・楽舞	庄原市西城町中野	中野八幡神社氏子	中野八幡神社例大祭	11月3日	中野八幡神社境内ほか	毎年	中野八幡神社の例大祭に奉納される、天狗と獅子の舞(楽舞という)、鉦・太鼓等の囃子を伴う祭礼行列。天狗と獅子の舞は、はじめ寝ている獅子を天狗が起こし、その後獅子と戯れる。ひょっとこ面の獅子あやしが付く。神輿を社殿に入れる前に、境内で神輿振りが行われる。楽器は太鼓、鉦(大型の摺り鉦)、横笛、手打鉦。		
626	獅子舞 祭礼風流	白山神社の神儀	庄原市西城町八鳥	白山神社氏子	白山神社例大祭	11月1日	白山神社境内ほか	毎年	白山神社の祭礼行事として、神儀を奉納。行列で宮上がりを行う。昔は男子のみで行っていた(『西城町誌　通史編』平成17年)。		
627	獅子舞 祭礼風流	熊野神社の神儀	庄原市西城町熊野	熊野神社氏子	熊野神社秋季大祭	11月3日〈旧暦10月10日〉	熊野神社境内ほか	毎年	熊野神社の祭礼行事として、西城、大佐、中野、八鳥、大屋方面から神儀を奉納。小学生が太鼓の舞打ちを行い、露払い、獅子舞は上級生が舞う。この舞打ちは戦前からずっと続いている(『西城町誌　通史編』平成17年)。		
628	獅子舞 祭礼風流	天戸神社の舞打	庄原市西城町大佐	天戸神社氏子	天戸神社秋季大祭	10月〈11月2日→11月3日〉	天戸神社境内、町内	毎年	天戸神社の例大祭の行事として大佐の氏子により奉納される、太鼓の舞打ちや獅子舞を伴う祭礼行列。構成は幟持ち、天狗、獅子、榊持ち、太鼓担ぎ・太鼓打ち、鉦など。長胴鋲留め太鼓を棒に下げて前後2人で担ぎ、子供2人が複数の拍子で舞い打つ。鉦も二人で担いで打つ。獅子舞は二人立で、寝ている獅子を天狗が起こす。神社境内のほか氏子宅でも舞う。		
629	田楽	八鳥(はっとり)牛供養花田植	庄原市西城町八鳥	八鳥牛供養花田植実行委員会・八鳥牛供養花田植保存会(昭和55年)	供養田植	昭和56年5月31日(←昭和26年)	庄原市西城町八鳥(個人所有の田)	不定期	牛馬の霊を鎮める牛供養を目的とする。供養棚を設けて大山智明大権現を勧請し、神職と僧侶が神事・仏事を行う。その間、一番牛から棚をくぐって順に田に入る。代掻き・牛による田のひき方を数種類披露し、花田植・花田植の演者が勢ぞろいして、田の中に入り歌を歌う。舞子・早乙女は田植踊りを行う。牛10頭、左下15人、舞子20人、早乙女50人程度で構成。田植唄は「牛追掛歌」「大拍子」「地うた」がある。	中断	市
630	風流踊	西城町の盆踊	庄原市西城町	「西城の盆踊を残したい」実行委員会	お盆	毎年8月盆の時期	西城地区(ウイル会場)、八鳥地区(八鳥公民館会場)、八鉾地区(八鉾自治振興センター会場)	毎年	櫓を立て、輪になって踊る。昭和初期頃は「バンバラ」「一つ拍子」「四つ拍子」「山尽くし」「新山尽くし」「仁方踊り」であったが、平成25年に復活した盆踊では「庭ずくし」「四つ拍子」「炭坑節」「尾道ばやし」を踊る。楽器は太鼓、三味線。		

【調査地区79】 東城町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
631	神楽	比婆荒神神楽	庄原市東城町・西城町	比婆荒神神楽保存会	大神楽(33年に一度など)・小神楽・宮神楽	晩秋から初秋	大当屋・小当屋	式年	荒神を共同で祀る「名(みょう)」により、本山三宝荒神の神々に対し、式年で大規模に神楽が演じられる。戸宇神社の神職・朽木家所蔵、慶安4年(1651)の神楽能本が現存。当屋の庭に湯釜を据え、神事後、近くの荒神さんから神霊を迎える。この後、七座神事(打立て・曲舞・指神・榊舞・猿田彦舞・ござ舞・神迎え)、土公神遊び・神殿移り・白蓋引き・能舞(岩戸・国譲り・八重垣など)が舞われる。王子舞、神懸りと託宣、竜押しの後、最大の特徴である「荒神納め」が始まる。この後荒神送りなどが行われ、恵比須の舟遊びで終わりとなる。鎮魂の要素を残す特色があるといわれている。		国
632	獅子舞祭礼風流	お通り〈五日催し〉	庄原市東城町町内	お通り保存会	お通り	11月初旬〈11月1日から5日間〉	庄原市東城町町内	毎年	享保4年(1719)、東城浅野家の祈願により川西八幡宮・天神社の神輿が東城町中へ神幸することになり、八幡宮に還御する最終日の神輿渡御行列を「お通り」と呼ぶようになった。大名行列、武者行列、母衣行列、華童子などで構成される、大規模な行列。11月1日の川西八幡神社の祭礼行事では、太鼓の舞打ちや獅子舞を行う「かしら打ち」がある。		
633	獅子舞祭礼風流	頭打ち神儀(かしらうちじんぎ)〈神儀〉	庄原市東城町川鳥八幡神社	川鳥八幡神社氏子	八幡神社例大祭	10月29日	神社境内、氏子域	毎年	川鳥八幡神社例祭の神幸に供奉する祭礼行列。鉦・猿田彦・獅子の先導で行列で宮上がりを行い、境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立。鉦は大型の摺り鉦で、棒に吊るして前後2名で担ぐ。		
634	獅子舞祭礼風流	頭打ち神儀〈神儀〉	庄原市東城町森白鬚神社	白鬚神社氏子	白鬚神社例大祭	10月26日	神社境内、氏子域	毎年	白鬚神社例祭の神幸に供奉する祭礼行列。鉦・猿田彦・獅子の先導で行列で宮上がりを行い、境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立。鉦は大型の摺り鉦で、棒に吊るして前後2名で担ぐ。		
635	獅子舞祭礼風流	頭打ち神儀〈神儀〉	庄原市東城町菅国司神社	国司神社氏子	国司神社例大祭	10月30日	神社境内、氏子域	毎年	国司神社例祭の神幸に供奉する祭礼行列。鉦・猿田彦・獅子の先導で行列で宮上がりを行い、境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立。鉦は大型の摺り鉦で、棒に吊るして前後2名で担ぐ。		
636	獅子舞祭礼風流	頭打ち神儀〈神儀〉	庄原市東城町田黒国司神社	国司神社氏子	国司神社例大祭	11月1日	神社境内、氏子域	毎年	国司神社例祭の神幸に供奉する祭礼行列。鉦・猿田彦・獅子の先導で行列で宮上がりを行い、境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立。鉦は大型の摺り鉦で、棒に吊るして前後2名で担ぐ。		
637	獅子舞祭礼風流	頭打ち神儀〈神儀〉	庄原市東城町保田八幡神社	八幡神社氏子	八幡神社例大祭	11月7日	神社境内、氏子域	毎年	保田の八幡神社例祭の神幸に供奉する祭礼行列。鉦・猿田彦・獅子の先導で行列で宮上がりを行い、境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立。鉦は大型の摺り鉦で、棒に吊るして前後2名で担ぐ。		
638	獅子舞祭礼風流	頭打ち神儀〈神儀〉	庄原市東城町受原八幡神社	八幡神社氏子	八幡神社例大祭	11月9日	神社境内、氏子域	毎年	受原の八幡神社例祭の神幸に供奉する祭礼行列。鉦・猿田彦・獅子の先導で行列で宮上がりを行い、境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立。鉦は大型の摺り鉦で、棒に吊るして前後2名で担ぐ。		
639	獅子舞祭礼風流	頭打ち神儀〈神儀〉	庄原市東城町戸宇	戸宇神社氏子	戸宇神社例大祭	11月2日	神社境内、氏子域	毎年	戸宇神社例祭の神幸に供奉する祭礼行列。猿田彦・獅子の先導で行列で宮上がりを行い、境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立。鉦は大型の摺り鉦で、棒に吊るして前後2名で担ぐ。太鼓打ちは袴姿に赤い襷掛けをし、頭には鳥の尾羽の黒シャグマを付け、五色の布を背中にかけて垂らす。猿田彦は武装で榊と扇を持つ。		
640	獅子舞祭礼風流	かしらうち	庄原市東城町塩原	石神社氏子	石神社例大祭	10月20日	当屋、神社境内、地区内	毎年	石神社の祭礼に奉納される。古くは清貞名の特権で、各名の氏子が「まわり当屋」となり、その家から「かしらうち」を出して祭典を賑わした。大正頃から地域の為政者の家から出されるようになった。祭日の朝に当屋の奥の間でもてなしを受けて「庭おどり」を行い、「ばえぞろえ」をして宮に向かう。当屋の主人はあらかじめ宮から受けた大幣を持ち、羽織袴で行列を先導した。(『広島県文化財調査報告第5集』昭和40年)。		
641	獅子舞祭礼風流	かしら打ち	庄原市東城町小奴可	奴可神社氏子連	奴可神社例大祭	11月	神社境内ほか	毎年	奴可神社例祭に奉納される祭礼行列。露払い・獅子、囃子(太鼓・鉦)、太鼓打ち等で構成。境内等で太鼓の舞打ちや獅子舞を奉納する。太鼓は1台を4人の子供が舞いながら打つ。獅子舞は二人立で、露払いに対面して舞う。鉦は大型の摺り鉦。太鼓打ちは袴姿に五色の襷掛け、頭には白鉢巻と茶色のシャグマを付ける。露払いは武装で扇と采を持つ。		
642	田楽	塩原の大山供養田植	庄原市東城町塩原	小奴可地区芸能保存会	大山供養田植	〈随時、奇特な施主が主催して開催〉	庄原市東城町塩原地区	4年毎	定期的に執行されるものではなく、施主が不慮の死にあった牛馬の霊を供養し、牛馬安全・五穀豊穣・家内安全を祈念するために大規模な祭である。田植歌は649首あり、開会行事(清め・牛せり)、昼食、田植おどり、供養行事(棚くぐり・大般若経の転読)、しろかき、太鼓田植、お札納めで構成される。供養行事は神仏混淆の形式で行われる。サゲは田の中には入らず、畦畔で太鼓を叩きながら唄う。		国
643	風流踊	小左ェ門おどり	庄原市東城町八幡	八幡自治振興区	八幡盆まつり	8月の盆(14日前後)〈集落の盆踊り行事の日程で〉	八幡自治振興センターグランド	毎年	非業の死を遂げた野尻小左ェ門を供養するために始まったという。「小左ェ門おどりの唄」は当地特有の歌。櫓を立てて輪になって踊る。楽器は太鼓。		

644	風流踊	東城の盆踊〈尾道囃子〉	庄原市東城町	地域住民	お盆	8月盆の期間中	庄原市東城町内一円	毎年	尾道囃子は寛政11年(1799)から東城で踊られ始めたと伝わり、現在でも踊られる。踊りは尾道囃子のほか、在踊り(「高い山」「てんがらこう」「山くずし」「熊谷踊り」など)。口説きは「石童丸」「鈴木主水」「平井権八」「小紫」など。櫓を立て、輪になって踊る。楽器は太鼓、三味線。		
645	その他	亥の子祭〈亥の子〉	庄原市東城町内	地域の子供たち	亥の子	旧10月上旬の亥の日	地区単位で店の軒下に祭壇を設営	毎年	地区単位で店の軒下などに幕を張り、祭壇を設営し供物を備え、亥の子大明神を祀る。亥の子石を前に置き、太夫による神事を行う。亥の子石には四方八方に縄を付け、亥の子唄を歌いながら各戸門前で搗く。		

【調査地区80】 口和町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
646	神楽	常定神楽	庄原市口和町	常定神楽継承団体戸山会	口和中学校神楽同好会定期公演	8月下旬〈お盆の後の日曜日〉〈厳島神社祭典時など〉	口和ヒューマンライツ	毎年	昭和5年、常定地域有志が三谿神楽を習得して始めた。「大太鼓」(開始時に行う)「清めの舞」(2人舞)「猿田彦の能」(1人舞)「荒神山」「景行天皇(伊吹山)」「素佐の男の尊」「大江山裏の夜叉鬼神の能」「恵比寿」がある。この他に「花舞」(1人舞)「よじん舞」(4人舞)「松竹梅」「播州皿屋敷」等合わせて10数種類の演目があった。6拍子のゆったりとした歌や語りが中心の舞。楽器は大太鼓、小太鼓、鉦、笛。		
647	獅子舞祭礼風流	多加意加美(たかおかみ)神社楽打ち〈奉納太鼓〉	庄原市口和町向泉	多加意加美神社氏子、向泉子供会	多加意加美神社春祭と秋祭	4月20日に近い日曜日、10月30日に近い日曜日〈10月17日〉	道行き、神社境内、御旅	毎年	神社下の民家前から「道行き」を打ちながら、一団が宮へ上がる。一団は露払い、獅子、太鼓負い、太鼓打ち、歌い手、ザイ振りの順。本殿を右回りに一周し、神社境内で「据え打ち」を行う。神事の後、御旅に「道中」を打ちながら同行し、御旅所(上賀茂神社、諏訪神社)まで行く。神事の後「据え打ち」を行い、「道行き」を打ちながら神社に帰り、本殿を右回りに一周、「据え打ち」を行う。鉦が拍子をとる。2人で一つの太鼓を舞いながら打つ。獅子は行列の中で舞う。		
648	獅子舞祭礼風流	大月三角山(おおつきみすみやま)神社秋季楽舞	庄原市口和町大月	三角山神社氏子、大月こども会	三角山神社秋季大祭	11月第2土曜日の次の日〈11月15日〉	道行、神社境内、御旅所	毎年	16世紀中頃、領主・泉氏(和泉氏)の戦勝祈願で演じられたのが始まりという。楽舞は三角山神社の氏子と大月こども会の子供たちが担い手となっており、手付けと呼ばれる歌い手の指示のもと、6個の太鼓に各2名の太鼓打ちが就く。構成は、露払い、傘矛持ち、太鼓負い、太鼓打ち、手付け(歌い手)、ザイ振り、鉦、横笛など。曲は全13節。鉦と「かしらうち」が拍子を取る。2人で一つの太鼓を舞い打つ。獅子は行列の中と御旅で舞う。【詳細調査No.16】		市
649	獅子舞祭礼風流	永田日吉(ひえ)神社秋祭太鼓打ち	庄原市口和町永田	日吉神社氏子	日吉神社秋祭	11月3日〈5月10日〉	道行、神社境内、御旅所	毎年	開始の「据え打ち」後、道行きでは「道中」を打ちながら、露払い、獅子、太鼓負い、太鼓打ち、歌い手・ザイ振りの順に宮へ上る。本殿を左回りに一周し、神社境内で「据え打ち」を行う。神事後、御旅に「道中」を打ちながら随い、還御後、神社境内で「据え打ち」をし終了。鉦が拍子をとる。曲は全15曲。2人で一つの太鼓を舞い打つ。獅子舞は一人立で、行列の中で舞う。		
650	獅子舞祭礼風流	宮内多加意加美(みやうちたかおかみ)本宮神社例大祭楽打ち〈秋祭り楽打ち〉	庄原市口和町宮内	宮内多加意加美本宮神社氏子、宮内子供育成会	宮内多加意加美本宮神社例大祭	11月3日〈10月2日〉	道行、神社境内	毎年	「道行き」を打ちながら、太鼓負い(ザイ振りも兼ねる。内1名は鉦を兼ねる)、太鼓打ち、歌い手(ザイ振りを兼ねる)、指導者(ザイ振りを兼ねる)が宮へ向かう。本殿を左回りに一周し、神社境内で「据打ち」を行う。神事後、御旅に「道行」を打ちながら随い、御旅所で「据打ち」を奉納。還御後、神社境内で「据え打ち」をし終了。鉦が拍子をとる。曲は全16曲。2人で一つの太鼓を舞い打つ。獅子舞はかつて行われていた。		
651	獅子舞祭礼風流	永田八幡神社秋季大祭太鼓打ち	庄原市口和町永田	永田八幡神社氏子	永田八幡神社秋祭	11月3日〈5月10日〉	道行、神社境内、御旅所	毎年	「道中」を打ちながら神社へ道行きし、第1、第2の鳥居を潜って本殿を右回りに廻り、境内で「据え打ち」を行う。御旅に同行し、お宮にもどって終了。構成は、音頭取り(鉦打ち)、太鼓、太鼓打ち、ザイ振り、露払い(猿田彦)、獅子など。鉦が拍子をとる。曲は全13曲。2人で一つの太鼓を舞い打つ。獅子は行列の中で舞う。		
652	獅子舞祭礼風流	金田(きんで)八幡神社秋太鼓打ち	庄原市口和町金田	金田八幡神社総代会、金田八幡神社氏子、金田青年会、金田老人会	金田八幡神社秋祭	10月第2日曜日〈旧暦10月23日、11月第2日曜日〉	道行き、神社境内、御旅	毎年	「道行き」を打ちながら宮へ向かう。「宮のぼり」を打ちながら石段を上がり、「宮まわり」を打ちながら拝境内に至り、「すえ打ち」を行う。神事後、御旅に「おたび」を打ちながら同行し、還御後境内で「すえ打ち」をし終了。構成は、歌い手、鉦、ザイ振り、露払い(猿田彦)、獅子、太鼓、太鼓打ちなど。鉦が拍子をとる。曲は全9曲。2人で一つの太鼓を舞い打つ。獅子舞はかつて行われていた。		
653	獅子舞祭礼風流	湯木八幡神社秋季大祭太鼓打ち〈氏神祭り〉	庄原市口和町湯木	湯木八幡神社氏子	湯木八幡神社秋季大祭	10月最終日曜日〈9月30日〉	神社境内、御旅	毎年	御旅所から「お旅」を打ちながら、歌い手、鉦、太鼓負い、太鼓打ち、ザイ振りが宮へ向かう。境内で「据え打ち」を行う。神事の後、露払いや獅子などが加わり、御旅に「おたび」を打ちながら同行。神社に戻り「鳥居くぐり」を打ちながら鳥居をくぐり、「段上がり」を打ちながら石段を上がり、「宮巡り」を打ちながら本殿を回り、境内で「据え打ち」を行って終了。鉦が拍子をとる。曲は全16曲。2人で一つの太鼓を舞い打つ。獅子は行列の中で舞う。		
654	獅子舞祭礼風流	常定厳島神社秋祭太鼓打ち	庄原市口和町常定	厳島神社氏子、常定自治会	厳島神社秋祭	11月の第1日曜日〈10月1日〉	道行、神社境内	毎年	境内にて「据え打ち」を行い、神事の後、御旅に「道中」を打ちながら同行し、還御後本殿を左回りに一周する。かつては開始の「据え打ち」と宮上がりの「道中」があった。構成は、露払い(猿田彦)、獅子、太鼓負い、太鼓打ち、手付け(歌い手、鉦とザイ振りを兼ねる)など。鉦が拍子をとる。曲は全12曲。2人で一つの太鼓を舞い打つ。獅子は行列の中で舞う。		

655	獅子舞 祭礼風流	竹地谷西山神社楽打ち〈祭礼能楽〉	庄原市口和町竹地谷	西山神社氏子および竹地谷子供会	西山神社秋祭	10月第1日曜日	神社境内	毎年	境内にて「据え打ち」を行い、社殿を廻る。露払い、獅子、神輿、締太鼓負い、太鼓打ちの子供、鉦などの構成で御旅に同行し、御旅所で「据え打ち」、還御後に「据え打ち」し終了。曲は全12曲。これとは別に、始めと終わり、曲替わりに打つ「マクラ」がある。鉦が拍子をとる。曲は全12曲。2人で一つの太鼓を舞い打つ。		
656	田楽	永田の田楽	庄原市口和町永田	永田芸能保存会	モーモー祭	10月第1土曜日、日曜日〈田植時期〉	口和総合運動公園	2年毎	明治34年に執行した記録が現存する。大きく分けて供養田植の歌(大拍子)とサゲ田植の歌(小唄、作業歌)で構成されており、「打ち込み」「大拍子(供養歌)」「小唄」「作業歌」「バイ投げ(大拍子の歌で行う)」「後ろ投げ(大拍子の歌で行う)」「洗い川」「退場」の演目がある。歌大工3名、早乙女10名程度、鉦1名、大太鼓16名程度、小太鼓数名で構成。田の中で演じたのは直近は昭和52年。		
657	田楽	向泉(むこういずみ)の田楽〈花田植〉	庄原市口和町向泉	向泉芸能保存会	多加意加美神社春祭	4月20日に近い日曜日〈4月20日〉	神社境内、御旅	3年毎	明治44年向泉八幡神社と日南日吉神社を合祀する以前から花田植が行われていたと伝わる。昭和12年多加意加美神社で復活。「道行き」「さんばい降し」「大拍子」「中の拍子」「洗い川」がある。歌大工3名。早乙女18名、笛1名、鉦1名、大太鼓14名、小太鼓3名で構成。【詳細調査No.17】		市
658	風流踊	永田の盆踊	庄原市口和町永田	永田芸能保存会	夏祭	お盆	口和保健福祉センター駐車場	毎年	室町時代後期に亡くなった尼子氏と家臣の供養として、光善寺で始まったといわれている。①傘踊りの「踊り込み」②傘踊りの「帰村」③手踊り「石州」「さようえー」「招き」「弓ひき」④扇子踊りの「扇子踊り」⑤傘踊りの「道中」。傘踊りの「石州くずし」、手踊りの「ヤンサ」、「六ツ拍子」「仁方」「山づくし」「坊さん忍ぶ」は近年行っていない。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は鉦。		
659	風流踊	向泉の盆踊	庄原市口和町向泉	向泉芸能保存会	夏祭	お盆	ヒューマンライツ駐車場 (昔は浄蓮寺で開催)	毎年	同町湯木から伝習したという。手踊り「炭坑節」「山づくし」「弓引き」「番場」「呼び込み(ラバウル小唄)」「サーヨーエー」「伊勢音頭」「まねき」、傘踊り「風車」。全9曲。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓、笛。		
660	風流踊	湯木の盆踊	庄原市口和町湯木	湯木芸能保存会	夏祭、モーモー祭(隔年)	お盆	湯木ふれあいプラザ駐車場、口和総合運動公園	毎年	宝暦年間(1751-64)頃から盆の行事として、戦国時代の領主・涌喜氏郎党や戦死者の精霊を慰め、これを送る踊りを始めたという。傘踊り「踊り込み(ばんば)」「風車」「こよいしのばば」、手踊り「山づくし」「ばんば」「石州」「弓ひき」「まねき」全7曲、踊り8種。楽器は太鼓、拍子木。		市
661	舞台芸等	湯木釜峰一座の素人芝居〈田舎芝居〉	庄原市口和町湯木	湯木釜峰一座	湯木八幡神社秋季大祭前夜祭(宵宮)	10月最終日曜日の前夜〈9月29日、30日〉	口南小学校体育館(1960年代までは湯木八幡神社の舞殿で行われていた)	不定期	湯木八幡神社秋季大祭の宵宮(前夜祭)で演じられた村芝居。神社の舞殿を使用し、時代劇が演じられた。昭和9年、一座は山田政文氏を中心として活動しており、昭和30年代半ばから平成3年まで一時中断した。直近では平成29年、湯木自治会が「水戸黄門　木材問屋の悪巧み」を上演した。		
662	その他	秋葉三尺大権現子供奉納相撲〈秋葉神社奉納相撲〉	庄原市口和町向泉	日南地区住民と神宮寺	秋葉三尺大権現火盗掃除	11月25日	口和コミュニティセンター〈10年くらい前まで秋葉神社境内〉	毎年	寛政年間に起きた「日南の大火」後、神宮寺を移転させ、新たに秋葉三尺大権現を勧請した。後に火盗掃除祈願の11月25日、子供相撲を奉納するようになったという。かつては、口北地区の子供たちが多く参加した。		

【調査地区81】 高野町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
663	神楽	比婆斎庭(さにわ)神楽〈斎庭神楽、七座神楽〉	庄原市高野町及び比和町	比婆斎庭神楽保存会	高野町・比和町域の神社例祭、13年に一度の年番神楽	両町内7社の例祭日(10～11月)、13年年番神楽(大神楽)	神社拝殿、体育館、民家など	毎年、式年	比婆地方で演じられてきた神楽。出雲神楽の影響がある。藩政期より神職神楽として演じられてきたが、平成10年から地域住民も加わり継承している。秋季の例祭で毎年奉納し、式年の大神楽も行う。演目は「入申」「手草」「魔駈」「八花」「塩浄」「湯劔舞」「舞の一」他(以上、浄めの舞)、「荒神」「八幡」「八頭」「略天孫」「恵美須」「五行祭」など。楽は大太鼓、小太鼓、笛、手拍子。		県
664	獅子舞 田楽	牛供養田植	庄原市高野町	地域住民	開田祝、牛馬供養、牛馬安全・豊作祈願など	不定期	場所は固定されておらず、見物しやすい山の手の田を選び供養田とした。	不定期	当地の神職が田植囃子歌を出雲国掛合村より伝えたという。また、文政年間に出雲国横田村より伝習したともいう。田楽拍子として「大拍子」「植拍子」がある。出雲国側の地域住民との労働協力をうかがい知ることができる。天狗・獅子・先導牛・代掻牛・サゲ・早乙女・田楽他が行列で供養田に練り進み、供養棚で神仏混交の供養行事でお祓いを受け、代掻き、続いて早乙女による田植と田楽(大拍子・植拍子)が演じられる。	中断(平3～)	
665	獅子舞 田楽 祭礼風流	岡大内田楽〈楽打ち、胴たたき〉	庄原市高野町岡大内	岡大内地区の青年や子供	御津女八幡神社例祭	10月28日〈9月28日〉	道中、境内、御旅〈牛供養田植や慶事など〉	毎年、不定期(供養田植や慶事)	お旅所から「道行」を叩いて上がる。天狗、獅子、傘ぼこ、胴打ちの順で宮廻り2回、胴打ちはドウザイリョウという役が竹の笹を持ち、掛声を掛けて先導する。境内では「大拍子」「植拍子」を打ち、お旅に従う。大人が大太鼓、子供が小太鼓を打ち、サゲが歌を歌い、それに調子を付けるソオトメがいた。	中断(平26～)	
666	獅子舞 祭礼風流	大宮八幡神社楽打〈胴たたき〉	庄原市高野町南	高野町南地区の氏子と子供	大宮八幡神社例祭	10月19日	神社参道、境内	毎年	明治期には演じられていたという。楽は「道行」「道中」「据え打ち」がある。太鼓4カラを8人で叩き、バイの房は麻を解して製作した。また、昔は被り物や履物などもあったが、現在は簡略化している。道中は天狗、鉾、獅子、幟、傘ぼこ、胴たたきの順。胴たたきはドウザイリョウ(指揮者)が飾りを付けた青竹でが音頭を取る。楽は道行・据え打ち合わせて約10種ある。		

667	獅子舞 祭礼風流	天満神社楽打〈太鼓たたき〉	庄原市高野町新市	高野町新市地区住民（大人と子供）	天満神社例祭	10月25日	かあさん市、道中、神社境内、お旅の行き帰り	毎年	楽は道中は「立ち太鼓」、境内は「据え太鼓」を奏す。構成は天狗、獅子、姫、傘ぼこ、幟、笛、ドウザイリョウ（音頭取り）、楽打（太鼓6カラ）。ドウザイリョウは飾りを付けた竹で音頭を取る。子供2人で一つの太鼓を舞い打つ。		
668	獅子舞 祭礼風流	上里原(あがりはら)賀茂神社楽打	庄原市高野町上里原	地区住民	賀茂神社例祭日	10月30日	当屋、道中、神社境内	毎年	当屋で厄払いのための楽打ちを行い、宮上がりの道行きをする。構成は露祓いの天狗、獅子、楽打の頭領（楽の歌う）、楽打（大太鼓・小太鼓・笛）、傘鉾など。楽は「調子ならし」「道行（2種）」「神事（7種）」がある。楽打の太鼓は7カラ（組）あった。	中断 （平成期～）	
669	獅子舞 祭礼風流	下門田(しももんで)楽打ち〈胴たたき〉	庄原市高野町下門田	下門田自治会	多賀山神社例祭	10月26日	道中、神社境内	3、4年毎	一時中断していたが、昭和50年代に復活した。中断前は当屋や商店など要所要所で祝福や厄除けのため太鼓を打ち出発していた（現在は集会所から出発）。道中の構成は、天狗、獅子、ササラ搾り（ひょっとこ）、サゲ（唄を歌い拍子を取る）、笛、手拍子、太鼓打ちの順。楽打の太鼓は多いときは約10カラ（組）あった。楽は6種類が伝わる。		
670	獅子舞 祭礼風流	奥門田(おくもんで)胴たたき〈胴打ち〉	庄原市高野町奥門田	地区住民	奥門田　金尾神社例祭	10月23日	出発宅（決まった2軒・神社から良く見える宅）、道中、鳥居、神社境内、お旅	毎年	出発宅から天狗、獅子、ささらすり、傘ぼこ、胴打ち一行が神社に向かう。鳥居をくぐり、宮廻りを2回行う。その後、境内で「据え打ち」をし、神輿渡御に伴う。ドウザイリョウ（胴宰領ヵ）が楽譜を歌って指揮し（「しょうがを言う」という）、少年と小学生が5カラ（組）の大太鼓・小太鼓を打つ。楽は「鳥居まで」「宮廻り」などの場面に応じて7種類。	中断 （平成期～）	
671	獅子舞 祭礼風流	秋まつり太鼓打ち〈どうたたき〉	庄原市高野町上湯川、下湯川	湯川会	龍山神社例祭	毎年10月22日　秋の例大祭（龍山神社）〈10月1、2、3日の3日間、三社の秋祭〉	高野町上湯川　龍山神社境内	毎年	龍山神社の例祭に境内で奉納される。一団の構成は太鼓打ち10名、音頭取り10名、てんぐ2名、シシ2名、幟持ち2名、傘ぼこ2名。太鼓は5カラで、祭礼太鼓叩音頭に合わせて舞い打つ。		
672	獅子舞 祭礼風流	和南原(わなんばら)神社の神儀	庄原市高野町和南原	和南原青年会と和南原子供会	杉神社祭礼、鐵原神社祭礼	10月27日（氏神・杉神社）、10月28日（鐵原神社）	神社参道（境内から御旅所間）	毎年	毎年10月27日の杉神社、28日の鐵原神社の例祭日に演じられる。神社まで「道行（神迎え」で向かい、本殿では3回宮廻りを行う。御旅の出御では本殿を3度廻り、御旅所で神事後に「道行」で神社に戻る。構成は天狗、獅子、傘鉾（各組6基）、楽打ち他。楽打ちは大太鼓10カラは青年、小太鼓5～6張は子供で、それぞれ1人1鼓を叩く。曲は道行、宮廻り、御旅、馬場などの場面に応じて10種以上ある。獅子は行列の中で舞う。		
673	田楽	湯川大拍子(だいびょうし)	庄原市高野町上湯川、下湯川	湯川大拍子保存会	町の文化祭、地域の祝い事	地区の祝い事の時など	公民館、落成式などは現地	不定期	ホー（朴ヵ）の木屋文左衛門が文政年間、島根県から伝習したという。農作業の様子を示すもので、現在は各種の祝い事や行事等で演じている。太鼓の打ち方は5種が伝わる。構成は、大太鼓5人、小太鼓2人、さげさん2人、早乙女10人。		
674	祭礼風流	中門田(なかもんで)中山神社（八王子権現）大祭楽打ち〈胴たたき〉	庄原市高野町中門田	地区住民	中山神社例祭	10月29日〈9/24→11/4→10/29〉	道中、神社境内	毎年	かつては例祭の余興であった。当屋から出発して、神輿、傘鉾、楽打ちと続いてお宮へ向かった。当屋は総代が務めた。楽打の太鼓は多いときは約10カラ（組）あった。楽は、「楽譜慣らし」「当屋庭打神おくり」「道行」「神社馬場入」「神社巡り」「本社境内神遊」「御旅所おくり」「御旅所かえり打上」など延べ約10種類あった。	中断 （昭40頃～）	
675	祭礼風流	子供太鼓（飛び上り、入れ替り）	庄原市高野町和南原	和南原子供会育成会、和南原青年会	杉神社祭礼、鐵原神社祭礼	10月27日、28日	杉神社境内、鐵原神社境内	毎年	毎年10月27日の杉神社、28日の鐵原神社の例祭日に奉納される、編笠・長襦袢・たくり姿の子供による跳ね太鼓。昭和30年頃まで演じられ、一時中断後、昭和55年頃に復活。太鼓1張を1人で叩く。「飛び上り」「入れ替わり」「道行」の調子に合わせて太鼓を叩き、バイを高く振り回しかざしながら交差移動する。		

【調査地区82】 比和町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
676	神楽	比婆斎庭(さにわ)神楽	庄原市比和町・高野町	比婆斎庭神楽保存会	各社秋季例祭、荒神社年番神楽、比和胡子神社胡子講神楽	10月、11月	氏神社、民家を「神殿」に当てた「神楽宿」もしくは集会所（年番神楽）、日和山八幡神社	定期	比婆地方の神楽。七座の舞に属する演目は直面舞で、幣、榊、笹、鈴、扇、剣などの採物で舞う。能としての舞に属する演目は着面舞で、歌や問答を織り交ぜた内容。所持演目は「入申」「塩浄」「榊舞」「魔払（魔祓）」「八花」「湯剣舞」「湯立」「手草」「八幡」「荒神」「奉幣祝詞」「磐戸（岩戸）」「武内」「八頭」「天孫」「猿田舞（略天孫）」「胡子（恵美寿）」「五行祭（王子）」「玉の井」「国譲」「柴佐」「田村」「祇園」「三韓」「神送り」など。		県
677	田楽	比和牛供養田植〈牛供養田植・供養田植〉	庄原市比和町	比和町郷土芸能振興会	4年毎の供養田植	5月末の日曜日	庄原市比和町内の供養田	4年毎	中世に大山の社人を迎えて太鼓打ちの技法を伝えたのが起源とされる。「笠揃い」「道行」「笛吹き」「降神の儀式」「供養牛入田・代掻き」「鍬代・苗回し」「大拍手・植拍手」「作業田植」の次第で執り行われる。平成24年開催時の構成は、供養牛20、サゲ6、大太鼓21、小太鼓7、早乙女59、網手2、代布令2、代宰領10、鍬代10、苗さばき4、露祓い1、獅子2、網引き3。「道行　口しょうが」「牛追い掛け」「大拍子」「植拍子」「作業田植えの唄」「バレ唄」の唄がある。		県

678	風流踊	三河内(みつがいち)刀踊り・扇踊り	庄原市比和町三河内	三河内郷土芸能保存会	みつご山祭り（2年毎の8月14日）、ぼにばな縁日会（毎年8月第4日曜日）	8月14日、8月第4日曜日	旧三河内小学校体育館、慶雲寺境内	2年毎	当地の武将・三河内氏に由来する踊り。「刀踊り」は郷土を守るため合戦に赴く兵士が決死の戦勝祈願で踊ったもの、「扇踊り」は戦闘に勝利し、お互いの生存を喜びあった祝いの踊という。構成はクドキ2人、ハヤシ3人、踊り手10人程度。クドキは番傘をさし、始まりと終わりに拍子木で合図する。踊りは浴衣・袴姿で、腰に差した刀と扇を口説きに応じて手に持って踊る。【詳細調査No.18】		市
679	風流踊	木屋原(こやばら)盆踊	庄原市比和町木屋原	木屋原自治会、老人会	お盆	8月14日	庄原市ふれあいの里木屋原（室内）	毎年	新仏供養を地域で行い、その後櫓の周りに輪になって盆踊を行う。大太鼓ではなく、田植に使用する小太鼓を用いる。「ばんばら」「山づくし」「四拍子」で踊る。「小源口説」「小栗判官」「山崎三左」「えびのや甚九」「平佐口説」の口説き（四拍子）がある。		
680	風流踊	三河内盆踊	庄原市比和町三河内	三河内郷土芸能保存会	みつご山祭り	8月14日〈8月21日→大師縁日の日→小学校の運動会〉	旧三河内小学校体育館	2年毎	口説きだけで囃しはなし。旧暦7月21日に大師様慶雲寺の盆踊として行われていた（『比和の自然と歴史　第2集』）。昭和51年当時の演目は「山崎三左」「俊徳丸」「お吉清三」であった（『比和の自然と歴史　第8集』）。現在は2年に一度のみつご山祭りのなかで、最後に盆踊の「バンバラ」「山づくし」「道行」「四拍子」を踊る（令和7年聞き取り）。クドキは番傘をさし、始まりと終わりに拍子木で合図する。		
681	風流踊	永原(なごうら)盆踊	庄原市比和町　城福寺	地域住民	お盆	8月14日	城福寺の境内	毎年	城福寺で「シンボトケサンの供養」を行い、その後盆踊を行う。櫓に浴衣姿のサゲ（口説き役と太鼓役）が上がり、「バンバラ」「山づくし」を踊る。櫓に巻かれる幕は明治27年の寄進。		
682	風流踊	布見盆踊	庄原市比和町比和・小風呂堂	地域住民	お盆	8月14日	布見集会所	毎年	櫓の周りに輪になり「ばんばら」「山づくし」「高い山」で踊る。サゲは番傘をさして太鼓を叩きながら口説く。「始まりの文句」「引継ぎ文句」「平佐のくどき」「白金六兵衛」「鈴木主水と白水」などの口説きもある。		
683	風流踊	比和下盆踊	庄原市比和町比和・浄土寺	地域住民	お盆	お盆	浄土寺	毎年	この地区では「ばんばら」「山づくし」で踊る（『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』）。戦中の中断を経て、8月15日に旧家畜市場で踊られていたが、口説きがいなくなり中断。現在は8月15日に開催される比和町盆踊り大会に移行した。	中断	
684	風流踊	比和盆踊	庄原市比和町比和・正福寺	地域住民	お盆	お盆	正福寺	毎年	この地区では「ばんばら」「山づくし」で踊る（『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』）。戦中の中断を経て、8月15日に現在の広島みどり信用金庫比和支店の前付近で踊られていたが、口説きがいなくなり中断。現在は8月15日に開催される比和町盆踊り大会に移行した。	中断	
685	風流踊	古頃(こごろ)盆踊	庄原市比和町古頃	古頃自治会	お盆	8月14日	古頃老人集会所	毎年	櫓の周りを輪になり、「ばんばら」「山づくし」で踊る。サゲは番傘をさして太鼓を使う。「始まりの文句」「引継ぎ文句」「平佐のくどき」「白金六兵衛」「鈴木主水と白水」などの口説きもある。		
686	風流踊	ふるさと盆踊大会	庄原市比和町比和	比和町郷土芸能振興会	ふるさと盆踊り花火大会	8月15日	比和中学校グランド	毎年	櫓の周りに輪になり「ばんばら」を踊る。サゲは番傘をさして太鼓を使う。「始まりの文句」「引継ぎ文句」「平佐のくどき」「白金六兵衛」「鈴木主水と白水」などの口説きもある。周辺の盆踊が途絶える中、昭和57年に比和町全域を対象とした「町民盆踊大会」を行うようになり、平成2年からは毎年「盆踊り花火大会」を行うようになった。		
687	風流踊	元常盆踊	庄原市比和町木屋原	地域住民	お盆	8月14日	元常公会堂	毎年	新仏を書き込んだ大きな位牌で供養を行い、櫓の周りに輪になり、小太鼓（田植に使用していたもの）の音頭で、「ばんばら」」「山づくし」「四拍子」を踊る。「小源口説」「小栗判官」「山崎三左」「えびのや甚九」「平左口説」の口説きがある。		
688	風流踊	森脇盆踊	庄原市比和町森脇・永昌寺	地域住民	お盆	お盆	永昌寺	毎年	山王の永昌寺では伝統的な盆踊が長く途絶えていた。盆踊の復活に取り組み、毎年8月16日にお寺の関係者や地域住民が集って盆踊を行っていたが、その後再び途絶えた。（『比和の民俗と歴史』令和2年）	中断	
689	祭礼風流	山車・大名行列	庄原市比和町三河内・正香山八幡神社	氏子	氏神祭	10月22日	正香山八幡神社とその周辺	毎年	「御注連おろし」の頃から子供たちは太鼓叩きの練習をする。例祭当日、子供たちは着物に袴姿でシャグマを被り、神輿を背負ってお旅に出かける。祈念後、宮に帰る。（『広島県文化財調査報告　第5集』）	中断	
690	舞台芸等	村芝居	庄原市比和町三河内	若連中	不明	不明	大師堂		三河内地区では、若連中による地芝居が大師堂で演じられていた。木戸銭を徴収せず、祝儀の花をいただいた。観衆は御馳走を持参し観覧したという。	中断（昭30頃～）	

（10） 大竹市

【調査地区83】 大竹市

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
691	神楽	木野(この)神楽	大竹市木野二丁目	木野神楽団	大元神社秋季例大祭（10月12日）	10月11日（例大祭の前夜祭）	神社の拝殿	毎年	大正5年木野神楽会を結成。栗谷村の松崎貫一氏より舞を伝習し、その後も山口県・金山神楽の演目も取り入れ、毎年氏神祭で奉納していた。昭和25年、木野神楽団と改称。十二神祇を演じていたが、芸北神楽を移植した。昭和40年には山口県東部の柳井・岩国方面からの依頼で、所持していなかった曲芸「松之舞」（八関）を演じた。ステージから松登りの松まで50mあったという（『木野小史』）。	中断	
692	神楽	谷和(だにわ)神楽	大竹市栗谷町谷和	谷和神楽団	谷和河内神社の例祭	10月19日（例祭の前夜祭）〈河内神社例祭〉	河内神社の境内、拝殿	毎年	明治半ばに現山口県岩国市美和町上駄床から神楽を伝習したという。十二神祇を演じていた。現在は芸北神楽を移植したが、「湯立て」「恵比須舞」に山口県の山代神楽と共通した所作が見える。所持演目は「土蜘蛛」「悪狐伝」「八岐大蛇」「日本武尊」「塵倫」「大江山」「湯立て」「恵比須舞」「もどり橋」「弓八幡」。		市
693	神楽	嶺峰(れいほう)神楽	大竹市栗谷町小栗林	嶺峰神楽団	宮久保神社秋季例祭前夜祭	10月第3土曜日〈10月20日〉	宮久保神社、栗谷小学校（当時）など	毎年	昭和24年に小栗林の青年たちが始めた小栗林神楽を伝承する。昭和26年ルース台風で被災し、以後平成5年まで中断。山口県岩国市の釜ヶ原神楽を習い再興した。所持演目は「湯立舞」「狐舞」「恵比須」「煤はき」「大蛇」「三倉山」。	中断	
694	神楽	松ヶ原神楽〈お神楽、神楽〉	大竹市松ヶ原町	松ヶ原神楽団	大歳神社秋季例祭の前夜祭	10月第3土曜日〈旧暦9月22日〉	大歳神社（大竹市松ヶ原字奥ヶ迫791）、十二神祇神楽大会や地域イベント	毎年	十二神祇。地域では江戸時代から当地で神楽を演じていたと伝わる。所持演目は「湯立」「御神楽」「猿田彦」「えびす」「社水」「荒神」「〆口」「七夕」「芝鬼神」「三鬼」「天岩戸」「蛇退治」「三刀」「なぎなた」「五郎王子（しょもわけ）」「大江山」。小さな歩幅で足をバタバタさせる足運びに特徴が見られる。団員の高齢化や減少により存続危機の状況にあるが、「御神楽」は必ず奉納しなくてはいけないといい、例祭前夜米占で神慮をうかがう。【詳細調査No.19】		
695	神楽 獅子舞	後原神楽	大竹市栗谷町後原	後原神楽団保存会	佐古田神社秋季例祭の前夜祭	10月第3土曜日〈10月20日〉	佐古田神社（旧河内神社）	不定期	嘉永元年（1848）に一部の演目を改変していること、文久2年（1862）に添紙や上紙を取り替えた神楽台本「神楽歌集」が現存することから、それ以前より神楽組織の活動が認められる。近代になると組織は大栗林舞子連中と呼ばれた。所持演目は「湯立」「煤掃」「恵比須」「三鬼（三宝荒神）」。神楽の奉納時には、古くから伝わる獅子舞も行う。	中断	
696	獅子舞 祭礼風流	大滝神社の奴行列と山車の風流〈道中やっこ〉	大竹市白石	大滝神社祭保存会	大滝神社祭の行列（練物）	10月第3日曜〈10月19日〉	大竹市内新町一丁目から元町四丁目に至る3kmの国道	毎年	「道中奴」と呼ばれ、流麗さが特徴。明治初めに大滝神社祭礼で演じられるようになったという。構成は、おはらい、獅子、天狗、知らせ太鼓、1番奴～3番奴（各4名）、目付（長毛槍）、4番奴～6番奴、挟箱、大傘、7番奴（締め）、旗物の総員100名余の大行列をなす。「アヨーイナ　アイヤサーサー」のかけ声で、毛槍を投げて渡す。		市
697	獅子舞	獅子舞	大竹市栗谷町大栗林	地域住民	元旦のみ	1月1日	大栗林の各家々	毎年	元旦に神社で獅子頭を神前に供えて新年祭が行われ、翌2日には地区内の各家々を回り、玄関前や神棚のある部屋などで五穀豊穣・家内安全を願って獅子舞をする。大栗林では、昭和20年代まで続き、一次途絶したが、昭和57年に復活。構成・楽器は獅子頭、天狗、恵美須、ひょっとこ、囃子（太鼓、縦笛、調子鉦）など。（『栗谷小史』平成9年 より）		
698	獅子舞	獅子舞	大竹市栗谷町小栗林	地域住民	元旦のみ	1月1日	小栗林の各家々	毎年	元旦に神社で獅子頭を神前に供えて新年祭が行われ、翌2日には地区内の各家々を回り、玄関前や神棚のある部屋などで獅子舞をしてお祓いをする。長らく途絶えていたが、平成4年に復活。構成・楽器は幟持ち、獅子頭、恵美須、ひょっとこ、囃子（太鼓、笛）など。（『栗谷小史』平成9年 より）	中断	
699	獅子舞	獅子舞	大竹市栗谷町後原	地域住民	元旦のみ	1月1日	後原の各家々・施設	毎年	元旦に神社で獅子頭を神前に供えて新年祭が行われ、続いて地区の家々を回り獅子舞を行ってお祓いをする。翌2日には、地区の施設で獅子舞を行い餅撒きをする。昭和20年代半ばに数年中断したが、昭和29年頃に復活。構成・楽器は獅子頭、天狗、恵美須、ひょっとこ、囃子（太鼓、縦笛、調子鉦）など。（『栗谷小史』平成9年 より）		
700	風流踊	玖波(くば)の盆踊	大竹市玖波	玖波音頭保存会	近年実施なし	8月13日、14日、24日〈旧暦7月15日〉	玖波小学校校庭	毎年	「国郡誌」に記述がみられる。「さんだ」「円正寺お杉」「宮島八景」「傘松峠」「平井権八」「阿波の鳴門」「鳥辺山」「お築久松」「山田の露」「鮓屋」「八百屋お七」の口説きが古くから伝わる。櫓の周りに輪になって踊る。楽器は大太鼓・締太鼓。保存会の活動は近年行われていない。	中断	
701	風流踊	大竹の盆踊	大竹市元町一丁目・二丁目	青年団→振興会→大竹盆踊保存会→町内会	町域や近隣の盆踊り大会	旧暦7月14日	勝善寺境内と秋葉公園（元町一丁目）	毎年	起源は江戸時代といい、岩国藩主・吉川氏に招かれ踊ったことによるという。山口県岩国市海土路では、大正中期頃まで大竹の盆踊が踊られていたという。戦前までは尼僧姿で踊った。昭和29年に石本美由紀作詞の大竹音頭で踊るようになった。		
702	祭礼風流	厳(いつき)神社の忍び奴〈小方やっこ〉	大竹市小方	小方郷土保存会	厳神社秋季例大祭（秋祭）	10月第1日曜	小方地区（御園台、晴海も含め）3～5kmの市道	毎年	「忍び奴」と呼ばれ、厳粛さが特徴。当地の厳神社をよく訪れていた福島正則が亡くなったことを地域の人々が偲び、行列したことに由来する。構成は、目付（長槍を持つ）、鳥毛・熊毛、挟み箱、猿田彦、手木（拍子木）など。目付が昔使用していた長槍が元割庄屋宅に現存している。静寂の中を行く行列で、かけ声も槍の交代もしない。		市

703	祭礼風流	玖波宿本陣陣入やっこ〈玖波やっこ〉	大竹市玖波	玖波やっこ保存会	大歳神社秋季大祭（玖波祭）	10月第2日曜〈10月17日〉	玖波地区東西を廻り、えびす神社など4箇所の旅所	毎年	「陣入り奴」と呼ばれ、豪快さが特徴。江戸時代の西国街道の宿場町として栄えた玖波宿本陣（洪量館）に大名行列が入る様子を伝える。構成は、宰領、御はこ（挟箱）、黒奴（黒毛槍）、白黒奴（白黒毛槍）、白奴（白毛槍）、大奴（大毛槍）、拍子木。隊列を組み、斜め前に手足を一緒に出し、交代の時に両手を広げる。途中3箇所の旅所と最後神社に戻った時に、「振り込み」という儀式で締め括る。		市

（11） 東広島市

【調査地区84】 旧西条町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
704	風流踊	盆踊	東広島市西条町吉土実	吉土実盆踊りクラブ	お盆	お盆期間中の日曜日	国分寺の本堂前	定期	国分寺本堂の前に櫓を組み、その上で太鼓を叩き、音頭に合わせて「くどき」が歌われる。「吉土実踊り」「西条踊り」などを踊る。		
705	風流踊	盆踊	東広島市西条町西条本町	地域住民	お盆	8月10日	円通寺の境内	定期	盆行事の施餓鬼を行った後、円通寺境内に組んだ櫓の上で太鼓を叩き、音頭に合わせて「くどき」が歌われる。傘を差して歌う人もいる。「西条踊り」などを踊る。	中断	
706	風流踊	盆踊	東広島市西条町寺家、田口、馬木、郷曽、下三永、上三永、下見、助実、御薗宇、大沢	地域住民（郷曽地区は郷田盆踊保存会）	お盆	8月14･15日	寺の境内･近所の広場･大きな家の庭など	定期	お寺で説教を聞き、その夜地区の人達が集まって踊る。櫓を組み、その上で太鼓を叩き、音頭に合わせて「くどき」が歌われる。傘を差して歌う人もいる。「西条踊り」などを踊る。		
707	風流踊	盆踊	東広島市西条町	地元、近隣あるいは中四国地方の盆踊クラブ	西条盆踊り大会	8月17･18日	西条町･御建（みたて）グランド内に仮設のやぐらを設置	定期	西条の仏性院へ各村から集まり盆踊が行われていた。その後、昭和4年、西条町の黎明会（商工会の団体）が西条盆踊り大会を開催する。戦時中は中止（昭和12～22年）。戦後、昭和23年に復活して昭和34年･第20回大会まで続く。県内のみならず近隣県からも参加がある大規模なものであった。櫓を組み、太鼓で音頭をとる。	中断（昭34頃～）	
708	その他	亥の子	東広島市西条町寺家	地区の子供たち	亥の子祭	10月最初の亥の日	家の庭などの広場	定期	家々で萩の花餅をつくり内祝いをし、夜になると子供たちは亥の子の唄「亥の子　亥の子　亥の子餅ついて　祝わぬものは～」を歌いながら、各家を廻り亥の子石を搗く。亥の子石は五輪塔の頭など丸い石に、縄を10数本結んだものを使用する。	中断（昭和初頃～）	
709	その他	亥の子	東広島市西条町吉行	地区の子供たち	亥の子祭	10月最初の亥の日〈旧10月の亥の日〉	農家の庭など	定期	子供たちが竹を細工して御幣を作る。当日18～20時頃、家々を回って御幣を渡し、唄「亥の子　亥の子　亥の子餅ついて　祝わぬものは～」を歌いながら亥の子石を庭などで搗搗き、御幣を授ける。	中断（昭15頃～）	
710	その他	亥の子	東広島市西条町田口、馬木、郷曽、下三永、上三永、下見、助実、御薗宇、大沢	地区の子供たち	亥の子祭	10月最初の亥の日〈旧10月の亥の日〉	家の庭などの広場	定期	家々で萩の花餅をつくり内祝いをする。夜になって子供たちは村の家々を回り、唄を歌いながら亥の子石を庭などで搗く。	中断（昭和期～）	

【調査地区85】 旧八本松町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
711	獅子舞祭礼風流	七囃子	東広島市八本松町原、吉川、西条町下見	地区住民	雷神社の祭礼	10月第4日曜日〈8月16日〉	〈昼原のお旅所から雷神社までの道中〉	定期	原村の各地･吉川村･下見村から七つの囃子が御旅所の昼原に集合し、笛･太鼓など奏しながら雷神社まで練る。榊･幟･竜頭･金幣･傘鉾･獅子頭･御幣社人持･神輿真光･社人･傘鉾･神主･馬･乗馬の甲冑を着た武者などの一行。その後、「囃子」として、10月に原小学校グランドで行われるようになった。	中断（戦時中～）	
712	風流踊	盆踊	東広島市八本松町原	原住民自治協議会（原小学校などで実施中）	盆踊大会	8月14･15日の夜	寺社（教順寺、雷神社など）の境内	定期	寺院で法話を聞き、夜分老若男女が集まり、「くどき」（歌い手とその歌）と太鼓に合わせて夜の更けるまで踊る。くどきは傘を差して「石童丸」「鈴木主水」「阿波の鳴門」を歌う。楽器は太鼓。		
713	風流踊	盆踊	東広島市八本松町吉川	吉川村づくり推進委員会	盆踊大会	7月14･15日	西福寺の境内	定期	寺院で午前･午後の法話を聞き、夕方から若い男女が音頭を取って太鼓に合わせ、「西条踊り」を踊る。音頭、太鼓、踊りは古老から学び、音頭･太鼓の役は元気な若者が担う。		
714	風流踊	盆踊	東広島市八本松町川上	川上住民自治協議会	盆踊大会	8月16日	妙徳寺の境内、農協の倉庫前広場など複数	定期	日中は寺院で法話を聞く。夜分に男女が集まり「くどき」と太鼓に合わせ、「西条踊り」「川上踊り」「平和踊り」を夜の更けるまで踊る。櫓の周りに輪になって踊る。		
715	祭礼風流	ご神幸	東広島市八本松町吉川	地区住民	筒島神社の祭礼	〈8月17日〉	〈筒島神社から、お旅所の東山までの道中〉	定期	猿田彦を先頭に、鼓や笛の囃子、鉾･鳥毛･槍･長刀･鉄砲･隋兵･飾り馬などが連なり、笛や太鼓を奏する。前日の16日は筒島神社の拝殿で神楽が奉納され、翌日にご神幸が行われる。ご神幸の後に社人による神楽奉納や流鏑馬が行われた。	中断	

716	舞台芸等	ならし狂言・村芝居	東広島市八本松町原	若者組・若者仲間(のちに青年団)	村の祭礼、豊年祝い、雷(いかづち)神社の神主が代替りする時	村の祭礼、豊年祝い、雷(いかづち)神社の神主が代替りする時	野外の舞台、神社	定期(神職交代での上演は不定期)	江戸時代中期に若者たちによる座興的な茶番劇が演じられ、村の祭礼や豊年祝に演じられた。神主が代替わりした時に行われたともいう。これを「ならし狂言」のちに「村芝居」と呼んだ。担い手は若連中(のちに青年団)で、見物客は各自の席に縄を張り、家紋の入った提灯を掲げて「忠臣蔵」「阿波の鳴門」「いざり勝五郎」を観覧した。	中断(大1頃～)	
717	その他	亥の子	東広島市八本松町吉川	地区の子供たち	亥の子祭	10月最初の亥の日	広場(家の庭など)	定期	秋の収穫を祝い、子孫繁栄・無病息災を願う。子供たちが家々を回って、唄「亥の子　亥の子　亥の子餅ついて　祝わぬものは～」を歌いながら亥の子石を庭などで搗き、御幣を授ける。	中断(大正期～)	
718	その他	亥の子	東広島市八本松町原	地区の子供たち	亥の子祭	10月最初の亥の日	広場(家の庭など)	定期	地力を強くし、子供の厄除けのための祭り。神社に子供たちが集まり、五色の御幣を作る。御幣を竹に挟んで祈祷し、夕暮れ時に村の家々を回って唄「亥の子　亥の子　亥の子餅ついて祝わぬものは～」を歌い、亥の子石を庭などで搗搗き、御幣を授ける。	中断(大正期～)	
719	その他	亥の子	東広島市八本松町川上	地区の子供たち	亥の子祭	10月最初の亥の日	広場(家の庭など)	定期	夜子供たちが提灯を持って集まり、各家の前で四方八方から亥の子石を持ち上げ、亥の子唄「亥の子　亥の子　亥の子餅ついて　祝わぬものは～」を歌いながら地面を搗搗き、御幣を授ける。地の神を祭るといわれ、家々では萩の花と呼ばれる亥の子餅を作った。	中断(大正期～)	

【調査地区86】 旧高屋町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
720	風流踊	造賀(ぞうか)盆踊〈くどき〉	東広島市高屋町造賀	組織はなく、個人に引き継がれている(唄は3名、太鼓、踊り各1名)。	造賀夏祭	8月上旬	造賀小学校校庭	毎年	戦前から伝承されている。地域寺院による1年間の物故者慰霊法要の後に踊られる。楽は太鼓のみで、所持演目数曲の中でも「造賀夕霧」「住吉踊り」「松竹梅」がよく踊られる。その他、「伊勢音頭」「ウンセー踊り」「月夜踊り」の歌詞が残る。		
721	風流踊	盆踊	東広島市高屋町貞重および白市	地元住民	盆踊り行事	お盆		毎年	貞重は「寺づくし」「夕霧の入れごと」、白市は「二ッ拍子」というしりとり形式の鈴木主水や「入れことば」など、言葉遊びをしながら口説く遊び心ある盆踊歌がぞれぞれの地区に残る。楽器は太鼓。		
722	舞台芸等	白市歌舞伎	東広島市高屋町白市	白市歌舞伎実行委員会	高屋東夏祭など	随時	高屋東小学校体育館など	不定期	地芝居(農村歌舞伎)。町内の芝居小屋「長栄座」で明治期から戦後まもなくまで行われていた。平成5年に地元住民により復活し現在に至る。大人、子供のそれぞれが演じる。大人が演じるものは「白浪五人男」のほか、オリジナル作品「頭崎最後の日」もある。小学生による子供歌舞伎は「白浪五人男」を主に演じる。		

【調査地区87】 旧志和町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
723	風流踊	盆踊〈志和踊〉	東広島市志和町	西志和まちづくり自治協議会など	西志和夏まつりなど	お盆前の日曜日	旧西志和小学校グラウンドなど	毎年	起源は不明。かつては「兵左口説」と「鈴木主水」の口説きで踊ったが、現在は提灯をぶら下げたステージを中心に、当地の伝説を題材にした創作の音頭で踊る。		
724	祭礼風流	吹きはやし	東広島市志和町志和堀	「吹きはやし」保存会	吹きはやしの奉納	大宮神社祭礼時	道中と境内	不定期	大宮神社の祭礼に奉納される。室町期の奉幣使参考の儀式「御使」が変化したものとされる。所役は、先払い(鬼)、杖振り、大太鼓、小太鼓、手摺鉦、傘鉾など。吹囃しの曲は「祇園ばやし」から始まり、最後の「長い新ばやし」まで13曲。大太鼓は踊人4人が五色の紙で装飾した2本の拍子木を持って打ち踊りながら進行する。	中断(平15～)	

【調査地区88】 黒瀬町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
725	神楽	神楽	東広島市黒瀬町内各地	地元の青年団、神楽師	町内各神社、例祭の前夜(夜頃、宵宮)及び当日午後からの祭儀	10月上旬～中旬	神社境内の拝殿、門前神社(乃美尾)は神楽殿	定期	詳細は不明だが6～8人ほどで神楽団を構成し、祭日の前夜20時頃から24時過ぎまで、翌日は昼から夕方頃まで舞う。「煤掃き」「神降ろし」「恵美須」「五郎の道中」などの舞があった。楽器は大太鼓、小太鼓、横笛、鉦を用いていた。	中断(昭30代半～)	
726	獅子舞祭礼風流	三島神社の祭り囃子	東広島市黒瀬町菅田(中黒瀬)	菅田三島神社囃子保存会	三島神社祭礼	10月第3日曜日〈10月20日〉	道中、神社境内	毎年	菅田地区によって三島神社神社祭礼に奉納される、囃子、獅子舞、傘鉾などを伴う行列。大太鼓の銘などから江戸期から行われていたと考えられる。主な所役は、鬼、天狗、お多福、獅子、子供列、巫女、小太鼓、傘鉾、囃子など。曲は場面に応じて「神向い」「神おろし」「ヒロ囃子」「鬼ばやし」「鬼拍子」「獅子舞」「シヤギリ」「サガリバ」「スゴモリ」がある。楽器は笛、鉦、大太鼓。獅子舞は境内で行う。		

727	獅子舞 祭礼風流	樋ノ上八幡神社の祭り囃子	東広島市黒瀬町津江(下黒瀬)	秋祭実行委員会	樋ノ上八幡神社の秋祭	10月第3日曜日〈10月17日〉	道中、神社境内	毎年	津江の4地区から樋ノ上八幡神社神社祭礼に奉納される、囃子、獅子舞などを伴う行列。古記録から江戸期には行われていたと考えられる。主な所役は、鬼、囃子、獅子・姫など。曲は場面に応じてデハ、シャギリ、ヤツガシラ、ミツビョウシ、シシマイ、ニビョウシ、イリバカミウツリがある。楽器は笛、大太鼓、小太鼓。獅子舞は境内で行う。		
728	獅子舞 祭礼風流	片山八幡神社の囃子	東広島市黒瀬町兼沢(下黒瀬)	兼沢地区	片山八幡神社祭礼	10月第4土曜日・日曜日〈10月9日、10日〉	道中、神社境内、神儀場	毎年	夜頃(祭典前夜)は神社境内で吹き囃子を行う。祭典当日は集会所出発し(以前は切田地区との境から出発)、行列は囃しながら歩く(獅子は行列に参加しない)。本殿上方の神儀場で式典と獅子舞を行う。囃子の種類は「神むかい」「神うつり」「オオリ」「ヒロビョウシ」「フタタロウ」「シシマイ」「ウチナガシ」「カエリチョウ」「宮マワリ」「スゴモリ」。江戸時代の古文書に記録がみられる。		
729	獅子舞 祭礼風流	厳島神社の囃子	東広島市黒瀬町楢原(中黒瀬)	楢原祭りの会	厳島神社の祭礼	10月第3日曜日〈10月10日に近い日曜日〉	道中、神社境内、御神ヶ場(神儀場・ジンケンバ)	毎年	現呉市郷原町から伝習したという。集会所を出発地として行列し、神社境内を巡って御神ヶ場で神儀、獅子舞を行い、再び境内を巡る。囃子の種類は「しやぎり」「神むかえ」「やつがしら」「オリィ」「みつびょうし」「ふたたろ」「ししまい」「ひろびょうし」「すごもり」。		
730	風流踊	盆踊	東広島市黒瀬町各地	乃美尾地区、丸山地区、兼沢地区、津江地区	乃美尾「乃美尾盆踊大会」、丸山「丸山ふれあい盆踊り」、兼沢「夏祭り」、津江「秋祭り(夜頃)」	乃美尾・丸山:8月第1土曜日、兼沢:8月14日、津江:10月第3土曜日	乃美尾:小学校跡、丸山:真野本神社境内、兼沢:徳正寺境内、津江:樋ノ上八幡神社境内	毎年	乃美尾、津江両地区では現呉市域の仁方や安浦町中畑の影響もあり、口説きの一部に仁方踊や中畑踊とも呼ばれるものがある。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。口説きは「やんれ節」「鈴木主水橋本屋白糸くどき(中畑踊)」「阿波鳴門巡礼くどき(仁方踊)」。		
731	祭礼風流	宝蔵神社の囃子	東広島市黒瀬町切田(中黒瀬)	切田地区	宝蔵神社の祭礼	10月11日〈10月17日〉	道中、神社境内、ジンケンバ(神儀場)	2年毎	宿(担当番の家)から出発し、行列は囃しながら歩く。大太鼓は娘が打つような恰好をする。獅子舞は本殿上方のジンケンバで獅子と鬼が舞う。「神むかい」「神うつり」「おーり」「ひろぶく」「うちながし」「さぎり」「すごもり」他1曲で計8曲。	中断(平15頃～)	

【調査地区89】 福富町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
732	獅子舞 祭礼風流	岡山八幡神社の吹囃子	東広島市福富町久芳	岡山八幡神社氏子	岡山八幡神社例祭	11月15日に近い日曜日	当番組からの道中、神社境内、御旅所	毎年	岡山八幡神社の祭礼に地区ごとの輪番で奉納される、囃子や舞、傘鉾などを伴う行列。近隣の類例から江戸時代後期には実施か。所役は先払い(露払い・御評判)、竹箒、塩撒き、獅子、小榊、猿田彦、五色付大榊、弓、長刀、鉾など。吹囃しは場面に応じて10曲程度。歌詞はなく、横笛・大太鼓・手拍子で囃す。御旅所で猿田彦による建国の舞、獅子舞(1人立)がある。傘鉾は半径2m傘の頂に、細く割った竹に色とりどりの和紙で花を付けた「花」を多数挿す。		
733	風流踊	上戸野(かみどの)盆踊	東広島市福富町上戸野	上戸野盆踊り保存会	お盆	8月15日	上戸野地域センター(旧上戸野小学校)グランド	毎年	由来未詳。「伊勢音頭」「竹原(安珍清姫)」「夕霧(阿波の鳴戸巡礼くどき)」「備中(鈴木主水白糸くどき)」「こんぐり堂(一合蒔いた)」などが古くから伝わる。簡易な櫓を組み、神社の幟を幕のように垂らす。櫓の周りに輪になって踊り、手踊りが基本。楽器は長胴太鼓。		
734	風流踊	久芳(くば)盆踊	東広島市福富町久芳の各地区	久芳地区内の各組(東谷、後谷、西谷、松崎、寺郷)	お盆	8月盆の頃	福富グランド、松崎集会所前広場、後谷集会所前広場(休止中)、東谷老人集会所前広場(休止中)	毎年	戦後しばらくは正覚寺で踊られていたが、久芳地区内の概ね小字単位で、地区の集会所などで行われるようになった。後谷地区では、「伊勢音頭」「熊谷踊り」「竹原踊り」「こんぐりど」などが古くから伝わる。櫓の周りに輪になって踊り、手踊りが基本。口説きは傘をさす。楽器は長胴太鼓・拍子木。		
735	風流踊	上竹仁盆踊	東広島市福富町上竹仁	夏まつり実行委員会、盆踊り保存会	お盆	8月14日	上竹仁コミュニティー広場	毎年	戦前から寺院で、昭和半ば頃から上竹仁コミュニティー広場で実施。「伊勢音頭」「大踊り」「鈴木主水」「こんぐりど」などが古くから伝わる。櫓の周りに輪になって4列で踊り、時に交差する動きもある。曲替わりの口説きや、口説き交替の際の「くどき継ぎ文句」がある。		
736	風流踊	下竹仁盆踊	東広島市福富町下竹仁	地区住民	お盆	8月盆の頃(現在は中断)	竹仁小学校グランド(昭和50年頃まで)、宮郷ふれあいプラザ広場(平成10年頃)	毎年	昭和50年頃に中断、宮郷地区で平成初めに復活するも平成10年頃から中止。。曲は「伊勢音頭」「ヤーハトセー」「川崎」「こんぐりど」など。櫓を立て、輪になって踊る。手踊りが基本。楽器は長胴太鼓。始まりの口上、曲替わりの「くどき継ぎ文句」がある。	中断(平10頃～)	

【調査地区90】豊栄町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
737	神楽	豊栄神楽〈王子神楽〉	東広島市豊栄町	豊栄神楽保存会(県指定団体)、豊栄神楽団ほか	畝山神社(清武)、本宮八幡神社(乃美)、八幡神社(安宿)、馬場原八幡神社(能良)祭礼ほか	10月～11月	神社境内の神楽殿、当屋	毎年	備後神楽を伝える。近世後期には神職のみで行われ、明治以降職業的神楽人(本手神楽太夫)を中心に継承されてきた。演目は、神祇舞(清米・四人舞・中央・神舞・悪魔祓い)、能舞(八重垣、岩戸開き、三恵比須、播州皿屋敷、油屋忠兵衛、狒々退治、安珍清姫など)、五行祭、折敷舞など。語りや神歌が多く、五行祭は陰陽五行説をもとに組み立てられた長大な祭文を暗唱し、五人の王子の問答を中心とする。楽器は横笛・大太鼓・手拍子。舞殿に天蓋を吊り干道を引く。「神楽 ―五行祭―」として広島県無形民俗文化財指定。		県
738	獅子舞祭礼風流	本宮八幡神社の吹囃子	東広島市豊栄町乃美	大字乃美の東組、北組、西組、南組氏子、大字別府氏子	本宮八幡神社例祭	11月3日〈旧暦8月14・15日→10月4・5日→10月第1日曜〉	当番組からの道中、神社境内・御旅所	毎年	本宮八幡神社の祭礼に乃美の東西南北各組の輪番で奉納される、吹囃子や舞、傘鉾などを伴う行列。宝永4年(1707)の疫病退散の祈祷行列に原形がうかがえる。所役は、先払い(三吉・姫)、道切り(猿田彦)、鉾、獅子、大榊、四神旗、太刀など。吹囃しは「枕拍子」「さがりは」「しゃぎり」など10曲程度。歌詞はなく、横笛を中心に法螺貝・大太鼓・手拍子で囃す。御旅所で猿田彦による建国の舞、獅子舞(1人立)がある。傘鉾は細く割った竹に和紙で花や短冊を付けた「花」約100本で飾り、祭りが終わると参拝者が花を持ち帰る風習もある。神輿は毎年別府氏子が担ぐ。		
739	獅子舞祭礼風流	畝山神社の吹囃子	東広島市豊栄町清武	畝山神社氏子(各組)	畝山神社例祭	10月第4日曜日(平成20年代から)〈9月23日〉	当番組からの道中、神社境内・御旅所	毎年	畝山神社の祭礼に氏子4組の輪番で奉納される、囃子や舞などを伴う行列。遅くとも江戸時代後期に遡ると考えられる。主な所役は、塩撒き、御幣、金幣、槍、薙刀、猿田彦、囃子、蛇(獅子)など。吹囃しは場面に応じて10曲程度。歌詞はなく、横笛を中心に大太鼓・手拍子で囃す。御旅所で太鼓を中心とした囃しで猿田彦の舞、獅子舞(1人立)を奉納。		
740	獅子舞祭礼風流	安宿(あすか)八幡神社の吹囃子	東広島市豊栄町安宿	八幡神社氏子(中ノ村、見土路、和田、中屋、門出、助谷の各組)	八幡神社例祭	9月第4日曜日〈9月28日〉	当屋からの道中、神社境内・御旅所	毎年	安宿八幡神社の祭礼に氏子6組の輪番で奉納される、囃子や舞などを伴う行列。建国の舞に用いる鉾に享保14年(1729)の銘がある。主な所役は、ささらすり(三吉)、獅子、社旗、猿田彦、小榊、塩撒き、槍など。吹囃しは「笹囃子」「社切り」など場面に応じて12曲。歌詞はなく、横笛を中心に大太鼓・手拍子で囃す。御旅所では太鼓に合わせて猿田彦による建国の舞、獅子舞(1人立、始まりの口上あり)を奉納。		
741	獅子舞祭礼風流	吉原(よしわら)神儀	東広島市豊栄町吉原	吉原神祇保存会	瀬賀八幡神社例祭	11月3日〈旧暦8月15日→9月25日〉	当番組からの道中、神社境内・御旅所	毎年	瀬賀八幡神社の氏子によって神社祭礼に奉納される、獅子舞、太鼓打ち、花鉾などを伴う行列。吉原神儀は西備後最大のものであり、古くは獅子舞が各家を回っていたという。主な所役は道切り、獅子、棒使い、長刀使い、太槍、小槍、太鼓打、ひょうけ、才取り、花鉾・傘鉾など(現在は簡略化)。楽器は鉦・長胴太鼓・笛・手拍子。囃子は場面に応じて「道引き」「シャンギリ」など9種類。太鼓打ちは赤熊・長鉢巻・袴姿で、獅子舞は二人立。旧豊栄町無形民俗文化財(市町合併により解除)。		
742	風流踊	乃美(のみ)盆踊	東広島市豊栄町乃美	乃美別府地区住民自治協議会	盆踊大会	8月14日	乃美地域センター(旧乃美小学校)グランド	毎年	戦前は寺の境内で、戦後は市や広場などで踊られてきた。曲は「七つ拍子(八百屋お七)」「さんまいどう」「伊勢音頭」「扇子踊り(豆くどき)」「弓引き歌(鈴木主水)」など。櫓を立て、輪になって踊る。手踊り、扇子を使う踊りがある。楽器は長胴太鼓・横笛。テンポの速い七つ拍子が最初に踊られる。昔は口説きが櫓の上で番傘をさして上下に振り曲のテンポを取っていた。		
743	風流踊	別府(べふ)盆踊	東広島市豊栄町別府	別府青少年健全育成会(現在は乃美・別府住民自治協議会)	盆踊大会	8月盆の頃	西光庵境内	毎年	戦前から西光庵境内で踊られてきた。曲は「さんまいどう」「伊勢音頭」「七つ拍子(八百屋お七)」「扇子踊り(豆くどき)」「弓引き歌(鈴木主水)」など。櫓を立て、輪になって踊る。手踊り、扇子を使う踊りがある。楽器は長胴太鼓。現在は乃美地区の盆踊に統合。	中断	
744	風流踊	清武盆踊	東広島市豊栄町清武	清武地区商工会	盆踊大会	休止〈8月盆の頃〉	農協裏の広場	毎年	戦前からか。生竹に短冊と提灯を吊るし、遠方から踊りながら寺に集まって踊ったという。平成10年代後半に休止。曲は「伊勢音頭」「一つ拍子・二つ拍子・三つ拍子」「弓びき」「七ツ拍子」「扇踊り」「さんさこ踊」「お蓮平佐」など。櫓を立て、輪になって踊る。手踊り、扇子を使う踊りがある。音頭取りは傘を持つ。楽器は長胴太鼓。	中断(平10代後半～)	
745	風流踊	安宿(あすか)盆踊	東広島市豊栄町安宿	安宿地区住民自治協議会	盆踊大会	8月13日又は14日	安宿地域センター(旧安宿小学校)グランド	毎年	戦前は上組・下組の2地区で、寺の境内で踊ったという。戦後数年は神社境内で、その後は小学校校庭で実施。曲は「伊勢音頭」「さくしゅう踊り」「ゆうぎり踊り」「さんこ踊り」「熊谷踊り」「さんまいどう(笛踊り)」「竹原おどり」など。櫓を立て、輪になって踊る。楽器は長胴太鼓。踊の始まりや変わり目に「始め文句」、踊の途中に口説き以外の者が割り込む「入れ文句」がある。「さんまいどう」は笛(明笛)で囃す。		
746	風流踊	吉原盆踊	東広島市豊栄町吉原	吉原地区住民自治協議会	夏祭・盆踊り行事	8月13日	吉原地域センター(旧吉原小学校)グランド	毎年	戦前から昭和40年代頃まで2箇所の寺で行われ、その後統合して小学校校庭で実施。現在は「伊勢音頭」「よいせこりゃせ」「竹原やんさ」「ひざたたき」「扇子おどり」の順に踊る。口説きは「鈴木主水」「八百屋お七」「お夏清十郎」「真徳丸」「いろは口説」など。櫓を立て、輪になって踊る。楽器は長胴太鼓。曲替わりに引渡し口上・受取り口上があり、音頭・踊りが途切れることはない。		

747	風流踊	能良(のうら)盆踊	東広島市豊栄町能良	能良地区住民自治協議会	盆の集い	8月14日	能良地域センター(旧能良小学校)グランド	毎年	戦前から昭和末期まで寺境内で、その後小学校校庭で実施。曲は「伊勢音頭」「扇子の踊り」「こんぐり堂音頭」が古くから伝わる。櫓を立て、輪になって踊る。楽器は長胴太鼓。踊の開始時に「始まりの文句」がある。		
748	風流踊	清武西盆踊(法恩寺の踊り、米山地区盆踊)	東広島市豊栄町清武・米山地区他	清武西地区住民自治協議会	盆踊大会	8月13日又は14日	清武西地域センター(旧清武西小学校)グランド(昔は法恩寺山・地区内広場)	毎年	戦前は近くの観音堂から伊勢音頭を踊りながら行列をなし、広場で踊った。その後隣の飯田地区と統合し、旧小学校校庭で実施。現在は「作州(一つ拍子)」「伊勢」「二つ拍子」「弓引き踊り(三つ拍子)」「七つ拍子」「扇子踊り」の6曲を踊る。過去には「吉田踊り」「石童丸」があった。櫓を立て、輪になって踊る。冒頭の「始まりの文句」や曲替わり・音頭交替の場面にも文句がある。二つ拍子の途中で「いれごと」(音頭取り以外の者が即興で歌うこと)がある。		
749	風流踊	鍛冶屋盆踊	東広島市豊栄町鍛冶屋	鍛冶屋地区住民	盆踊大会	8月13日	日光寺境内	毎年	戦前から現在まで日光寺境内で踊る。昭和30年頃までは、初盆の家から地域内を踊りながら行進して寺に向かった。曲は「伊勢音頭」「七つ拍子」「弓引き」「扇子おどり」「手拭いおどり」「一つ拍子」「花笠音頭」、口説きは「鈴木主水白糸」「阿波の鳴戸順礼くどき」など。櫓を立て、輪になって踊る。手踊り、扇子を使う踊りがある。楽器は長胴太鼓。		

【調査地区91】 河内町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
750	神楽	小田神楽	東広島市河内町小田	小田神楽団	祇園祭、大祭り、イベントなど	毎年1月1日～12月31日、依頼により随時	各地域のお宮、当家、地域の祭礼、各種イベント会場	毎年	備後神楽の流れをくむ。始まりは江戸時代に遡るとされ、昭和17年に神楽団が発足、その後一時衰退したものの昭和49年に再発足した。儀式舞は「清めの舞」「四神舞」「神舞」「悪魔祓い(猿田彦)」。能舞のほか、五行祭も伝わる。楽器は太鼓、笛、手拍子。		市
751	風流踊	供養盆踊	東広島市河内町中河内西条	西条自治会	お盆	8月15日	河内小学校校庭	毎年	先祖供養の目的で実施。唄い手・太鼓の拍子に合わせて、3曲を踊る。		
752	風流踊	盆踊	東広島市河内町中河内奥条	盆踊り実行委員会(奥条西、奥条東)	盆踊り行事	8月13日	串ヶ平・奥条集会所	毎年	新仏供養の祭壇を設ける。櫓を中心として輪になり3曲踊る。団扇を持つ踊りもある。		
753	風流踊	小田盆踊	東広島市河内町小田	住民自治組織「共和の郷・おだ」、小田盆踊マスター	小田ふるさと夏祭り	毎年8月13日～8月15日のいずれかの1日	小田地域センター	毎年	先祖供養の目的で、昭和時代後半までは寺で実施。昭和の中頃までは他地区との競演もあった。戦前は7～8曲あったとわれ、現在は「夕霧(小田踊り)」「北山」「熊谷」「作州」の順に4曲が唄われる。「この節限り」の文言で次曲に変わり、連続して踊る。櫓を立て、輪になって踊る。長胴太鼓で拍子をとり、唄の合間に「囃子」の声が入る。「熊谷」は男女一組で各々1本の扇子を持ち、刀と盾を表す。作州は2本の扇子を用いる。		
754	風流踊	盆踊	東広島市河内町宇山	自治協・四季の里文化教育部	お盆	8月14日(ふるさとまつり)	地域センター	定期	先祖供養の目的で実施。宇山民謡のうち8曲で踊られる。手拭・扇子等を使った総踊り。		
755	風流踊	盆踊	東広島市河内町河戸	地区住民	(ふるさとまつり)6年前まで行われていたが中止	8月14日	旧河内小学校(現在は更地)	毎年	先祖供養の目的で実施。総踊り。	中断	
756	風流踊	入野(にゅうの)の盆踊	東広島市河内町入野	戦前は入野青年団、戦後は入野公民館、現在は入野自治組織「篁の郷」	お盆のふるさと祭り	8月14日夜	戦前は長照寺、戦後は入野小学校	毎年	戦前は長照寺で、戦後は小学校で踊られてきた。曲は戦前から現在まで「夕霧」「手拭い踊り」「炭坑節」が伝わり、口説きは「石童丸」「鈴木主水」を中心とする。昭和50年頃から「入野小唄」も加わった。櫓を立て、輪になって踊る。扇子・団扇・手拭いを使う踊りがある。クドキは手踊りを行う。		
757	風流踊	盆踊	東広島市河内戸野	住民自治協議会ふれあいの里戸野文化教育部	戸野ふるさと祭り	8月15日	戸野地域センター	毎年	先祖供養の目的で実施。曲は「今庵堂」「伊勢音頭」「竹原音頭」「鯉城やっさ」など。楽器は太鼓、拍子木。手拭、うちわ等を持って踊る。		
758	その他	宇山民謡	東広島市河内町宇山	宇山民謡保存会	文化祭(3日)、敬老会(9月)	イベント他(日常)	地域センター	定期	起源は明らかではないが、古くから地域に密着して歌われてきた。「苗とり唄」「茶もみ唄」「茶さび唄」「麦打唄」「うすひき唄」「木びき唄」など36曲が伝わり、うち8曲は「たけみ」「からさん」「むしろ」などの農具や日用品を使った踊りである。		市

【調査地区92】 安芸津町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
759	祭礼風流	大名行列〈御幸行列〉	東広島市安芸津町木谷	秋祭り実行委員会	重松神社秋祭り	10月第3日曜日〈旧8月15日〉	木谷小学校～重松神社～お旅所～重松神社	毎年	起源は寛政7年(1795)、神職・大成景房が神輿渡御の一行に奴行列を加えたことに始まる。大名行列と神輿行列を合わせた行列で、大名行列は奴・お供がそれぞれ約10名。囃子は「住吉ばやし」「神おろし」「祇園ばやし」「お帰りちょう」などがあり、場面に応じて小太鼓・ジャン・縦笛・横笛で囃す。奴は伊勢音頭に由来する「奴ばやし」を歌い、毛槍の毛を広げるための「足拍子」の所作をしながら進む。		
760	祭礼風流	祝詞山八幡神社大祭の神賑行列〈ヤッコ行列〉	東広島市安芸津町風早	風早の4地区が交代で当番にあたる	祝詞山八幡神社例祭	10月第1日曜日〈旧8月15日〉	風早区内～祝詞山八幡神社～神社境内お旅所	定期	文政2年(1819)風早村「書出帳」に記述あり。当日当番地区の宮総代宅に集まり行列を組む。囃子を奏し、「ヤッコ振り」をしながら祝詞山八幡神社へ向かう。神社で御神幸が始まり、お旅所で神事後「ヤッコ振り」をしながら還御に随う。所役は挟み箱、奴、子供奴など。囃子は場面に応じた「往」「回」「休」「降」「昇」「復」があり、大太鼓・締太鼓・シャギリ・笛で囃す。【詳細調査No.20】		市
761	祭礼風流	三津祇園祭り〈祇園さん〉	東広島市安芸津町三津	三津祇園祭保存会	祇園祭	7月第2土曜日・日曜日(2日間)	東広島市安芸津町三津	定期	宝暦年間(1751-64)、京都祇園社を勧請して祭礼行列を三津に移入する許可を得たことが始まりという。奴は掛け声に合わせて六方を踏み、毛槍を投げ合ってポーズをとる「振り奴」を行う。所役は神役(えだち)隊列のに続き、お供隊列として先導役・挟み箱・弓矢・鉄砲・投げ奴・神木瓜・台車・太鼓・笛・飾り傘がある。囃子は「おりいさん太鼓」「おかえりちょう太鼓」などがある。		市

(12) 廿日市市

【調査地区93】 旧廿日市市

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
762	神楽	原亥の子神楽	廿日市市原・森宗地区と周辺	原亥の子舞子連中	亥の子祭の日	毎年11月第2土曜夜	定例は眺楽座、依頼先など	毎年	十二神祇。原地区の神楽はその歴史を藩政期に遡及することができる。伊勢神宮の神楽を原の集落の子供に伝承し、各集落ごとに子供が神楽を舞った。何度か中断したが、平成4年に亥の子の日に舞う子供神楽として国実子供会が復活させた。復活時の演目は「神降し」「しめぐち」「鯛釣り恵比寿」「柚立」「三鬼神」「一本むき」「平舞」「すすはき」「恵比寿」。楽器は太鼓、笛、手打鉦。		
763	神楽	原神楽	廿日市市原478-2	伊勢神社神楽団	秋祭のヨゴロ	10月第2土曜日夜	廿日市市原・伊勢神社神楽殿	毎年	十二神祇。川末地区と下組の者各3名で川末の神社と京の岡の神社で1年毎舞っていたが、地元要望により、明治2年、下組の3名が京の岡で単独で舞うようになった。その3名が白砂村赤土地に舞を習いに行き、現在廿日市市原の伊勢神社で奉納される神楽の基礎を築いた。戦後しばらく活動していたが中断、昭和51年復活し現在に至る。「一方向」「すすはき」「所務分」「合戦」「荒平」など20演目を持ち、最後に舞う「天臺将軍」は神がかりを残す。楽器は太鼓、笛、手打鉦。		県
764	神楽	川末斎庭(かわすえさにわ)神楽	廿日市市原川末	川末斎庭神楽団	大歳神社秋季例祭の前夜祭		大歳神社	毎年	十二神祇。藩政期より演じる舞を十二神祇と呼んでおり、当時の神楽台本「十二神祇舞始終番附次第」も現存する。川末組と下組はかつて一緒に舞を奉納していたが、明治2年に両組分かれて舞うようになる。「将軍弓舞」は次年の豊作・凶作を米占で問う託宣舞。		市
765	神楽 獅子舞	天狗舞・獅子舞	廿日市市串戸・廣田神社	廣田神社獅子・天狗舞保存会	廣田神社秋季例祭の宵宮、当日	10月第2日曜日〈10月19日・なかのくんち〉	廣田神社拝殿	毎年	廣田神社秋季例祭当日の昼に演じられる。天狗舞は着面一人舞。鼻高面にしゃぐま、白衣に袴、手甲と足袋の扮装で五色の房を付けた鬼棒を採り舞う。舞・楽ともに十二神祇の「煤掃き」そのものであるが、これはかつて現河本1・2区の住民を中心とした廣田神社神楽団が演じていた舞の名残である。また獅子舞は一人立で氏子各戸を巡回し、神社拝殿では天狗舞に続いて演じられる。獅子頭には五色の紙と榊が飾られ、最後穢れを祓った笹を食べる。		
766	獅子舞	佐方獅子舞	廿日市市佐方	佐方獅子舞保存会	家祓い、元旦、秋祭、祭事	家祓い、元旦、秋祭、祭事	依頼の場所	定期	戦前は村の青年団などで演じられていたが、戦争により中断。当時の獅子頭が発見されたことを契機に石内八幡神社の獅子舞を伝習し、平成11年佐方獅子舞保存会として復活。主に家祓いを目的として、新居で舞うほか、元旦に家々を回って舞う。二人立の獅子2～4頭で構成し、「四方切り」の舞で場を清める。楽器は鉦、太鼓、笛。		
767	獅子舞 祭礼風流	天満宮渡御式(獅子舞)	廿日市市天神	廿日市祭礼(グループ)	廿日市天満宮例大祭	10月第2日曜日	天満宮	定期	文政2年(1819)の記録に、廿日市天満宮の祭礼では前日より市中で獅子舞を行ったとある。現在の獅子舞は同市宮内から伝習したもので、四方切りで舞う。囃子は「祭りの調べ」(テン、テン、テンテンテンテン)で、笛、太鼓、鉦で囃す。元旦の厄払いなどでも舞う。		
768	獅子舞 祭礼風流	二百廿日豊年市民祭	廿日市市廿日市二丁目駅通り・本通り周辺	廿日市市商工会議所	豊受神社　二百二十日の祭	9月10日前後の日曜日	廿日市市中央市民センター、駅通り商店会、本通り商店会	定期	立春から数えて二百十日の厄日を無事に過ごし、豊年を祝う祭りで、300年の歴史があるとされる。神輿行事を先導する鼻高面や鬼面に袴姿の「はな」が長竹を持ち、商店街のいたるところを歩く。そして、地域の子供を見つけると追っかけまわし、無病息災を祈って長竹で叩く。獅子舞もあり、現在は佐方獅子舞保存会により舞われている。		

769	風流踊	地御前(じごぜん)おどり	廿日市市地御前	地御前郷土文化保存会	地域の盆踊り	8月15日	地御前市民センター	毎年	先祖供養として、櫓を中心に輪になって踊る。楽は大太鼓と三味線、横笛。それに音頭取りが加わる。曲は「宮島八景」「春徳丸」など。最後に全員で江戸時代後期から伝わる「地御前踊り」を踊る。		
770	風流踊	盆踊	廿日市市阿品	地区住民	お盆	8月初旬	阿品市民センター	定期	阿品地区の開発で地御前地区から住民が移り住み、地御前地区の盆踊が根付いたという。「宮島八景」「春徳丸」が中心で2～3小節ずつ唄いつなぐ。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓で、三味線や横笛が入ることもある。		
771	風流踊	みみくり〈廿日市踊り〉	廿日市市廿日市地区	廿日市地区まちづくり協議会	廿日市地区の夏祭	8月第1土曜日	廿日市小学校	毎年	地御前地区の地御前おどりが廿日市中心部に伝わり、さらに佐方、平良、原、宮内、大野まで拡がったという。会場に櫓を組み、大太鼓に合わせて「宮島八景」「海老屋甚句(春徳丸)」を歌い手が唄い、輪になって踊る。囃子に三味線、鉦、篠笛が入ることもある。「みみくり」の語源は不明だが、耳に掛かる髪の毛掻き上げる動作に由来する説がある。		
772	祭礼風流	天満宮渡御式(奴)	廿日市市天神	奴組	廿日市天満宮例大祭	10月第2日曜日	廿日市天満宮周辺	定期	文政2年(1819)の記録に、廿日市天満宮の祭礼では、当日、御幸の行列として榊台、猿田彦(ハナ)、花車、弓、鉄砲、鉾、随神、神輿、神主、笛、太鼓、供奉の氏子が記されている。現在は、神輿渡御一団に奴組による槍投げがある。14名のグループが13 尺(42m)に及ぶ計4本の毛槍を持ち、威勢のいい「ヒュー」という掛け声とともに次の人に投げ渡す。		
773	舞台芸等	説経源氏節	廿日市市原	説教源氏節人形芝居・眺楽座	新年のさくらぴあ舞台・眺楽座の不定期上演	11月の定期、依頼先など	眺楽座	定期	明治初年、藤原淳一郎・イワ夫妻が岡本美根太夫から説教源氏節を伝習。師の名を継承して当地に根付いた人形芝居。30曲以上あり「石井常右衛門」「朝顔日記」「小栗判官」「佐倉宗吾郎」「八百屋お七」など。語り太夫、三味線太夫、人形(デコ)遣い、囃子方(三味線、鉦、太鼓)で構成。舞台装置は、襖を重ね吊りして場面を次々に変える「八反返し」。語り、節回しは54種が伝わる。		県
774	舞台芸等その他	地御前神社御陵衣祭・流鏑馬神事〈馬とばし〉	廿日市市地御前	嚴島神社、地御前神社、流鏑馬神事は大歳神社	地御前神社御陵衣祭	旧暦5月5日端午の節句	地御前神社及び境内	毎年	起源は仁安3年(1168)という。御陵衣は「ごりょうえ」と発音することから、御霊会と同様の意味を持つという。祭典では初節句の男児や願主が玉串奉奠し、その後二曲の舞楽「陵王」「納曽利」の舞が演じられる。流鏑馬神事は狩衣姿の騎手が天地・四方の六方に矢を放ち、馬を3回廻して参道を駆け、大歳神社前で的を射る。		

【調査地区94】 旧大野町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
775	獅子舞その他	大頭(おおがしら)神社の獅子舞神事、獅子舞	廿日市市大野5区・6区	大頭神社、氏子、郷楽会、子供育成会など	獅子舞神事	毎年1月第2・第4月曜日	各戸や地域の店舗、施設など	毎年	獅子舞は大頭神社から疫神社、各戸を巡回し、最後漁港にて破邪の弓射を行う。鬼面・荒ひら棒を持つ「荒」が先祓いをする。各戸では、神主と獅子が対面し、獅子が鈴と幣を持って笛・太鼓の囃子でひとしきり舞った後、神主が獅子に折敷の米を投げ、それを獅子が食べる所作が特徴的である。【詳細調査No.21】		
776	風流踊	盆踊	廿日市市大野町	主催は各区。郷土民芸保存会(郷地区)、土曜会(原地区)	夏祭の盆踊り大会	8月中旬	各区の公園、集会所、広場など	毎年	かつては「宮島八景」「阿波の十郎兵衛」「石童丸」などの口説きに合わせ、手を耳のあたりで廻すように踊った。その所作から大野の盆踊りは「耳かき」だといわれた。現在は「宮島音頭」「大野小唄」「炭坑節」の演目に変化し、様々な余興も加わる。		
777	祭礼風流	管絃祭	廿日市市大野町	漁業関係者	嚴島神社の管絃祭	〈6月17日〉	港周辺	毎年	管絃祭の前に、管絃祭の参道に当たる舟筋を清めるため「お洲掘り」が行われ、飾った船を出していた。漁業関係者は出稼ぎ中でも必ず帰郷し、その持ち船を飾って参拝していたという(『広島県大野町史』より)。現在は行われていない。	中断	
778	舞台芸等	地芝居	廿日市市大野町	地域の若者	祭や祝い事	不定期	組み立て式の仮小屋、劇場	不定期	三味線や浄瑠璃、踊りなど地域の芸達者な人たちが、旅芸人の芸を見様見真似で覚えたり、直接習ったりして演じたという。演目は「忠臣蔵」「先代萩」「義経千本桜」「寺子屋」などの歌舞伎、大正期以降は新派劇の影響で「金色夜叉」「不如帰」など。戦後中断(『広島県大野町史』より)。	中断(戦後～)	

【調査地区95】 旧佐伯町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
779	神楽	浅原神楽	廿日市市浅原	浅原神楽団	亀山八幡神社例祭の前夜祭、神楽共演のイベントなど	秋祭	亀山八幡神社、広島市佐伯区・観音神社、岩国市・瀬田八幡神社(年2回)	毎年	明治初年、宮内村明石の大工が当地の人々に伝え、十二神祇に石見の神楽演目や創作演目を加え現在に至るという。所持演目は「社水(灑水・市指定)」「猿田彦」「三刀」「薙刀(三本薙刀・市指定)」「恵比寿(市指定)」「鬼神」「大蛇」「八幡」「塵倫」「鍾馗」「葛城山」「山姥」「岩舟」「神祇太鼓」「神降し」。楽器は、太鼓、笛、鉦。		市

780	神楽	河津原(かわづはら)神楽	廿日市市河津原	河津原神楽団	河津原八幡神社例祭の前夜祭、旧佐伯町地域の神楽競演大会(11月)	秋祭(10月第3日曜の前夜)	河津原八幡神社	毎年	地元の者が神職から神楽を習い、明治初年には奉納されていたといわれる。所持演目は「湯立」「猿田彦」「灑水」「三刀」「〆ロ(市指定)」「五刀」「荒平」「恵比寿」「弓」「薙刀」「岩戸」「八岐大蛇(市指定)」「将軍」「鍾馗」「塵倫」「八幡」「土蜘蛛」「悪狐伝」「大江山」。十二神祇に新舞や石見神楽の演目、所作を加え、現在に至る。舞台には天蓋・白蓋を吊り、床に筵1坪を敷く。楽は太鼓、笛、鉦。		市
781	神楽	栗栖(くりす)神楽	廿日市市栗栖	栗栖神楽団	栗栖河内神社例祭の前夜祭、旧佐伯町地域の神楽競演大会(11月)	秋祭〈秋祭、9月15日〉	栗栖河内八幡神社、廿日市市大野・大頭神社(10月の第4土曜)	毎年	昭和25、26年頃までは十二神祇を演じていた。一時中断後、昭和32年頃に現山口県岩国市宇佐から神楽を習い、改変した。所持演目は「四方祓い」「八幡」「天神」「塵倫(市指定)」「羅生門」「頼政」「神武」「天の岩戸」「安達ヶ原」「大江山(市指定)」「八岐大蛇」。楽は太鼓、笛、鉦。		市
782	神楽	玖島(くじま)神楽	廿日市市玖島	玖島神楽団	玖島地区秋祭、旧佐伯町地域の神楽競演大会(11月)	秋祭(10月第4土日)〈一丁田の大歳神社、中村の天王社そのほか、地区寺社の秋祭〉	昔はそれぞれの地区にある寺社、現在は旧玖島小学校体育館	毎年	かつて当地には白砂舞を伝習した中村神楽団と一丁田神楽団が存在したが、いずれも中断。一方、昭和54年、安芸高田市・山根神楽を伝習した玖島神楽団が誕生し、現在に至る。所持演目は「神降し」「神迎え」「四方祓い」「胴の口」「悪魔祓い」「八幡」「鍾馗」「恵比寿」「塵倫」「天神」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「土蜘蛛」「紅葉狩」「滝夜叉姫」「戻り橋」「日本武尊」「悪狐伝」「虎菊姫(創作)」(以上新舞)。楽は太鼓、笛、鉦。		
783	神楽	玖島中村神楽	廿日市市玖島	中村神楽団	中村天王社秋祭	中村天王社秋祭	中村天王社		昭和10年9月10日、神社の新築を記念し、当時師匠の大垣氏と舞子6名で結成。神楽は旧佐伯郡原村、白砂村鹿道などから伝習したといわれている。昭和10年「神楽舞言立帳」にみられる演目名は「社水」「〆ロ」「湯立」「荒神」「弓」「三刀」「二刀」「五刀」「七刀」「柴鬼人(荒平)」「勝戦(合戦)」「所望分」「恵比須」「七夕」「大蛇」「姫宮」「六口(六七カ)」「沢仙(御本社)」「死入(天大将軍)」「三鬼人」「薙刀」「皇子(ハッ手)」「猿田彦」。「天大将軍」「王子」が廿日市指定。	中断(昭60頃～)	市
784	神楽	津田(つた)神楽	廿日市市津田	津田神楽団	津田八幡神社例祭の前夜祭、旧佐伯町地域の神楽競演大会(11月)	秋祭(10月第2土曜)〈主に秋祭〉	津田八幡神社	毎年	安芸十二神祇神楽。津田八幡神社の神職・広兼氏所蔵・文化3年(1806)「天大将軍謂」は、現在山口県東部で伝承される神舞の演目「弓箭将軍」の内容と同様のものである。所持演目は「湯立」「天孫降臨」「浄め」「荒平」「悪魔」「恵比寿」「添舞」「三鬼」「〆ロ」「岩戸」「三刀」「大蛇」。楽は太鼓、笛、鉦。		県
785	神楽その他	飯山の湯立神事・山舞神事	廿日市市飯山	飯山地区の住民	飯山河内神社の秋季例祭当日	〈9月28日・29日〉	飯山河内神社	定期	文政2年(1819)飯山村「書出帳」に神楽等執行の記載あり。飯山河内神社の秋祭では「六連の餅」を作り供え、大釜に湯を焚いて湯立神事(市指定)を行う。幕末には神楽は近隣から招聘し、神楽の後に山と呼ばれる俵を氏子たちで上下させる山舞をする。境内では1年間土の中に納めた酒瓶で年占をし、荒神幣を氏子が持ち帰る。湯立と山舞は現在中断。		市
786	田楽	佐伯町の囃子田	旧佐伯町地区全域(玖島、峠、友田、津田、栗栖、中道、虫所山)	地区住民	田植の時期	〈端午の節句ごろ〉	各地区の田んぼ	定期	文政2年(1819)各村「書出帳」風俗の項に田植の様子や田植歌が記されている。歌や太鼓で囃しながら行う田植は、昭和になっても河津原地区で続いていたという。	中断(昭和初頃～)	
787	風流踊	浅原の盆踊	廿日市市浅原	浅原の未来を創る会(浅原交流会館内)	夏祭の盆踊り大会	8月13～15日の一夜〈盆期間(特に15日夜)〉	昔は各地区のお宮や村の中心にある亀山八幡神社など、現在は旧浅原小学校校庭	毎年	櫓を中心に円形になって踊る。櫓には太鼓を据える。戦前より盆期間(主に15日夜)、亀山八幡神社や各地区のお宮で踊られていたという。曲は「鈴木主水口節(ゆみひき)」「種子まき踊り」「伊勢音頭」。そのほか「絵本太功記尼崎の段(ゆみひき)」と「石童丸高野口説」も所持しているが、現在は踊られていないという。		
788	風流踊	玖島の盆踊	廿日市市玖島	玖島地区コミュニティー推進協議会	夏祭	8月13～15日に近い土曜夜〈盆期間〉	現在は玖島市民センターの駐車場	毎年	大正10年発行の「郷土誌」に記載あり。昭和初期には盆踊を手踊と呼んでおり、青年団主催による昭和5年の手踊大会は新仏2名の供養として廣源寺境内で行われた。櫓を中心に円形になって踊る。櫓には太鼓を据える。曲は「ゆみひき」「種子蒔き」「炭坑節」「佐伯踊り(昭和後期の創作)」。		
789	風流踊	四和(しわ)の盆踊	廿日市市栗栖・虫所山	栗栖地区	追悼盆踊り行事	8月14日の夜8時30分から〈盆期間〉	栗栖集会所広場	毎年	文政2年(1819)栗栖村・虫所村各「書出帳」に盆踊の記載あり。栗栖地区では追悼法要後に盆踊を実施。櫓に太鼓を据え、輪になって踊る。曲は「ゆみひき」「種子蒔き」「伊勢音頭」「佐伯踊り」。虫所山の盆踊は戦後まもなくまでは踊られていたという。		
790	風流踊	津田の盆踊	廿日市市津田	女性会が中心となって行事を執行しているが、保存会という形はとっていないという	夏まつり	8月の盆近く〈8月15日か16日の夜〉	昔は横矢の新宮神社、現在はさいき文化センター駐車場	毎年	文政2年(1819)津田村「書出帳」に盆踊の記載あり。櫓を中心に円形になって踊る。櫓には太鼓を据える。曲は「ゆみひき」「種子蒔き踊り」「伊勢音頭」「佐伯音頭」。昔は15日に各地の盆踊があり、16日の晩に横矢の新宮神社で総踊りがあって幕が閉じるとある(『佐伯町誌』昭和61年)。		

791	風流踊	友和(ゆうわ)の盆踊	廿日市市友和	旧友和村の各地区ごとに行われており、それぞれが独立して継承している状態	河津原追悼盆踊(8月13日夜)、下友田追悼盆踊、岩組ふれあい夏祭り、友和小学校運動会	8月〈盆期間〉	正念寺本堂境内、下友田集会所、岩組会館、友和小学校校庭	毎年	文政2年(1819)河津原村「書出帳」に盆踊の記載あり。櫓を中心に円形になって踊る。櫓には太鼓を据える。曲は「招き(ゆみひき)」「種子蒔き」「伊勢音頭」「友和踊り(戦後創作)」。		
792	風流踊	手踊(盆踊)	廿日市市玖島	中村地区の住民	お盆	8月・盆期間	廣源寺、玖島小学校		起源は不明。昭和5年は新仏2名の供養として、青年団主導で廣源寺境内で手踊大会が開催された。翌年は特定の供養対象がなかったためか、小学校校庭で青年団が手踊大会を開催した。		
793	舞台芸等	地芝居	廿日市市玖島	玖島村青年団	慶事	慶事の時	近隣の寺など	不定期	起源は不明。昭和10年4月28日、佐伯郡砂谷村鹿道の正楽寺にて玖島村青年団による芝居興行の記録あり。花代から正楽寺へ祝儀を支出していることから、寺の記念行事と思われる。収入と支出を見る限り、1演目ほどの上演ではなかろうか。	中断	

【調査地区96】 旧吉和村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
794	神楽	吉和神楽	廿日市市吉和	吉和神楽団	速田神社秋祭前夜祭	10月最終土曜日(翌日の日曜日が11月になる年は1週前の土曜日	速田神社、その他廿日市市内の神社、イベント	毎年	大正11年、山県郡筒賀村本郷から神楽を伝習し舞子連中が誕生。一時中断後、半坂の組織が神楽団として復活し、田野原の若者は山県郡加計町堀、石原の若者は筒賀村坂原からそれぞれ神楽を習う。昭和53年、吉和神楽団に改組し現在に至る。所持演目は「四方祓い」「八幡」「四神」「鍾馗」「塵倫」「安達ヶ原」「羅生門」「大江山」「天神」「八岐の大蛇」。緩やかで優雅な六調子と、勇壮で早いテンポの八調子の舞がある。楽は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
795	田楽	大田植〈大田〉	廿日市市吉和	地区の農家	各田植組の田植が終わった頃実施	各田植組の田植が終わった頃実施	地区の大田	定期	文政期に編纂された記録によると、吉和村には囃し田の習俗がないとの記載があり、起源はそれ以降と思われる。田植歌は大田植で歌われ、「さごえ」という早乙女と音頭との唱和による本来のものと、「かたはか」という早乙女が終わりの一句を繰り返し、音頭取りが最初の句に入るものがあった。楽器は締太鼓、笛。(『吉和村誌第2集』昭和60年ほか)		
796	風流踊	盆踊	廿日市市吉和	地域住民	お盆	お盆〈8月15・16・17日を含めた4日間〉	〈寺の境内〉	毎年	文政期に編纂された記録には神踊りと記述がある。8月15・16・17日にお寺で説教があり、その後お寺の庭で踊り盆といって4日間くらい踊る。口説きは「安珍清姫」「巡礼くどき」「那須の与一」など。「巡礼くどき」「那須の与一」は「さんさ」で踊る。(『吉和村誌第2集』昭和60年ほか)		

【調査地区97】 宮島町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
797	風流踊	宮島踊(念仏踊)〈多賀江念仏踊・宮島音頭〉	廿日市市宮島町	宮島芸能保存会	宮島踊りの夕べ(盆踊り行事)、宮島学園運動会、宮島芸能祭	8月17、18日 5月下旬～6月 10月、12月	厳島神社境内の御笠浜、宮島学園グランド、宮島学園体育館またはまちづくり交流センター	毎年	厳島沖で沈没した伊予国北条の地頭・多賀江氏の霊を慰めるため、旧暦7月16日鳥居の洲で念仏供養を始めたことに由来すると「厳島図会」に記されている。櫓の周りを輪になり、「宮島八景」などで踊る。踊り子は編笠を被って顔を隠して黒羽織を着用し、手拍子や言葉を発さず、緩調子で静かに踊る。囃子は三味線と太鼓。篠笛、尺八、胡弓が使われた時期もある。【詳細調査No.22】		市
798	風流踊	すずめ踊り〈宮島踊の手替り〉	廿日市市宮島町	宮島芸能保存会	宮島踊りの夕べ(盆踊行事)、宮島学園運動会、宮島芸能祭	8月17、18日 5月下旬～6月 10月、12月	厳島神社境内の御笠浜、宮島学園グランド、宮島学園体育館またはまちづくり交流センター	毎年	明治期に宮島で花街が隆盛し、シャギリ(笛・太鼓・鉦を交えた囃子)が盛んになると、静かに舞う宮島踊に対して、「動」のすずめ踊りが宮島踊の手替わりとして飯富家により創作され、その後同家により代々受け継がれ、宮島踊の際に踊られてきた。編笠をすずめのクチバシにたとえ、餌をついばむ仕草や、両手を翼のように広げる仕草がある。【詳細調査No.22】		
799	祭礼風流	管絃祭	廿日市市宮島町 厳島神社	厳島神社(お漕船:江波漕伝馬保存会・阿賀漁業協同組合)	管絃祭	旧暦6月17日	厳島神社、地御前神社、長浜神社、大元神社ほか	毎年	平安時代、平清盛により厳島神社の神々を慰める神事として始まった。厳島神社から瀬戸内海を渡り、対岸の地御前神社を往来する。江戸中期から、江波・阿賀の小船が御座船を曳航するようになった。明治15年からは祭神の御分霊を遷した御鳳輦を乗せた海上渡御の形式となった。琵琶・箏・篳篥・龍笛・和琴・笙・鞨鼓・太鼓の雅楽器により、管絃15曲と催馬楽1曲が御座船の船上で奏される。旧暦6月が2回ある閏年は、2回目の旧暦6月17日に社殿高舞台において「居管絃祭」が行われる(令和7年が該当)。		

800	舞台芸等	宮島狂言・能	廿日市市宮島町	島民	嚴島神社桃花祭御神能　現在は毎年4月16日～18日開催	慶長10年能舞台建立、旧暦3月16日に実施〈毛利元就により永禄6年に始まり度々奉納、仮設舞台では永禄11年から〉	嚴島神社能舞台〈棚守宿所でも正月2日に御松囃子が行われていた（明治維新まで）〉	毎年	宮島の能楽の歴史は戦国時代に遡る。藩政期になると藩主より扶持を与えられる宮島狂言師が誕生した。近代以降は4月16～18日の3日間、桃花祭神能にて演じられている。宮島島民による狂言は昭和15年頃から途絶えている。また、神能のシテ方・ワキ方も、昭和初期頃までは宮島島民も演じていた。現在、神能は喜多流・観世流、狂言は茂山流が演じられる。		

（13） 安芸高田市

【調査地区98】 吉田町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
801	獅子舞	男山神社獅子舞	安芸高田市吉田町多治比西浦	男山神社獅子舞保存会	神田神社大祓いの神事	7月第1日曜日	神田神社本殿	毎年	旧暦6月の大祓いの神事に由来する。古くは舞う家も、獅子舞の神職・舞子の通る道も「獅子舞道」といって決まっていた。楽（太鼓・笛・鉦）と獅子舞の一行は6名。演目は「神儀舞」「雑舞」「唐獅子」。	中断（令2頃～）	市
802	獅子舞祭礼風流	獅子頭神社神儀	安芸高田市吉田町上入江	獅子頭神社神儀保存会	秋の例祭	9月第3日曜日〈9月23日、9月25日〉	獅子頭神社とその周辺	隔年	江戸時代末期には行われており、天孫降臨を形式化したものといたという。当屋から榊・総代・神饌・神儀舞の宰領・猿田彦・獅子・太鼓・笛・手打鉦の順に出発し、神儀舞を舞う。楽は「道行き」「庭入れ」「神降し」があり、場面に応じて囃される。神事の後、庭（境内）において猿田彦と獅子が戦う舞を演じ、その際獅子が背丈を高くして勇壮に舞う「高舞い」に特徴がある。庭入れの際、二人の太刀持ちが抜刀して刀を交差させ、行列はその下をくぐって本殿に入る。		市
803	獅子舞祭礼風流	宇佐神社神儀	安芸高田市吉田町多治比	宇佐神社神儀保存会	宇佐神社の祭礼	9月23日	宇佐神社境内	毎年	各集落から行列を成し宇佐神社まで行き、神事後境内において神儀舞を演じる。猿田彦神が進み出て口上を述べ、次に獅子が進み出て舞う。猿田彦神と獅子の戦いが行われ、獅子は退治されて、猿田彦神の喜びの舞で舞い納められる。楽は太鼓1、笛2～3、手打鉦1。		市
804	獅子舞祭礼風流	埃ノ宮(えのみや)神社神儀	安芸高田市吉田町川本	埃ノ宮神社総代会宮総代（山手、川本、中馬地区）	秋祭	10月第2日曜日	埃ノ宮神社境内	毎年	明治45年より始まったという。猿田彦・獅子・白刃、榊・供物・囃子（笛、太鼓、手打鉦）・棒振り・おどけなどが行列になり、献餅の後に拝殿前の広場で獅子が舞い、棒振りを演じる。棒振りはこの神儀独特のものである。神儀舞は2回舞う。山手、川本、中馬の3地区が年ごとの輪番で当番を務める。		市
805	風流踊	川本盆踊	安芸高田市吉田町川本	川本自治会	お盆	8月13日	農業の作付け広場	毎年	昭和期に始まったという。曲は「川本踊」「扇子舞」。楽器は太鼓。	中断（平成～）	
806	風流踊	郷野(ごうの)盆踊	安芸高田市吉田町郷野地区（旧郷野村）	吉田町郷土芸能保存会郷野支部	お盆	8月第3日曜日の頃	詳細は不明	毎年	由来は不明。太鼓2名、笛1名と踊り手で総勢30名ほど。「入江小唄」を踊る。櫓を立てる。	中断（昭55頃～）	
807	風流踊	竹原盆踊	安芸高田市吉田町竹原	竹原芸能保存会	お盆	8月10日	法円寺	毎年	起源は江戸時代といわれる。囃し手と踊り手で総勢5、60名ほど。「鈴木水主（豊年おどり）」「ヤンサ踊」「平和踊」「大水くどき」で踊る。楽器は太鼓。扇子を用いる。	中断（平30～）	
808	風流踊	盆踊	安芸高田市吉田町中馬	中馬盆踊愛好会	お盆	8月13・14・15日直近の土曜日	八ッ塚広場	定期	起源は明治年間という。20名くらいで踊った。櫓を立てる。楽器は太鼓。	中断（平2～）	
809	風流踊	盆踊	安芸高田市吉田町宮之城	宮之城盆踊クラブ	お盆	8月14日	宮之城公園	毎年	昭和40年代、地域の親睦として始まったという。総勢は5、60名。婦人会が踊りの指導をした。「炭坑節」「一心節」で踊った。	中断（平1～）	
810	風流踊	盆踊	安芸高田市吉田町長楽寺	総代中心に実行委員会的なものを組織して実施	お盆	8月	長楽寺境内	毎年	起源は江戸時代、盂蘭盆会に由来するという。総勢3、40名ほどで太鼓や鉦の囃子方のほか、口説き（歌い手）と踊り手で構成される。踊りは「きそん」「三つ拍子」「山河村」「麦探し」など。楽器は太鼓と鉦。櫓を立てる。		
811	祭礼風流	吉田の管絃祭〈管弦祭、明神祭、おかげんさん〉	多治比川、安芸高田市吉田二丁目	吉田二丁目講中	管絃祭	7月最終土曜日〈旧暦6月17日〉	多治比川と吉田二丁目（稲田橋から戎神社の間）	毎年	文政3年（1820）、嚴島大明神の祭礼として内海と水上の交通安全と交易繁栄を願って始まったという。大正期には多治比川の2箇所で交互に実施。川船や川の中州に神殿を設え、笛太鼓の囃子で渡御したという。道路や各家には大提灯を吊るした。令和元年以降は神事のみ実施。		

812	祭礼風流舞台芸等	子供歌舞伎だんじり屋台	安芸高田市吉田町吉田	吉田子供歌舞伎だんじり屋台保存会	清神社市入り祭(市入り)	5月5日	清神社～吉田町本通を中心に	定期	延宝2年(1674)より始まったという。清神社から吉田旧商店街間で2台の屋台(現在は1台)が巡行し、各10箇所で化粧を施した子供が歌舞伎を演じる。「郡山懐古三矢の訓　清大社出合の場」「絵本太閤記十段目尼崎の段」「神霊知の渡頓兵衛住家の段」「義経千本桜　初音の旅路」「鎌倉三代記　三浦別れの段」他。三味線や拍子木、太鼓で囃す。【詳細調査No.23】		市

【調査地区99】 八千代町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
813	神楽	八千代神楽	安芸高田市八千代町	八千代神楽団	秋祭り	10月第3土曜日	亀山神社、龍山神社〈隔年実施〉	毎年	土師地区で行われてきた神楽が土師ダム建設による立ち退きのため一時途絶えたが、有志により復活し、その後八千代神楽団となって現在に至る。所持演目は「神降し」「天の岩戸」「八幡」「鍾馗」「天神」「大江山」「悪狐伝中編」「紅葉狩」「塵倫」「滝夜叉姫」「天慶の乱」「葛城山」「愛宕川」「日本武尊」「羅生門」「戻り橋」「山姥」「恵比寿」「八岐の大蛇」。土師神楽(六調子)と新舞(八調子)の両方を演じる。		市
814	獅子舞祭礼風流	日高山八幡神社の神儀	安芸高田市八千代町下土師	下土師の上中下3組住民〈下土師、桑の木、新開、黒瀬の青年を中心に〉	秋祭	10月10日前後の日曜日〈9月13日〉	日高山八幡神社境内	毎年	神儀の構成は、ひょっとこ、ひもろぎ、猿田彦、獅子、太鼓役、笛役、御幣、御饌の順で列を成す。大太鼓、小太鼓、笛、鉦の囃子で、神儀の場面に応じた楽「道中しゃぎり」「渡り拍子」「権現しゃぎり」「庭入れ」「悪魔払い」「神降し」「礼儀舞」「合戦」を囃す。猿田彦・獅子・ひょっとこによる舞も奉納される。		
815	風流踊	佐々井の盆踊	安芸高田市八千代町佐々井	佐々井盆踊実行委員会	盆会	8月15日	明顕寺境内	毎年	江戸時代に始まったという。櫓の周りを総勢50名ほどで輪になって踊る。曲は「刈田音頭」「親鸞音頭」がある。		
816	風流踊	土師(はじ)の盆踊	安芸高田市八千代町下土師	地区住民	盆会	8月13日から15日	妙願寺境内	毎年	「きそん」で踊る。口説きは「鈴木主水」「石童丸」「おくまくどき」「おせきくどき」「おつやくどき」「こげんくどき」「さんざくどき」「那須与市」「平佐くどき」「弥一くどき」「安珍くどき」が伝わっていた。土師ダムの建設により途絶えたと考えられる。	中断(昭40代半～)	
817	祭礼風流	厳島神社管絃祭	安芸高田市八千代町佐々井・厳島神社	厳島神社	管絃祭	7月下旬〈旧暦6月17日〉	厳島神社内	毎年	宮島の厳島神社・管絃祭に由来。江戸後期から明治の初めには、簸川に川舟を浮かべて夜遅くまで楽しんでいたという。その川舟は拝殿下に保管しており、現在は神事のみを行っている。		

【調査地区100】 美土里町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
818	神楽	桑田神楽	安芸高田市美土里町桑田	桑田天使神楽団	秋祭	9月第4土曜日(桑田八幡神社)〈9月30日〉 11月第2土曜日(天王社ほか4社)	桑田八幡神社(9月) 天王社・三宝荒神社・降子社、明神社(11月)	毎年	阿須那手と呼ばれる、現島根県邑南町東部から伝播した石見神楽(六調子)の系譜。江戸時代後半にはすでに集落で演じられていたという。所持演目は「神迎え」「神降し(県指定)」「悪狐伝」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「戻り橋」「葛城山(土蜘蛛)」「日本武尊」「羅生門」「鶴ヶ岡」「岩戸」「八幡」「塵倫」「大江山」「大蛇」「天神」「恵比寿」。神降しは神楽の奉納に当たり、舞殿を清め天神地祇の神々を勧請する神儀舞。1人舞で、素面に幣と扇子を採って舞う。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		県
819	神楽	西尾山八幡神楽	安芸高田市美土里町北	中北神楽団	秋祭	9月第3土曜日	北振興会館	毎年	かつては、地域の祭で日吉神楽団の前身である山田組舞子連と地元有志がともに神楽の奉納をしていた。所持演目は「神迎え」「神降し」「悪狐伝」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「戻り橋」「葛城山(土蜘蛛)」「壇ノ浦」「大江山」「塵倫」「大江山三段返し」「大蛇」「恵比寿」「岩戸」「八幡」。		県
820	神楽	西尾山八幡神楽	安芸高田市美土里町北	天神神楽団	秋祭	9月第3土曜日	北振興会館	毎年	明治期から昭和の初め頃に盛んに活動しており、一時期戦争によって中断していたが昭和48年に復活。所持演目は「神迎え」「神降し」「胴の口」「悪狐伝」「戻り橋」「続戻り橋」「山姥」「葛城山(土蜘蛛)」「日本武尊」「大江山」「天神」「大蛇」「恵比寿」「八幡」。		県
821	神楽	西尾山八幡神楽	安芸高田市美土里町北	日吉神楽団	秋祭	9月第3土曜日	北振興会館	毎年	明治・大正の頃は中北地域の人たちと一緒になって、山田組舞子連として活動。昭和に入り、現在の日吉神楽団として戦争中も途絶える事無く活動してきた。所持演目は「神降し」「悪狐伝」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「戻り橋」「葛城山(土蜘蛛)」「日本武尊」「大江山」「大蛇」「恵比寿」「八幡」。		県
822	神楽	西尾山八幡神楽	安芸高田市美土里町北	黒滝神楽団	秋祭	9月第3土曜日	北振興会館	毎年	明治後期に始まったという。戦争中一時中断していたが、戦後すぐに再開され現在に至っている。所持演目は「神迎え」「神降し」「悪狐伝」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「戻り橋」「山姥」「葛城山」「大蛇」「恵比寿」「八幡」「天神」。		県

823	神楽	青神楽	安芸高田市美土里町生田	青神楽団	秋祭	11月第2土曜日〈10月第2土曜日、11月第2土曜日〉	青老人集会所	毎年	明治30年頃には活動していたという。旧舞・六調子を演じており、そのうち「神迎え」は四座の舞で「道行」「歩み」「神舞」「八花」で構成されている。所持演目は「神迎え(県指定)」「神降し」「胴の口」「四神」「大化改新」「天神記」「悪狐伝」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「戻り橋」「葛城山(土蜘蛛)」「伊吹山」「岩戸」「塵倫」「鍾馗」「山伏」「三浦」「十羅刹女」「大江山」「日本武尊(熊襲)」「天神」「黒塚」「恵比寿」。		県
824	神楽	川角山(かわすみやま)八幡神楽	安芸高田市美土里町生田	錦城神楽団	秋祭	11月第2土曜日〈10月第2土曜日、11月第2土曜日〉	旧生桑小学校	毎年	江戸中期頃には既に神社に神楽を奉納していたといい、八注連という特殊神事に関する記録が現存する。旧舞(六調子)・新舞いずれも演目を所持し、所持演目は「神迎え」「神降し」「手草」「胴の口」「悪狐伝」「武蔵ヶ原」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「戻り橋」「葛城山(土蜘蛛)」「日本武尊」「大江山」「大蛇」「岩戸」「八幡」「塵倫」「やちまた」「鍾馗」「貴船」「恵比寿」。		県
825	神楽	津間八幡神楽	安芸高田市美土里町本郷	神幸神楽団	秋祭	10月第2土曜日(神幸神社)	神幸神社	毎年	明治期から昭和の初め頃は津間八幡神楽舞子連として活動。その後神幸神楽団となり、昭和24年～27年には各地の競演大会で20回余り優勝。所持演目は「塩祓」「神迎え」「神降し」「胴の口」「悪狐伝」「滝夜叉姫」「葛城山(土蜘蛛)」「大江山」「塵倫」「大蛇」「岩戸」「八幡」「鍾馗」「山伏」「三浦」「日本武尊(熊襲)」「神農」。		県
826	神楽	広森神楽	安芸高田市美土里町本郷	広森神楽団	秋祭	10月第1日曜日の前夜(広森神社・山中神社)	広森神社、山中神社	毎年	明治36年結成。戦前は盛んに活動しており、戦争中一時中断。戦後間もなく旧美土里町内でもいち早く活動を再開。所持演目は「神降し」「悪狐伝」「戻り橋」「日本武尊」「子持山姥」「大蛇」「岩戸」「八幡」。		
827	神楽	横田八幡神楽	安芸高田市美土里町横田	横田神楽団	秋祭	9月第3土曜日(横田八幡神社)・11月第1土曜日(竜王社)	横田八幡神社、竜王社	毎年	明治36年結成。戦前は盛んに活動しており、戦争中一時中断。昭和37、38年頃、団員不足から一時期中断。昭和39年に再結成。所持演目は「神降し」「悪狐伝」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「葛城山(土蜘蛛)」「日本武尊」「羅生門」「日振山」「大蛇」「恵比寿」「筑波山」「塵倫」「鍾馗」。		
828	神楽	上河内(うえごうち)神楽	安芸高田市美土里町本郷	上河内神楽団	秋祭	9月22日(上河内・峠尻八幡神社)、11月2日(明見神社・大仙神社)	上河内・峠尻八幡神社、明見神社、大仙神社	毎年	明治期は本村神楽組として活動。大正期になると上河内八幡神社を中心とした地域の神楽団となり、現在に至る。所持演目は「神降し」「八幡」「鍾馗」「恵比須」「岩戸」「天神」「八岐大蛇」「塵倫」「滝夜叉姫」「葛城山」「日本武尊」「子掛山」「悪狐伝」「曽我兄弟」「紅葉狩」「羅生門」「戻り橋」「大江山」「新編伊吹山」「草薙剣」。		
829	神楽	塩瀬神楽	安芸高田市美土里町本郷	塩瀬神楽団	秋祭	10月体育の日前日の日曜日	塩瀬八幡神社	毎年	昭和11年頃結成。所持演目は「神降し」「鍾馗」「恵比須」「塵倫」「衣川」「八幡」「葛城山」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「日本武尊」「悪狐伝中編」「悪狐伝最終編」「天神記」「八岐大蛇」。		
830	獅子舞	横田の獅子舞	安芸高田市美土里町横田	横田獅子舞保存会(獅子舞は神楽団が行う)	獅子舞	7月上旬日曜日〈7月14日に近い日曜日〉	横田八幡神社	毎年	藩政期は多治比の神職・穐田氏が当地の社を兼帯しており、文政2年(1819)の「書出帳」には、戸別に獅子舞を行っていたと記載がある。明治6年に来女木の神職・穐田氏が奉仕をするようになった。この時から地元の者が獅子を舞うようになった。7月上旬に各村(横田・本郷・多治比)の宮を順に回り、7月14日に多治比で舞い納めた。各村では新築の家や牛を飼っている家、旧家などを廻り、最後に当屋で舞った。現在は横田八幡神社で舞う。		市
831	獅子舞	本郷獅子舞〈神幸(しんこう)の獅子舞〉	安芸高田市美土里町大字本郷・津間八幡神社	本郷獅子舞保存会(獅子舞は神楽団が行う)	獅子舞	7月10日前後の日曜日	津間八幡神社	毎年	江戸時代は神職が獅子舞を演じていた。明治以降、地元の者が演目から座舞を演じるようになった。7月初めに悪魔祓いと虫送りの祈願をあわせて、神幸神社(津間八幡神社)と神社の当宿で舞い、氏子は麦初穂を供え、獅子かぶりをしてもらい無病息災を祈っていた。笛、太鼓、手打鉦の奏楽と二人立の獅子舞で構成。曲目には神祇舞、雑舞(中舞)、唐拍子舞の3つがある。現在は神幸神社の7月の夏越祭で舞っており、麦初穂を供える風習は農業形態の変化に伴い見られなくなっている。		県
832	獅子舞	塩瀬の獅子舞	安芸高田市美土里町大字本郷	塩瀬神楽団(獅子舞は神楽団が行う)	獅子舞	7月10日前後の日曜日	塩瀬八幡神社	毎年	7月に神社で獅子舞を行う。江戸期は神職による獅子舞だったという。明治以降、その一部(座舞)を地元の者が舞うようになった。		
833	獅子舞	上河内の獅子舞	安芸高田市美土里町大字本郷	上河内神楽団(獅子舞は神楽団が行う)	獅子舞	7月10日前後の日曜日	(上河内)峠尻八幡神社	毎年	7月に神社で獅子舞を行う。江戸期は神職による獅子舞だったという。明治以降、その一部(座舞)を地元の者が舞うようになった。		
834	田楽	中北のはやし田	安芸高田市美土里町北	中北振興会	花田植	5月下旬	中北地区の田(年によって異なる)	毎年	安芸地方のはやし田で歌われる「北ぶし」の発祥地。中北地区がある旧北村での田植については文政2年(1819)「書出帳」に記載あり。明治期以降中断し、昭和47年、中北芸能保存会が結成され現在に至る。明治34年「改北村田植早紙(清水屋草子)」や代掻本が現存し、それを参考にはやし田を復活させた。	中断(令2頃～)	市
835	田楽	桑田のはやし田	安芸高田市美土里町桑田	桑田はやし田保存会	花田植	5月最終日曜	桑田の庄(公民館)近くの水田	毎年	文政2年(1819)の「書出帳(桑田村)」に囃し田の記載がある。田を起こし、えぶりで水平にした後に神棚(さんばい棚)に供物を供え、花田植をする。神楽についての「桑田ぶし」は当地ならではの歌で、そのほか「鎌倉ぶし」「おなりおくり」などがある。		県

836	田楽	生田(いけだ)のはやし田	安芸高田市美土里町生田	生田芸能保存会	花田植	5月最終日曜	旧生桑小学校	毎年	寛政年間に神職・三上越後によって書きまとめられた「三社落の巻」や文政2年(1819)の「書出帳(生田村)」に囃し田の記載がある。もとは生田地区の田で行っていたが、現在は旧生桑小学校で行っている。実際の田植はしない。「生田ぶし」という当地ならではの唄が特徴的。令和2年以降、コロナ禍等により開催していない。		県
837	田楽	本郷のはやし田	安芸高田市美土里町本郷	本郷はやし田保存会	本郷の花田植	5月最終日曜	本郷地区の田	毎年	文政2年(1819)の「書出帳(本村)」に囃し田の記載がある。田を起こし、えぶりで水平にした後に神棚(さんばい棚)に供物を供え、花田植をする。本郷の田植え歌は近隣で最も数が多い(12節)。これは近隣や隣国(隣県)の節が当地に移入し、それを引き継いで歌っていることによる。明治28年小谷宇津右衛門がまとめた「田植代かきほん」が現存する。		県
838	風流踊	生田の花笠おどり	安芸高田市美土里町生田	生田花笠踊保存会	盂蘭盆	不定期(8月15日)	市などの発表会のときに上演する	不定期(発表会の時)	もとは西勝寺境内で行っていた。「生田八庭之踊」ともいい、「ナンジョ五庭、大踊三庭」からなる。女装の踊り子が花笠の上に昼は造花の飾り、夜は燈籠をつけて、「道行」「門びらき」「庭借り口上」のあと、大太鼓・笛・鉦の囃子に合わせて踊る。構成は猿田彦、音頭取り、口上役、踊り子、杖使い、囃子方。動きは緩やかである。近年は行事の際に上演。直近で平成27年上演。		県
839	風流踊	青盆踊	安芸高田市美土里町青	青盆踊りクラブ	盆踊り行事	8月14日	集会所	毎年	詳細は不明。		
840	風流踊	安楽寺盆踊	安芸高田市美土里町北	白梅盆踊保存会(北2支部)	盆踊り行事	8月14日	安楽寺本堂	毎年	元は寺の庭で笠鉾を立てて行っていた。4～5年中断後、昭和50年代に復活し、本堂で踊る。現在は子供会が中心の行事。		
841	風流踊	生田盆踊	安芸高田市美土里町生田	生田盆踊りクラブ	盆踊り行事	8月14日	生桑小学校跡地	毎年	大正15年には踊っていた記録が残る。もとは西勝寺で行っていたが、近年会場を小学校跡地に移した。櫓の周りを輪になって踊る。曲目は「地蔵踊り」「平和踊り」「清佐くどき」「平和音頭」ほか。曲調は一つ拍子、二つ拍子。楽器は大太鼓、鉦、笛。(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年))		
842	風流踊	上河内盆踊(善正寺盆踊)	安芸高田市美土里町本郷	上河内子供会	盆踊り行事	8月14日前後	美土里荘前広場(上河内)、旧美土里小跡地(砂田)※1年交代	毎年	上河内・砂田の2集落合同で盆踊をする。場所は1年交代。		
843	風流踊	神幸盆踊(上郷盆踊・法光寺盆踊)	安芸高田市美土里町本郷	上郷盆踊りクラブ	盆踊り行事	8月14日前後	旧本郷小跡地	毎年	この地区では「松阪」の口説きが唄われていた(『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』)。		
844	風流踊	黒滝盆踊	安芸高田市美土里町北	黒滝子供会(北1支部)	盆踊り行事	8月14日前後	集会所前広場	毎年	この地区では「石童丸」「オクマ」の口説きが唄われていた(『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』)。		
845	風流踊	桑田の盆踊	安芸高田市美土里町桑田	桑田盆踊保存会	盆踊り行事	8月14日	桑田の庄(公民館)	毎年	文政2年(1819)の「国郡志御用ニ付書出帳」によると道場(現在の大心寺)で三つ拍子を踊っていたという。櫓の周りを輪になって踊る。曲目・口説きは「清左くどき」「弥一くどき」「念仏おどり」が伝わる。曲調は「一つ拍子」「二つ拍子」。楽器は大太鼓(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年))。現在は公民館で踊る。		
846	風流踊	敬覚寺(きょうかくじ)盆踊	安芸高田市美土里町横田	敬覚寺盆踊りクラブ	盆踊り行事	8月13日	敬覚寺	毎年	文政2年(1819)の「国郡志御用ニ付書出帳」によると「きそん」という二つ拍子の踊りをしていた。昭和50年代くらいまでは、盆踊の中に仮装した人が紛れ込んで一緒に踊り、ちょっとした芸を披露していた。昭和期から櫓を立てるようになり、輪になって踊る。演目は「豊年踊り」。曲調は「伯耆」「麦さがし」「熊谷」。楽器は大太鼓。(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年))		
847	風流踊	日吉盆踊(郷盆踊)	安芸高田市美土里町北	日吉子供会(北4支部)	盆踊り行事	8月14日前後	日吉神社	毎年	子供の数も多く、盛んに行っている。現在では5支部(下北)の人も来ている。		
848	風流踊	塩瀬盆踊	安芸高田市美土里町本郷	塩瀬子供会	盆踊り行事	8月13日	集会所前のゲートボール場	毎年	この地区では「松阪」の口説きが唄われていた(『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』)。		
849	風流踊	下北盆踊	安芸高田市美土里町北	下北子供会(北5支部)	盆踊り行事	お盆	詳細は不明	毎年	過疎化が進み、地域行事は4支部(日吉地区)と合同で行っている。	中断	
850	風流踊	中北盆踊	安芸高田市美土里町北	中北芸能保存会(北3支部)	盆踊り行事	8月14日前後	小学校跡地	毎年	この地区では「石童丸」「オクマ」の口説きが唄われていた(『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』)。		
851	風流踊	横田盆踊	安芸高田市美土里町横田	横田盆踊り保存会	盆踊り行事	8月14日	東光広場(横田小学校跡地)	毎年	大正時代まで真蔵坊境内で踊っていた。道行囃子で入場し、櫓の周りを輪になって踊る。演目は「熊谷踊り」など。古くは「きそん(「だいさか」と呼ぶ)」が踊られていたが、廃絶。楽器は大太鼓、鉦、笛(鉦・笛は道行き囃子用)。(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年))		
852	風流踊 舞台芸等	敬覚寺ニワカ	安芸高田市美土里町横田	地区住民	お盆	お盆	敬覚寺境内の仮設舞台	毎年	大正期、お盆の時期に敬覚寺の境内に仮設舞台を設置して、親鸞や蓮如に関する仏教劇や簡単な娯楽劇が演じられた。新本保太郎による脚本、演出、指導だったという。昭和初期に廃絶した。昭和50年頃までは敬覚寺盆踊の時に、仮装した人が紛れ込んで一緒に踊っていた。	中断(昭和初期ヵ～)	

【調査地区101】 高宮町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
853	神楽	梶矢神楽	安芸高田市高宮町川根	梶矢神楽団	秋祭	隔年11月2日(沖原山八幡神社・亀尾山降子神社)、隔年10月4日(島根県邑南町長田八幡神社)	沖原山八幡神社、亀尾山降子神社、島根県邑南町長田八幡神社	隔年毎	江戸時代中期に石見国阿須那・上田両村の神職・斎藤氏、三上氏から神楽を伝授され、地元で舞うようになった。高田舞の元祖とされ、戦争中も中断することなく古典演目を伝承している。演目「鐘馗」は阿須那派の正統を伝え、昭和29年県指定。楽は大太鼓、小太鼓、鉦、笛。		県
854	神楽	来女木(くるめぎ)神楽	安芸高田市高宮町来女木	来女木神楽団	秋祭	9月第3土曜日(来女木八幡神社)、10月第1日曜(宮地山神社)、11月第4土曜日〈11月23日〉(来女木公民館)	来女木八幡神社、宮地山神社、来女木公民館(胡子神社来女木客祭)	毎年	江戸末期、三次郡伊賀和志村の神職・三上薩摩から住民9名が神楽を伝習し、前身の日吉八幡神楽団が結成された。所持演目は「神降し」「神迎え」「八幡」「岩戸」「山伏」「悪狐退治」「塵倫」「日本武尊」「恵比寿」「鍾馗」「土蜘蛛」「滝夜叉姫」「大江山」「八岐大蛇」。		県
855	神楽	佐々部神楽	安芸高田市高宮町佐々部	佐々部神楽団	秋祭	9月第3土曜日〈9月22日〉(門出八幡神社)、11月第2土曜日〈11月第1土曜日〉(一心会館〈大仙神社〉)	門出八幡神社、一心会館	毎年	明治初期に石見国邑智郡上田村の神職・ 三上真名井から地域住民が神楽を伝授され、明治6年には同好者により神楽組設立。現在に至る。所持演目は「神降し」「神迎え」「胴の口」「田草」「鍾馗」「天の岩戸」「大江山」「塵倫」「天神」「八幡」「山伏」「恵比寿」「戻り橋」「日本武尊」「紅葉狩り」「悪狐伝」。		県
856	神楽	羽佐竹(はさだけ)神楽	安芸高田市高宮町羽佐竹	羽佐竹神楽団、羽佐竹子ども神楽団	秋祭	9月第3土曜日〈9月22日〉(山崎八幡神社)、〈10月1日に近い土曜日(石上神社)現在は祭礼のみ〉、11月第3土曜日(大仙神社)	山崎八幡神社、大仙神社	毎年	幕末に当地の垣内松太郎が石見国邑智郡阿須那の神職から神楽の伝授を受けたのが当地の神楽の始まりといわれている。昭和47年、地域全戸(約130戸)を会員として羽佐竹神楽後援会を創立。演目は「胴の口あけ」「神降し」「神迎え」「八幡」「岩戸」(以上、儀式舞)、「鐘馗」「悪狐伝」「葛城山」「塵倫」「日本武尊」「滝夜叉姫」「戻り橋」「八岐大蛇」などの能舞。楽(胴という)は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		県
857	神楽	原田神楽	安芸高田市高宮町原田	原田神楽団	秋祭	9月第2土曜日	原田八幡神社	定期	石見神楽阿須那系の神楽。明治初年頃、高田郡原田村の木原某が同郡川根村の神楽を習得して村内に広めたものという。所持演目は「桜井の駅」「大江山」「戻り橋」「滝夜叉姫」「塵倫 」他12演目。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		県
858	神楽	山根神楽	安芸高田市高宮町川根	山根神楽団	秋祭	隔年11月2日(沖原山八幡神社、亀尾山降子神社)、隔年10月4日(島根県邑南町長田八幡神社)	沖原山八幡神社、亀尾山降子神社、島根県邑南町長田八幡神社	隔年毎	寛政2年(1790)石見国邑智郡阿須那村の神職・斉藤一正(大江孝徹、斎藤出雲)に山根の住民5名が神楽を伝習したという。所持演目は「銅の口」「神降し」「剣舞(県指定)」「鞨鼓切目」「天の岩戸」「天神」「山伏」「鍾馗」「塵倫」「大江山」「曾我兄弟」「熊襲征伐」「八岐大蛇」。剣舞は東西南北の四神が中央の神を迎える舞で、はじめ幣と鈴、のち鈴と扇子、最後に剣と鈴に取り替えて神迎えをする。		県
859	獅子舞祭礼風流	亀尾山神社の御座船神事	安芸高田市高宮町川根	川根十七夜実行委員会	管絃祭	旧暦6月17日の夜	安芸高田市高宮町川根	毎年	嚴島神社の管絃祭と同じ旧暦6月17日の夜に実施。御座船(「フネ」という。)を大太鼓・小太鼓・笛の神楽囃子と伊勢音頭で囃しながら巡行する。過去には獅子舞があった。御座船の製作と渡御は氏子の若連中が担当する。大きな真竹で船の骨格を組み、それを台車に乗せ、飾り付けて亀尾山神社へ繰り出す。神社での神事後、境内を右回りに三匝して終了。		市
860	田楽	川根のはやし田	安芸高田市高宮町川根	川根はやし田保存会	さんばいさん	5月第4日曜	安芸高田市高宮町川根・エコミュージアム近くの水田	毎年	享和3年(1803)「川根本田植歌草紙写」、享和3年(1803)及び天保2年(1831)頃の田植歌本が伝わる。戦後しばらく中断していたが、昭和46年復活。神事(サンバイオロシ)後、道行き、田植行事(苗取り、えぶりなおし、囃し田)を行う。構成は歌大工、早乙女、囃子方(大太鼓・小太鼓・手打鉦・ささら)、しん綱持ち、えぶり、苗運びなど。現在41の歌詞があり、「ゆり唄」「川根節」「邑智拍子」「鎌倉」などの節で、歌大工と早乙女が返歌の形式で歌う。【詳細調査No.24】		市

861	田楽	佐々部のはやし田	安芸高田市高宮町佐々部	上佐はやし田保存会	佐々部のはやし田	5月下旬	安芸高田市市役所高宮支所隣の水田	毎年	起源は定かでないが、江戸時代から行われてたという。田植歌は安芸のはやし田系に属し、一部備後系の要素も残る。明治19年に書きまとめられた歌本などが現存する。大正期の記録には、「ゆり歌」「北節」「河内節」「大表紙」「赤名節」「かたおろし」「鎌倉節」などの曲がある。原田のはやし田(国指定)と同じ曲調のものも多く、多様な田植が伝えられた。	中断(令1～)	市
862	田楽	原田のはやし田〈安芸のはやし田〉	安芸高田市高宮町原田	原田はやし田保存会	原田のはやし田	5月最終日曜日	元来原小学校前水田	毎年	文政2年(1819)の「書出帳(原田村)」に囃し田の記載がある。牛清め、代掻き、道行き、苗取り・くわじろ、神事、田植の次第で実施。当地は深田地帯のため作業に合わせた極めてゆるやかなリズムの田植唄「原田節」が特徴であり、短詩形の歌詞を歌大工と早乙女とが複雑なやりとりで展開する。平成9年「安芸のはやし田」として北広島町の「新庄のはやし田」とともに国指定。		国
863	風流踊	船木盆踊	安芸高田市高宮町船木	船木盆踊り会(船木振興会)	船木夏祭	8月14日前後	公民館(旧船佐東小学校跡地)	毎年	戦争や三八豪雪などの影響もあり何度か中断したものの、平成になり復活。昭和35年頃までは専教寺境内で踊っていた。「しんぱん踊」「あさつか踊(むぎさがし)」「ばんばら踊」などがある。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は大太鼓(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年)。	中断(平23～)	
864	風流踊	一心会盆踊	安芸高田市高宮町佐々部	上佐一心会(地域振興会)	盆踊り行事	8月15日	市役所高宮支所前広場	毎年	大正5、6年頃に組織が結成。戦時中一時中断したものの昭和50年頃まで光明寺境内まで踊っていた。「伊勢音頭」「一心踊り」「初盆踊り」「清流踊り」「平和踊り」「高宮踊り」「豊年踊り」がある。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は大太鼓(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年)。		
865	風流踊	来女木盆踊	安芸高田市高宮町来女木	来女木盆踊り会	盆踊り行事	8月14日	正光坊	毎年	明治中頃より現在まで正光坊境内で踊られている。寺での法要後、盆踊を実施。「踊りこみ」「さんさ踊り」「弓引き音頭」「すいな踊り」がある。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は大太鼓、小太鼓、笛(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年)。		
866	風流踊	羽佐竹盆踊	安芸高田市高宮町羽佐竹	金石山万福寺盆踊り会	盆踊り行事	8月14日	万福寺	毎年	起源などは不明だが、現在「くどきはじめ」「ほうりん踊り」「羽佐竹盆踊り歌」「盆はナー(鈴木主水)」「おくまくどき」「すいな踊り」「バンバラ踊り(小栗判官)」などで踊っている。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は大太鼓(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年)。		
867	風流踊	原田盆踊	安芸高田市高宮町原田	原田盆踊り会(正真盆踊会)	盆踊り行事	8月14日	正明寺、真行寺(隔年交代)	毎年	起源は定かでないが、昭和12年ころ中断。昭和24、25年ころ復活。昭和40年代に盆踊りの詞章を新しくし、現在に至る。「神石節(踊りこみ)」「さんさ踊り」「神石踊り」「扇子踊り」「弓引き踊り」がある。		
868	風流踊	房後(ぼうご)の盆踊	安芸高田市高宮町房後	房後連絡協議会	房後納涼祭	8月14日前後	石田山神社	毎年	昭和50年頃までは明泉寺境内で行われていた。その後石田山神社に変更した。演目は「踊りこみ(さんさ踊)」「弓引き音頭」「豊年踊」「扇子踊」など。櫓を立て、色とりどりの短冊をつけた飾り竹を据える。楽器は太鼓(「広島県教育委員会盆踊調査」(昭和61年)。		
869	風流踊	川根の盆踊	安芸高田市高宮町川根	川根盆踊り会(川根振興協議会)	盆踊り行事	8月14日	浄泉坊	毎年	長らく中断していたが平成4年に復活した。「思案橋」「甚句」「出雲」「ハンヤ」「忠臣蔵」「口説(越後地震)」「川根の四季音頭」がある。		
870	風流踊	下佐の盆踊	安芸高田市高宮町佐々部	下佐盆踊り会(下佐振興会)	盆踊り行事	8月15日	下佐コミュニティセンター(旧船佐北小学校跡地)	毎年	元々は志別府正立寺で実施していた。戦争で一時中断。昭和36、37年ころ復活。平成に入り、踊る場所を下佐蓮照寺、さらに旧船佐北小学校跡地に変更した。「忠臣蔵」「長音頭」「出歌」がある。		
871	祭礼風流舞台芸等	川根の楽打	安芸高田市高宮町川根	川根楽打保存会	楽打	11月3日(亀尾山神社の祭礼日)	安芸高田市高宮町川根　亀尾山神社		露払い猿田彦を先頭に、その後に棒術の杖使いが続く。後尾は楽打が受け持つ。行列は拝殿前で数曲奏し、道行は終わる。小憩ののち「本杖」と呼ばれる棒術の型が披露される。本杖の後、狂言芝居「弁慶の関抜け」が演じられる。最後は「棚打ち」と称する楽で拝殿前での奉納神事を終え、帰りの道行となる。元々石見国邑智郡上田村の神職が兼帯していたため、この芸能も石見からもたらされたものという。	中断	市

【調査地区102】 甲田町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
872	獅子舞祭礼風流	春日神社の神儀	安芸高田市甲田町高田原	春日神社神儀保存会	春日大社大祭奉納神儀	11月3日〈9月29日祭祀、12月神儀〉	安芸高田市甲田町高田原紺屋原・春日神社	定期	宍戸氏五龍城在城の時代より神儀を奉納していると言い伝えられている。当日は氏子が神儀の諸役により道行で行列を整え、囃子にとともに市内を練り歩き、民家の庭に入って神儀を打つ。その後社参し神前曲打を行う。所役は猿田彦、獅子、白刀、榊かつぎ、金幣持、お膳持、囃子方(笛・太鼓・鉦・手打鉦)、おどけなど。曲は場面に応じて「道行」「庭入れ」「ヒーヨ」「キッチャ」「ヨイヤ(回る)」「獅子つなぎ」「飛打」「トントン(前踏出し)」「神前曲打」がある。		市
873	田楽	大土山(おおづちやま)田楽	安芸高田市甲田町下小原	大土山田楽団	大花田植	6月最初の日曜日	小原コミュニティ広場下の田圃	毎年	口伝によれば大正10年頃から始まったという。現在は、神事(豊作祈願)、道行き、苗取り、長唄、先矢の次第で実施。飾り牛、歌い手、早乙女、囃子(大太鼓・小太鼓・鉦・ささら)などで構成。苗取り唄や長唄は隣の可部町大林や向原町との共通性がある。		市
874	風流踊	甲田町盆踊「十七踊り」	安芸高田市甲田町高田原、糠地	地域住民	お盆	お盆の聴聞に合わせて〈お盆〉	高林坊、清涼寺、教正寺等	定期	お盆の聴聞に合わせて寺の境内で盆踊が踊られた。高田原地区では「石童丸」「敦盛」「名所」の口説きが唄われていた(『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』)。	中断	

875	祭礼風流	司箭(しせん)神社の神儀	安芸高田市甲田町高田原	司箭神社総代会	司箭神社秋季例祭	11月3日	安芸高田市甲田町上甲立五龍山上	定期	神儀は笛の囃子に合わせて太鼓を叩き、神輿とともに町中を練る。祭神・宍戸家俊こと司箭院興仙は貫心流の祖として崇敬されており、近年までは神事を行った後に貫心流の剣術が披露されていた。		

【調査地区103】 向原町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
876	神楽	戸島十二神楽の舞	安芸高田市向原町戸島八東戸	鳴石山神社氏子	鳴石山神社秋の大祭	9月15日	神楽殿から本殿	5年毎	鳴石山神社秋の大祭において、毎年行われる神儀とともに5年毎に十二神楽が奉納される。神楽の起源は不明だが、明治22年書写「戸島村伝来十二神楽相伝之鏡」には「八幡舞」「剣舞」「幣舞」「膳まい」「悪魔払」「追払」「杵築」「安達原婆」「山伏まい」「尊神」「さし神」「天狗まい」が所収されている。神儀の一団が宮巡りをし御殿に戻ると、奏楽が変わり本舞い(十二神楽を含む)となる。露祓いは青鬼、悪魔祓いの舞(鬼神の舞)は赤鬼の面を着ける。弁柄染の服装で莫蓙腰の袴に刀をさし、赤襷をかけ白の後鉢巻に赤髭和熊をかぶり、唐団扇と鉾を持って舞う。		
877	獅子舞	獅子舞	安芸高田市向原町坂	国貞山神社文化財保存会	大祓	7月第1日曜日〈6月7・8日〉	および坂地区	定期	文政2年(1819)の「書出帳」に、夏に社人と獅子が各家々を廻り、悪魔祓いや火伏せの祈祷を行い、獅子舞を行ったという記述がみられる。現在も、宮司が先導役になり、国貞山神社を出発し、地区内5箇所において、「猿だ彦の舞」「ご獅子舞」を舞う。		
878	獅子舞	獅子舞	安芸高田市向原町戸島	鳴石山神社氏子	大祓	7月第2日曜日に変更〈昔6月7日～8日〉	戸島町内新築の家	不定期	文政2年(1819)の「書出帳」に、夏に社人と獅子が各家々を廻り、悪魔祓いや火伏せの祈祷を行い、獅子舞を行ったという記述がみられる。この行事は戦前にも行われ、現在も継承されている。獅子が先導役をし、「神儀」「楽打ち」「吹囃子」を演じる。戸島町を4班に分け4年に一度巡回するが、新築住宅に客間がなくなってきたため演じられなくなっている。		
879	獅子舞 祭礼風流	鳴石山神社神儀	安芸高田市向原町戸島	鳴石山神社氏子	鳴石山神社秋の大祭	9月最初の日曜日〈9月15日〉	鳴石山神社とその周辺	毎年	神輿渡御に随う。神輿渡御は永禄の頃(1558-70)始まったと伝わる。構成は先導の赤鬼・青鬼、小榊、幟、獅子(二人立)、御幣、神輿、祭主・巫女、囃子方、鉾持ち、神饌など。青鬼・赤鬼は還御の際、「庭入りの舞」で注連縄を切り舞殿に上がる。一歩進んで一言「一徳、二儀、三陽、四ゲツ、五鬼、六難、七律、八業」と唱え、青鬼が露払いを舞い、赤鬼が悪魔祓いを舞う。楽は笛を中心に太鼓、手打鉦。		市
880	獅子舞 祭礼風流	国貞山神社神儀	安芸高田市向原町坂	国貞山神社総代会	神幸式	7月第2日曜日夏祭 9月第3日曜日秋祭〈9月15日〉	国貞山神社	毎年	文政2年(1819)の「書出帳」に祭礼行列の記載あり。氏子5組により年番で奉納する。舞殿での猿田彦と獅子舞による悪魔祓いに始まり、ついで露祓い(幕)を先頭に榊・猿田彦・獅子頭・神馬・供物・御輿・隋神・神官・氏子総代・囃子方・氏子などが行列を整えて、本殿前を出発する。太鼓を叩き横笛を吹きながら、境内の東の道から西の道をめぐり本殿前まで戻って終了する。笛曲は、公家の出身者により京都風を伝えられたとされる。		市
881	風流踊	盆踊	安芸高田市向原町保垣	保垣清壮年会	お盆	8月14日	保垣集会所(農村広場)〈法成寺・東光坊の境内〉	毎年	櫓の周りに輪になって60人程度が手踊りする。かつては口説きがいたが、現在はいないため向原音頭などの新民謡・歌謡曲に曲を変更した。楽器は太鼓。		
882	風流踊	盆踊・盆唄	安芸高田市向原町長田	明神クラブ	お盆	8月14日	中長田集会所広場(年によっては、下長田集会所広場)	毎年	60年前までは、お寺で聴聞の後に境内で盆踊が行われていた。長田地区の2つのお寺で1年交代で行われていたが、昭和30年代から住民集会所で踊るようになった。「伊勢音頭」で入場し、「長田音頭」「四つ拍子」「いろは口説(山崩しともいう)」「手踊り」「おけさ」と続き、最後再び「伊勢音頭」を踊り終わる。櫓を立てる。楽器は太鼓。		
883	風流踊	盆踊	安芸高田市向原町坂	小鳩子供会、16区など	お盆	8月12日	向原町坂3箇所の運動広場	毎年	昔は円光寺、願船寺で行われていたが、今は広場で行われている。「西条おどり」「三拍子おどり」がある。櫓を立てる。楽器は太鼓、横笛。		
884	風流踊	盆踊	安芸高田市向原町戸島	戸島2区盆踊会	お盆	8月12日	正善寺境内	毎年	戸島町の各区で行われていたが、今は正善寺境内で行われている。現在の曲も変化し「炭坑節」や「向原音頭」など。		
885	祭礼風流	おかげんさん〈管絃祭〉	安芸高田市向原町長田	向原町長田下地域自治振興会	管絃祭	7月17日の近くの日曜日	安芸高田市向原町長田地区	定期	田屋城主であり嚴島神主家の一族・内藤河内守により、嚴島神社から三篠川経由で出雲に向かう神様に当地で休憩してもらうため船着場に迎える目的で始められたという。19時頃から「山がたさん」に提灯を付けて行列をつくり、太鼓、笛、チャンチキ(手打鉦)で中長田から下長田を経て集会所へ帰る。「山たがさん」は、多数の提灯を竹竿に三角形の山の形になるよう取り付けた竿燈。		
886	祭礼風流	新宮神社おかげんさん〈管絃祭〉	安芸高田市向原町坂	坂14区住民組織	管絃祭	8月6日	安芸高田市向原町坂山田地区	定期	嚴島神社から三篠川経由で出雲に向かう神様に当地で休憩してもらうため船着場に迎える目的で始められたという。当日は19時頃から山田地区を上～下まで、荒縄に提灯を付けて太鼓(軽トラに載せて)、笛、すり鉦(手打鉦)ではやし歩く。新宮神社に到着し、伊勢音頭を歌って踊る。		

（14） 江田島市

【調査地区104】 江田島町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
887	神楽 獅子舞 祭礼風流	大歳神社祭礼神楽〈切串神楽、神楽〉	江田島市江田島町切串	切串まちづくり協議会（祭礼主催）、切串自治会	切串大歳神社の秋祭	毎年10月第4土曜日・日曜日〈なかのくんち〉	切串大歳神社	毎年	江田島八幡神社の祭礼行列から派生した芸能。祭礼神楽の名の通り複合的な性格を持つ。現在の所持演目は「神楽（祓払）」「登槍」「斗三郎」「二十四孝」「牡丹」「提婆」。「提婆」は鼻高面で鬼棒を持つ勇者（提婆）が悪事を働く獅子を退治する舞である。獅子は二人立で、口に幣を挟む。舞台はなく、拝殿前の広場などで実施。楽は太鼓、笛。【詳細調査No.25】		
888	獅子舞 祭礼風流	秋月導神社祭礼	江田島市江田島町秋月地区・秋月導神社	秋月共同会祭礼実行委員会	秋月導神社の祭	10月第2週土曜・日曜（例祭のほか、4年に一度の式年祭で祭礼行列を実施）	祭礼行列を行う場合は秋月港広場（集合場所）～秋月導神社	定期（毎年と4年毎）	境内での舞は毎年、行列は4年に一度の式年で演じられる。宵宮では還暦の祝いなどとともに獅子舞、ダイバ（鬼）・お多福の舞を演じる。式年の行列は太鼓を叩きながら、重箱、奴、ダイバ（天狗）、お多福、獅子などの順に行列をなし、出発地点や境内で舞を演じる。過去は大名行列が続いたこともある。現在は神事のみ実施。		
889	風流踊	秋月の盆踊	江田島市江田島町秋月地区	秋月共同会	お盆	8月13日～15日または8月14～16日	江田島町秋月公園	毎年	文政2年（1819）の「書出帳（津久茂村）」に盆踊の記載があり、秋月地区でも同様に行われていたと考えられる。大太鼓に合わせて「さのさ（安芸の宮島・上の関・梅干に紫蘇の葉）」二つ拍子の「お染久松」、左廻りの「山崎三太」、一つ拍子の「鈴木主水」、きやま「那須与一」、「松坂踊」で踊った。（『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』『江田島町史』）		

【調査地区105】 能美町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
890	神楽 獅子舞	八幡神社祭礼	江田島市能美町、沖美町	総代長会、総代会で詳細決定	中町八幡神社の秋祭	9月23日の前後の日〈旧暦8月15日の満月の日〉	御殿、拝殿、境内周辺及び沖の宮（中町桟橋公園）までの道中、沖の宮（旅所）	毎年	西能美島の能美町（中町、鹿川、高田）と沖美町の（三高、沖）の5地域が毎年交代で行い、当番地域は行事の一切を取り仕切る。神楽（ダイバ・お多福・獅子の舞）を、前日（「顔見せ」という。）、当日神事後の社殿及び境内、還御時（「小屋やぶち」という。）の場面で舞う。天狗面のダイバは槍、お多福は薙刀を持ち、獅子は雌雄一対で二人立。歌詞・詞章はない。		
891	風流踊	中町盆踊	江田島市能美町中町	中町盆踊り保存会	お盆	8月14日～16日前の土、日2日間〈旧暦7月14日～17日〉	中町小学校校庭〈中町公民館、中町小学校校庭〉	毎年	櫓に歌い手、太鼓打ちが上がる。踊り手は櫓を囲み輪になって踊る。手踊りが主で大人は「伊勢音頭」「木山音頭」「高下心中」「海老の甚句」、子供踊りは「能美音頭」などで踊る。		
892	風流踊	高田盆踊	江田島市能美町高田	高田盆踊り保存会	お盆	8月14日前の土日2日間〈旧暦7月14日〉	高田交流プラザ〈光源寺境内〉	毎年	櫓に紅白の幕と提灯を飾り、輪踊りをする。手踊りが主で「京屋の娘」「木山音頭」「伊勢音頭」「高下心中」「松坂音頭」などで踊る。楽器は太鼓。		
893	風流踊	鹿川（かのかわ）盆踊	江田島市能美町鹿川	鹿川夏祭り実行委員会（盆踊り保存会）	お盆	8月14日前の土、日曜日〈旧暦7月14日〉	鹿川交流プラザ〈鹿川小学校校庭〉	毎年	物故者追悼法要の後、盆踊を行う。櫓に提灯を飾り、輪踊りをする。手踊りが主で「能美音頭」「松坂音頭」「江州音頭」「二つ拍子」で踊る。楽器は太鼓。		
894	祭礼風流	高田御供御用船	江田島市能美町高田	高田御用船保存会	嚴島神社管絃祭	嚴島神社の管絃祭当日〈旧暦6月17日〉	嚴島一地御前の間	毎年	元禄14年（1701）、荒天に遭った嚴島神社の管絃船団を当地の船が救援し、御神体等を無事還御できたことにより、御用船の権利が譲られたことに由来する。船首にはタレを飾り、船首、船中に長さ1m位の提灯を各1個高く立てる。幟は6枚立てる。船の両横軒に長さ30cm位の提灯計24個吊り下げ、船体両横に紅白の幕を飾る。船尾に日の丸と吹き流し、青竹1本を立てる。船は宮島丸で長さ13m、巾4mのもの。昔は太鼓で囃していた。		

【調査地区106】 沖美町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
895	風流踊	岡盆踊	江田島市沖美町岡	沖盆踊保存会	お盆	〈旧盆を中心に約1週間〉	個人宅の畑　⇒ 個人宅の庭　⇒ 専念寺境内	毎年	昭和初期には既に踊られていた。櫓に口説きが上がり、櫓の横に大太鼓を置く。踊り手は櫓の回りを輪になって「まつさか音頭」や「木山節」で踊る。旧盆の1週間、毎日午後8時頃から日の出まで踊り、期間中に是長から「団七」を演じてもらったという。浴衣に襷掛け姿で、女性は花柄付きの編笠を着けていた。昭和40年頃に畑・岡・大王の3地区の盆踊を統合し、沖地区の専念寺で踊るようになった。	中断（昭40代後半～）	

896	風流踊	沖盆踊	江田島市沖美町沖地区	沖盆踊り保存会	お盆	8月15日に近い2日間(できるだけ土日を含む)	呉農協沖支店前広場(昭和60年代までは専念寺境内)	毎年	昔は畑・岡・大王の地区毎で行われていたが、昭和40年頃に統合し、専念寺で踊るようになった。初日は供養行事を行った後に盆踊を行う。櫓を中心に踊り手が輪になって踊る。口説きは櫓の上で声を上げ、太鼓は櫓の下脇にてたたく。「ぼうずおとし」等を「まつさか」「きやま」調で口説くという。昔は浴衣に襷掛け(男性は片襷、女性は両襷)姿で踊っていた。		
897	風流踊	高祖(こうそ)盆踊	江田島市沖美町高祖地区	現在は老人クラブと自治会	高祖盆踊り会	8月14日～8月16日	現在は高祖多目的集会所前広場	毎年	大正末期には高照寺(現在は廃寺)境内で盛んに踊られていた。櫓に太鼓を載せる。歌い手とお囃子は櫓の周りを輪になり、幣(色紙や毛糸、最近はプラスチックや縄で作った)を持って踊る。演目は「木山節」「踊りこみ」が伝わる。昔は仮装した踊り手もいた。		
898	風流踊	三吉盆踊	江田島市沖美町三吉	三吉Ⅰ自治会	お盆	8月13日～8月16日の内1日〈旧盆〉	徳正寺境内	毎年	先祖供養。明治初期には既に踊られていた。昭和期までは寺総代会を中心に運営され、平成頃に町内会・自治会主体となった。櫓の周りを、幣(色紙・毛糸・プラスチック・縄で作った棒)を両手に持って輪になって「伊勢音頭」やいろいろな口説きで踊る。以前は仮装大会もあった。		
899	風流踊	是長盆踊	江田島市沖美町是長	是長盆踊保存会	お盆	〈8月13日から1週間〉	昭和40年代まで長徳寺境内、以後は是長港近くの広場	毎年	昭和初期には既に踊られていた。櫓に口説きが上がり、櫓の横に大太鼓を置く。踊り手は櫓の回りを輪になって「お染久松」「坊主おとし」「阿波の十郎兵衛」「お夏清十郎」などで踊る。旧盆の1週間、毎日午後8時頃から日の出まで踊り、午後11時頃には「団七」を演じたという。浴衣に襷掛け姿で、女性は花柄付きの編笠を着けていた。	中断(昭50代後半～)	
900	風流踊	大王盆踊	江田島市沖美町大王		お盆	〈旧盆を中心に約1週間〉	専念寺境内	毎年	昭和初期には既に踊られていた。櫓に口説きが上がり、櫓の横に大太鼓を置く。踊り手は櫓の回りを輪になって「まつさか音頭」や「木山節」で踊る。旧盆の1週間、毎日午後8時頃から日の出まで踊り、期間中に是長から「団七」を演じてもらったという。浴衣に襷掛け姿で、女性は花柄付きの編笠を着けていた。昭和40年頃に畑・岡・大王の3地区の盆踊を統合し、沖地区の専念寺で踊るようになった。	中断(昭40代後半～)	
901	風流踊	畑盆踊	江田島市沖美町畑	地区住民	お盆	〈旧盆を中心に約1週間〉	空久保氏宅庭 ⇒ 平田氏宅庭 ⇒ 専念寺境内	毎年	昭和初期には既に踊られていた。櫓に口説きが上がり、櫓の横に大太鼓を置く。踊り手は櫓の回りを輪になって「まつさか音頭」や「木山節」で踊る。旧盆の1週間、毎日午後8時頃から日の出まで踊り、期間中に是長から「団七」を演じてもらったという。浴衣に襷掛け姿で、女性は花柄付きの編笠を着けていた。昭和40年頃に畑・岡・大王の3地区の盆踊を統合し、沖地区の専念寺で踊るようになった。	中断(昭40代後半～)	
902	風流踊	美能盆踊	江田島市沖美町美能	美能自治会	お盆	8月13日	美能漁協前広場	毎年	昭和初期には既に踊られていた。櫓の上に歌い手と太鼓打ちが1人ずつ上がり、櫓を取り囲むよう輪になって踊る。「木山」や「まつさか」など4曲が古くから伝わる。		
903	風流踊	志賀団七〈団七〉	江田島市沖美町是長	青年団	お盆	是長とその周辺の盆踊り行事〈盆踊の期間中、毎日夜11時頃〉	長徳寺境内、後に是長港近くの広場	毎年	盆踊で口説きが歌う「志賀団七」を題材として、芝居風に仕立てたもの。明治初期からあったとも伝わる。太田川流域で流行した段物と同様のものと思われる。演者は仇である志賀団七、親の仇を討とうする姉妹、仇討ちを助ける道化者。青年団の若者たちが担い手で人気があり、周辺の地区にも招かれた。	中断(昭和50年代)	

【調査地区107】 大柿町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
904	獅子舞祭礼風流	新宮八幡宮秋祭	江田島市大柿町・新宮八幡宮	新宮八幡宮氏子会	新宮八幡宮秋祭	11月第2週土曜日・日曜日	新宮八幡宮	毎年	大原、柿浦、深江、大君の四地区で年番により担当する。神輿渡御にダイバ、お多福、獅子が同行する。八幡宮境内や地区ごとの指定場所で囃子の演奏があり、鼻高面のダイバによる棒舞、鉾を持つお多福の舞、獅子舞が奉納される。地区によっては喧嘩神輿もある。楽器は太鼓、笛、チャギリ(手拍子)で、太鼓は撥を回しながら勇壮に舞い打つ。獅子舞は二人立で、獅子頭にたくさんの榊葉を付け、頭を高く掲げたり、左右に飛び跳ねながらダイナミックに舞う。		
905	風流踊	盆踊	江田島市大柿町柿浦	柿浦地区自治会(柿浦盆踊り推進協議会)	柿浦地区夏祭	8月14、15日	柿浦桟橋駐車場	毎年	新盆法要の後、盆踊を行う。櫓を立て、口説きは櫓の上から口説く。太鼓叩きは櫓に上がらず、地上で太鼓をたたく。櫓の周りを輪になって、「木山」で踊る。口説きは「鈴木主水」「石童丸」。昭和50年頃まで妙覚寺境内・柿浦地区旧児童館広場の2箇所で実施していた。		
906	風流踊	盆踊	江田島市大柿町・妙慶寺	明慶寺(夏祭の主催団体は大古地区自治会)	大古地区夏祭	8月13日	大古小学校〈昔:明慶寺境内〉	毎年	もとは明慶寺境内でお盆の供養として踊られていた。櫓は設けず、輪になって「一つ拍子」「宮島さん」で踊る。かつては「木山」もあったが、踊りが難しいため今は演じていない。楽器は太鼓。		

（15） 府中町

【調査地区108】 府中町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
907	神楽	山田十二神祇神楽	安芸郡府中町山田	山田十二神祇保存会	多家神社の春の大祭、田所神社の秋の大祭	3月末に近い日曜日、10月第2日曜	多家神社神楽殿、田所神社仮設舞台	毎年	十二神祇。300年以上前に始まったといわれている。多家神社に山田・石井城で一年交替で奉納していた。昭和30年代から一時途絶えたが、山田地区は平成3年に復活。所持演目は「拝殿ノ原」「初息」「幣舞」「一の刀」「鬼縛り」「胡子舞」「二刀舞」「長刀舞」「三韓」「岩戸」「王子」「荒平（関の舞）」。この中から4～6演目ほど舞う。舞台には天蓋を吊る。楽器は大太鼓・小太鼓・横笛・手打鉦・竹など。昔は花火を打ち上げていたと伝わる。		
908	神楽	石井城十二神祇神楽	安芸郡府中町石井城	石井城神楽団	多家神社秋の例大祭	多家神社秋の例大祭	多家神社神楽殿	1年毎	十二神祇。300年以上前に始まったといわれている。現広島市東区中山地区から伝わったという。多家神社へは山田の神楽組織と一年交代で奉納していた。所持演目は「拝殿ノ原」「初息」「幣舞」「一の刀」「鬼縛り」「胡子舞」「二刀舞」「長刀舞」「三韓」「岩戸」「王子」「荒平（関の舞）」。	中断（昭30頃～）	
909	田楽 祭礼風流	山田牛祭	安芸郡府中町山田	府中町山田町内会	多家神社秋の例大祭	10月第3日曜日〈旧正月2月1日〉	多家神社本殿	不定期	750年以上前(鎌倉時代)から伝承しているといわれる農耕祭礼行事（予祝祭）。江戸時代末期に当地の一守長者が牛馬供養のため旧暦2月1日を牛を祀る日として始めたとする説もある。牛の頭部の模型に竹で編んだ胴体を重ね、その中に大人が2人入り道中を暴れ廻る。この牛に主催者・一守長者、代掻、えぶり持、早乙女が続く。牛祭り歌や田植踊、太鼓・樽による囃子を伴う。古くは生きた牛が出ていた。【詳細調査No.26】		
910	風流踊	盆踊	安芸郡府中町	各町内会や盆踊同好会	盆踊大会	〈旧暦7月13～16日の数日間〉	府中公民館〈小学校の校庭、竜仙寺、教徳寺境内、埃宮石段下など〉	毎年	踊りは府中踊りから、きそん踊り、大河踊りと続き、それでも踊り足りないものは、近隣の大河や淵崎（いずれも現広島市南区）まで出かけた。（『安芸府中町史　第2巻』）。		
911	祭礼風流	シャギリ	安芸郡府中町辻	辻地区の住民	多家神社の秋の大祭、三翁神社紅白餅まき（12月第3日曜日）	毎年10月の第3日曜日	多家神社など	毎年	戦国時代に士気高揚のため鳴り物を盛んに打ち鳴らしたことが始まりとされる。多家神社の秋の大祭において、編笠・浴衣姿で、府中音頭の囃しで踊りながら、各地区から神社まで練り歩く風流。府中町の各地区で演じられていたが、現在辻地区だけが残った。		
912	その他	亥の子まつり	安芸郡府中町	自治会〈昔は青年会、青年団〉	亥の子まつり	11月〈旧暦10月初亥の日〉	府中町内各集落	毎年	府中では収穫祭を兼ねて亥の子祭りが行われ、明治後半には青年会を中心に、代々集落に伝わる亥の子石（男石・女石）を紅白の紙や竹で飾り付け、祭壇に前日まで供物とともに置き、当日は赤鬼青鬼の先導で集落各家を廻り、土間や庭先で太鼓と囃子言葉で亥の子石を搗いていたという。現在も、祭壇を設けて行う神事と、赤鬼青鬼の先導、子供たちが太鼓と囃子言葉に合わせて亥の子石を搗く行事が残る。		

（16） 海田町

【調査地区109】 海田町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
913	獅子舞 祭礼風流	熊野新宮祭礼の頂載・獅子舞	安芸郡海田町	頂載：新町、稲荷町、仲店、上市の4組	熊野神社秋祭	〈10月第2土日〉	熊野神社や海田町内	毎年	頂戴は約1.8メートル四方の屋台に杉丸太を通した巨大な山車で、海田市の新町・稲荷町・中店・上市の4台があった。若連中と中老組計数十名が町を練り歩き、他の組の頂載と行きあった時に喧嘩がおこる。頂戴の中には太鼓が乗り、4人の子供が叩く。獅子舞は現広島市船越町竹浦地区より伝わったといわれ、明治時代以降に始まった。鬼の先導で町中を練り、屋外や民家の座敷で笛・手打鉦・小太鼓の囃子に合わせて舞う。一人立で、幣と鈴を持ち、獅子頭は五色の短冊を付けた榊葉で飾り付ける。	中断	
914	田楽	大田植・牛供養	安芸郡海田町	地域の農家	地域の田植（実施後その年の泥落としとなる）	〈5月中頃・巳・午の日は避けた〉	地域の大田	定期	各家の田植が済んだ頃、集落の皆で集まって大田植を行った。昔は各家で協力して「もやい植え」をするため、多くの家では大田用牛鞍を持っていた。	中断	
915	風流踊	盆踊	安芸郡海田町	海田盆踊運営委員会が主催	盆踊大会	〈旧暦7月14日～16日〉	東海田公民館広場など	毎年	古くは太鼓を中心に人々が音頭に合わせて輪になって踊っていたが、次第に中心に櫓を立て高提灯を飾るようになった。明治時代に「きそん」が踊られるようになり、口説きは「鈴木主水」「安珍清姫」「熊谷直実」があった。戦前に当時の流行から「飯ノ山心中」や日本各地の民謡が唄われるようになった。戦後には「佐渡おけさ」「炭坑節」「黒田節」「花笠音頭」へと変化した。	中断	

916	祭礼風流その他	七夕	安芸郡海田町	地域の子供たち	七夕（この日に井戸がえと硯を洗う）	7月7日〈旧暦7月7日〉	町内	毎年	家々で笹を立て、これに願い事を書いた短冊や紙人形・月星などの切り紙で飾りつけた。夕方になると、子供たちが笹を持って行進した。行列の先頭は太鼓や鉦（後年は空になった一斗缶）を棒に吊るして2人で担ぎ、それを叩きながら全員で「七夕さんがノウノウ～」の唄で囃して町内を回った。家に立てていた笹はこの行列のあとに続き、川まで行進して流した。現在は七夕の行進は行わず、平成7年以降瀬野川河川敷に笹飾りをし、出店が並ぶ「かいた七夕さん」という新たなイベントとなる。		

（17） 熊野町

【調査地区110】 熊野町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
917	獅子舞	榊山神社秋祭の獅子舞	安芸郡熊野町	地域住民	榊山神社秋季例祭の4、5日前まで	〈10月29日の秋祭の10日くらい前〉	氏子宅	毎年	榊山神社秋季例祭日の前に氏子の各家々を巡る。獅子・神職・お札をもらう人・太鼓・笛の一行で、家の表口から入って裏から出る。道順もほぼ決まっていた（『熊野町史　生活資料年表編』）。昭和46年に途絶えたが、藩政期の獅子頭が現存する。	中断（昭46～）	
918	田楽	大田植	安芸郡熊野町出来庭区、初神区、新宮区	地域の農家	大田植（泥落とし）	6月〈半夏〉	出来庭の大歳神社前の田など地域の大田	毎年	昭和初期まで。それぞれの田植が終わった半夏の頃に、大地主がヨロコビとして執り行った。牛には花鞍を載せ、名字の入った幟を立てた。地主は代掻き役や早乙女に浴衣を配ったという（『熊野町史　生活資料年表編』）。早乙女が笛や太鼓の囃しで、植えるまねをする。	中断（昭和初～）	
919	風流踊	榊山神社神楽踊り〈神楽踊〉	安芸郡熊野町城之堀地区、萩原地区	城之堀夏祭り実行委員会、萩原自治会	城之堀地区および萩原地区の夏祭	お盆	城之堀老人集会所、萩原老人集会所〈榊山神社〉	毎年	弘治2年（1556）宮島合戦の翌年から始まったと伝わる。疫病と害虫を撲滅する祈願の願ほどきの踊りとして、熊野町域6地区の榊山神社氏子によって演じられた。昭和10年の記録には、神楽踊の35曲が掲載されている。現在はお盆の時期に城之堀地区（宮島踊）、萩原地区（牛若踊）で踊られている。踊の構成は主にニワカイ（祈願口上・棒術役）、ドウトリ（太鼓打ち）、踊り手の3役。【詳細調査No.27】		町
920	風流踊	新宮盆踊〈田の実祭り〉	安芸郡熊野町新宮	榊森神社氏子総代会他	田の実祭り	8月最後の土曜日	榊森神社境内	毎年	現在は榊森神社の五穀豊穣の祈願祭に合わせて盆踊りを行う。中心の櫓に大太鼓と打ち手が上がり、踊り手はその周りに輪になって「熊野音頭」などを踊る。かつては、住田屋敷などで団扇踊り（口説きで手踊りをする）を踊っていた。		
921	風流踊	川角（かわすみ）盆踊	安芸郡熊野町川角	地域住民	盆からたのみの間の日	盆からたのみの間の日	貴船神社	毎年	盆からたのみの間の日に「七社の踊り」を踊った。かつては、足の動きが特徴的な「きそん」を踊っていたが、後に「呉踊り」「じゃんじゃん踊り」を踊るようになった（『熊野町史　生活資料年表編』）。		
922	風流踊	平谷盆踊	安芸郡熊野町平谷	地域住民	お盆	お盆	地域の寺	毎年	「呉踊り」を踊る（『熊野町史　生活資料年表編』）。		

（18） 坂町

【調査地区111】 坂町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
923	神楽	中村迫亥の子神楽	安芸郡坂町坂東中村地区	中村迫亥の子神楽保存会	亥の子祭やイベント	11月23日〈旧暦10月の亥の日〉	中村地区荒神社境内、地区内有志宅	毎年	毎年11月、地域の亥の子祭に併せて演じられる神楽。中村地区では文政6年（1823）から始められたと考えられる。昼間に地区内を亥の子石を搗いて回り、夜に亥の子神楽を行う。悪魔を退治し収穫祝いと子孫繁栄を祈念して演じられる。演目「岩戸舞」「弓舞」「綱舞」「鬼斬り舞」「鯛釣り舞」の5景を舞う。岩戸舞は舞姫ときじき大明神による岩戸開きの舞、弓舞・綱舞・刀舞は弓名人と渡辺綱が大鬼小鬼を退治する舞である。【詳細調査No.28】		
924	神楽	刎条（はねじょう）亥の子神楽	安芸郡坂町坂東刎条地区	刎条地区亥の子神楽保存会	亥の子祭やイベント	11月23日〈旧暦10月の亥の日〉	新張公園、刎条集会所	毎年	毎年11月、地域の亥の子祭に併せて演じられる神楽。昼間に地区内を亥の子石を搗いて回り、夜に亥の子神楽を行う。悪魔を退治し収穫祝いと子孫繁栄を祈念して演じられる。演目「幣舞い」「刀舞い」「二丁刀舞い」「薙刀舞い」「笹舞い」「幣舞い」「天の岩戸」「鬼斬り」「鯛釣り」の9景を舞う。鬼斬りは、弓の神と渡辺綱が親鬼小鬼を退治する舞である。【詳細調査No.29】		
925	獅子舞	獅子舞〈上條獅子舞〉	安芸郡坂町・八幡山八幡神社、上條地区	上條地区獅子舞保存会	坂八幡神社秋祭	10月第2日曜日	坂八幡神社境内	毎年	八幡山八幡神社秋祭の寄進物（奉納行事）の一つ。年代未詳だが、坂の住人が奈良で獅子舞を習って帰り、それを上條地区で芸能一座の座長をしていた南本民之一が現在の舞にまとめたという。舞人は黄金色の獅子頭をつけて袴を着て、鈴・幣を持ち舞行列の先頭に立ち楽に合わせて舞う。抑揚の大きい舞が特徴。獅子の後を太鼓・笛・鉦の楽が並び、大人の笛はこの行列の両側に並び10人前後で吹く。行列の前を鬼が警護する。		
926	獅子舞	獅子舞〈小屋浦獅子舞〉	安芸郡坂町小屋浦、小屋浦新宮社	小屋浦地区住民福祉協議会	小屋浦新宮社祭礼	10月第3日曜日	小屋浦新宮社境内	毎年	小屋浦新宮社秋祭の寄進物（奉納行事）の一つで、明治33年、坂町内から小屋浦住人が獅子舞を習得したことに始まる。神輿還御の後、頂載・俵・御輿が揉みながら移動する後部で舞う。獅子舞は二人立で、囃子は太鼓2人、鉦2人、笛10人程度。獅子舞一行を含む祭礼行列は、鬼（マッカ）が先導して警護する。		

927	獅子舞	獅子舞〈西側獅子舞〉	安芸郡坂町・八幡山八幡神社、西側地区	西側地区獅子舞保存会	坂八幡神社秋祭	10月第2日曜日	坂八幡神社境内	毎年	八幡山八幡神社秋祭の寄進物(奉納行事)の一つ。年代未詳だが、坂の住人が奈良で獅子舞を習って帰り、それを受け継いでいると伝えられている。舞人は赤い獅子頭をつけて鈴・幣を持ち舞行列の先頭に立ち楽に合わせて舞う。優雅な舞が特徴。獅子の後を太鼓・鉦が並び、行列の両側で笛を吹く。鬼はこの行列の通路を確保する。		
928	風流踊	盆踊	安芸郡坂町内各地区	各地区住民福祉協議会	盆踊大会、潮の香祭り	8月13日から15日のうち1、2日	地域の公園、寺院境内、小学校校庭	毎年	櫓の周りを輪になって踊る。「長楽踊り」「竹踊り」「鈴踊り」「扇子踊り」がある。歌い手(ユルギ)が入る場合は、内側の輪をユルギが右回りに踊り、その外側を踊り手が左回りに踊る。口説きは「石童丸」「お夏清十郎」「鈴木主水」「保木城の嵐」などが伝わる。楽器は太鼓・笛。		
929	祭礼風流	刎条頂載	安芸郡坂町坂東刎条地区	刎条地区住民福祉協議会	八幡山八幡神社秋祭	10月第2土・日曜	神社参道や境内	毎年	八幡山八幡神社秋祭の寄進物(奉納行事)の一つで、江戸時代中期から続く。頂載は屋根の中心に鉾を立てて吹き流しを付け、内部に太鼓を据えて稚児が乗る構造。担ぎ手が伊勢音頭を囃し、掛け声とともに頂載を持ち上げては地面に落としたり、大きく左右前後に傾けたりして非常に荒々しく揉む。その間も稚児は頂載の中で太鼓を叩き続ける。		
930	祭礼風流	浜宮頂載	安芸郡坂町坂東浜宮地区	浜宮地区住民福祉協議会	八幡山八幡神社秋祭	10月第2土・日曜	神社参道や境内	毎年	八幡山八幡神社秋祭の寄進物(奉納行事)の一つ。土曜日の宵頃では恵美須社前を出発して参道を練り、神社境内階段を上がり境内で揉む。日曜日の本祭では境内で揉み、階段を下りて石碑前で休憩して再度鳥居と参道の間で揉む。太鼓の叩き方は1種類だけだが、囃し歌は伊勢音頭で30種類以上の音頭がある。担ぎ手は頂載を持ち上げては地面に落としたり、大きく左右前後に傾けたりして非常に荒々しく揉む。その間も稚児は頂載の中で太鼓を叩き続ける。		
931	祭礼風流	曳船	安芸郡坂町横浜地区	横浜戸主会	八幡山八幡神社秋祭	10月第2土・日曜	横浜西公園前、神社参道や境内	毎年	八幡山八幡神社秋祭の寄進物(奉納行事)の一つ。寛延2年(1749)から続く。曳船は武具・吹き流し・のぼり・提灯などを飾り、内部に太鼓を据えている。この船に成人の乗り子が1人乗って太鼓を叩く。町内を練り、神社の階段を担ぎ上げ、境内でも揉む。波穏やかな凪や、怒涛にもまれて航海する様子を、法螺貝と荘重な曳船音頭、大船頭の指揮のもと、揃いの法被・腰巻姿の若者が担いで演じる。		
932	祭礼風流	中村屋台	安芸郡坂町坂東中村地区	中村地区住民福祉協議会	八幡山八幡神社秋祭	10月第2土・日曜	神社境内、中村屋台収納庫前	毎年	八幡山八幡神社秋祭の寄進物(奉納行事)の一つで、西暦1800年前後から続くとされる。現在は神社境内の中村屋台収納庫前に屋台を披露し、祭りの期間囃子を流す。吹きはやしには「逗留」「新はやし」「車はやし」「ようずはやし」「祇園はやし」「楽」「おふな」がある。昔は屋台を参道に出して、屋台狂言を森浜の屋台と競演していたという。		
933	祭礼風流	森浜屋台	安芸郡坂町坂西森浜地区	森浜地区住民福祉協議会	八幡山八幡神社秋祭	10月第2土・日曜	神社参道から鳥居の間	毎年	八幡山八幡神社秋祭の寄進物(奉納行事)の一つ。屋台は屋根の中心に鉾を立てて吹き流しを付け、内部には囃子方の席、外部には子供が乗る構造を持つ。囃子方は笛・鉦・太鼓で「逗留」「新はやし」「車はやし」「宮参り」「祇園はやし」「楽」「おふな」を奏す。		
934	祭礼風流	小屋浦頂載	安芸郡坂町小屋浦	小屋浦地区住民福祉協議会	小屋浦新宮社祭礼	10月第3土・日曜日	小屋浦新宮社境内	毎年	小屋浦新宮社秋祭の寄進物(奉納行事)の一つで、明治31年から続く。土曜日の宵頃では神社境内の下から階段を担ぎ上げる。頂戴は屋根の中心に鉾を立てて吹き流しを付け、内部に太鼓を据え、稚児が乗る構造。日曜日の本祭では神輿が饅頭山に行くのを阻止するため、頂載がその道中、俵と神輿と揉み合いながら境内を移動する。饅頭山に到着し「還御の儀」が終わると、同様に揉み合いながら饅頭山から下りてゆく。		
935	その他	雅楽	安芸郡坂町上條地区	坂雅正会	各種行事(一般向け公演、学校での体験学習、寺社での式典)	随時	各施設における舞台など	不定期	明治26年、坂村在住の林正市氏が鹿児島別院建立の際に小河原格亮氏より習い、仕事仲間や親せきの人たちに教えたのが会の始まりという。雅楽は壹越調・平調・雙調・黄鐘調・盤渉調・太食調とあるが、主に平調の楽を演奏する。三管(龍笛・鳳笙・篳篥)と三鼓(太鼓・鞨鼓・鉦鼓)並びに両弦(楽琵琶・楽等)の8楽器を使用する。		町

(19) 安芸太田町

【調査地区112】 旧加計町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
936	神楽	湯立神楽	山県郡安芸太田町加計	加計神楽保存会	長尾神社秋の例祭(朝)	10月10日(9月15日)	長尾神社、着天神社	毎年	加計の神楽の歴史は古く、正徳5年(1715)長尾大明神の神職・佐々木筑後と氏子5名が京都で岩戸神楽を興行したことや、宝暦4年(1754)鉄山を経営していた隅屋が毎年湯立神楽を奉納した記録がある。湯立神楽は祭祀の前の浄め祓いの神事「湯立」と、続いて行われる「湯立舞」からなる。湯立舞は素面の舞人3人と楽(大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛)で構成され、幣舞と太刀舞の二段からなる。		県
937	神楽	川北神楽	山県郡安芸太田町加計	川北神楽団	滝本大歳神社秋祭	10月第2土曜日	滝本大歳神社	毎年	明治26年上調子神楽組として発足。上調子山崎神楽団を経て上山神楽団に改組後、昭和48年現在の団体名となる。所持演目は「四方祓」「尊神」「八幡」「四神(町指定)」「神武」「安達ケ原」「塵輪」「恵比須」「大江山」「鍾馗」「八岐大蛇」。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。昭和8年新調の神楽幕、同年代の衣裳箱などが現存する。		町

938	神楽	高下(こうげ)神楽	山県郡安芸太田町下筒賀	高下神楽団	高下大歳神社秋祭	10月第1土曜日	高下大歳神社	毎年	高下神楽団は創設130年以上で、旧舞を伝承している。所持演目は「頼政のヌエ退治」「潮払い」「尊神」「神迎え」「人倫」「岩見重太郎」「頼政」「大楠公」「大江山」「八岐大蛇」「恵比寿」。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		
939	神楽	木坂(きざか)神楽	山県郡安芸太田町下筒賀	木坂神楽団	殿賀八幡神社夏まつり、殿賀八幡神社八朔祭、木坂大歳神社秋祭	6月第2日曜日、8月第4土曜日、11月第1日曜日	木坂大歳神社	毎年	組織の設立130年以上前といい、神楽は明治25年頃、現島根県邑智郡邑南町矢上の職人から伝習したという。所持演目は「四方祓い」「四神」「宇佐八幡」「塵倫」「鈴鹿山」「天の岩戸」「胴の口明」「鐘馗」「新羅三郎源義光」「那須野ケ原」「大江山」「八岐大蛇」。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		
940	神楽	堀神楽	山県郡安芸太田町下殿河内	堀神楽団	堀八幡神社夏祭、住吉神社管絃祭、堀八幡神社八朔祭、堀八幡神社秋季例大祭(前夜祭)、堀神楽団感謝祭	6月第2日曜日、7月大潮の日、8月最終土曜日、10月第1日曜日前日、11月第4土曜日	堀八幡神社	毎年	寛政8年(1796)作の面箱が現存し、200年以上の歴史を有すると考えられる。矢上系六調子(旧舞)を舞う。所持演目は「塩祓い」「尊神」「神迎え」「胴の口開け」「恵比寿舞」「弓八幡」「天の岩戸」「鐘馗」「安達ヶ原」「塵倫」「神武」「金沢の巻」「羅生門(前・後編)」「大江山」「八岐大蛇」。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		
941	神楽	安野神楽	山県郡安芸太田町穴	安野神楽団	本郷鷹崎八幡神社秋祭、安野地区秋祭、その他奉納神楽やイベント		本郷鷹崎八幡神社など	毎年	明治42年に本郷奉楽会発足。その後大正初期に本郷神楽団に改称。一時中断していたが昭和55年安野神楽団として再開。所持演目は高田系八調子と矢上系六調子。「葛城山」「四方祓」「滝夜叉姫」「塵倫」「戻り橋」「東夷征伐(日本武尊)」「紅葉狩」「八岐大蛇」「狐退治」「恵比須」「山姥」「大江山」「熊襲征伐」「鍾馗」。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		
942	神楽	津浪神楽	山県郡安芸太田町津浪	津浪神楽団	津浪地区各社秋祭、太刀納めなど	10月、12月	津浪河内神社	毎年	昭和6年津波神楽団創立。旧舞を主とした演目を所持する。「四方祓」「弓八幡」「塵倫」「鍾馗」「大楠公」「大江山」「天の岩戸」「八岐大蛇」「恵比須」「紅葉狩」「那須野ケ原」「四神」「胴の口明」。楽は大太鼓・小太鼓・手打鉦・横笛。		
943	田楽	殿賀(とのが)田楽	山県郡安芸太田町下殿賀河内、下筒賀	殿賀田楽保存会、殿賀田楽少年団(殿賀小学校)	各戸の田植が終わり、地区の大田植を共同田植する時期、田楽大会	5月下旬	小学校のグランドなど		昭和の初期に田楽団を結成。ささら、大太鼓、小太鼓、手打鉦の各役と早乙女で構成される。古くから伝わる八調子と、六調子、中の調子の3調子で、ササラ役と早乙女が掛合唄を歌って田植の所作を行う。		町
944	田楽	安野田楽・花田植	山県郡安芸太田町穴		各戸の田植が終わり、地区の大田植を共同田植する時期、田楽大会			不定期	昔はもやよい(田植組)で家々の田植をし、それらが終了すると泥落しとして行った。何度か中断はあったが、平成3年には早乙女30人・飾牛8頭により地域のほ場で盛大に演じた。		
945	風流踊	津浪太鼓おどり	山県郡安芸太田町津浪	津浪太鼓おどり保存会	盆や秋祭〈近代は戦勝記念←旧暦の7月1日〉	〈旧7月1日〉	正福寺、小学校校庭	不定期	江戸時代末期の記録に、16世紀末に出雲国在住の神田福一という人物から踊りを伝習したとある。虫送りの行事と豊年踊、さらには家ほめ、庭ほめの祝賀踊りが習合したものだという。先導役は鬼の棒の若武者で、朱槍の奴、大勢の踊り子が続き、一団を成す。道行ではささらと手打鉦、横笛、花笠・ゆかたにタスキ掛けの踊り子が小太鼓をたたきながら囃す。優れた歌詞を多く残す。		県
946	風流踊	加計げんこつ踊り	山県郡安芸太田町加計	加計げんこつ踊り保存会	イベントなど				江戸期の虫送り、鳥追い踊、豊年踊に由来するとされる。大勢の踊り子が燈籠を背負って左手に提灯、右手に鳴子を打ち鳴らし踊る。「げんこつ」の名はその所作からつけられたとも、明治初頭の凶年に麻の二度蒔きに成功して、喜んだ若者達が踊り出し少々騒いだことからとも伝わる。丁川郷の稲荷社に夜燈を献燈する時には盛大に踊られたという。		町

【調査地区113】 旧筒賀村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
947	神楽	梶原神楽	山県郡安芸太田町大字上筒賀本郷	梶原神楽団	秋祭	11月第1土曜日	大歳神社	毎年	筒賀の神楽は歴史が古く、寛延3年(1750)当時の神職・池田氏も神楽を所持していたこと、翌年の寛延4年(1751)以降苧勧進で神楽道具を新調していること、安永4年(1775)神職主導の氏子を加えた神楽組織が存在していることなどが史料から確認できる。明治期には矢上系六調子の舞を複数回移植した。「奉幣」「四方祓い」「尊神」「四神」「八幡」「頼政」「天神」「神武」「塵倫」「鐘馗」「大国」「大塚」「大江山」「天の岩戸」「八岐の大蛇」「胴の口」。舞殿に天蓋を吊る。楽は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
948	神楽	三谷神楽	山県郡安芸太田町筒賀三谷	三谷神楽団	秋祭	11月第1土曜日	三谷八幡神社	毎年	矢上系六調子。明治10年代に三谷八幡宮の氏子による神楽団が発足。「四方払」「胴の口」「尊神」「八幡」「塵倫」「頼政」「熊襲」「鐘馗」「四神」「矢幡」「鹿島」「大江山」「日本武尊」「黒塚」「天の岩戸」「恵比須」「矢岐の大蛇」。舞殿に天蓋を吊る。楽は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		

949	神楽	坂原(さかばら)神楽	山県郡安芸太田町大字上筒賀坂原	坂原神楽団	秋祭	11月2日の夜	坂原大歳神社内及び(旧)坂原小学校講堂	毎年	筒賀の神楽の歴史については梶原神楽を参照。坂原大歳神社における神楽記録は、文化7年(1810)「四ノ宮大歳明神御神楽為天下泰平五穀成就万民豊楽他」が現存する。旧舞とそれより古いとされる旧々舞がある。旧々舞は昭和30年代までは「十二カンドで表と裏がある」という。「奉幣」「潮祓い」「尊神」「四神」「天の岩戸」「鐘馗」「塵倫」「天神」「八幡」「頼政」「恵比須」「八岐の大蛇」「大江山」が旧舞。「湯立」「荒平」「四ツ大刀」「七五三口」「八ツ花」「猿田彦」「胴の口開」が旧々舞。舞殿に天蓋を吊る。		県
950	田楽	田楽	山県郡安芸太田町大字中筒賀(松原、正地、山崎、山の廻り)	第一田楽団	花田植	各戸の田植が終わり、地区の大田植を共同田植する時期、田楽大会	各地区の大田	不定期	明治35年頃佐伯郡上水内村橋山(長谷山ヵ)より伝習し、松原田楽団を結成。昭和15年には周辺地区との合同組織に改組(第一田楽団)。音頭取りはササラ、胴取りは大太鼓、拍子、早乙女は笛(模造)、楽は小太鼓、笛。衣装は音頭取りと胴取りは浴衣、タスキ、早乙女は女性用浴衣、タスキ、楽も同様。全員がスゲ笠をつける。囃子は六調子と八調子がある。田植の際、胴取りは畦畔に並び、早乙女が苗を植える。	中断	

【調査地区114】 旧戸河内町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
951	神楽	大歳神社の昼神楽〈大歳舞、大歳の舞〉	山県郡安芸太田町戸河内689　戸河内一宮大歳神社	本郷神楽団	秋祭(氏神祭、氏子祭、秋の節句)	大歳神社の秋季大祭(11月第1土曜日を大祭の前夜祭に設定する)正午前後〈11月3日、それ以前は10月22日〉	大歳神社の神楽殿、各地の文化ホール	毎年	本郷神楽が所持する演目の一つ。4人の舞人が幣と鈴を採り物とし、米を撒き散らして舞い、その年の禍福を占う。最後に氏子にお久米を配る。演目は一つで、その舞い方は「舞い掛り」「突きさんで」「引きさんで」「よなれ」「しょうぎょう」「三宝米」「嬉の舞」からなる。途中で神歌や四季の歌を詠む。【詳細調査No.30】		
952	神楽	本郷神楽〈神楽〉	山県郡安芸太田町戸河内689　戸河内一宮大歳神社	本郷神楽団	秋祭(氏神祭、氏子祭、秋の節句)	大歳神社の秋季大祭(11月第1土曜日を大祭の前夜祭に設定する)〈11月3日、それ以前は10月22日〉	大歳神社の神楽殿、各地の文化ホール	毎年	大歳神社直属の神楽団として組織され、現在に至る。江戸時代中期、戸河内村では神職と氏子による神楽組織が活動していたことが史料からも認識できる。明治期より当地の神楽に旧舞を取り入れた。所持演目は「大歳(大年)舞」「四方祓」「奉幣」「神祇太鼓」「尊神」「四神」「天岩戸」「塵麟」「鍾馗」「八岐大蛇」「悪狐伝」「将軍」「八つ花」「紅葉狩」「王子」「羅生門」「鯛釣り舞」「恵比須」「手草」「荒神」「折」「注連口」。過去には最後に「将軍」で米占と神送りをしていた。		
953	神楽	猪山(いのしやま)神楽〈神楽舞〉	山県郡安芸太田町猪山	猪山神楽団	秋祭、大刀納め	新暦10月第3土曜日、11月	大歳神社	定期	口伝によれば旧雄鹿原村橋山から矢上系神楽(六調子)を習ったという。明治42年の「神楽組合規約」が現存する。当地の大歳神社は四つ柱の構造で、筵2枚敷の中(天蓋下)で舞うことを原則としていた。所持演目は「神迎い」「潮祓」「尊神」「八幡」「剣舞(四神)」「神武」「胡舞」「那須野ヶ原」「岩戸」「五刀(五本大刀)」「天蓋」「大江山」「鍾馗」「塵倫」「八ッ花」「胴の口明け」。		
954	神楽	上殿(かみとの)神楽	山県郡安芸太田町上殿地区	上殿神楽団			箕角八幡神社	毎年	起源は明治年間、山県郡雄鹿原村から習ったという。「弓八幡」「人倫」他5演目、旧舞を所持する。楽は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
955	神楽	松原神楽	山県郡安芸太田町松原地区	松原神楽団	松原大歳神社の秋祭や大会などのイベント	松原大歳神社の秋祭や大会などのイベント	松原大歳神社の拝殿、他の神社の神楽殿、文化ホール、体育館など	毎年	神楽の開始は定かではないが、明治期には既に神楽を奉納しており、戦時中一時中断しそうになった時も当時の世話人・齋藤三郎氏が若い青年連中に懇願して舞手を確保、廃絶を免れた。旧舞、新舞、石見神楽を加え、現在は「潮祓(四方祓)」「四神」「天の岩戸」「恵比寿」「天神」「神武」「八幡」「塵倫」「鐘馗」「悪狐伝」「戻り橋」「大蛇」を所持する。楽は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
956	神楽	小板神楽	山県郡安芸太田町小板地区	小板神楽団	小板地区の神社での例祭前夜など	小板地区の神社での例祭前夜など	詳細不明。加計・長尾神社での奉納記録あり	毎年	旧舞・六調子。詳細は不明だが、安芸太田町加計・長尾神社に昭和9年奉納した記録がある。	中断	
957	神楽	平見谷の神楽	山県郡安芸太田町平見谷地区				詳細不明。他集落にも舞いに行った	毎年	昭和16年、現北広島町雄鹿原・上荒神神楽団の梅田氏より伝習。他集落にも舞いに行ったという。昭和50年頃に廃絶したが、その後も小学校の授業の一環として神楽の指導をしていた。	中断(昭50頃～)	
958	神楽	梶ノ木神楽、土居神楽	山県郡安芸太田町梶ノ木、土居各地区	土居神楽団				毎年	梶ノ木神楽の詳細は不明だが、昭和6年加計・長尾神社で神楽を奉納した記録が残っている。昭和34年には活動が認められたが、昭和48年時には休止となっている。戦後梶ノ木地区から伝授されたという土居神楽は、昭和33年若手有志8名が、石見神楽の指導も受け本格的に活動開始した。旧舞の演目「四方祓」「弓八幡」「神武」「天神」「岩見重太郎」「滝夜叉姫」「鯛釣」「塵倫」「頼政鵺退治」「鐘馗」「大江山」「平忠盛」「八岐大蛇」を保持。		

959	田楽	上殿田楽〈はやし田、大花田植〉	山県郡安芸太田町上殿地区	上殿田楽保存会	大花田植、イベントの場合は田楽大会、田楽共演大会	旧暦5月（現在の6月）	大地主所有の広大な田、大会先の広大な田		文政2年（1819）「書出帳（上殿河内村）」に、さんばい祭りや奏楽を伴う田植歌の様子が記載。大正2年中央田楽団創設。昭和7年以降、県下の田楽大会に参加する。16種類の手合わせと約20曲の田植歌によって、道中ばやし、苗取り歌、サンバイの神迎え、神送りを行う。曲調は六調子、八調子、合の調子、苗取りの調子がある。田楽大会が開催されるようになり、伝統的なゆり歌を残しつつ、かつての田植歌を改良した。なお、現在は朝歌・昼歌・晩歌の区別なく演じている。楽器はささら、大太鼓と拍子、小太鼓、手打鉦、笛。		町
960	田楽	猪山田楽	山県郡安芸太田町猪山地区	猪山婦人田楽団（猪山芸能保存会）				毎年	文政2年（1819）「書出帳（戸河内村）」にさんばい祭や奏楽を伴う田植歌の様子が記されており、そのほか大正期の花鞍や昭和13年の歌本（戸河内町松原で筆写）などが現存する。昭和30年代に組織化、一家の主は農繁期以外は出稼ぎに出るため女性の田楽団を結成、地区の行事等で演じていた。昭和26年の開催時の写真では、笠ぼこ（花傘）・飾り鞍を付けた牛と、楽器として大太鼓（枠付締太鼓）、小太鼓、横笛、手打鉦が確認できる。	中断	
961	田楽	吉和郷田楽	山県郡安芸太田町吉和郷地区	吉和郷田楽団				毎年	文政2年（1819）「書出帳（戸河内村）」にさんばい祭や奏楽を伴う田植歌の様子が記されている。昭和28年6月戸河内農協主催の大花田植への出演記録（写真）あり。出演者は笠に着物姿で、楽器はササラ、大太鼓、小太鼓、手打鉦、横笛が確認できる。	中断	
962	田楽	土居田楽	山県郡安芸太田町土居地区	土居田楽団					文政2年（1819）「書出帳（戸河内村）」にさんばい祭や奏楽を伴う田植歌の様子が記されている。昭和28年6月戸河内農協主催の大花田植への出演記録（写真）あり。出演者は笠に着物姿で、楽器はササラ、大太鼓、小太鼓、手打鉦、横笛が確認できる。	中断	
963	田楽	本郷田楽	山県郡安芸太田町本郷地区	本郷田楽団	地域行事				文政2年（1819）「書出帳（戸河内村）」にさんばい祭や奏楽を伴う田植歌の様子が記されている。昭和28年6月戸河内農協主催の大花田植への出演記録（写真）あり。昭和40年代頃廃絶したが、大太鼓、小太鼓、手打鉦など一部の道具が今も保管されている。	中断（昭40代頃～）	
964	田楽	松原の田囃し〈田楽〉	山県郡安芸太田町松原地区	松原田楽団					文政2年（1819）「書出帳（戸河内村）」にさんばい祭や奏楽を伴う田植歌の様子が記されている。大正11年には既に演じられている。戦時中に中断したが昭和26年に復活、翌年松原田楽団が結成された。演目（所作）次第は一腰（笠ずり、菊まわし、肩ぐり混みの肩投車、両車、あやうり、肩抜き）、二腰（小腕かえし、肩投車、こうさら、親指まわし、とんぼかえり、肩抜車）、三腰（かやりばち、両ぐり込み、とんぼおさえ、かやりばちの車、いただき、かやりばちの両車）。詞章は『松原郷土誌』に掲載。	中断	
965	田楽	平見谷の田楽	山県郡安芸太田町平見谷地区						文政2年（1819）「書出帳（戸河内村）」にさんばい祭や奏楽を伴う田植歌の様子が記されている。詳細不明だが、平見谷においても田楽が行われていたという。	中断	
966	風流踊	平見谷の盆踊	山県郡安芸太田町平見谷地区					毎年	昭和期。元平見谷小学校教頭・栗田氏の指導で、丸子神社や金比羅神社を題材にした盆踊が行われた。	中断	
967	風流踊	盆踊	山県郡安芸太田町松原地区	青年団ほか				毎年	詳細は不明。松原地区で盆踊があったことが報告されている。（「広島県教育委員会盆踊調査」（昭和61年））	中断	
968	風流踊	盆踊	山県郡安芸太田町上殿地区	上殿コミュニティ推進協議会		〈8月14日の夜〉	上殿小学校	毎年	昭和60年頃に地域の有志により、かつて寺で踊られていた盆踊を復活させた。櫓を中心に輪になり、復活後2～3年は「さんさ」を踊った。	中断	
969	風流踊	盆踊	山県郡安芸太田町下本郷地区	盆踊実行委員会	盆踊	お盆	下本郷2箇所の寺と小学校グラウンド	毎年	小学校校庭に櫓を組み、輪になって踊っていた。昭和40年代頃から中断。	中断（昭40代頃～）	
970	風流踊	踊り	山県郡安芸太田町平見谷地区		金比羅神社祭典の日	旧暦6月10日	神社の大岩の上	毎年	旧暦6月10日金比羅神社祭典の日、神社の大岩の上で南条おどりのような花笠踊りを大勢で踊ったという（『郷土の歩み』）。なお、猪山境に近い鹿籠頭地区には、これとは違う踊りがあったという。	中断	
971	風流踊	円光寺の盆踊〈円光寺の念仏踊〉	山県郡安芸太田町寺領	地域住民	お盆	8月15日の夕刻	円光寺境内	毎年	文化13年（1816）の古文書に「祖先菩提追孝報恩為題目踊」とある。念仏踊の時代は大きな輪になって、その真ん中に音頭取りがいた。踊り手は小鼓を着けて前後に歩く。音頭取りが一句唄うと、一同が「ナムゼンアー」「ナムダープウー」「ナムボーダイ」と小鼓を打ちながら三唱し、これを繰り返す。念仏踊は昭和7年の実施が最後。その後は盆踊と呼ぶようになったが、踊り手は両手に飾りの付いた竹棒を使い、前後に回りながら踊る。		
972	風流踊	盆踊	山県郡安芸太田町猪山	地域住民	お盆	お盆	寺の境内	毎年	昭和30年代中頃までのお盆では、聴聞の後、声に自慢のある者が「さんさ口説」等を唄って盆踊を行っていた。「アラドッコイサノサ　アラエイエイーサンサー」で囃し、口説きの交代時に「私ここらで次になる方に、ちいと声つぎお頼み申す」の継ぎ文句があった。	中断	
973	舞台芸等	平見谷の地芝居〈地芝居〉	山県郡安芸太田町平見谷地区	都座（地域住民14、5人で一座を組織）	秋祭や慶事（結婚式や落成式など）、巡業			不定期	明治の終わり～大正初期に始まったと考えられる。大正10年の写真が現存。「三日月の次郎吉」「三番叟」などを上演した。牛馬市のあった現広島市佐伯区湯来町九日市にも巡業した。昭和23年が最後の上演となったが、昭和50年頃小学校の授業で「三番叟」の指導に行ったことがある（『郷里の歩み』）。	中断（昭24頃～）	

（20） 北広島町

【調査地区115】 旧芸北町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
974	神楽	樽床(たるどこ)神楽	山県郡北広島町樽床	樽床神楽団	樽床神社	〈9月29日〉	樽床神社(現在は大歳神社へ合祀)	毎年	地区全戸の寄付金で神楽組を結成、八幡下組(長尾組)から舞を習得し、明治13年から本格的に活動を始める。同年新調した神楽幕及び明治32年の神楽人証明書が現存する。明治40年から12、3年中断したが再開。昭和32年の樽床ダム建設により団員が離郷、解散となった。	中断(昭32～)	
975	神楽	移原(うつのばら)神楽	山県郡北広島町移原	移原神楽団	岡田神社秋祭の前夜祭	10月中旬の土、日	移原・岡田神社	毎年	時期は不明だが、出雲神楽を山本小一郎、十六代五郎左衛門源義晴が地元に持ち帰り根付いたという。所持演目は「塩祓い」「尊神」「天神」「風宮」「関山」「神武」「胴の口開け」「鍾馗」「八岐大蛇」(かつて演じていたものでは「剣舞」「かっこ」「切目」「木船」「御座」「五竜王」「山の大王」「大江山」「日本武尊」「長髄彦」「太鼓」)。旧舞(六調子)・新舞(八調子)の両方を演じる。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
976	神楽	雄鹿原(おがはら)上組神楽〈雄鹿原上荒神神楽〉	山県郡北広島町亀山、雲耕、大元、宮地	雄鹿原上組神楽団	例祭の宵宮	10月第3土曜日(亀山・大元・宮地)、11月第1土曜日(雲耕)	亀山振興センター、大元公民館、雲耕地主神社	定期	明治13年に雄鹿原村の数名が島根県那賀郡七条村から神楽を習い、後に村内の上組・下組で分かれて演じるようになった。所持演目は「奉幣」「四方祓」「尊神」「八幡」「神武」「恵比寿」「かっこ」「天神」「天岩戸」「大江山」「八岐大蛇」など。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
977	神楽	雄鹿原下組神楽〈雄鹿原下荒神神楽〉	山県郡北広島町中祖、荒神原、政所	雄鹿原下組神楽団	例祭の宵宮	荒神原10月の最終土日、中祖・政所11月第1土日	荒神センター、中祖会館、政所振興センター	毎年	明治13年に雄鹿原村の数名が島根県那賀郡七条村から神楽を習い、後に村内の上組・下組で分かれて演じるようになった。所持演目は「奉幣」「四方祓」「胴の口開け」「尊神」「八幡」「神武」「恵比寿」「塵倫」「かっこ」「天神」「天岩戸」「大江山」「八岐大蛇」など。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
978	神楽	苅屋形神楽	山県郡北広島町苅屋形	苅屋形神楽団	宮谷神社(仮屋形地区)の秋祭	10月第4日曜日の前日	苅屋形・宮谷神社	不定期	明治10年に苅屋形神楽連中を結成、雄鹿原村上荒神原の舞を伝習した。所持演目は「奉幣」「潮祓い」「四神」「岩戸」「八幡」「恵比寿」「天神」「塵倫」「黒塚」「神武」「胴の口あけ」「八岐大蛇」「鍾馗」など。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊り、楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。神楽歌に合わせて天蓋を上下左右に引いて揺り動かす「天蓋引き」を行うこともある。		
979	神楽	橋山神楽	山県郡北広島町橋山	橋山神楽団	大歳神社での奉納	10月の最終土・日	橋山・大歳神社(岡田神社)	毎年	起源には諸説あるが(天保年間、明治20年代など)、現島根県邑智郡邑南町矢上から伝習したという。以後、橋山の神楽が山県郡南部に伝播していく。所持演目は「塩祓い」「胴の口開け」「八幡」「神武」「剣舞」「塵倫」「大江山」「黒塚」「鍾馗」「八岐大蛇」。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
980	神楽	溝口神楽	山県郡北広島町溝口	溝口神楽団	照宮神社秋祭	10月第2土曜(照宮神社)、11月第1土曜(中山八幡神社)など	照宮神社、中山八幡神社、他に公演	毎年	起源は不明。下郷・中郷両舞子中が合併し、明治末に現組織となる。当時の幣頭・橋垣敬三が島根県邑智郡矢上の神楽を移植した。「塩祓い」「神迎」「天岩戸」「神武」「塵倫」「大江山」「鈴鹿山」「八岐大蛇」「胴の口開け」「鍾馗」「天神」「山伏(黒塚)」「ヤマトタケルの尊」「戻り橋」「滝夜叉姫」「葛城山」「恵比寿」「折敷舞」「源三位頼政」「戻り橋」「創作稲村ケ崎」「安達が原」「五郎王子」(昔舞っていた演目を含む。)。テンポの速い旧舞(六調子)と新舞(八調子)の両方を演じる。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
981	神楽	高野神楽	山県郡北広島町高野	高野神楽団	例祭	〈新嘗祭11月23日〉	大歳神社	毎年	期限は不明だが明治末期に一度解散、昭和20年再興した。所持演目は「塩祓」「柴舞」「塵倫」「剣舞」「神武」「七代」「岩戸」「八幡」「黒塚」「鍾馗」「五竜王」「八岐大蛇」など。旧舞(六調子)と新舞(八調子)の両方を演じる。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
982	神楽	才乙(さようと)神楽	山県郡北広島町才乙	才乙旭神楽団	大歳神社例大祭	10月第4土曜日の夜	才乙・大歳神社	定期	明治27年、雄鹿原村上荒神原と中野村奥中原より舞を伝習した。所持演目は「塩祓い(神迎え)」「四神」「八幡」「岩戸」「恵比寿」「神武」「鍾馗」「塵倫」「胴の口あけ」「天神」「大江山」「八岐大蛇」など。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。8年に一度(7年毎)の年期祭では藁龍が出る「託舞」と「天蓋」を舞う。		
983	神楽	細見神楽	山県郡北広島町細見	細見神楽団	大歳神社例大祭	10月第4土夜	細見・大歳神社	定期	明治30年、雄鹿原村橋山の舞を伝習。所持演目は「四方祓い」「尊神」「塵倫」「岩戸」「四神」「鍾馗」「天蓋引き」「八岐大蛇」「黒塚」「大江山」など。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
984	神楽	小原(こばら)大元神楽	山県郡北広島町小原	小原神楽団	大歳神社例祭の宵宮、同神社の式年祭	10月、式年祭は7年ごとの10月21日	小原・大歳神社	毎年・7年毎	天正5年(1577)に始まると伝わる。7年毎の式年祭では、湯立神事・大元神迎え・夜中本祭などの祭事を行い、「天蓋」「綱貫」「御綱祭」の特殊な神楽を舞う。大元綱と呼ぶ藁龍を引き回し、激しく揺り動かす。最後の「綱納め」では田植唄を歌う。他の所持演目は「塩祓い」「尊神」「八幡」「胴の口開け」「剣舞」「四剣」「天神」「磐戸」「塵倫」「恵美子」「神武」「大江山」「黒塚」「鍾馗」「八岐大蛇」。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		県

985	神楽	川小田(かわこだ)神楽	山県郡北広島町川小田	川小田神楽団	大歳神社例大祭	10月最終の第4土曜日夜	川小田・大歳神社	毎年	文化8年(1811)に記紀を題材に神楽舞を創作したという。創作当初の所持演目は「天岩戸」「八岐大蛇」「於能碁呂島」「猿田彦大神」「わたずみ」「鈴鹿山」の6種目。現在の所持演目は「奉幣」「塩祓い」「尊神」「神武」「塵倫」「八ッ花」「胴の口あけ」「鈴合わせ」「大江山」「紅葉狩」「天神」「八岐大蛇」「恵比寿」「鍾馗」など。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
986	神楽	大暮(おおぐれ)神楽	山県郡北広島町大暮	大暮神楽団	岡田神社の例大祭	10月第3土曜日の夜	大暮・岡田神社	毎年	明治14年小原神楽団、明治25年島根県都川神楽団より伝習した。所持演目は「塩祓い」「尊神」「猿田彦」「四拝」「手草」「七代」「神太鼓」「岩戸」「塵倫」「神武」「四剣」「大蛇」「天神」「安達が原」「大江山」「鍾馗」「鈴ケ山」「貴船」「山の大王」「天蓋下」「かっこ太鼓」「恵比寿」「関山」(昔舞っていた演目を含む。)。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
987	神楽	長尾組神楽〈下組神楽団〉	山県郡北広島町東八幡原	長尾組神楽団	例祭	10月と11月に田尾組神楽団と交互に奉納する。10月は20日に近い土日　11月は第3週土日	大歳神社	毎年	天保年間に後藤春燐、後藤真松が石見国美濃郡久城村の舞を習い、現在に至るという。所持演目「塩祓」「尊神」「四神」「八幡」「岩戸」「天神」「神武」「塵倫」「鬼返し」「比良坂」「貴船」「鍾馗」「黒塚」「大国主」「恵比寿」「胴の口開け」「杵築大明神」「八岐大蛇」等。旧舞(六調子)・新舞(八調子)の両方を演じる。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
988	神楽	田尾組神楽〈上組神楽団〉	山県郡北広島町東八幡原	田尾組神楽団	例祭	10月と11月に長尾組神楽団と交互に奉納する。10月は20日に近い土日、11月は3週土日	大歳神社	毎年	江戸後期、栗栖彦太郎が石見国邑智郡矢上村の舞を習い、現在に至るという。所持演目は「塩祓」「尊神」「四神」「八幡」「岩戸」「天神」「神武」「塵倫」「鬼返し」「比良坂」「貴船」「鍾馗」「黒塚」「大国主」「恵比寿」「胴の口開け」「杵築大明神」「八岐大蛇」等。旧舞(六調子)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。昭和21年GHQへの神楽奉納許可申請書記載の演目は「尊神」「八幡」「四神」「天岩戸」「天神」「神武」「大江山」「五郎の王子」「黒塚」「八つ花」「鍾馗」「八岐大蛇」「十羅刹女」。		
989	獅子舞祭礼風流その他	芸北乙九日(おとくんち)祭り〈芸北炎の祭典〉	山県郡北広島町雄鹿原	乙九日炎の祭典実行委員会	亀山八幡神社秋の大祭	9月下旬の土日〈9月29日〉	亀山八幡神社	定期	収穫感謝の祭りで、300年以上の歴史があるといわれる。神事後に神幸。神輿行列は、天狗面に高下駄の猿田彦が先導し、獅子(二人立)や幟、神具、笛太鼓の囃子などで構成される大規模なものである。お旅所では新米を供え、悪魔祓いの獅子舞をする。その後、境内で棒の押し合いと子供相撲などをする。松明行列は平成初期から加わった。		
990	田楽	田囃・田楽・牛供養〈花田植〉	山県郡北広島町美和地区	溝口田楽団、地区住民など	各戸の田植が終わり、地区の共同田植をする(泥落とし)	〈6月14日〉	各地区の大田	毎年	当地では共同田植のことを田囃、獣医や牛馬商が主催するものを牛供養と区別している。別称:花田植と呼ぶものは牛供養を意味する。牛供養は牛を集め代かきをし、各地から田楽団を招いた。昭和26年には溝口田楽団が誕生した。(『美和村史』)	中断	
991	田楽	田囃・田楽・牛馬供養	山県郡北広島町雄鹿原	橋山組・下組・上組(田囃)・牛馬商や獣医(雲耕の牛供養)	毎年泥落としの日か半夏の休日（午後）	毎年泥落としの日か半夏の休日（午後）	共同田植の大田	毎年・不定期	橋山組、下も組、上み組の3団体があった。共同田植をするため、植え手が多いときは腰鼓、小太鼓が各一名で早調子(黒ばち)の囃で歌った。近郊で大田植があるときは参加した。演技の場合は役も楽も増えた。	中断	
992	田楽その他	田植祭	山県郡北広島町大暮	岡田神社の氏子	小原・宮瀬神社5分社の田植儀式を例祭日に行う	9月19日	大暮・岡田神社	毎年	氏子上下2組に分かれ、年毎に大元の大縄、大元神幣、苗の子(小幣・玉串)、すず、こうしの神供、「惣の神酒の酒宴」「当番渡し行事」、荒しねだんご、湯立祭、田植歌による氏子全員の田植神事などが行われる(『美和村史』)。境内の実際の苗ではなく、小幣を苗に見立てて、田植歌を歌いこれを氏子が受ける。苗の子は右注連縄に挿して、社内に小餅を撒き散らす。この餅は氏子が拾い、牛馬に与える。		
993	風流踊	盆踊	山県郡北広島町八幡	八幡地区の住民	お盆	8月お盆の時期	アンデルセンパン学校の校庭(元八幡小学校校庭)	毎年	櫓の周りを輪になって踊る。		
994	風流踊	盆踊	山県郡北広島町六合	六合校区青年団	お盆	8月のお盆の時期	詳細は不明	毎年	現在は行われていない。雲月地区盆踊り大会に統合(時期不明)。		
995	風流踊	盆踊	山県郡北広島町才乙　順覚寺、光楽寺	第2下青壮年有志	お盆	8月のお盆の時期	詳細は不明	毎年	現在は行われていない(中断時期不明)。	中断	
996	風流踊	盆踊	山県郡北広島町雄鹿原　妙蓮寺、安養寺	青年おかはらあゆみ会	お盆	8月のお盆の時期	雄学館グラウンド	毎年	昔、旧雄鹿原村では盆踊を単なる「おどり」と称し、余興などにも踊ったという。村には伝統的な元禄踊番付というものがあり、「ざめき」「あげ歌」「六調子」「こしつけ」「はしり」「太鼓の拍子」「一つうたざめき」「かたびょうし」「すかし」という構成になっている。そのほか番外的な踊りとして「きそん」や「太鼓踊」がある。		
997	風流踊	雲月(うんげつ)地区の盆踊	山県郡北広島町雲月地区	雲月ふるさと推進協議会	盆踊り大会	8月お盆の時期〈新嘗祭11月23日〉	雲月ふれあいセンター広場		昔、旧雄鹿原村では盆踊を単なる「おどり」と称し、余興などにも踊ったという。村には伝統的な元禄踊番付というものがあり、「ざめき」「あげ歌」「六調子」「こしつけ」「はしり」「太鼓の拍子」「一つうたざめき」「かたびょうし」「すかし」という構成になっている。そのほか番外的な踊りとして「きそん」や「太鼓踊」がある。		

998	風流踊	火の山おどり	山県郡北広島町八幡	火の山おどり保存会	旧暦新暦の盆、慶事	7月14･15日、8月14･15日など	各地区の寺社、民家の広場、学校の校庭など	隔年および不定期	天正6年(1578)、新庄火の山城主･吉川元春による伯耆羽衣石城を攻略の故事に因むと伝わる。文政11年(1828)のおどり歌帳が伝わる。昔は「太鼓踊」などとも呼ばれ、新旧盆の夜に踊られてきた燈籠踊。中央に大庭笠を立てた踊り場で、「庭入り」「庭ほめ」「太鼓おどり」の順で行われる。 造花で飾った小笠や小太鼓を付けた踊り手が、「ざめき」「もろびょうし」などの歌詞に合わせて踊る。		県
999	風流踊	盆踊	山県郡北広島町溝口･正圓寺	溝口盆踊り実行委員会	お盆	8月のお盆の時期	美和東文化センター広場	定期	溝口地区では「豊年口説き」が唄われていた(『広島県の民謡　広島県民謡緊急調査報告書』)。現在は美和東文化センター広場において、櫓を立てて輪になって踊る。		
1000	風流踊	才乙盆踊	山県郡北広島町才乙	才乙文化部	お盆	8月お盆の時期	詳細不明	毎年	現在は行われていない。雲月地区盆踊り大会に統合(時期不明)。		
1001	風流踊	盆踊	山県郡北広島町細見	細見地区	お盆	8月お盆の時期	仙水園前の広場	毎年	明治の終わりから昭和20年まで永らく中断していたが、復活した。		
1002	風流踊	盆踊	山県郡北広島町川小田	南郷盆踊実行委員会	お盆	8月お盆の時期	詳細不明	毎年	平成27年頃に中断し、現在は行われていない。	中断(平27頃～)	
1003	風流踊	太鼓踊	山県郡北広島町中野、雄鹿原						旧雄鹿原村の太鼓踊は、花笠、直径6尺の傘鉾を作り、夜は灯籠を灯す。踊り手は太鼓を腰につけ、灯籠笠又は花笠を冠り、拍子を持ち笠揃いをした後、先頭に傘鉾を立てて畷拍子で道行し、お寺の庭で円陣になり庭入りの拍子を打った。歌詞の種別に応じた太鼓を打ち、合唱しながら左右に体を転回しながら進む。	中断	
1004	舞台芸等	村芝居	山県郡北広島町雄鹿原	有志(明治36)、亀山座(大正5)、盟友劇団(昭和7)、青年団(戦後)	亀山八幡神社の例祭など	〈9月29日〉	亀山八幡神社など		明治初年、藤井近三郎、小林善造などの有志によって演じられた。その後、明治36年には劇団が結成され新派劇などを演じた。昭和7年には農村演劇の在り方を研究するサークルも組織され、荒神原の俵屋早速原作で演劇を上演、好評を博した。戦時中中断。戦後、中祖の今田隆が中心となり、演劇と舞踊を上演した。	中断	
1005	その他	細見の餅つき唄	山県郡北広島町細見	細見地区	氏神祭のための餅つき	氏神祭の前夜	各集会所	定期	氏神祭の前夜、神前に供える餅を搗く。「今年ヤレ万作どしょう　神に供える餅をつく」等の歌詞の餅つき唄を歌いながら、甲乙2組に分かれて交互に杵を振るう。		町

【調査地区116】 旧大朝町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1006	神楽	磐門(ばんもん)神楽	山県郡北広島町宮迫	磐門神楽団	天磐門別神社秋季例大祭、大朝神楽競演大会	10月から11月上旬	神社境内拝殿など	毎年	明治期に石見矢上系の六調子神楽を伝授して今日に至る。所持演目は「潮祓い」「神迎え」「胴の口」「天岩戸」「八幡」「剣舞」「能襲」など13演目。旧舞(六調子)。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1007	神楽	小市馬(しょうしば)神楽	山県郡北広島町大朝	小市馬神楽団	小山八幡神社秋季例大祭	10月から11月上旬	神社境内、仮設舞台、ホールなど	毎年	明治時代には既に活動しており、大正時代石見矢上系の六調子神楽を伝授して今日に至る。所持演目は「潮祓い」「三浦」「神武」「天神」「塵倫」「大江山」などの12演目。旧舞(六調子)。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1008	神楽	田原(たわら)神楽	山県郡北広島町田原	田原神楽団	降子神社秋季例大祭		神社境内、仮設舞台、ホールなど	毎年	所持演目は「潮祓い」「恵比須」「悪狐伝(中)」「戻り橋」「大江山」「滝夜叉姫」「葛城山」「紅葉狩」。	中断(平19～)	
1009	神楽	小枝神楽	山県郡北広島町大朝小枝地区	小枝神楽団	枝宮八幡神社秋季例大祭	競演大会11月上旬	神社境内、枝宮八幡神社拝殿など	不定期	起源は不明だが、現島根県邑智郡邑南町矢上の神楽を伝習した。所持演目は「四方祓い」「八幡」「鍾馗」「鈴鹿山」の4演目。旧舞(六調子)。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1010	神楽	郷之崎神楽	山県郡北広島町新庄郷之崎地区	郷之崎神楽団	龍山八幡神社秋季例大祭	10月から11月上旬	神社境内、龍山八幡神社、大朝神楽競演大会、県神楽競演大会	毎年	江戸時代末に石見国邑智郡矢上村から舞を伝習した。所持演目は「潮祓い」「四人舞い」「神武」「塵倫」「恵比寿」「八岐大蛇」など11演目。旧舞(六調子)。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1011	神楽	大塚神楽	山県郡北広島町大塚	大塚神楽団	枝宮八幡神社秋季例大祭、町神楽競演大会、県神楽競演大会、泥落し神楽	6月から11月上旬(6月最終日曜日は泥落し神楽)	枝宮神社拝殿、その他各仮設舞台	毎年	明治30年頃島根県邑智郡矢上村の舞を習い、さらに昭和20年代後半には新舞を移植した。所持演目は「潮祓」ほか「伊吹山」「土蜘蛛」「紅葉狩」「滝夜叉姫」「戻り橋」「羅生門」「大江山」「山姥」「橋弁慶」「八岐大蛇」など。旧舞(六調子)と新舞(八調子)の両方を演じる。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1012	神楽	筏津(いかだつ)神楽	山県郡北広島町筏津	筏津神楽団	筏津大歳神社12月上旬太刀納め	10月から12月上旬	筏津大歳神社拝殿、町神楽競演大会、県神楽競演大会	毎年	天保13年(1842)石見国邑智郡矢上村の舞(旧舞)を伝習し、さらに昭和になると高田舞(新舞)を取り入れて現在に至る。所持演目は「太鼓口」ほか「潮祓い」「神迎え」「八幡」「天岩戸」「塵倫」「黒塚」「神武」「天神」「日本武尊」「鍾馗」「恵比寿」「大江山」「鈴鹿山」「八岐大蛇」。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。「八岐大蛇」では煙幕と花火を使用。		

1013	神楽	枝之宮神楽	山県郡北広島町大朝枝之宮地区	枝之宮神楽団	枝宮八幡神社秋季例大祭	10月から11月上旬	枝之宮八幡神社拝殿、大朝神楽競演大会	毎年	天保13年(1842)に枝之宮八幡神社19代宮司がが石見国邑智郡川本村で舞を伝習し、さらに大正時代になると石見矢上系・山根流の舞を移植した。所持演目は「神武」「日本武尊」「塵倫」「潮祓い」「神迎え」。旧舞(六調子)。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1014	田楽	新庄のはやし田〈安芸のはやし田〉	山県郡北広島町新庄	新庄郷土芸術保存会	はやし田行事として	5月第2日曜日	鳴滝渓谷入口圃場、広島縮景園	毎年	年未詳(江戸中期ヵ)「中津屋本代掻図」、明治13年「しろかき本」が現存する。田植祭、植代祭(代掻き、田植)の次第で実施。田の前に供養棚、田の隅に「三拝」を設ける。牛は漆塗りの飾り鞍と赤襷を着け、代掻きでは「鶴の巣ごもり」や「矢の三ツ星」など様々な紋様を田一面に描き出す。田植歌は労働の時系列に合わせて、サンバイ(音頭役・ササラ竹を持つ)と早乙女が掛け合いで謡う。楽器はササラ、太鼓(枠付き長胴)、小太鼓、笛、手打鉦。平成9年「安芸のはやし田」として安芸高田市の「原田のはやし田」とともに国指定。		国
1015	田楽	枝の宮田楽	山県郡北広島町大朝	枝の宮田楽団	虫送祭	7月の第2日曜日	枝宮八幡神社	毎年	古くは延宝4年(1676)「山県郡有田村打物帖」に虫送りの記述あり。虫送りの神事の後に田楽を奉納する。さんばい2名がササラで音頭を取り、それに合わせて歌い手が歌う。さんばいの歌や笛に合わせて大太鼓がバイ(撥)を振り、投げたりして舞う。小太鼓、手打鉦でリズムを刻む。		
1016	田楽	筏津の花田植	山県郡北広島町筏津	筏津花田植保存会		休止〈6月中旬〉			明治43年の「しろかき図」が現存する。平成20年から中断。	中断(平20～)	
1017	田楽	大塚の花田植	山県郡北広島町大塚	大塚花田植保存会		休止〈6月中旬〉			近隣の九門明に明治26年の「しろそうし」が現存する。平成20年から中断。	中断(平20～)	
1018	風流踊	大塚の盆踊	山県郡北広島町大塚	大塚芸能保存会	大塚地域盆踊	8月14日	大塚ふれあいセンター	毎年	起源は不明だが、戦前より行われていた。櫓の周りに輪になって、手踊りと扇子を用いて「扇子踊り」「大塚音頭」などを踊る。楽器は太鼓、笛。		
1019	風流踊	南条おどり〈日野山踊〉	山県郡北広島町新庄	新庄郷土芸術保存会	花田植や縮景園のイベントなど	5月第2日曜日(新庄のはやし田開催日)〈7月13日〉	新庄のはやし田仮設広場	毎年	吉川氏が伯耆国羽衣石城主南条元統を攻めた時、部下を踊り子に扮装させたという故事から南条おどりと呼ぶようになった。古くは7月に神社の虫送祭とともに踊られた。陣笠、陣羽織の軽装の武士姿で腰前に着けた太鼓を叩きながら踊る。道中踊「いれはおどり」「しゃぎりおどり」、と本踊「先おどり」「ざめき」「小がえり」「大がえり」「南条」、最後の「引きおどり」からなる。楽器は音頭取りの拍子木、踊り手の小太鼓のほか、笛・鉦。		県
1020	祭礼風流舞台芸等	龍山八幡神社祭礼の屋台・にわか	山県郡北広島町大朝周辺		龍山八幡神社の秋祭、新庄市	5月3日			屋台は明治初期に製作。四ッ車に乗せる組立式・2階建。「にわか」は神幸の際に行われたが、大正末期から衰退した。	中断(大正末～)	

【調査地区117】 旧千代田町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1021	神楽	東山神楽	山県郡北広島町石井谷	東山神楽団	石井谷八幡神社前夜祭	10月最終日曜日の前夜	神社境内の舞台	毎年	神楽団は昭和34年設立。所持演目は「神降し」「鍾馗」「塵倫」「恵比寿」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「大江山」「戻り橋」「土蜘蛛」「悪狐伝」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「日本武尊」(以上新舞)、「天神記」「伊服岐山」(以上創作演目)。 舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1022	神楽	有田神楽	山県郡北広島町有田	有田神楽団	有田八幡神社前夜祭	10月最後の日曜日前夜	神社境内の舞殿	毎年	江戸時代・文化年間に壬生神社の神職・井上氏が石見国邑智郡矢上村の神職・湯浅氏を招き石見神楽を取り入れたと伝わる。所持演目は「神降し(県指定)」「神迎え(四剣)」「天岩戸(県指定)」「八幡」「塵倫」「紅葉狩」「悪狐退治」「集来」「恵比寿」「鍾馗」「大江山」「八岐大蛇(県指定)」(以上旧舞)、「有田中井手の戦い」(以上創作演目)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		県
1023	神楽	砂庭神楽	山県郡北広島町壬生	砂庭神楽団	壬生神社前夜祭(ヨゴロ)	10月第4日曜日の前夜	壬生小学校体育館	毎年	当地の神職・井上氏は従来からの舞を所持していたが、文化年間に石見国邑智郡矢上村の神職・湯浅氏を招き、石見の神楽を取り入れたという。江戸時代後期に井上氏により壬生能神楽連中を結成。現在の所持演目は「神降し」「神武天皇(長髄彦征伐・町指定)」「鍾馗」「八岐大蛇」「大江山」「八幡」「塵倫」(以上旧舞)、「葛城山」「悪狐伝」「熊襲」「滝夜叉姫」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。【詳細調査No.31】		町
1024	神楽	今田神楽	山県郡北広島町今田	今田神楽団	今田八幡神社と後有田新宮神社の前夜祭	10月第4土曜日の夜	八重総合センター	毎年	明治時代結成。所持演目は「神降し」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「葛城山」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「戻り橋」「羅生門」「大江山」「鈴鹿山」「殺生石」「日本武尊」「東国征伐」「塵倫」「恵比寿」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。テンポがゆるやかな優雅な六調子と、テンポが速く勇壮な八調子の両方を演じる。		
1025	神楽	中川戸神楽	山県郡北広島町川戸	中川戸神楽団	吉藤八幡神社秋祭	10月最後の土曜日	川迫小学校体育館	毎年	明治7～8年頃に氏子により結成。所持演目は「神降し」「神迎え」「八岐の大蛇」「塵倫」「鍾馗」「八衡」(以上旧舞)、「滝夜叉姫」「熊襲」「伊吹山」「土蜘蛛」「悪狐伝(中編)」「八幡」「紅葉狩」「大江山」(以上新舞)、「板蓋宮」「天の香具山」「青葉の笛」「茨木」(以上創作演目)。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		

1026	神楽	曙神楽	山県郡北広島町川戸	曙神楽団	亀尾山八幡神社	10月最終土曜日	曙公会堂	毎年	明治初期にを結成、戦後に下川戸神楽団から曙神楽団に改称。所持演目は「神降し」(以上旧舞)、「滝夜叉姫」「葛城山」「戻り橋(前編・後編)」「大江山」「悪狐伝」「子持山姥」「八岐大蛇」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。		
1027	神楽	蔵迫神楽	山県郡北広島町蔵迫	蔵迫神楽保存会	蔵迫龍山八幡神社秋季例大祭	10月第4土曜日の夜	蔵迫地区センター	毎年	江戸時代末期に石見地方矢上から伝わったという。明治初期に結成。所持演目は「天の岩戸」「黒塚」「悪狐伝」「熊襲征伐」「日本武尊」「伊吹山」「大江山」「鍾馗」「八岐大蛇」「塵倫」(以上旧舞)。重心の低い優雅な緩いテンポの舞。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1028	神楽	本地中組神楽	山県郡北広島町本地	本地中組神楽団	中野神社秋祭前夜祭	10月最終日曜日の前夜	神社境内の舞台	毎年	明治末期には活動していたと伝わる。現在の所持演目は「神降し」「胴の口開け」「大江山」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「悪狐伝」「伊吹山」「子持山姥」「滝夜叉姫」「土蜘蛛」「戻り橋」「紅葉狩」「日本武尊」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。八調子でテンポが速く勇壮な舞が中心。		
1029	神楽	上本地神楽	山県郡北広島町本地	上本地神楽団	上本地八幡神社秋季例大祭	10月最終日曜の前夜	本地小学校体育館	毎年	明治10年結成。所持演目は「神降し」「四方拝」(以上旧舞)、「悪狐退治」「滝夜叉姫」「山姥」「戻り橋」「大蛇退治」など(以上新舞)、「壇ノ浦」「関の扉」(以上創作演目)。舞台に天蓋を吊る。		
1030	神楽	春木神楽	山県郡北広島町春木	春木神楽団	春木・今田合同秋祭	10月第4日曜日の前夜	八重総合センター	毎年	江戸後期から当地では神楽が演じられており、昭和23年には高田郡の佐々木順三氏を招き、新舞を移植した。現在の演目は旧舞と新舞を所持しており「神降し」(旧舞)、「紅葉狩」「土蜘蛛」など(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。八調子でテンポが速く勇壮な舞が中心。		
1031	神楽	山王(さんおう)神楽	山県郡北広島町本地	山王神楽団	山末神社氏神祭	10月最終日曜日の前夜	山末神社神楽殿	毎年	明治中期に「下本地神楽団」として発足。所持演目は「神降し」「天岩戸」「八岐の大蛇」「塵倫」「恵比須」(以上旧舞)、「土蜘蛛」「紅葉狩」「滝夜叉姫」「戻り橋」「羅生門」「大江山」「鈴鹿山」「三上山」「伊吹山」「山姥」「悪狐伝」「日本武尊 」(以上新舞)、「猿島の乱」「鈴鹿」(以上創作演目)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1032	神楽	上川戸神楽	山県郡北広島町川戸	上川戸神楽団	熊野神社秋祭当日夜	10月最終土曜日	上川戸集会所	毎年	明治中期に当地で舞われ始めたと伝わる。昭和初期に結成。所持演目は「神降し」「天岩戸」「日本武尊」「塵倫」「三浦」「八岐の大蛇」「鍾馗」(以上旧舞)、「滝夜叉姫」「土蜘蛛」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子のテンポの緩やかな舞が中心。		
1033	神楽	旭神楽	山県郡北広島町南方	旭神楽団	南方八幡神社前夜祭	10月第4日曜日の前夜	南方屋内運動場	毎年	戦前から当地で神楽が行われ、戦後は芸北神楽として継承。所持演目は「大江山」「滝夜叉姫」「紅葉狩り」「悪狐退治」など(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。八調子でテンポが速く勇壮な舞が中心。		
1034	神楽	八重西神楽	山県郡北広島町寺原、有間(八重西地区)	八重西神楽団	寺原八幡神社、有間八幡神社秋祭奉納神楽	10月最終日曜日の前夜	八重西総合センター	毎年	明治初期に前身の寺原神楽団結成。所持演目は「神降し」「八岐大蛇」「恵比寿」(以上旧舞)、「塵倫」「鍾馗」「悪狐伝」「滝夜叉姫」「紅葉狩」「戻り橋」「羅生門」「大江山」「土蜘蛛」「山姥」(以上新舞)、「奥州安達ケ原の鬼女」「鬼同丸退治」(以上創作演目)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1035	神楽	河内(こうち)神楽	山県郡北広島町惣森	河内神楽団	氏神祭神楽奉納	10月最終土曜日	河内会館	毎年	大正6年結成。所持演目は「八幡」「那須野」「塵倫」「大江山」「熱田の宮」「天岩戸」「山伏」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「日本武尊」「葛城山」「戻り橋」「滝夜叉姫」「悪狐退治」「紅葉狩」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。		
1036	獅子舞	獅子舞	山県郡北広島町南方畑地区	畑地区	畑八幡神社秋祭	10月最終土日	神社境内	定期	起源は不明。畑八幡神社祭典前に、下場場と本場場の2箇所で舞う。獅子舞は二人立。槍を持った天狗が獅子に絡み、獅子を退治した後、獅子頭を神前に奉納する。楽曲は道中、下馬場、本馬場の3場面に応じた3曲あり。囃子は大太鼓、小太鼓、笛、手打鉦。	中断(平5～)	
1037	田楽	壬生の花田植	山県郡北広島町壬生	NPO法人壬生の花田植保存会	壬生の花田植と無形文化財合同まつり	6月第1日曜日	竹の鼻圃場など	毎年	壬生田楽団・川東田楽団が演じる。神事、道行き後、圃場で飾り牛の代掻き、サンバイ(親歌)の音頭による田植を行う。朝歌、昼歌、晩歌等の田植歌があり、歌う調子としては「大津拍子」「とりば拍子」「二辺返し」「合わせ拍子」「六拍子」「投げ拍子」「ハ拍子」などがある。田植歌の基本詩形はサゴエ(オロシ)、ユリ、「親・子歌」で構成されている。楽器はサンバイ竹、笛、手打鉦、小太鼓、大太鼓(拍子)。昭和51年「壬生の花田植」として国重要無形民俗文化財指定、平成23年ユネスコ無形文化遺産登録。		国
1038	風流踊	本地の花笠踊〈花笠おどり〉	山県郡北広島町本地	本地花笠踊り保存会	壬生の花田植と無形文化財合同まつり	毎年6月第1日曜日〈旧暦8月15日〉	壬生商店街及び壬生の花田植特設会場	毎年	北広島町新庄の南条おどりと同じく、天正6年(1578)、吉川元春による伯耆羽衣石城の南条攻めに由来すると伝わる。昔は神社境内で不定期に踊っていた。歌頭、手打鉦、笛、踊り子で構成。踊り子は男性が女装し、深い編笠とバシャリと称する布で面態を隠し、大きな花笠を付け、太鼓を叩きながら優雅に踊る。現在は「庭付」「庭締」「大返り」「小返り」「名古屋」「六調子」のを踊る。かつては24曲あった。【詳細調査No.32】		国選択・県
1039	風流踊	信明盆踊	山県郡北広島町今田	信明盆踊クラブ	盆	8月14日15日	法専寺	毎年	現存する歌本から安政年間には演じていたと思われる。昭和40年代までは、8月14～15日の晩に寺で聴聞後に踊っていた。寺の大傘が前庭に立てられ、音頭はその下で音頭をとり、踊り手はその回りに一列に円陣を組んで踊った。戦前の口説きは「阿波の鳴門」「安珍清姫」「石童丸」「八百屋お七」「鈴木主税」など、戦後は「吾妻くどき」「八重おどり」「法泉おどり」「墓参おどり」「武一くどき」。節回しには「まわり」「ほうき」「たけわら」「山づくし」の4つがあり、音頭の交代では「送り口上」「引受け口上」「前口上」を口説いた。楽器は太鼓。	中断(平2～)	

1040	風流踊	高竜(こうりゅう)盆踊	山県郡北広島町有田	高竜盆踊クラブ	盆	8月14日15日	光明寺、大福寺	毎年	法座が一席済むと寺の大傘が前庭に立てられ、音頭はその下で音頭をとり、踊り手はその回りに一列に円陣で踊った。戦前の口説きには「阿波の鳴門」「安珍清姫」「石童丸」「八百屋お七」「鈴木主税」「武市騒動」「仏教音頭」などがあり、戦後は「聖地踊り」「平和踊り」「供養踊り」「初盆踊り」「高龍踊り」「有田踊り」を踊った。節回しには「まわり」「ほうき」「たけわら」「山づくし」の4つがあり、音頭の交代は「送り口上」「引受け口上」「前口上」を口説いた。楽器は太鼓。	中断(平成初～)	
1041	風流踊	盆踊	山県郡北広島町八重	八重東青年会、八重青年会	盆	8月15日	八重小学校校庭	毎年	信明踊り発祥地の法専寺から櫓を借りる。踊り手は浴衣、下駄、扇子を使い踊る。「武一くどき」は地方色のある演目。その他「聖地踊り」「平和踊り」「供養踊り」「初盆踊り」「高龍踊り」「有田踊り」「吾妻くどき」「八重おどり」「法泉おどり」「墓参おどり」など。	中断(平成前期頃～)	
1042	風流踊	上川戸虫送り踊り	山県郡北広島町川戸	上川戸虫送り保存会	虫送祭	6月第1日曜日〈7月11日〉	熊野神社及び上川戸集会所周辺	毎年	サネモリ人形を用いて歌い踊り、熊野神社の境内で踊りを奉納した後、上川戸集会所を中心に練り歩き、川戸屋橋の上から人形を川に流す。構成は神主、サネモリ人形、ヤリモチ、音頭、囃子(大太鼓、鉦(撞木で叩く)、笛)、大幟、踊り子。現在は「道行」「庭入り」が伝承されている。昭和初期に書き留められた歌集「上郷踊歌写」には、約40種類の歌や太鼓の叩き方が記録されている。【詳細調査No.33】		町
1043	風流踊	日の山踊	山県郡北広島町蔵迫	蔵迫日の山踊り保存会	万徳院春を食べる会、慶事やイベント	4月の万徳院春をたべるかい	万徳院跡歴史公園、千代田総合体育館など	毎年	昭和初期に新庄の南条おどりが中山地区の円光寺に伝わり、地域の女性が踊り手として演じるようになった。陣羽織は女性が着用できないため、用意しやすい喪服を着用するようになったという。構成は幟持ち1、音頭1、踊り子約10(全員女性・小太鼓を装着)、手打鉦1。昔は笛役もいた。「道行」で入場し「先踊り」「本踊り(一番、二番)」「引踊り」と輪で踊り、「道行(帰り)」で退場する。		
1044	祭礼風流	八重管絃祭	山県郡北広島町有田	八重管絃舟保存会	八重管絃祭	7月最終土曜日の夜〈旧暦6月17日〉	八重商店街(有田・十日市・新地)	毎年	神事後、新地丸・十日市丸・有田丸の3艘の管絃舟が八重商店街を陸上渡御する。昭和50年代までは五日市丸、有間丸もあわせた5艘が曳航していた。管絃舟は竹枠で組んだ舟形の屋台を台車に乗せ、全体に幕を張り、灯りをつける。中に入った若者が、手木で車を上下左右させると舟は大きく揺れ、波間を漂っている姿を連想させる。唄は「宮島様」「お宮様」など。		町
1045	祭礼風流	南方の万灯祭(まんどうさい)	山県郡北広島町南方	南方地区、額田部地区	万灯祭	8月第1土曜〈8月6日、8月7日〉	南方八幡神社と額田部八幡神社の2箇所	毎年	万灯祭は稲穂の出る時、虫の駆除を願う豊作祈願といわれる。南方神社は船型が4集落から4艘、額田部神社は船型が1艘出る。管絃船は青竹で屋台船を組み、幕や提灯等で飾り、笛、太鼓で囃し、歌を歌いながら神社へと練り歩く。地域の人は提灯を提げて後に続く。		
1046	その他	上都倉(うわつぐら)の万灯	山県郡北広島町丁保余原	丁保余原地区	万灯祭	8月最終土曜日〈旧暦7月10日〉	都倉観音	毎年	陰暦7月10日の夜、保余原と丁から灯明を掲げて山頂で盆踊を行ったのが万灯祭の起こりといわれる。昔は山の頂上にある上都倉観音堂に行き、麻幹の中に肥松を包みいれた灯明を携え、丁と保余原から山を登って行き、観音堂広場では法要や子供角力等を行った。現在は法要が行われている。		
1047	その他	壬生神社の万灯祭	山県郡北広島町壬生	北広島町商工会壬生支部	万灯祭	8月最終日曜日〈不明〉	壬生神社	毎年	火の神様への感謝や畏敬の念、秋の収穫前の虫送りの意味、豊作祈願などを目的とした祭り。壬生神社参道の両脇に蝋燭を灯してお参りし、祭典を行う。昔は子供角力も行われていた。一時期中断していたが、平成初期に商工会により復活。		

【調査地区118】 旧豊平町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1048	神楽	琴庄(きんしょう)神楽	山県郡北広島町琴谷、庄原	琴庄神楽団	庄原八幡神社と琴谷天日神社の前夜祭	10月第2日曜日の前夜	神社、豊平地域づくりセンター	毎年	江戸期に伝わった石見神楽の系統。芸北神楽。神楽団は昭和48年設立。所持演目は「神降し」「神迎え」「天岩戸」「鍾馗」「塵倫」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「土蜘蛛」「滝夜叉姫」「日本武尊」「義経平氏追討」「山姥」「悪狐伝」「大江山」「羅生門」(以上新舞)、「厳島」「義経奥州平泉」(以上創作演目)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。阿須那系八調子の新舞が多い。		町
1049	神楽	龍南(りゅうなん)神楽	山県郡北広島町都志見	龍南神楽団	都志見土居八幡宮例祭前夜	10月第2日曜日の前夜	神社、近辺のコミュニティーセンター	毎年	嘉永6年(1853)結成。芸北神楽。所持演目は「八幡」「鍾馗」「天岩戸」「天神」「塵倫」「大江山」「八岐の大蛇」「安達ケ原」(以上旧舞)、「悪狐伝」「戻り橋」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞、八調子の新舞を伝承。		町
1050	神楽	阿坂(あざか)神楽	山県郡北広島町阿坂	阿坂神楽団	阿坂熊野新宮神社秋祭前夜祭	10月第2日曜日の前夜	神社	毎年	芸北神楽。江戸時代から当地で演じられていたという。所持演目は「塩祓い」「天の岩戸」「恵比寿」「大江山」「鍾馗」「八幡」「塵倫」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「葛城山」「滝夜叉姫」「鈴鹿山」「熊襲」「羅生門」「殺生石」「紅葉狩」「悪狐伝」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞、八調子の新舞を伝承。		町
1051	神楽	戸谷(とだに)神楽	山県郡北広島町戸谷	戸谷神楽団	戸谷亀山八幡宮神楽奉納	10月第2日曜日の前夜	戸谷亀山八幡宮	毎年	明治初期に結成。所持演目は「四方祓」「神迎え」「大江山」「八岐大蛇」「天岩戸」「神武」「八幡」「人倫」(以上旧舞)、「葛城山」「紅葉狩」「滝夜叉姫」「戻り橋」「悪狐伝 」「鈴鹿山」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞、八調子の新舞を伝承。		町

1052	神楽	今吉田神楽	山県郡北広島町今吉田	今吉田神楽団	今吉田亀山八幡神社前夜祭	10月第2日曜日の前夜	神社	毎年	昭和21年結成。芸北神楽。所持演目は「四方祓」「塵倫」「八岐大蛇」「黒塚」「大江山 」(以上旧舞)、「壇ノ浦」「紅葉狩」「日本武尊」「滝夜叉姫」「山姥」「葛城山」「天神」「神武東征」「戻り橋」「大化改新」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞、八調子の新舞を伝承。		町
1053	神楽	上石神楽	山県郡北広島町上石	上石神楽団	志路原熊野神宮神社前夜祭	10月第2日曜日の前夜	原東生活改善センター講堂	毎年	明治33年結成。芸北神楽。所持演目は「四方祓」「天の岩戸」「日本武尊」「鍾馗」「八岐の大蛇」「塵輪」「大江山」「安達ケ原」「天神」(以上旧舞)、「葛城山」「滝夜叉姫」「悪狐伝」「戻り橋」(以上新舞)、「吉川元春」「曽我兄弟 」(以上創作演目)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞、八調子の新舞を伝承。		町
1054	神楽	西宗神楽	山県郡北広島町西宗	西宗神楽団	西宗八幡神社前夜祭	10月第2日曜日の前夜	神社	毎年	起源は不明。芸北神楽。所持演目は「四方祓」「天の岩戸」「日本武尊」「鍾馗」「八岐の大蛇」「塵輪」「大江山」「恵比須」(以上旧舞)、「紅葉狩」「筑波山」「滝夜叉姫」「葛城山」「悪狐伝」(以上新舞)、「桃太郎伝説」(以上創作演目)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞、八調子の新舞を伝承。		町
1055	神楽	中原(なかばら)神楽	山県郡北広島町中原	中原神楽団	中原八幡神社前夜祭	10月第2日曜日の前夜	神社	毎年	起源は不明。芸北神楽。所持演目は旧舞の「四方祓」「天の岩戸」「大江山」「塵倫」「鐘馗」「日本武尊」「大蛇」、新舞の「悪狐伝」「紅葉狩」「戻り橋」「滝夜叉姫」。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞、八調子の新舞を伝承。		町
1056	神楽	吉木神楽	山県郡北広島町吉木	吉木神楽団	吉木宇都宮神社	10月第2日曜日の前夜	神社	毎年	明治34年結成。芸北神楽。所持演目は「塩祓い」「恵比寿」「大江山」「八岐大蛇」(以上旧舞)、「土蜘蛛」「戻り橋」「紅葉狩」「山姥」「羅生門」「悪狐伝」「滝夜叉姫」(以上新舞)。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。八調子の新舞を伝承。		
1057	神楽	芸北神楽	山県郡北広島町共盛	明之森神楽団	秋祭前夜祭	10月第2日曜日の前夜	共盛老人集会所	毎年	明治時代に神楽団が組織されたと伝わる。前夜祭で5演目程度の神楽を舞う。所持演目は「四方祓」「天の岩戸」「鍾馗」「八岐の大蛇」「塵輪」「大江山」。舞台に天蓋を吊る。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。六調子の旧舞を伝承。1980年代頃から活動休止。	中断(昭55頃～)	
1058	神楽	芸北神楽	山県郡北広島町阿坂	日乃出神楽団	隅岡神社秋祭		隅岡神社	毎年	平成始めに団員不足や衣装・小道具焼失により活動休止。当時の所持演目は「塩祓い」「玉藻前」「鈴鹿山」「滝夜叉姫」「戻り橋」「葛城山(土蜘蛛)」「子持山姥」「塵倫」「天慶の乱」「弘安の役」「鍾馗」「大蛇」。	中断(平成初頃～)	
1059	田楽	原東花田植	山県郡北広島町志路原、上石	原東田ばやし保存会、原東田楽団	原東大花田植	毎年5月の第3日曜日	志路原ライスセンター前特設会場	毎年	原東地区では、明治30年代まで花田植を実施。昭和43年以降古老から聞き取りによる田植唄集の作成や原東田楽団結成を経て、昭和59年復活し毎年開催されている。飾り牛による代掻き、苗取り、田植の次第で行う。囃子は大太鼓、小太鼓、手打鉦、笛。苗取り唄「サンバイ」や田植唄「代掻き唄」「扇」「笠」「うぐいす」ほかの唄があり、大太鼓打ちは「小腕返し」「臼拍子」「笠拍子」などの太鼓の叩き方で叩く。囃子の調子は古くから伝わる六調子。		町
1060	田楽	阿坂婦人田楽	山県郡北広島町阿坂地区	阿坂婦人田楽団	豊平そば祭り、地域の文化祭、敬老会、高齢者施設訪問	不定期	行事が開催される施設や舞台	不定期(各種行事の時)	戦前は地域の男性を中心に伝承され、戦時中からの一時中断を経て、女性のみで復活。構成はサンバイ(指揮役。ささらを持つ。)、早乙女、胴(大太鼓)、小太鼓、手打鉦、笛。道行で始まり、サンバイを迎え、苗取り、田植に続く。全14曲の田植歌が伝わり、六調子(ゆっくりした曲)と八調子(早めの曲)のリズムでサンバイが上歌、早乙女が下歌を歌う。		
1061	田楽	長笹田楽	山県郡北広島町長笹	長笹田楽保存会	地域内外のイベント	不定期	行事が開催される施設や舞台	不定期(イベント の時)	当地では明治時代中期以降に大花田植、大正末期頃から囃子を伴う花田植、昭和期には田ばやしが取り入れられ、各地で花田植・田楽囃しが行われるようになったという。田楽では「道行」「三杯様」「苗取り」「天竺」「岩国そろばん橋」「花の盛」「栗の花」「長笹の四季」などの曲がある。楽器は大太鼓、小太鼓、手打鉦、サンバイ竹。		
1062	風流踊	盆踊	山県郡北広島町都志見	都志見自制会	都志見盆踊り会	8月14日、15日	都志見生活改善センター、香源寺境内	不定期	昔は香源寺において行われていた。中心の櫓に歌い手と囃し方が上がり、踊り手は輪になって「一の谷」「熊谷直実公」「北海盆唄」「伯耆踊り」を踊る。このうち「北海盆歌」は別名・北海道とも呼ばれ、北海道で習ってきたもの。楽器は太鼓、手打鉦。		
1063	風流踊	上阿坂盆踊	山県郡北広島町阿坂	上阿坂盆踊り実行委員会(自治会、有志、女性会、仏教婦人会)	盆踊り大会	盆8月14日	北広島町阿坂・安養寺	毎年	戦前から寺の境内で行われていた。「炭坑節」「一の谷合戦」「天竜滝」「北海道踊り」「仏教踊り」「けっそう節」などを踊る。櫓の周りを輪になって踊る。手踊りが基本で、扇子、しゃもじを用いる踊りもある。楽器は太鼓、小太鼓、手打鉦。		
1064	風流踊	長笹盆踊	山県郡北広島町長笹	長笹郷土振興会	長笹ふるさとまつり	8月14日晩〈教善寺、円正寺〉	長笹ふれあい広場	毎年	昔は教善寺・円正寺で聴聞の後に踊っていた。戦後に校庭で踊るようになった。「三つ拍子」「さんさ」「関の五本松」「きそん」「日蓮尊者」などを団扇を採って踊る。		
1065	風流踊	戸谷の盆踊	山県郡北広島町戸谷	地域住民	盆踊り大会	盆8月14日	希望の館	毎年	由来は不明。中心の櫓を設置し、歌い手と囃子が上がり、踊り子は輪になって「日蓮尊者」「熊谷直実公」「親鸞様」を踊る。戦前から寺の境内で変装などをし、盆の期間中盛んに踊られていた。楽器は大太鼓。		

1066	風流踊	盆踊	山県郡北広島町志路原、上石	原東夏まつり実行委員会	原東夏まつり	盆8月14日	北広島町原東生活改善センター	毎年	戦前から寺の境内で行われていたが一時衰退、昭和40年代前半から地域の夏祭りで行うようになった。夜8時頃から子供盆踊に続いて踊られる。子供は「親鸞音頭」など、大人は「一の谷」「炭坑節」を櫓の周りに輪になって踊る。楽器は大太鼓、手打鉦。		
1067	風流踊	中原盆踊	山県郡北広島町中原	自治会などが主催	お盆	盆8月14日	北広島町原西きんさい広場	毎年	戦前から寺の境内で行われていた。現在は「炭坑節」などを踊る。中原独自の盆踊唄は確認されていない。櫓の周りを輪になって踊る。		

（21） 大崎上島町

【調査地区119】 旧大崎町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1068	風流踊	向山(むかいやま)盆踊	豊田郡大崎上島町向山地区	口説き保存会	新盆供養盆踊	8月14日夜	向山区運動公園	毎年	由来は未詳。盆供養を行い、その後盆踊がある。櫓の周りに輪になって踊る。踊り手は位牌を背負って踊る。手踊、手拭い踊がある。平成22年から中断中。	中断（平22～）	
1069	風流踊	大串盆踊	豊田郡大崎上島町大串地区	大串とこせ会	新盆供養	8月13日夜	大串老人福祉センター	毎年	由来は未詳。清光寺盆供養を行い、その後盆踊がある。櫓の周りに輪になって踊る。踊り手は位牌・遺影を背負って踊る。手踊のほか、手拭い踊ではタオルを持つ。口説きは「大串盆踊り口説き」があり、手拭い踊など3曲ある。楽器は太鼓。		
1070	風流踊	盆踊	豊田郡大崎上島町中野大西区	大西区	地蔵祭	7月末日の土曜日夜	JAアグリセンター前広場	毎年	享保の大飢饉での死者を供養したのが始まりという。盆供養を行い、その後盆踊がある。櫓の周りに輪になって踊る。演目は「大崎音頭」ほか。現在、口説きはカセットテープで流している。		
1071	風流踊	東地区盆踊	豊田郡大崎上島町中野山尻区、東原下区、原下区	山尻区・東原下区・原下区各自治会合同	新盆供養	8月15日夜	集会所（東原下区・原下区隔年交替）	毎年	由来は未詳。櫓の周りに輪になって踊る。口説きは盆踊口説き6曲を各10分程度歌う。踊り手は位牌・遺影を背負い踊る。手踊、手拭い踊がある。楽器は太鼓。		
1072	風流踊	本郷区盆踊	豊田郡大崎上島町中野本郷地区	任意団体（自治会員）数名	新盆供養	8月12日	本郷老人集会所	毎年	由来は未詳。新盆供養を行い、その後盆踊がある。櫓の周りに輪になって踊る。踊り手は位牌を背負い、手拭いを持って「大崎音頭」や地元の口説きで踊る。		

【調査地区120】 旧東野町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1073	獅子舞	獅子舞	豊田郡大崎上島町東野外表		荒神社祭	4月第3日曜日	東野外表区荒神社	毎年	荒神社の祭礼における道中行列を構成する獅子による獅子舞。行列の構成は、神官、御供、奴、獅子止め、獅子、猿、お多福、囃子方（太鼓・小鼓・笛）、参列者。神前に獅子頭を安置し、式典入魂の儀が行われる。宮出しで奴を踏み、太鼓の音と奴の鳥毛で寝ている獅子を起こす。獅子舞の動作は「静から動へ」「動から静へ」「猛り狂う」の三段階で構成される。その後、正装した少年の獅子が各家を訪問する巡回舞が行われる。		
1074	風流踊	東野盆踊	豊田郡大崎上島町東野地区内	東野地区内の自治会	新盆供養	8月14日前後の夜	東野地区内各集会所広場	毎年	櫓の周りに輪になって踊る。櫓には太鼓を据える。踊り手は位牌を背負う。踊りは「サッサ音頭」や「手ぬぐい踊」があり、口説きは「阿波の鳴門巡礼の口説き」「佐倉宗五郎の口説き」「平井権八小紫口説き」「浦里時次郎口説き」「お染久松口説き」「八百屋お七・小姓の吉三口説き」「鈴木主水白糸口説き」などが伝わる。		
1075	祭礼風流	古社八幡神社秋祭（奴踊）	豊田郡大崎上島町東野地区	東野伝統文化保存委員会	古社八幡神社秋祭	9月第3日曜日〈8月14日・15日の2日間〉	古社八幡神社境内及び東野地区内	毎年	古江集会所前広場から7～8名の奴を先頭とした行列が、独特の口上（囃子歌）と踊りをしながら古社山の神社境内に到着し、境内で口上と踊りを奉納する。奴は歌舞伎役者のような化粧を施し、鳥毛を持ち、腰に瓢箪や草鞋を下げる。神事後の御神幸では、神輿を先導しながら、沿道各所や御旅所で口上と奴踊を披露する。秋季大祭の前週の土曜日には、汐汲みの儀式が行われ、本当屋の主が海水を汲み、その水は1週間本当屋の床の間に置かれ、祭り当日には奴・神輿の清めの汐として使われる。		町
1076	祭礼風流	ひがしの住吉祭櫂伝馬競漕	豊田郡大崎上島町東野地区	東野伝統文化保存委員会	ひがしの住吉祭櫂伝馬競漕	8月13日〈旧暦6月29日〉	東野地区白水港周辺海上	毎年	ひがしの住吉祭の一行事。櫂伝馬競漕の起源は不明だが、住吉神社が勧請された文政2（1837）年頃と推定しているとのことである。御神体を乗せた御座船を矢弓の厳島神社御旅所まで、櫂伝馬が曳航。白水港沖を中心に4隻の櫂伝馬による競漕が数回にわたって行われ、夕刻に御座船を櫂伝馬が曳航し還御が行われる。櫂伝馬船は白水、垂水、盛谷、古江の4地区（最盛期には矢弓、外表、契島、臼島を含む8地区）から出され、船頭、漕ぎ手14人（左右各7人）、太鼓打ち、子供が務める「だいふり」「けんがい」の18名が乗船し、掛け声と太鼓に合わせて漕ぐ。		町

【調査地区121】 旧木江町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1077	獅子舞	獅子舞	豊田郡大崎上島町明石	御串山八幡神社氏子総代会 明石地区区長会	明石御串山神社秋季大祭	9月第3土曜日	明石御串山神社、明石会館前御旅所	毎年	起源は不明だが、現在島に残る獅子舞は全て明石地区の人が伝授してきたという。神社及び御旅所において、神事後に舞う。獅子がうつぶせに寝転んだ状態から始まり、囃子の笛・太鼓の音が大きく早くなると獅子が暴れだし、観客に噛みつくしぐさで激しく舞う。やがて笛・太鼓の音が小さく遅くなると獅子は元のうつぶせの状態となり、眠りにつく。		
1078	風流踊	木江(きのえ)盆踊	豊田郡大崎上島町木江地区	木江地区盆踊り実行委員会	木江地区新盆供養盆踊り大会	8月15日夜	木江公民館	毎年	新盆供養の一環として実施。住職による新盆供養の後、盆踊を行う。櫓と祭壇を設け、輪になって踊る。新盆の踊り手は遺影(位牌)の入った箱状の「背負い仏壇」を背負って踊る。口説きは「木江くどき(大崎くどき)」「阿波の鳴門巡礼くどき」「鈴木主水白糸くどき」「お染岩七」が伝わり、始まり・終わりの文句と口説きの交代時の継ぎ文句がある。楽器は太鼓。【詳細調査No.34】		
1079	祭礼風流	十七夜祭	豊田郡大崎上島町木江地区	木江地区区長会	きのえ十七夜祭	7月の最終土曜日	木江地区及び木江港周辺	毎年	長さ11m、幅1.8mの木造船に片舷7人・両舷で計14人の漕ぎ手(水主)とかじ取りの船頭、太鼓打ちの16人が船に乗り込む。櫂伝馬船が神輿を乗せた御座船を御旅所まで曳航し、夜には再び神社沖まで曳航する(船渡御)。昼間は櫂伝馬4隻による競漕が行われ、神輿渡御には花笠を付けた子供達が笛・太鼓・手打鉦で囃す「チャンポコ」(吹き囃子)が行われる。		

(22) 世羅町

【調査地区122】 旧甲山町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1080	神楽 その他	赤屋八幡神社の荒神祭	世羅郡世羅町大字赤屋字広田648	西神崎神楽保存会他	赤屋八幡神社荒神祭	11月3日又は第2日曜日(直近は令和7年11月9日)	赤屋八幡神社神楽殿及び荒神社	5年毎	5年毎の式年に藁蛇を祀り、荒神祭の祭典終了後、神楽を行う。備後神楽の一般的な演目である「清め舞」「四神舞」「神舞」「悪魔払」「枡屋お連」のほか、荒神祭では「大蛇神殿入り」が舞われている。舞手と藁龍が一体となって舞う「大蛇神殿入り」は、荒神祭が盛んな世羅郡域でも類例が少なく貴重である。楽器は太鼓、笛、鉦(手拍子)。		
1081	獅子舞 祭礼風流	宇津戸(うづと)夏の神祇	世羅郡世羅町大字宇津戸一円	宇津戸地区神祇保存会	夏神祇	7月の最終日曜日	領家八幡神社及び地頭八幡神社の境内、道中	2年毎	延享年間(1744-48)に大早魃があり、雨乞いをしたところ雨が降って豊作になったことを祝い神祇を奉納したのが始まりという。目付槍・鉄砲などの時代行列と、大胴打(小学生)・音頭取り・踊り子からなる神祇踊、獅子2体などで構成。「舟節」「お庭おどり」「龍王おどり」「姫子おどり」「山伏おどり」「シンポチおどり」などの曲の中から踊る。楽器は大太鼓、カンコ(小太鼓)、鉦(手拍子)、笛。獅子舞は、獅子太鼓やササラを持つひょっとこの獅子あやしに合わせて舞い、2～3段の継獅子も行う。		町
1082	獅子舞 祭礼風流	赤屋八幡神社の神祇	世羅郡世羅町大字赤屋字広田648	赤屋八幡神社氏子会	赤屋八幡神社秋祭	11月3日又は第2日曜日	神社境内、御旅所、道中	毎年	元和2年(1616)に御旅所を定めたと社史にあり、その頃に神祇が慣例となった可能性がある。神社から御旅所まで、大祭旗・猿田彦・獅子・太鼓・鉦・花鉾・五色旗・金幣・神饌・宮司・総代・巫女の順に隊列を組んで神幸する。太鼓打は頭に鉢巻して「シャグマ」を冠る。衣装は五色の布をたすきにとり、腰で結び垂らす。道切りが猿田彦衣装の他は全員「ハッピ」を着用する。太鼓打ちはシャグマをかぶった小学生が担当し、二つの太鼓に取り付き「サンマイドウ」などの曲を打つ。		
1083	風流踊	宇津戸盆踊り大会	世羅郡世羅町大字宇津戸一円	宇津戸地区盆踊り大会実行委員会	宇津戸盆踊り大会	8月14日夜(午後8時～)	宇津戸自治センター前広場(大字宇津戸2898)	毎年	昭和初期、青年団活動の一環として始まったという。広場の中央で輪を作りながら「一ツ拍子(阿波の徳十郎兵衛)」「二ツ拍子(八百屋お七)」「三ツ拍子(鈴木主水」「熊谷踊り」「扇子踊り」など踊る。手踊りや扇子踊りがある。楽器は太鼓。		
1084	祭礼風流 舞台芸等	だんじり仁輪加狂言	世羅郡世羅町大字甲山、大字本郷、大字東神崎	上組だんじり保存会、中之町東町だんじり保存会、西上原上新川町だんじり保存会	甲山の胡社の夏祭(廿日えびす)	8月19日・20日(令和6年から20日のみ)	甲山本通り及び新川通りと本郷栄町通りの連坦地区	毎年	近代になって始まったと考えられる。だんじり4台が笛・鉦・三味線による「だんじり囃子」に合わせて町中を練り歩き、各所で若連中による仁輪加狂言が演じられ、昼間は子供の「吊り人形」がだんじりの舞台上で展示される。仁輪加狂言はわずか5分の寸劇であるが、若連中たちが知恵を絞った時代劇、現代劇、現代風漫才で劇の最後には「オチ」があり、観客から盛大な笑いと拍手が起こる。【詳細調査No.35】		町

【調査地区123】 旧世羅町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1085	神楽 その他	枯木八幡神社・野原八幡神社の荒神祭	枯木八幡神社:世羅郡世羅町大字津口字地頭分604 野原八幡神社:世羅郡世羅町大字津口2345	津口神楽保存会	荒神祭	3月末の日曜日(前回は平成31年3月24日)	枯木八幡神社、野原八幡神社(神楽殿)(2社で交互に実施)	7年毎	枯木八幡神社と野原八幡神社が7年毎に交代で執り行う。荒神祭の祭典終了後、神楽殿で9演目を舞う。演目は「清め舞」「勧請舞」「五行祭」「悪魔祓」「造花引き」「折敷舞」「剣舞」「八重垣」「布舞」。神楽殿の鴨居には雄・雌2体の藁蛇とユグリ(藁性の入れ物)を吊り下げる。勧請舞は全国や世羅郡の諸祭神を読み上げ、造花(天蓋)引きは神の降臨を表し、布舞では神託を授かる。		

1086	神楽 その他	江之河内の黄幡祭	世羅郡世羅町大字津口1873・江之河内谷	江之河内の黄幡祭実行委員会（谷内の15戸のうち3戸ずつが当番で当家を務める）	黄幡祭	3月の最終の日曜日（前回は平成31年3月）	江之河内集会所（世羅町大字津口1873）	5年毎	5年毎の式年で執行される。午前中に神事、午後から神楽奉納。神楽は「清め舞」「神勧請」「悪魔祓」「皿屋敷」「折敷舞」が奉納される。黄幡祭はかつては世羅町各地で行われており、藁龍や御幣をつくり谷内の水源地などに奉納していた。		
1087	神楽 その他	徳市八幡神社の荒神祭	世羅郡世羅町大字徳市1384（徳市八幡神社）	中安田神楽保存会	荒神祭	10月最後の土曜日（前回は令和元年度）	徳市八幡神社（世羅町大字徳市1384）	5年毎	5年毎の式年で執行。神楽殿の中央に天井から円形の天蓋を吊る。荒神祭祭典の終了後に神楽「清め」「神勧請」「悪魔祓」「五行祭」「造花引き」「八重垣」「布舞」を舞う。「五行祭」は丁寧に上演すると、一演目だけでも6時間程度が必要であるという。山中福田八幡神社を総氏神とした世羅町徳市・長田・山中福田・黒渕で同様の荒神祭が継承されている。		
1088	神楽 その他	黒渕八幡神社の荒神祭	世羅郡世羅町大字黒渕一円・大字黒渕1198	津口神楽団	荒神祭	11月3日（前回は平成28年11月5日）	黒渕八幡神社境内（世羅町大字黒渕1198）	7年毎	7年毎の式年で執行。藁蛇2匹とユグリ2個（小蛇・五穀）、スポ（神饌を入れる）、御幣などを製作し、神楽殿に飾る。舞台中央の天井から天蓋（「みどり」ともいう。）を吊る。荒神祭祭典後、神楽を奉納する。演目は「清め」「神勧請」「悪魔祓」「造花」の三番を舞い、その後「大蛇退治の舞」「造花」「荒神舞」「折敷舞」を舞う。山中福田八幡神社を総氏神とした世羅町徳市・長田・山中福田・黒渕で同様の荒神祭が継承されている。		
1089	風流踊	津久志夏祭り（盆踊）	世羅郡世羅町大字津口	津久志スポーツ協会	津久志夏祭り	8月14日夕刻〈旧暦7月15日〉	津口観音寺広場ほか	毎年	戦前に始まり、場所は法泉坊、小学校校庭、各地区の広場と変遷した。櫓を組み、櫓の周囲を廻りながら「七つ拍子」「炭鉱節」「津久志音頭」などを踊る。楽器は太鼓。		
1090	風流踊	京丸の盆踊	世羅郡世羅町大字京丸1122-2	京丸覚醒会	お盆	8月13日夕方〈旧暦7月15日〉	京丸会館広場	毎年	昭和10年頃から始まる。中心の櫓に手（口説き手1人、太鼓1人、囃子方2人）が登壇する。踊り手は櫓を中心に時計廻りに踊る。曲は「覚醒踊り（扇子未使用）」「熊谷踊り（扇子1本）」「京丸よいとこ（扇子2本）」「世羅自慢」「大田踊り」「青柳踊り」「やんさ踊り（鈴木主水）」「扇子踊り」など。踊り手は浴衣姿で鉢巻きをする。		

【調査地区124】 旧世羅西町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1091	神楽 獅子舞 祭礼風流 その他	両化(りょうけ)八幡神社の祭礼行事（夕顔切り(ゆうごうきり)他）	世羅郡世羅町大字小国4821（両化八幡神社）	両化八幡神社	両化八幡神社の秋季例大祭	10月18日　午後	両化八幡神社境内	毎年	両化八幡神社秋季例大祭の行事。宵宮祭には神殿入りと神楽が奉納され、当日は時代行列・神祇踊り・獅子舞のほか夕顔切り（町指定）・曳々応行事・花角力行事が奉納される。夕顔切りは戦国時代、小国・土居城城主赤川元房が先勝祈願して大勝し奉納したことに由来すると伝わり、剽軽な男性がこっけいな仕草で夕顔瓢（冬瓜）に6本の竹串を刺して、動物の形を作り、最後に木太刀で夕顔瓢2度切るという無言の喜劇。曳々応行事は「エイ、エイ、オウ」の掛け声で太刀役が太刀を持って所作を行う。花角力行事は各地区の子供による相撲。神祇踊りは「道行き」「お庭踊り」「宮島おどり」などの歌に合わせて道中や境内で子供が太鼓を舞い打つ。		町
1092	神楽 その他	長田八幡神社の荒神祭	世羅郡世羅町大字長田943	長田八幡神社	令和元年度に開催	3月27日（前回：平成29年3月27日）	長田八幡神社・長田生活改善センター（永田937-7他）	7年毎	7年毎の式年で執行される。会場に雄・雌2体の藁龍（1体の長さ約5m）を中央の鴨居に吊り、舞台となる部屋の中央に白蓋を吊る。荒神祭の神事終了後、神楽を演じる。演目は「清め舞」「勧請」「悪魔祓」「五行祭」「八重垣」「布舞」「枡屋お蓮」が演じられている。楽は太鼓、笛、鉦（手拍子）。山中福田八幡神社を総氏神とした世羅町徳市・長田・山中福田・黒渕で同様の荒神祭が継承されている。		
1093	神楽 その他	両化八幡神社・中央大宮神社荒神祭	両化八幡神社：世羅郡世羅町大字小国4821 中央大宮神社：世羅郡世羅町大字小国4429	小国地区荒神祭執行委員会（両化八幡神社、中央大宮神社、菅原神社、祇園神社で構成）	荒神祭	3月〈11月〉直近は令和7年3月16日、前々回は平成30年3月18日	両化八幡神社・中央大宮神社境内（世羅郡世羅町大字小国）	7年毎	文政3年（1820）「書出帳」に荒神祭に関する記述あり。両化八幡神社と中央大宮神社において、7年毎の式年に交代で執り行う。神楽殿の内壁に藁龍雌雄1対を巻き付け、天井に造花（「天蓋・みどり」ともいう。）を吊り、祭壇を設ける。始めに神楽「清米（め）」「神勧請」を舞い、荒神祭の祭典を行った後、再び神楽「五行祭」「造花引き」「剣舞」「悪魔祓」「八重垣の能」「折敷舞」「布舞（荒神舞）」を舞う。終了後、藁龍を荒神祠に納め、荒神を祀る家は荒神幣（スポ）を各荒神に納める。【詳細調査No.36】		
1094	神楽 その他	山中福田八幡神社の荒神祭	世羅郡世羅町大字山中福田2305	山中福田八幡神社	荒神祭	10月最終日曜日（前回：平成28年11月5日）	山中福田八幡神社境内	7年毎	神楽は夕方6時から10時頃まで行われる。神楽殿に造花（天蓋）を吊り、「清め舞」「勧請」「悪魔祓」「八重垣」「皿屋敷」「布舞」などが演じられる。楽は太鼓、笛、鉦（手拍子）。当社を総氏神とした世羅町徳市・長田・山中福田・黒渕で同様の荒神祭が継承されている。		
1095	獅子舞 祭礼風流	早立八幡神社の神儀〈黒川神儀〉	世羅郡世羅町大字黒川一円	黒川神儀保存会	早立八幡神社秋祭	11月3日	早立八幡神社（世羅町大字黒川3560）他	毎年、3年毎	社史によると、明応年間（1492-1501）に黒川地区から津口庄・野原八幡宮へ神祇を奉納したという。現在の神儀は、隣接する東広島市豊栄町の吉原神儀の流れを汲む。神幸の構成は、先導、竹箒、祓具、社名旗、道切（猿田彦）、獅子、長物、囃子方（鉦鼓・太鼓・笛・鉦鼓）、唐櫃（神饌）、紅白旗、御幣、鉾、神輿、神官・総代等、才取り、三吉、花鉾・傘鉾。神社の境内では、10曲あるうちの「ちんかこ」「道行」「庭打ち」「七ッ打ち」「やのお」「松原」がシャグマ・袴姿の子供による太鼓を中心に奉納される。2頭・二人立の獅子舞「神殿参り」や杖役などの言立て・舞も奉納される。		町

1096	風流踊	小国地区の納涼盆踊大会	世羅郡世羅町大字小国一円	小国地区納涼盆踊り実行委員会	小国地区の納涼盆踊り大会	8月14日夜（午後8時～9時頃）	せらにし小学校（世羅町大字小国4682）	毎年	由来は未詳だが、昭和10年代には盆踊大会が開催されるなど盛んに行われていた。櫓の周囲を右廻りに踊る。手踊りや扇子踊りがある。曲は「三ツ拍子（鈴木主水）」「やんさ（石堂丸）」「泥おとし（糸屋の娘）」「扇子踊り（猿丸太夫）」「世羅西音頭」「夢をつないで」など。楽器は太鼓2張。		
1097	祭礼風流	神殿入り(こうどなり)―神殿入り、神楽、夜の御幸―	世羅郡世羅町上津田一円	稲生神社神殿入り保存会	神殿入り	体育の日の前日と前々日（体育の日は予備日）	稲生神社（世羅町大字上津田2619）他	毎年	神殿入りは上津田七地区の氏子が神社へ灯明を奉納する祭礼行事。大灯明は一本の竿に一本の枠を付け、和紙で張った四角な灯明をたくさんつけたもので、高さ3～5m・30kg近い重さである。七つの灯明を三角形に配置した「七灯」や舟形の光背のような「舟後光」、大鳥居、五重塔の形に飾りつけた「やぐら」も作られ、太鼓・鉦・笛の囃子により夜間に宮上がりを行う。その後、備後神楽「清め舞」「四神舞」「悪魔祓」や能舞が行われ、深夜に御旅所まで神輿渡御を行う。		県

（23） 神石高原町

【調査地区125】 旧油木町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1098	神楽	油木の神代神楽〈八ヶ社神楽〉	神石郡神石高原町油木	油木神楽保存会	荒神祭	8月15日（亀鶴山八幡神社）、12年に一度式年での荒神神楽も執行される	神社、集会所、民家	定期（ 6年毎）・不定期（依頼があった時）	承徳2年（1098）出雲系の神能が取り入れられ、神職が氏神の祭礼で舞うようになったのが始まりとされる。文化年中に備中の国学者西林国橋が作った「備中神楽」の一部を、天保10年（1839）宮中七種舞及び伊勢神楽から榊舞を取り入れ、七座神役をつくり名実ともに神代神楽が完成した。当番清め、当番竈ざらえ、荒神迎え、前神楽、本神楽、総祓い、綱入れ荒神遊び、荒神舞い納め、灰神楽、荒神送りなどの次第で実施。演目は「曲舞」「榊舞」「指紙舞」「莫莚舞」「勧請舞」「神迎え」の神役と、「猿田彦命悪魔祓」「大社の能」などの神能からなる。		県
1099	神楽 その他	油木の荒神祭	神石郡神石高原町油木	個人もしくは同族や地域住民による荒神講	荒神祭	旧暦の正月、5月、9月、農繁期が済んだ11月12月	神社、集会所、民家	定期（ 毎年 ）不定期（依頼があった時）	正月は苗（名）内の者が集まって神職を招き、祭をする。5月と9月は苗内の者で簡易的な祭りをする。農繁期の過ぎた11月から12月にかけて行われる祭は、当屋を決め、ごちそうを食べて神楽を楽しむ。その年の当屋は米がよくとれたという（『芸備地方のまつり』）。		
1100	獅子舞 祭礼風流	安田亀山八幡神社の神儀	神石郡神石高原町安田	安田神儀保存会	秋季大祭	10月第1日曜日〈10月3日・4日〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	安田4地域から各1カラ出て神社祭礼に奉納される祭礼行列。各地域から神社鳥居前に集合し、到着順に神社まで行列を組み道行き、宮上がりして右回りに3回宮めぐりを行う。神社境内及び御旅所で神儀を行う。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。		
1101	獅子舞 祭礼風流	花済竹迫山(はなずみたけさこやま)八幡神社の神儀	神石郡神石高原町花済		秋季例祭	11月第2土曜日〈11月〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	花済竹迫山八幡神社に奉納される祭礼行列。行列で囃し踊りながら練り歩く。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。		
1102	獅子舞 祭礼風流	小野八幡の神儀	神石郡神石高原町小野		秋季例祭	11月3日〈11月〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	小野八幡神社に奉納される祭礼行列。行列で囃し踊りながら練り歩く。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。		
1103	獅子舞 祭礼風流	上野八幡の神儀	神石郡神石高原町上野		秋季例祭	11月第2日曜〈11月〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	上野八幡神社に奉納される祭礼行列。行列で囃し踊りながら練り歩く。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立ちで、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。		
1104	獅子舞 祭礼風流	新免石神社の神儀	神石郡神石高原町新免		秋季例祭	10月最終日曜日〈11月4日〉	道中、神社境内、御旅所		新免石神社に奉納される祭礼行列。行列で囃し踊りながら練り歩く。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。現在中断中。	中断	

1105	獅子舞 祭礼風流	近田忠原山(ちかだただはらやま)八幡の神儀	神石郡神石高原町 近田		秋季例祭	11月第2土曜日〈11月〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	近田忠原山八幡神社に奉納される祭礼行列。行列で囃し踊りながら練り歩く。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。		
1106	獅子舞 祭礼風流	近田大仙山八幡の神儀	神石郡神石高原町 近田		秋季例祭	11月3日〈11月〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	近田大仙山八幡神社に奉納される祭礼行列。行列で囃し踊りながら練り歩く。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。		
1107	獅子舞 祭礼風流	油木の神儀	神石郡神石高原町 油木	油木神儀保存会	亀鶴山八幡神社・鶴山吉備津神社祭礼	10月第2土曜・日曜〈10月10日・11日〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	亀鶴山八幡神社に奉納される祭礼行列。室町時代後期や江戸時代中期の古記録あり。現在は油木5自治振興区から太鼓6カラが出る。団長・副団長のもと、大頭取、拍子取り、大幣、猿田彦、獅子、羽熊、神儀打ちなど総勢70名余りが行列で囃し踊りながら練り歩く。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各6、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽心岳」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。		県
1108	獅子舞 祭礼風流	李(すもも)天満神社の神儀	神石郡神石高原町 李		秋季例祭	10月第3日曜〈11月〉	道中、神社境内、御旅所	毎年	李天満神社に奉納される祭礼行列。神儀打ちは、頭に尾長鶏の羽根のシャグマを被り、4人で一つの太鼓を打ちながら跳ね踊る。楽器は大太鼓・大鉦各4、拍子木。曲は「庭入れ」「道行き」「馬場がかり」「宮めぐり」「神還し」「神楽しんがく」「曲舞」が伝わる。獅子は一人立で、行列の位置をほとんど離れず、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作が多い。現在、神輿渡御は行われない。		
1109	風流踊	観音堂盆踊	神石郡神石高原町 油木	地域住民	お盆	8月15日	寺脇観音堂前	毎年	明治以来盛んであったが、戦後衰退、昭和40年代に復活。以前は櫓が組まれていた。「てんがらこ」「二つ拍子」などの口説きを伝承する。楽器は太鼓。		
1110	風流踊	宗兼盆踊	神石郡神石高原町 油木	宗兼盆踊り保存会	お盆	8月13日	宗兼公会堂	毎年	明治以来盛んであったが、戦後衰退、昭和40年代に復活。以前は櫓が組まれていた。「てんがらこ」「二つ拍子」「米屋の弥七」「間男殺し」などの口説きを伝承する。楽器は太鼓。		
1111	風流踊	仙養ヶ原盆踊	神石郡神石高原町 近田	地域住民	お盆	8月	仙養ヶ原グランド	毎年	明治以来盛んであったが、戦後衰退、昭和40年代に復活するも現在は、休止している。櫓を組んでいた。「てんがらこ」「二つ拍子」「米屋の弥七」「間男殺し」などの口説きを伝承する。楽器は太鼓。	中断(平成末頃～)	
1112	祭礼風流	厳島神社のまつり	神石郡神石高原町 油木		管絃祭	旧暦6月17日に近い日曜日〈旧暦6月17日〉	油木の町筋	毎年	厳島神社の管絃祭の御座船神幸行事を、当地に移したもの。4mほどの木の車がついた木造船を飾り立て、大人が車の手木を持ち、子供は法被姿で「ヨイサ、ヨイサ」の掛け声でロープを引っ張り練り歩く。ほかにも、水神さんの御霊が載った神輿も同行する。往時は大人7～8名、子供100名以上の参加者があったが、現在では10名前後となった。		

【調査地区126】 旧神石町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1113	獅子舞 祭礼風流	中屋八幡神社の神祇	神石郡神石高原町 福永			11月3日	中屋八幡神社境内		明治時代の終わり頃に始まったといわれる。恩定寺より打出し、同所で神祇(羽踊り)をした後、道行(サムライ・ナガイカイツケ)の曲で舞いながら本社に向う。石鳥居の前より打込宮巡り(3回)し、本殿前にて神楽(跳踊)をする。その後神輿渡御に随う。行列の構成は猿田彦、獅子、大胴打ち4人、太鼓2、鉦2、御輿、供物、大幣ほか。		
1114	獅子舞 祭礼風流	本郷八幡神社の神祇	神石郡神石高原町 古川本郷			10月5日	本郷八幡神社境内		明治21年に保存会が結成され現在に至る。猿田彦、獅子、太鼓打ち、太鼓・大鉦・拍子木、大幣などで構成される行列で囃し踊りながら練り歩き、宮上がり、宮めぐりを行った後、本殿前で跳舞がある。祭典後、再び本殿前で神祇、続いて御旅所へ御輿とともに進む。神幸後本社に還御し、獅子起こし(獅子舞)が奉納される。神祇打ちは8人で頭に尾長鶏の羽を付けたシャグマをかぶり、一つの太鼓に2人配置し、太鼓を叩きながら跳ね踊る。		
1115	獅子舞 祭礼風流	田口八幡神社の神祇	神石郡神石高原町 古川田口			10月10日	田口八幡神社境内		明治初年頃より行われていたと伝わる。猿田彦、獅子、太鼓打ち、鉦打ち、大幣、幟などで構成される行列で囃し踊りながら、神輿渡御に随い練り歩く。神祇は「サッサノヨイカナサーヨイコナサーヨイコナサー」と胴打ち・バイ回しをしながら始め、道中打ち、廻り、舞踊りなどの曲を演じる。獅子は1人立で、獅子頭を高く上げ頂点で噛む動作をする。		
1116	獅子舞 祭礼風流	高光八幡神社の神祇	神石郡神石高原町 高光			10月第1土・日曜日〈10月8日・9日の2日間〉	高光八幡神社の境内		起源は明治初期と思われるが定かではない。初日は宮上がり・本殿巡り(道行き)の後、本殿前で跳踊(神楽)が行われる。祭典後、神幸で御旅所へ向かい、2日目に本社に還御し、それぞれ神祇が随う。行列は猿田彦、獅子舞、太鼓打、太鼓、鉦、拍子木、神輿、神宮、総代と続く。跳舞は「トントコトントコトントコトン」と太鼓を叩き、拍子に合わせて踊る。曲は「道行き」「神楽」など。		

1117	獅子舞 祭礼風流	相渡(あいど)八幡宮の神祇	神石郡神石高原町 相渡			11月10日に近い土・日曜日	神石高原町　相渡		起源は明治初期と思われるが定かではない。宮司方より神祇の打出しが始まり、本社鳥居前より宮めぐり、本殿前で神楽、跳踊を行う。祭典後、神輿渡御で御旅所へ進み、同所で神祇・神事後、本社へ還御し、再び本殿前にて神祇を行う。行列は猿田彦、獅子1、鉦2、神祇打(胴打)8人、拍子木打、神輿、神宮、氏子総代と続く。胴打は長尾鶏の羽根で作ったシャグマをかぶり、五色の手拭いを背後に垂らす。曲は「打入」「庭打」「心楽打」「神殿渡」「宮巡り」「獅子打」「石段上り」など。		
1118	獅子舞 祭礼風流	永野の神儀	神石郡神石高原町 永野	永野神儀組			道中、神社境内、御旅所		旧神石町各地区によって神社祭礼に奉納される行列。各苗総代が世話方となり、師匠役、神儀打、鉦打等、総勢15名程度で構成。祭典後、御旅所での神事後にそれぞれ神儀を行う。神儀打ちは長尾鶏の羽根で作ったシャグマをかぶり、2人で一つの太鼓を舞い打つ(計4カラ)。曲は「道行き」「庭入れ」などがあり、祭典時には拝殿前で神楽「曲舞」1～3番を舞う。獅子舞は一人立で、曲に合わせて獅子頭を高く掲げて振る動作をする。昭和2年まで競走馬の奉納も行われていた。		
1119	獅子舞 祭礼風流	草木(くさぎ)八幡神社の神祇	神石郡神石高原町 草木			11月第3土曜日・日曜日	草木八幡神社の境内		明治初期には始まっていたと伝わる。猿田彦を先頭に獅子、拍子木打、大胴打、鉦、大幣などで構成される行列で神祇を打ちながら宮上がりを行う。本殿巡り、本殿前での神楽(跳踊)など行い、祭典後、神輿渡御に随行し、御旅所で神楽(跳踊)を奉納する。「道行き」「宮巡り」などの曲が伝わる。大胴打はシャグマをかぶり、五色の布を背後に垂らす。		
1120	獅子舞 祭礼風流	田頭(たんどう)八幡神社の神儀	神石郡神石高原町 田頭			10月第3日曜日	田頭八幡神社境内		昭和初期より伝承されているという。田頭コミュニティーセンターで打ち始め、神社大鳥居の前より打込、祭典後、神輿渡御に随い御旅所で再び神儀を打つ。行列は猿田彦を先頭に、獅子1、大胴打8人、鉦(2人で担ぎ1人が打つ)、神輿、神官、御供物、総代、氏子と続く。曲は「道行き」「宮巡り」「神楽跳踊(トンテントントコ、トントコトン他)」が伝わる。		
1121	獅子舞 祭礼風流	牧八幡神社の神祇	神石郡神石高原町 牧			10月10日(変更する場合あり)	牧八幡神社		昭和初期より伝承されているという。総代の家で各々準備し、神社大鳥居前に集合し、打込を行う。本殿前に到着し、祭典の間、道行・本殿巡り・神楽(跳踊)が行われる。祭典終了後、神輿渡御に随い御旅所にて「道行」の曲で神祇を踊る。行列の構成は、猿田彦を先頭に、獅子・大胴打・鉦・神輿・神官・総代と続く。曲は「道行」「宮巡り」「神楽(跳踊)(サッサーノ　ヨイコノサー、ヨイヨイ、コナサー、ヨイコナサー他)」が伝わる。		
1122	獅子舞 祭礼風流	小堀山八幡神社の神祇	神石郡神石高原町 間瀬			10月第1日曜日	小堀山八幡神社境内		昭和初期より伝承されているという。間瀬(岩石)集会所(以前は総代長宅)を出発し宮上がりを行う。本殿前で神楽(跳踊)を行い、祭典後、神輿渡御に随い御旅所へ向かう。行列の構成は、猿田彦・獅子・大胴打・鉦2・太鼓4・拍子木・大幣等、総勢20人程度。曲は「道行き」「宮巡り」「神楽(跳踊)(トントコ、トントコ、トントコトンなど)」が伝わる。		
1123	風流踊	高光盆踊	神石郡神石高原町 高光		お盆	8月13日	高光コミュニティーセンター	定期	昭和30年頃までは安楽寺、旧役場(神石町)前、日限大師堂、旧高光小学校校庭で行われており、明治～昭和30年頃までは大仙口説きに合わせて念仏踊が行われていた。現在は櫓の周りを輪になり、「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		
1124	風流踊	相渡盆踊	神石郡神石高原町 相渡		お盆	8月14日	相渡コミュニティーセンター(旧相渡小学校グランド)	定期	昭和30年頃までは龍雲寺境内、竹中堂前広場で、大仙口説きに合わせて念仏踊が行われていた。現在は旧相渡小学校校庭に櫓を立てて輪になり、「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		
1125	風流踊	永野盆踊	神石郡神石高原町 永野		お盆	8月14日	永野村コミュニティーセンター(旧永野小学校)	定期	江戸時代末期～明治時代初年頃まで、大福寺において大仙供養として行われていた。昭和30年頃までは牛馬供養の口説が行われていた。現在は旧永野小学校校庭に櫓を立てて輪になり、「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		
1126	風流踊	福永盆踊	神石郡神石高原町(旧神石町)福永地区		お盆	8月14日夜	福永福祉センター広場	定期	戦前から恩定寺境内、梅ケ峠大師、竹月庵で行われていたが、神石町となってからは小学校校庭で行われるようになった。櫓の周りを輪になって踊る。昭和40年頃までは口説き「大仙」が行われていた。現在口説きはなく、「炭坑節」などで踊る。楽器は太鼓、笛。		
1127	風流踊	古川盆踊	神石郡神石高原町 古川		お盆	8月14日夜	古川コミュニティセンター(旧古川小学校)	定期	昭和初期までは吉ヶ迫薬師堂前で行われていた。現在は旧古川小学校校庭に櫓を立て、輪になって踊る。昭和30年頃までは口説き「大仙供養」等で念仏踊が主であった。現在は「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		
1128	風流踊	永野南盆踊	神石郡神石高原町 永野南		お盆	8月14日夜	永野村グランド〈江草の辻堂、永野南小学校グランド〉	定期	戦国時代に尼子・毛利氏の戦で出た戦死者供養の五輪塔がある辻堂で念仏踊を行ったのが始まりという。以前は念仏踊、大仙供養踊があった。現在は永野村グランドに櫓を立てて輪になり、「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		
1129	風流踊	草木盆踊	神石郡神石高原町 草木	体協草木支部	お盆	8月14日	草木コミュニティーセンター(旧草木小学校)	定期	昭和30年頃までは宝泉寺などで大仙口説きに合わせて念仏踊が行われていた。現在は旧草木小学校校庭に櫓を立てて輪になり、「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		
1130	風流踊	田頭盆踊	神石郡神石高原町 田頭	田頭コミュニティ	お盆	8月14日	田頭コミュニティーセンター	定期	昭和30年頃までは定光寺境内などで行われ、大仙供養口説きも歌われていた。現在は田頭コミュニティーセンターに櫓を立てて輪になり、「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		
1131	風流踊	牧盆踊	神石郡神石高原町 牧	体協牧支部	お盆	8月14日	牧コミュニティーセンター(旧牧小学校)	定期	昭和30年頃までは宝昌寺境内や観現社広場などで行われ、牛馬供養の口説きが歌われていた。現在は旧牧小学校校庭に櫓を立てて輪になり、「帝釈峡小唄」「炭坑節」などで踊る。		

【調査地区127】 旧豊松村

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1132	神楽	豊松神楽（前神楽）〈八ヶ社神代神楽〉	神石郡神石高原町（旧豊松村）	豊松八ヶ社神楽保存会	八ヶ社神楽	10月から3月の農閑期	氏子大当番の家屋	不定期	八ヶ社神楽は、もとは豊松などの8社の神職が結成した一団が担い、明治中期以降は一般の神楽太夫が舞うようになった。文化・文政の頃、備中から神話劇「岩戸開き」「國譲り」「大蛇退治」などを取り入れ、備中神楽の一部も加え芸能色の強い神楽となり、その後、宮中七種舞や伊勢神楽の榊舞を取り入れて七座神役を加えて完成した。前神楽と本神楽に分かれており、前神楽では、神事後、神役「小神遊びの舞」を行い天神地祇を勧請し、神殿への神送りなどの神事が行われる。		県
1133	神楽	豊松神楽（本神楽）〈八ヶ社神代神楽〉	神石郡神石高原町（旧豊松村）	豊松八ヶ社神楽保存会		10月から3月の農閑期	神社、または氏子大当番の家屋	不定期	八ヶ社神楽の本神楽は前半の神役と後半の神能からなる。神役には「曲舞」「榊舞」「指紙舞」「茣蓙舞」「勧請舞」「神迎え」などがあり、神降ろしの祭文に合わせて神職が白開を引き綱で激しく振り動かす「白開引き」が行われる。神能には「岩戸開きの能」「大社の能」「祇園の能」「龍宮の能」「吉備津の能」「八幡の能」「玉藻の能」などがある。本神楽の行われる神殿には天蓋白開を吊り千道を張り巡らし、棚には勧請幣や神饌などを供える。		県
1134	神楽	豊松神楽（荒神神楽豊松社）	神石郡神石高原町（旧豊松村）	荒神神楽豊松社	荒神神楽	晩秋から初春にかけての農閑期	地域の苗（みょう）で当番の家（荒神持ちという）	不定期	豊松には古くから八ヶ社神楽とともに「荒神神楽」があり、並び行われてきた。多くは13年に一度、初春か晩秋に苗で舞われる。当番の家や荒神持ちの家の奥の広間に舞場を作り、神棚を設置する。4日4夜の荒神神楽は、初日に当屋浄め、竈ざらえ、神迎え、七座神事、土公神遊び、2日目に小神遊び、七座神事、荒神遊び、3日目に神殿浄め（以上、前神楽）、神殿移り、（以降、本神楽）七座神事、本舞、白開引き、能舞、4日目に五行舞、龍押し（網入れ）、荒神遊び、神送り、灰神楽を行う。現在は2日1夜に短縮して行われている。		県
1135	神楽その他	豊松の神事（宮座）	神石郡神石高原町下豊松・鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社秋季御例祭	10月の第1日曜日〈10月4日・5日〉	鶴岡八幡神社	定期	鶴岡八幡神社秋季御例大祭に奉納される。宮座は御神幸に先立って幸先を祝って行われる酒盛り・神事である。拝殿で神前に対面して巫女座があり、そこに宮司・神官が着座し、東座に責任役員総代が、西座に輿持ちが着座してコの字形になる。杓取り人が3人3合の銚子盃を巫女座・西座・東座へ同時に持参。3献目まで酒を酌み交わし、その後神楽舞がある。楽は太鼓、笛、手拍子。		県
1136	神楽その他	豊松の神事（御湯立て神事）	神石郡神石高原町下豊松・鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社秋季御例祭	10月の第1日曜日〈10月4日・5日〉	鶴岡八幡神社	毎年	鶴岡八幡神社秋季御例大祭に奉納される、神楽の一種。お湯立て神事は宮座と同時に行われ、境内の適当な場所に祭場を定めて斎竹を立て、注連縄を引き回して忌火によって御湯を沸かす。傘持ちが斎主の後から大傘を差しかけ「天つ祝詞五方清め」「大祓え」「四季の歌」「御湯立て神歌」「御湯立の行事」「御湯の初穂の献上」を行う。		県
1137	獅子舞祭礼風流	豊松の神事（渡り拍子）	神石郡神石高原町下豊松　鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社秋季御例大祭	10月の第1日曜日〈10月4日・5日〉	鶴岡八幡神社	毎年	鶴岡八幡神社秋季御例大祭に奉納される祭礼行事。上豊松（元天領）と下豊松・中平（ともに元福山藩領）の2地域から出て、宮上がり、境内での奉納、神輿渡御への随行を行う。大頭取4名、宰領4名、当番幣2名、白熊突2名、獅子（雌雄）2頭、大胴打40名、鉦鼓打60名（鉦一つに3名）などで構成される。拍子行列は神社神域を一巡する間、「宮廻り」「庭入り」「こっとい」「神下り」などを奏する。大胴打は赤熊をかぶり鎧を身に着け五色で身を飾り、列になって勇壮に舞い踊って太鼓を打つ。		県
1138	獅子舞祭礼風流	渡り拍子〈神儀〉	神石郡神石高原町有木　猪鼻山八幡神社	猪鼻山八幡神社拍子保存会	猪鼻山八幡神社秋季例大祭	11月最初の日曜日〈11月2日・3日〉	神石高原町有木・猪鼻山八幡神社の境内や御旅所	毎年	昔より氏神社に悪魔退散、新穀感謝、豊作祈願の趣旨で奉納している。小中学校の拍子打ちが闘鶏を思わせる勇壮な踊りをしながら太鼓を打ち、それに合わせて鉦の囃子や、獅子舞や猿田彦舞なども加わる。太鼓は現在2カラで、一つの太鼓に4人の拍子打で構成。拍子には、「道行き」「宮巡り」「庭打ち（境内や御旅所での据打ち）」「産食打ち（新穀を食して喜びを表す）」などがある。戦前までは競馬も行われた。【詳細調査No.37】		
1139	田楽	豊松の供養田植	神石郡神石高原町下豊松・川東地区	川東供養田植保存会	川東牛馬供養田植	5月6月の田植頃	神石高原町下豊松川東	5年毎	伯耆の大山さんを迎え、牛馬供養と五穀豊穣を祈願する田植。旧豊松村内に明治期書写の田植歌本が残る。田植当日は、代掻き牛と早乙女などが花宿へ集まることに始まり、花田へは牛を先頭に、お迎えした「大山さん」をお羽車にのせ、早乙女達の手おどりが続く。牛は供養棚の下をくぐりながら、仏の加護と神の清めを受けて代を掻き、大太鼓を肩から吊ったサゲの上唄にあわせ、早乙女は下唄を歌いつつ苗を植える。囃子には、本調子、半、小半、四半ガケ、片オロシ等の調子がある。		県
1140	風流踊	八朔踊り	神石郡神石高原町有木日の郷	地域住民	皇子神社八朔踊り	9月1日（旧暦8月1日）	亀甲山八幡神社摂社皇子神社境内	定期	神社にできたばかりの田の実（稲穂）を供え、豊穣感謝と翌年の豊年祈願、疫病退散のため、大正時代から盆踊のような踊りを「八朔踊り」として奉納してきた。踊りの囃子は「二つ拍子」「成羽拍子」「てんがらこ」などがある。神社での祭典後、檜の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。	中断（平成初頃～）	
1141	その他	豊松の神事（やぶさめ神事）	神石郡神石高原町下豊松・鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社	鶴岡八幡神社秋季御例祭	10月の第1日曜日〈10月4日・5日〉	鶴岡八幡神社	毎年	鶴岡八幡神社秋季御例大祭に奉納される。やぶさめ神事は、東西の馬座にそれぞれ大頭取、騎手、口取り、馬係が控え、騎手が馬を馳せながら3個の的を射る競技であり、その成績により年占を行う。現在は2頭（昔は八ヶ庄から各1頭の計8頭）が出て競馬を行い、年占の代わりとすることが多い。		県

【調査地区128】 旧三和町

番号	種別	名称	伝承地	伝承組織	実施機会	実施期日	実施場所	実施周期	概要	実施状況	指定
1142	神楽	七村社(ななむらしゃ)神楽〈七村神楽〉	神石郡神石高原町(旧三和町)	高蓋七村神楽保存会、府中神楽保存会	節目に氏子の依頼を受けた式年、祝い事の日		神社拝殿、当家	不定期〈3年毎〉	江戸時代中期、志麻里七村(小畠・亀石・上・光信・常光・光末・父木野)の神官たちで組織を作り、各神社で舞を奉納していたことに始まる。戦後中断、昭和46年に七村神楽保存会高蓋文化会神楽部を結成し再開。演目は儀式の「清め舞」「勧請の舞」「奉幣行事」「白開引き」「降神」「祝詞奏上」「曲舞」「猿田彦の舞」、能の「五行祭」「国譲り」「大蛇」など。現在は府中神楽保存会により伝承され、不定期に実施している。		
1143	獅子舞 祭礼風流	亀山八幡神社の神儀	神石郡神石高原町小畠	小畠の市場、下組、久木、上組、常光、亀石6地区の氏子		10月の第1土曜とその翌日	市中、神石高原庁舎(村田代官所跡地)、亀山八幡神社	毎年	江戸中期の記録がある。6地区の氏子により2日間の神儀が奉納される。初日に御旅の「神幸の儀」、2日目に還御の「帰り丁」が行われ、神儀が随う。行列の構成は、猿田彦、獅子、太鼓打ち(神儀打ち)、鉦打ち、大幣、ボンデン、吹き流しなど。神祇打ちは4人で一つの太鼓を舞い打つ。拍子には「道中打ち」「廻り」「獅子舞」などがある。獅子は一人立で、太鼓の胴打ちで獅子頭を高く掲げて頂点で噛む仕草を、皮打ちで低頭し拍子を取り、左右に移動しながら獅子の力強さを示す。		
1144	獅子舞 祭礼風流	明見(みょうけん)神社の神祇	神石郡神石高原町坂瀬川	坂瀬川神祇団		10月10日(大祭)、4月(卯の祭)、8月(夏祭)、年4～5回小祭	当家の庭、道中、明見神社境内と末社	定期	犬塚、萩谷、新開、大刀洗、犬馬場の5地区により、妙見神社へ奉納される祭礼行列。納当日の朝、各地区の当家氏子の家から道中にかけ「えーころべー」の道中拍子を繰り返しながら境内に向かう。各地区が集合した境内では、獅子舞や花傘を身につけた踊り手による跳ね踊り、神祇を奉納した。神祇の曲は「しゃんぎり拍子」「中津拍子」「ぬけ拍子」など場所に応じた17番を打ち分け、「獅子の舌打ち」「獅子拍子」は獅子舞とともに囃され、神祇の見せ場であった。楽器は大太鼓、ちんちん太鼓(小太鼓)。現在は規模を縮小しながらも継続している。		
1145	風流踊	井関盆踊	神石郡神石高原町井関、大矢	井関大矢盆踊り保存会、自治振興会	お盆	8月14日夜〈旧暦7月の盆〉	くるみふれあいプラザ広場〈寺院、神社境内、広庭を持つ家〉	定期	戦前は盆月に近郷近在の社寺・寺院の境内で毎晩のように催され、明治末期頃隆盛を極めたという。口説きは「時安村寛政の一揆」「犬塚くどき」など地区特有のものや、「前くどき」「中継くどき」「出会いのくどき」「鈴木主水」「阿波の徳島巡礼」「お染久松」など。曲は「二つ拍子」「四つ拍子」「松ヶ枝」が伝わる。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。現在は「三和町音頭」で踊るなど簡略化。		
1146	風流踊	時安盆踊	神石郡神石高原町時安	時安盆踊り保存会、時安自治振興会	お盆	8月14日	時安公民館〈寺院、神社の境内〉	定期	元和元年(1615)、昔を偲んで吉岡家を訪れてお菓子を贈った福山城主・水野勝成の心情に感激し、踊りや歌で慰めたのが起源だと伝わる。曲目は「二つ拍子」「四つ拍子」「梅ケ枝」「広島音頭」「やまと」「ごみさがし」など。口説きは、「時安村寛政の一揆」「深草山天神社」など当地特有のもの、「阿波の鳴門」「佐倉宗吾」など一般的なもののほか、踊りの開始や中継、休憩、交替、囃子が小さい時、終了時など場面に応じた文句が伝わる。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。現在は「三和町音頭」などを取り入れて伝承している。		
1147	風流踊	坂瀬川盆踊	神石郡神石高原町坂瀬川	坂瀬川盆踊り保存会　坂瀬川自治振興会	お盆	8月14日夜	公民館広場〈寺院、神社の境内、広庭を持つ家〉	定期	坂瀬川に伝わる盆踊は多種あるが、当地では「広島音頭」「二つ拍子」「四つ拍子」「梅が枝」「新やまと」が現在伝承されている。櫓の周りを輪になって踊る。楽器は太鼓。口説きは「阿波の鳴門の巡礼くどき」「いろはくどき」「　鈴木主水白糸くどき」「仙養坊くどき」「蛇の髪くどき」などのほか、踊りの開始や終了時、つなぎの口説きがある。		
1148	風流踊 祭礼風流	小畠二十日胡盆祭り〈こばたけはつかえびす踊り〉	神石郡神石高原町小畠	自治会振興区で輪番で当番	二十日胡祭	8月20日〈昭和20年までは旧暦〉	市場(イ組・ロ組・ハ組・ニ組)の商店街の道中、胡神社境内	毎年	江戸時代末期頃に始まる。胡様の祭の酒肴の振舞いに応えた民衆から踊りが生まれ、二十日胡盆踊りとして継承されてきた。商店街から神社まで踊りながら進む。往時には酒肴の振舞いのほか各商店の玄関先には機や竹細工で歴史上の人物の人形を飾り、踊り手や観衆の目を楽しませていた。現在飾り物は消滅したが、酒肴の振舞いは続き、商売繁盛祈願の踊りも伝承されている。鉦・太鼓による「胡はやし」が奏される。		
1149	風流踊 祭礼風流	高蓋(たかふた)二十日胡盆おどり	神石郡神石高原町高蓋	胡神社総代会	二十日胡祭	8月15日〈8月20日、21日〉	桑木→川南→胡神社→下組→胡神社	毎年	由来は定かではないが、踊りが披露される胡神社は江戸時代末期に商売繁盛を願い立てられており、始まりはその頃ではないかと推測される。盛んな時期は、若衆(青年団)を中心に舟の屋台を組み、太鼓や鉦の胡はやしに合わせて踊りながら町内各地を巡った。道中の各商店の玄関では、有名な人物(寛一お宮、浦島太郎など)の人形(山車と呼ばれる)を披露するなど華やかであった。祭が終わると、神社でくどき唄とともに踊っていた。近年は盆踊の日に開催され、広場での披露に変わっている。		
1150	祭礼風流	神殿入(こうどのいり)	神石郡神石高原町高蓋・日吉神社	川乙同好会、男友会	日吉神社前夜祭	10月第2土曜日	高蓋西山商店街前から日吉神社	毎年	氏神の例祭前夜祭で、氏子の先祖の御霊を荘厳な提灯行列により氏神へお迎えする行事である。行列は、提灯50個を吊るした竿燈や山車等で構成され、神社に到着すると代表が神官に提灯を渡し本殿へ献燈して祭典が始まる。現在、囃子は笛・太鼓をテープで流すなど変遷し伝承されている。		

3　悉皆調査集計表

※複数区分に該当する民俗芸能があるため、悉皆調査一覧表掲載の合計と内訳の合計は一致しない。

市町名	地区番号	調査地区名	一覧掲載件数	内訳（※） ①神楽	②獅子舞	③田楽	④風流踊	⑤祭礼風流	⑥舞台芸等	⑦その他	詳細調査対象
01広島市	1	中区	4				2	2		1	
	2	東区	8	2	2		2	1	1	2	
	3	東区（旧安芸町）	3				3				
	4	南区	4	1	2		1			1	邇保姫神社の獅子舞
	5	西区	5	4			1				
	6	安佐南区（旧沼田町）	8	4	1	1	2				阿刀神楽
	7	安佐南区（旧祇園町）	3	2			1				
	8	安佐南区（旧安古市町）	7	4	1	1	1				
	9	安佐南区（旧佐東町）	6	3			3			1	
	10	安佐北区（旧安佐町）	8	1	1	2	3	1	1		
	11	安佐北区（旧可部町）	5		1		3	1			
	12	安佐北区（旧高陽町）	9	6			2	1			
	13	安佐北区（旧白木町）	7		5	1	1	3			
	14	安芸区（旧瀬野川町）	12	2	3	1	3	2		2	
	15	安芸区（旧熊野跡村）	4				2	1	1		
	16	安芸区（旧船越町）	3		1		1	1		1	
	17	安芸区（旧矢野町）	2		1			1			
	18	佐伯区（旧五日市町）	8	6	2						
	19	旧湯来町	8	6	2	1					
		小　　計	114	41	22	7	31	14	3	8	
02呉市	20	旧和庄町、宮原村、荘山田村、吉浦村、警固屋村	8		5		2	6			
	21	旧阿賀村、仁方村、広村	8	3	1		1	4		1	戸田神楽
	22	旧天応町、昭和村、郷原村	3				1	2			
	23	音戸町	10				9	1			
	24	倉橋町	19		1		12	6			
	25	下蒲刈町	5				3	2			
	26	蒲刈町	6	2	2		4				宮盛神楽
	27	安浦町	5		2		2	4			
	28	川尻町	6				3	3		1	堀越祇園社祇園祭のだんじり
	29	豊浜町	12	1	2		6	4		1	
	30	豊町	8		3		5	4			
		小　　計	90	6	16	0	48	36	0	3	
03竹原市	31	竹原町、下野町、小梨町、吉名町、高崎町、福田町、忠海町	7		2		2	3		2	
	32	東野町、新庄町、西野町、田万里町、仁賀町	3			1	2				
		小　　計	10	0	2	0	2	3	0	2	
04三原市	33	旧三原市域の一部（34～36以外）	18	1	3		14	1	1		やっさ踊り／小坂チンコンカン踊り
	34	旧八幡村、高坂村、長谷村	4				4				
	35	旧沼田東村、沼田西村、小泉村	2	1			1	1			
	36	旧須波村、幸崎村、鷺浦村	14	2	3		5	7		1	
	37	大和町	15	4	1		7	4			
	38	本郷町	14	2			10	2		1	
	39	久井町	11	1	8		9	8	1		
		小　　計	78	11	15	0	50	23	2	2	
05尾道市	40	旧尾道市域の一部（41～43以外）	16				15	1		1	
	41	旧美ノ郷村	2		1		1				
	42	旧木ノ庄村、原田村	6		1		5				榲原八幡宮の獅子舞・鉦太鼓踊り
	43	旧高須村、山波村、西村、百島村、浦崎村	10	4			3			3	浦崎神楽
	44	向東町	4	1			3				
	45	因島	16	2			8	6		1	
	46	瀬戸田町	12	1			10	2			
	47	御調町	19	1	9		17	1	1		
	48	向島町	13				9	3		1	岩子島厳島神社管絃祭
		小　　計	98	9	11	0	71	13	1	6	
06福山市	49	旧福山市域の一部、引野村、深安町	16		1		9	10			
	50	旧福山市域の一部、市村	5				3	1		1	
	51	旧千田村、御幸村、加茂町	4				4				
	52	旧津之郷村、瀬戸村、赤坂村、熊野村	10	3			7				津之郷惣堂ひんよう踊り
	53	旧福山市域の一部、水呑村、鞆村	11	2			4	4	1		
	54	旧松永市	13	5			6	3			
	55	旧芦田町	1		1						
	56	神辺町	7	1			5	1			
	57	旧加茂町	5	1				4			
	58	旧駅家町	5		1		3	2			
	59	内海町	3				1	2	1		
	60	沼隈町	9	3			3			3	
	61	新市町	8	1			4	2		2	
		小　　計	97	16	3	0	49	29	2	6	
07府中市	62	旧府中市	15	1	3		9	7			
	63	旧協和村	6		2		3	3			
	64	上下町	13	5	4	1	2	5			弓神楽
		小　　計	34	6	9	1	14	15	0	0	

市町名	地区番号	調査地区名	一覧掲載件数	内訳（※）①神楽	②獅子舞	③田楽	④風流踊	⑤祭礼風流	⑥舞台芸等	⑦その他	詳細調査対象
08三次市	65	旧三次町、十日市町、河内村、八次村	2				1	1			
	66	旧粟屋村、酒屋村、青河村、川地村	5	1	1	1	2	1			志賀神社の六神儀
	67	旧和田村、神杉村、田幸村、川西村	7	1	1	1	3	2			
	68	甲奴町	7	2	1		2	3			小童神儀
	69	旧君田村	16	1	7	2	5	8			
	70	旧布野村	8	2	3		3	3			
	71	旧作木村	17	1	6	1	9	7			
	72	吉舎町	2	1				1			
	73	三良坂町	4	2		1	1				沖江田楽
	74	三和町	6		1	1	2	2			
		小　計	74	11	20	7	28	28	0	0	
09庄原市	75	旧庄原町、高村、本田村、敷信村	8	1	3		3	3		2	
	76	旧山内東村、山内西村、山内北村	11			3	4		3	1	
	77	総領町	8	1	3	1	1	4		1	
	78	西城町	8	2	4	1	1	4		1	
	79	東城町	15	1	10	1	2	10		1	
	80	口和町	17	1	9	2	3	9	1	1	大月三角山神社秋季楽舞／向泉の田楽
	81	高野町	13	1	9	3		10			
	82	比和町	15	1		1	11	1	1		三河内の刀踊り・扇踊り
		小　計	95	8	38	12	25	41	5	7	
10大竹市	83	大竹市	13	5	5		2	3			松ヶ原神楽
		小　計	13	5	5	0	2	3	0	0	
11東広島市	84	旧西条町	7				4			3	
	85	旧八本松町	9		1		3	2	1	3	
	86	旧高屋町	3				2		1		
	87	旧志和町	2				1	1			
	88	黒瀬町	7	1	4		1	5			
	89	福富町	5		1		4	1			
	90	豊栄町	13	1	4		8	4			
	91	河内町	9	1			7			1	
	92	安芸津町	3					3			祝詞山八幡神社大祭の神賑行列
		小　計	58	3	10	0	30	16	2	7	
12廿日市市	93	旧廿日市市	13	4	4		3	3	2	1	
	94	旧大野町	4		1		1	1	1	1	大頭神社の獅子舞神事・獅子舞
	95	旧佐伯町	15	7		1	6		1	1	
	96	旧吉和村	3	1		1	1				
	97	宮島町	4				2	1	1		宮島踊
		小　計	39	12	5	2	13	5	5	3	
13安芸高田市	98	吉田町	12		4		6	5	1		子供歌舞伎だんじり屋台
	99	八千代町	5	1	1		2	2			
	100	美土里町	35	12	4	4	15		1		
	101	高宮町	19	6	1	3	8	2	1		川根のはやし田
	102	甲田町	4		1	1	1	2			
	103	向原町	11	1	4		4	4			
		小　計	86	20	15	8	36	15	3	0	
14江田島市	104	江田島町	3	1	2		1	2			大歳神社祭礼神楽
	105	能美町	5	1	1		3	1			
	106	沖美町	9				9				
	107	大柿町	3		1		2	1			
		小　計	20	2	4	0	15	4	0	0	
15府中町	108	府中町	6	2		1	1	2		1	山田牛祭
		小　計	6	2	0	1	1	2	0	1	
16海田町	109	海田町	4		1	1	1	2		1	
		小　計	4	0	1	1	1	2	0	1	
17熊野町	110	熊野町	6		1	1	4				神楽踊
		小　計	6	0	1	1	4	0	0	0	
18坂町	111	坂町	13	2	3		1	6		1	中村迫亥の子神楽／刎条亥の子神楽
		小　計	13	2	3	0	1	6	0	1	
19安芸太田町	112	旧加計町	11	7		2	2				
	113	旧筒賀村	4	3		1					
	114	旧戸河内町	23	8		7	7		1		大歳神社の昼神楽
		小　計	38	18	0	10	9	0	1	0	
20北広島町	115	旧芸北町	32	15	1	3	11	1	1	3	
	116	旧大朝町	15	8		4	2	1	1		
	117	旧千代田町	27	15	1	1	6	2		2	砂庭神楽／本地の花笠踊／上川戸虫送り踊り
	118	旧豊平町	20	11		3	6				
		小　計	94	49	2	11	25	4	2	5	
21大崎上島町	119	旧大崎町	5				5				
	120	旧東野町	4		1		1	2			
	121	旧木江町	3		1		1	1			木江盆踊
		小　計	12	0	2	0	7	3	0	0	
22世羅町	122	旧甲山町	5	1	2		1	3	1	1	だんじり仁輪加狂言
	123	旧世羅町	6	4			2			4	
	124	旧世羅西町	7	4	2		1	3		4	両化八幡神社の荒神祭
		小　計	18	9	4	0	4	6	1	9	
23神石高原町	125	旧油木町	15	2	9		3	10		1	
	126	旧神石町	19		10		9	10			
	127	旧豊松村	10	5	2	1	1	2		3	猪鼻山八幡神社の渡り拍子
	128	旧三和町	9	1	2		5	5			
		小　計	53	8	23	1	18	27	0	4	
合　計			1,150	238	211	63	486	295	27	65	